

2024 栄光への軌跡

2024 年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



一般選抜

東北大学、新潟大学、岩手大学、山形大学、
宮城教育大学、宮城大学

授業内容に集中しながら 問題は自分の知識として理解しよう

■一番大事なのは実力を出し切って 悔いなく受験を終えることです

私が東北大学の文学部を目指すことを決めたのは、高3の夏休みに入る直前です。そのあたりからようやく受験生としての自覚が芽生え、本格的な受験勉強を始めました。私は早起きがとにかく苦手で、朝に早く起きて勉強することなど不可能だとわかっていたので、夜型の生活を送っていました。一日のルーティンなどは個人差が出てくるものだと思うので、自分に合った生活を送ってほしいと思います。

私が受験生生活を送る中で大切にしていたことは、常に本番を意識して勉強に取り組むことです。模試や過去問、問題集などで、これから様々な問題に触れることになると思います。しかし、せっかく時間をかけて取り組んでも、その場限りの解法を覚えてだけで解けるようになった気でいては、何の意味もありません。本番で出題形式が変えられても、自分は解くことができるのかを常に意識してください。解いた問題を問題として理解するだけでなく、しっかりと自分の知識にするということです。この意識を持っていれば自然と集中力が上がり、効率的に勉強できると思います。このことは学校の授業にも当てはまります。受験生は時間に追われていますから、なんとなく学校の授業ではなく自分の勉強を進めた方が良いのではと考えて焦ってしまいがちですが、そんなことはありません。学校が終わってから集中して勉強すれば、時間が足りないなどということにはならないのです。これは私の実体験から言えることです。ですから学校の授業には、どんな些細なことでも良いから知識を増やそうという意識で取り組んでください。今先生が話していることが本番で出るかもしれないと考えたら、私は授業中、メモを取る手が止まりませんでした。

一番大事なのは合否という結果ではなく、自分の実力を出し切って悔いなく受験を終えることです。そのために、努力を惜しまず必死で勉強してください。受験が終わった瞬間に、自分はまだできたと思ってしまわないように。皆さんが充実した受験生生活を送ることができることを、心から願っています。

授業にしっかり集中できるように 睡眠時間を確保しましょう

■過去問はすぐに答えを見ないで 自分で考えるクセをつけました

私が、進路について本格的に考え始めたのは3年生になってからでしたが、大学選びにかなり時間を費やしてしまいました。ですから、2年生のうちからオープンキャンパスに参加したり、大学の資料やホームページを見たりすると良いと思います。オープンキャンパスについては国公立、私立を問わず、少しでも興味のある大学のものには参加すべきです。なぜなら、大学生や教授から直接話を聞くことができるからです。研究の細かい内容など、そこでしか得られない情報も得られ、自分が学びたいことが学べるかどうかははっきりと分かります。「この大学に行きたい」という意欲も湧いてきます。

受験勉強で意識したのは、「自分で考える」ということです。過去問は時間を計って解きますが、時間内に解けなかった問題は、出来たところまでで印をつけた上でなるべく最後まで解くようにし、間違えた問題も解説を読む前にもう一度考え直しました。すぐに答えを見るよりは確実に力がつくので、ぜひ実践してほしいです。

■スマホの誘惑やストレスなど きちんと向き合いましょう

また、勉強する上で普段から気を付けてほしいことが3つあります。

1つ目はスマホです。スマホが近くにあると、難しい問題で行き詰まったときについ使いたくなってしまう。一度使い始めてしまうとなかなかやめられなくなってしまうことも多いので、スマホは勉強する場所からなるべく離れたところに置いてください。

2つ目はストレスです。私は自分を追い込んでしまいやすく、特に受験直前には問題を間違えただけで物に当たるようなこともありました。なので、物事を前向きに考える、時間を決めて動画を見るなど、ストレスを溜めないようにしたり、解消する方法を見つけたりすると良いと思います。

3つ目は睡眠です。私は「1年生の時は勉強時間が足りなかった」と感じ、2年生の初めはほぼ毎日日付が変わるまで勉強していました。しかし睡眠不足になり、授業中に眠くなることも多くなってしまいました。新しいことを学ぶ授業で集中できないのはもったいないですし、そもそも夜は眠気で集中しにくいので、睡眠時間は十分に確保し、日中に勉強してください。

勉強は大事ですが、心と体の健康も大事です。息抜きもしながら、志望大学合格に向けて頑張ってください！

学校の放課後講習などには全て参加し 生活リズムを整えながら勉強を進めました

■得意の早起きをして

朝から学校で勉強しました

進路を決める際には、自分のやりたいことがなかなか見つからず苦戦しました。コロナ禍でオープンキャンパスに参加できない時期があり、大学からパンフレットを取り寄せていました。高校3年生になってからはオープンキャンパスにも参加し、大学のイメージをつかむことができましたが、結局受験する大学が確定したのは3年生の9月頃でした。明確な目標があった方が勉強に身が入るので、できるだけ早く大学を決めることをおすすめします。

私は塾や予備校には通わず、その代わりに普段の授業や学校で開講されている放課後講習に積極的に参加し、夏休みや冬休みの講習期間も休まずに登校していました。早起きは得意だったので、朝は5時に起きて7時から学校で勉強していました。学校が終わってからは、家に帰ると集中できなくなってしまうので、学校の自習室や近所の図書館を利用していました。夜は12時までには寝て、寝る前は必ず英単語を見るようにしていました。いま、夜遅くまで起きて勉強している人は、体調を崩してしまうと勉強も進まなくなってしまうし、本番で眠くなってしまうので早いうちから生活リズムを整えておきましょう。

■模試は高校1年から

早めに慣れておきましょう

模試は1年生のころから受け続けていて、3年生の時は河合や駿台で開催されている共通テスト模試をほとんど受けていました。模試は判定が出るだけでなく、問題をとっておくと、2,3か月後にもう一回解いて知識の定着具合を確認することができます。はじめは長い時間のテストに疲れてしまうかもしれませんが、試験本番に必要以上に緊張しないように早いうちから慣れておきましょう。記述試験は大学によって特徴が異なるので、模試を受けるのではなく参考書や赤本を使った方がいいと思います。冬休みに入ってから、新しい問題には手を出さず、今までに解いた過去問や教材などを使って制限時間より10分ほど短い時間で解き切るようにしていました。これからの人生において大きな決断になると思いますが、後悔のないよう努力し続けてください。

苦手科目はただ挑戦するのではなく 客観的な意見も取り入れて勉強しよう

■生活に受験を組み込んで 常に学びを意識しました

受験を意識し始めたのは高2の冬です。周りが志望大学を決め始めて、私も早く志望大を決めて本格的に勉強していかなくてはならないと危機感を覚え始めました。

私が実際にしていた科目ごとの勉強法は、国語は過去問、数学はチャートで苦手な単元を潰す、英語は単語アプリとリスニング、物理は参考書を周回、化学も参考書を周回、社会は教科書を読む、です。私は国語が苦手なのにただがむしゃらに過去問をやった結果、共通テストが40%ほどであったので苦手な教科は有識者に意見を求めて勉強すべきだと思いました。

大学受験に必要なと思ったことは生活に勉強を組み込むことです。どんなことかという、私の場合は電車通学中に化学の教科か英語の単語帳を読むことです。あとは家に帰ってきたらすぐ机に座り、寝るまでは机で生活することにしていました。

■自分の実力をしっかり 見極めて志望大学を選ぼう

後輩のみなさんに1つ覚えておいて欲しいことは、受験を甘く見てはいけないということです。最初から有名私立や国公立大などを目指す場合、志望する人たちは上位大学の上位層の人がボリュームゾーンになっているはずです。自分の今の志望大学はどの層のライバルと戦わなければいけないのか、をきちんと考えた方がいいと思います。この先しっかりと努力し続けられるのかを考え、自分の実力を踏まえて志望大学を決めてください。

岩手大学は国立大学でとても素晴らしい大学です。日々のノルマをクリアしていた人はきっと合格できると思います。ぜひ勉強を頑張ってください。

最後まで諦めない姿勢で 合格ラインまで成績を伸ばしました

■遠慮することなく

周りにどんどん相談しよう

私は、高 3 の 12 月の最後の模試まで第 1 志望大学がずっと D 判定で誰もが厳しいと思う状況から、共通テスト本番で A 判定や B 判定まで伸ばし、2 次試験で必要だった苦手な英語を残り約 1 か月で合格ラインまで伸ばした逆転合格勢です。そんな私が思う、受験の勝因は、「成績が伸び悩んだ私にアドバイスをくれる人がいたこと」と「最後まで諦めなかったこと」です。

私は、高校 3 年間独学で勉強していました。その私が出た、この合格体験記で最も伝えたい教訓は、練習問題の事でも成績の事でも勉強の進め方でも、何か分からないことがあるなら分かる人に積極的に聞きに行くべきということです。私は友達や姉には分からない問題はよく聞いていました。しかし、親や先生方に対しては、特に成績の事に関してなかなか相談できない人でした。こんな問題も分からないのかとか、この時期にこんな成績で大丈夫なのかとか思われることを恐れたからです。でも、親も先生方もそのようなことは思っていませんし、むしろ相談してほしいと思っているはずです。特に独学の人は、勉強や進み具合を監督してくれる人がいないので、今の自分のやり方に不安を覚えがちだと思います。こまめに相談して勉強の方向性や進み具合を確認すると良いと思います。幸いなことに、私の場合は家族が受験や勉強に関して詳しく、成績に伸び悩んだ私に様々なアドバイスをくれたのでなんとか受験を乗り越えることができました。

■受験直前まで学力が伸びるはず！

苦手な部分は何度も挑戦しよう

また勉強に関してですが、とにかく問題集の反復とテストの復習に力を入れると良いと思います。自信をもって解けるところはたまに復習で良いと思いますが、苦手な部分は何度も何度も繰り返し反復してください。私は、数学のチャート为例にすると、多いところで 12 周しました。

最後に、現役生は直前まで伸びます。最後まで、希望を捨てないで最後まで粘ってください。そしてもっと人を頼ってください。受験生の皆さんが第 1 志望に合格できることを祈っています。

模試に対応した勉強方法で 大幅な成績アップを達成しました！

■つまづいた問題には 何度も挑戦していきましょう

私が本格的な受験勉強を始めたのは 3 年生の 9 月でした。それまでは定期テストと同じ要領で模試対策をしていましたがそれでは点数が伸びず悩んでいました。しかし模試に対応する勉強を始めてからは 100 点以上の成績アップに繋がったのでその勉強方法をお伝えしたいと思います。後輩達はまだ夏の段階で諦めたり焦ったりすることなく勉強に励んでください！模試型の勉強というのは、英語であれば丁寧さよりも速読力 + ポイントを絞ること、社会や理科であれば模試でよく問われる範囲を抑えることです。このような”定期テストとは違う”模試の特徴を捉えて攻略していくことが点数アップに繋がります。模試の特徴や特性は過去問研究から得られます。そのため共通テストの過去問を 5, 6 年分”繰り返し”解くことをおすすめします。共通テストの過去問、各模試は同じ問題、同じ範囲がわんさか出ます。何回も同じひっかけに遭遇すると「またこれだ」と思えるほど記憶に定着するので、過去問演習の中で覚えましょう。

■自由時間を確保した上で 生産性の高い時間をつくろう

この他に大切なのは環境です。私は一度集中力が切れてしまうと二度とスイッチが入らなくなってしまうのでその効果時間を強制的に伸ばしました。当時の私は朝はオークルームで 30 分程、放課後は学校で 6 時まで残り、さらに 8 時半まで自習、家に帰ってからはほとんど何もしないという生活を送っていました。自分の自由時間を確保した上で残りをどれだけ生産性のある時間にできるか、これをよく考えることだと思います。隙間時間もそうですね。最初のうちは、信号待ちで単語帳を出すのが億劫でしたが慣れましたし、その時覚えた単語が後々役に立ちました。

最後にまとめとして、私が最も大切にしていたのはマイペースです。疲れたら勉強しない、遊びたかったら遊ぶ。でも決めた場所では集中して勉強する。生活習慣さえ乱れなければ大丈夫だと思います。

令和6年3月 特別進学コース卒
利府西出身

先生の記述問題添削のおかげで ポイントを理解でき感謝しています

■模試の復習や問題集を
何度も繰り返し解きました

私は、小学生の頃から小学校の教師になることを目指していたため、宮城教育大学に進学することを目標として高校生活を過ごしてきました。私の場合、入学当初から志望大学が決定していたため、受験に必要な科目の勉強や対策を計画的に進めることができました。大学によって科目や傾向が異なってくるため、早いうちから行きたい大学を決めておくことで後々焦らずに済むと思います。また、私は常に目標を立てて学習に取り組むように意識していました。目標を立てて勉強することで、やるべきことが明確になるので集中して勉強することができました。大きな目標から小さな目標まで立てることで、計画的な学習が可能になると思います。さらに、模試の復習や、自分のレベルに合った問題集を完璧になるまで繰り返し解くことで、自分の苦手なところを把握し、効率良く学習できるように取り組んできました。

■辛くて不安なときは
周りに相談して乗り越えていこう

共通テストが終わってから二次試験までの期間、私は記述対策として先生方に過去問の添削をしていただいていた。小論文や英作文、国語の記述問題を添削していただいたおかげで、より多く点数が取れるようになる書き方やポイントが理解できました。先生方にはとても感謝しております。

受験勉強の期間は、大変なことや辛いこともあるかもしれません。そんな時は、家族や友達、先生に相談して、困難を乗り越えてください。そして、仲間と共に切磋琢磨して後悔しないように勉強してください。テスト本番は緊張したり、不安な気持ちになったりすることも考えられます。しかし、自分だけでなく、多くの受験生が同じ気持ちを抱いています。最終的には、自分を信じて、分かる問題を確実に解いて、最後まで諦めないことが大切になってくると思います。皆さんがそれぞれの志望大学に合格できることを願っています。

共通テストから巻き返し一般選抜で合格！ 成果を出せたことに安堵しています

■入試の対策は先生方に たくさんご協力いただきました

志望した大学は、宮城大学の事業構想学群です。受験方法は推薦と一般選抜です。共通テストの対策は学校から渡されたプリントや共通テスト対策の本をやりこみ、問題の形を覚えるようにしました。ただ問題の形を覚えるのに重視しすぎて、基本的な内容を疎かにしてしまいました。共通テストは対策した形とは違った問題が多く出ました。特に英語はまったく手応えを感じられず、帰りは少し泣きそうになっていました。結果、宮城大学の判定はDでした。そこで、宮城大学の選抜は共通テストの結果は反映されない推薦を重視しました。

推薦入試の対策は先生に協力していただきました。先生方から質問や対策を教えてもらい、どんな質問が来るのか、どう答えればいいのか考え対策していきました。しかし、推薦の前日に私立大学の選抜の対策もしなければいけなかった所以对策にとる時間のバランスが難しかったです。

推薦本番は対策していた質問も多かったですが、練習の時以上に緊張してしまい、うまく答えることが出来なかった質問が多く、結果として不合格でした。しかし東北学院大学の方はどちらも上手くいき、全ての学部を合格しました。東北学院大学に受かったのは嬉しかったですが、先生方が親身になり協力してくださった推薦で不合格だったのがやるせなかったです。

■推薦の悔しさをバネにして 一般選抜に臨みました

推薦を受け終えてからすぐ一般の対策を始めました。赤本は受ける教科を5年分解き、また、論説文対策や数学を先生に協力していただき、数学は基礎や応用、論説文は様々な問題に対応策も含め調べて挑みました。

二次試験は緊張のあまり体調を崩してしまいましたが、頑張りもあって合格できました。第一志望の大学に行けたことは嬉しいですが、それよりも推薦、二次試験の対策を親身になって協力してくれた先生方に成果を出せて良かったです。

2024 栄光への軌跡

2024 年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【指定校推薦】

立教大学、中央大学、法政大学、東京理科大学、日本大学、
獨協大学、同志社大学、立命館大学、東北学院大学、
東北工業大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、
宮城学院女子大学、尚絅学院大学、仙台大学…

先入観を持たず選択肢を持つことは 大学を選ぶ際にも重要です

■文系教科は過去問で校内模試に 取り組んだのが効果を発揮

私が指定校推薦での受験を考え始めたのは、高校三年生になってからでした。それまでは、総合型などの受験方式を考えていたため、定期テストや英語資格の勉強に力を入れて取り組んでいました。評定と資格は、どのような受験方法においても重要になると考えたからです。そして、高校三年生になり、指定校推薦で受験したい大学を見つけた際に受験条件を満たすことができたため、指定校推薦の受験資格を得ることができました。指定校推薦では校内模試が重要視されるため、過去問を使って対策しました。多少ではありますが、2年生の頃にも文系教科は過去問を使って校内模試に真剣に取り組んでいたことも振り返ってみると良く影響したのではないかと思います。資格取得については、学校で実施される比較的スコアの取得が容易である GTEC 対策に力を入れました。

■高校生活では興課外活動に 積極的に参加しました

進路選択については、将来就きたい職業についてはある程度のイメージを持っていたのですが、その過程としてどのような大学に進学すべきかは明確に目標を持つことが出来ていませんでした。そのため、高校生活では、自身の興味のあることや取り組みたいと思った課外活動には積極的に参加しました。この経験もまた良く作用したのではないかと思います。そのような活動を続ける中で、自分は何に興味があるのか、どのような形で社会に貢献できるのかなど、自己分析をする機会を与えてくれたからです。私は明確な進路目標がなかったからこそ、「自分はこの進路方法しかない」といった先入観を持たずにいくつかの選択肢を考えることができたのではないかと思います。これは大学を選ぶ際にも重要だと感じました。実際に合格を頂いた大学も最初は志望大学として考えていなかったのですが、調べてみるととても魅力的で進学したいと思うようになりました。志望大学決定の際にはアドミッションポリシーや公開されている履修などを念入りに調べ上げ、自分の学びたいこととのギャップが少ない学校を探しました。

令和6年3月 英進進学コース卒
札幌 新琴似北中出身

やり方を変えずにコツコツと 勉強を積み重ねました

■入学前から仙台育英の指定校推薦枠を
利用しようと考えていました

私は、指定校推薦を利用して立教大学に進学する。仙台育英学園の良いところの一つに、指定校推薦の大学の多さが挙げられる。これは私が仙台育英に入学する前から知っていて、ずっと指定校推薦で大学に行こうと決めていた。そのため、普段からの定期テストには力を入れていた。ある程度内申点は高いほうが良いと思っていたので試験の2週間前ぐらいからコツコツ勉強を始めていた。そのおかげもありほとんどの教科で5を取ることができた。高校3年になりそろそろ6月の校内模試に向けて勉強を始めようと思い、2月ぐらいから毎日図書館に通う生活を始めた。私は文系だったため英語と国語をメインに勉強していたが、特に英語が苦手だったため英語に時間を割いていた。単語帳を朝と晩に行い、学校では過去問をひたすら解いていた。国語はセンスとよく言われるがそんなこともなく、いろいろな問題集を解けば自然と力がついていった、4ヶ月も経てば過去問を解いても7割ぐらいは取れるようになっていたため、そのまま校内模試の日までやり方を変えずに行った。その結果、2ケタの順位を取れて立教大学にも進学できたので自分を信じてやってきて良かったと思う。

過去問を数多く解くことは 苦手分野を克服するのにも役立ちます

■英検等の英語の資格は、
早めに取得することをお勧めします

私が、指定校推薦を利用して受験したいと思ったのは高校2年生の時でした。志望する大学の推薦枠があり、確実に合格を決めたいという気持ちが強かったことがきっかけです。

高校入学時から、推薦入試を利用する場合を考えて、高い評定を取れるように勉強する習慣をつけました。具体的には、定期考査2週間前から対策していました。全教科で良い成績をとるために、日々の授業は真剣に受けるようにしました。また、英検は1年生の時から受け始め、2年生の春には2級を取得できるように勉強しました。大学では、出願資格として英語の資格や英検のスコアが必要とされているので、具体的な志望大学が決まっていなくても取得すると思います。3年生になってからだと受験勉強や校内選考用の志望理由書の提出などと並行して対策しなければならないので、早めに取得するのがお勧めです。大学のオープンキャンパスも2年生の夏休みに参加すると思います。

■面接は先生の手厚いご指導のおかげで、
自信を持って臨むことができました

また、勉強面以外では、少しでも自分をアピールできる経験を積みたいと考え、生徒会に入りました。オープンキャンパスや入試の補助に携わることで社会性を身につけられたと思います。

3年生に入ると、指定校推薦にかかわる校内模試で良い成績をとるための勉強に力を入れました。特に、前年度までの過去問をなるべく多く解くようにして、出題傾向を掴みました。最初は時間が足りなくなってしまうこともありましたが、繰り返し解くことで時間内に余裕を持って解き終わられるようになりました。また、苦手な分野を知り克服するためにも役立ちます。校内審査が通ってからは面接対策に取り組みました。志望理由や将来の夢やビジョンを明確にした上で臨みました。最初は言葉が詰まってしまうこともありましたが、担当の先生の手厚いご指導のおかげで、入試本番では自信を持って話すことができました。大学で何を学びたいかを深く聞かれたので、事前に話したいことをピックアップしておくと思います。

これを読んでくれた皆さんのお役に立てていると嬉しいです。自分が希望している大学に行けるように、これからも頑張ってください。陰ながら応援しています。

令和6年3月 特別進学コース卒
仙台 第二中出身

推薦入試と一般入試の勉強を 同時進行しておくとお心です

■本行きたい大学を見つければ 勉強の意欲も上がるはずだ

指定校推薦での受験を考えたのは高校3年生の春です。理由は、志望していた大学の推薦枠があることを知ったからです。志望大学へ合格するために手段は多い方がいいと思い、推薦も視野に入れるようになりました。この大学を志望するようになったきっかけは、関東の大学の合同説明会に参加したことあります。校風や取得できる資格、自分が学びたいことが学べるかなど、複数の大学を比較した結果、私が行きたい大学はここだと決めました。志望大学が決まらないときは、いくつかの大学の説明会やオープンキャンパスに参加すると思います。そして、自分が行きたいと思える大学を見つけてください。目標があると勉強の意欲も上がるはずだ。

校内選考では、評定と校内模試が重要になります。1年生の頃から評定平均5.0を意識して勉強していたので、大学の条件に満たないということはありませんでした。評定が高くて損はないので、推薦を考えていない人も定期テストは点数をとっておくと思います。校内模試に関しては、順位が高ければ高いほど自分が志望している大学を選ぶことができます。対策としては、過去5年分の校内模試を解いて傾向をつかみました。しかしそれでは傾向を知ったにすぎないので、普段からの勉強が大事です。志望大学の推薦枠が必ずとれるとは限らないので、一般受験の勉強も同時進行しておくと思います。

■英検を最低2級を取得しておく 選択肢の幅が広がります

以上の2つが校内選考で重要視されますが、指定校推薦をもらいたいと考えている人は英検取得や、課外活動にも力を入れると思います。多くの大学が英検を取得していることを条件としています。最低2級を取得しておくことで選択肢の幅が広がると思います。課外活動に関しては、探究活動やボランティアなど、高校生活を通して頑張ってきたことはアピールポイントになります。たくさんの方に挑戦してください。

高校生活3年間はあっという間に終わりに近づいてしまいます。悔いのないように充実した時間を過ごしてください。応援しています。

学校で行われる特別講座や イベント参加の経験は大きな強みです

■先輩からのアドバイスで 受験を見据えての生活態度に

高校受験で第一志望大に合格することが出来ず、とても暗い気持ちで高校生活がスタートしました。1年生では勉強しようという気持ちになれませんでした。反面、クラスの友達と毎日楽しく過ごし、とても充実した日々を送っていました。さて、一つ上の学年に知り合いの先輩がいました。そこで言われたのは、定期テストは評定に関わるから大事であることと、本校主催のサイエンス・コ・ラボには必ず参加した方がいいということです。まず、評定は様々な場面で自分を助けることになるといわれ、評定はオール5を目指して定期テスト、宿題に力を入れました。また調査書を書く時に、サイエンス・コ・ラボは有利になるため一年生、二年生と必ず参加しました。そしてクラスの係では前期、室長をやり後期、副室長をやりました。調査書には係で頑張ったことについて書く欄があるため、積極的にやりましょう。2年生になって、また室長をやりました。室長の仕事はそこまで難しいものではないです。そして当時の担任の先生から Belle Plus2022 についての話を教えてもらいました。それに興味を持ち参加することにしました。そこではとても貴重な経験が出来ました。そしてこれは調査書にも書くことが出来ました。

■面接本番は積極的に参加した イベント内容が深掘りされました

3年生では、指定校推薦を決めるテストのために、数学をたくさん解きました。I A II 2B のチャートを何周もしてテストに備えました。理系の場合、順位は数学と英語のテストの合計です。英語が苦手だったので数学でおぎなうことにしました。結果的には数学の点数がとても高く、指定校の枠を貰うことが出来ました。そして受験本番の面接で、面接官が興味を持ったのはサイエンス・コ・ラボと Belle Plus2022 についてでした。1年生の頃からやって良かったなと思います。何が自分にとって有益なものになるか、その時になるまでわからないです。だからこそ1年生の頃から、将来の自分のためにできることをしましょう。

学術論文やボランティア活動を アピールポイントにして受験に挑む

■ IB の最終試験と受験準備の両立を なんとか乗り越えました

私が東京理科大学に指定校推薦で出願すると決めたのは、夏休み明けという志望大を決定するには遅い時期でした。当初は国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを利用した入試を主に予定していましたが、志望大の目標点と自身の予想点の差が大きく受験方法を再検討する必要がありました。そのため、担任の先生と相談し、指定校推薦で東京理科大学の受験を決めました。指定校推薦は学校内での活動を評価してもらえる受験形態であるため、高校生活で力を入れた美里町での地域振興活動や山形大学のスーパーエンジニアプログラミングスクールへの参加などの探究活動や国際バカロレアを始めとした校内での学習活動を活かすことができると考えました。特に、その一環として取り組んだ8000字の学術論文やCAS活動でのボランティア経験はアピールする重要な要素として取り上げました。

物理工学科は社会を支える技術者になるという目標を達成するには最適な条件です。しかし前述の通り大学への出願時期はどうしても国際バカロレア（IB）の最終試験とも被ってしまいます。そのため、志望理由書や面接の準備と最終試験の準備や論文提出とのバランスを取ることが最も大変でした。

■ 高校生活で積み上げたことが 自身を支えてくれました

受験方法の変更に、先生方を始めとした多くの人に迷惑をかけてしまいましたが、それまでの高校生活で積み上げてきた様々な活動と経験に支えられて合格することができました。私は挑戦することがあまり得意ではなく今でも一歩踏み出すのにためらってしまうことは多いですが、自分が取り組んできたことや挑戦したことは後から必ず自分のためになります。後輩の皆さんには、むやみやたらに手を出すことは勧めませんが自分の興味のあるものに対しては小さいことからでも良いので挑戦してみたいと思います。

令和 6 年 3 月 特別進学コース卒
富沢中出身

数学が特に好きなので 理科大で勉強できるのが楽しみです

■理系で経営学を学べる理想の大学を 見つけることができました

私は高校入学当初、国公立大学に一般で受験することを考えていましたが、2 年生になり志望大学や受験方式について考えるうち、自分が経済学や統計学に興味があることに気がきました。しかし私は理系選択であり、理系科目が得意な反面、文系科目は笑われてしまうほどの実力であったため、文転を決心することは出来ませんでした。一度文転したい意思を先生に伝えましたが、担任の先生など色々な方々に文転を止められ、その時は致し方なく理系のままでの決意を固めました。あの時止めてくださった先生方、周りの皆さんありがとうございました。おかげで悔いのない選択ができました。そこから私は、統計学などのデータ分析と経済学や経営学を学べる大学を調べ始め、東京理科大学を見つけることが出来ました。数学が特に好きなので、理科大で勉強できるのが楽しみです。推薦のおかげで他の人より進路決定が早かったのも、高校在学中に大学数学を勉強できることはとても幸せです。

■先生から配布される過去問を解くのが 高得点への近道です

前述の通り、私は 2 年生まで推薦を使おうとは微塵も考えていませんでしたが、持ち前の負けず嫌いとう向上心で、日頃から目標を持ち、勉強することを心がけました。英検や定期考査、模擬試験は周りの人も受けるため、少しでも爪痕を残せるように努力していました。推薦を使うと決めてからは、3 年生の 6 月にある校内模試へ向けて勉強をし、個人的には良い結果を残すことが出来て満足です。校内模試の英語は、共通テストのリーディングと問題傾向が似ていて楽しいです。数学も全ての範囲から出るため、校内模試の数学を勉強することは、必然的に共通テストの勉強にも役立ち、一石二鳥でした。先生から過去問が配布されるのでそれをやるのが高得点への近道です。とりあえず解いてみて、100 点をめざしましょう。

サッカー部で多くの仲間と出会い、 精神的に成長できました

■社会的な技術の進歩に合わせた 電子機器の開発に携わりたい

私が東京都市大学理工学部を目指した理由は、この大学が電気・電子と情報通信を融合した最先端の技術を学ぶことができ、電子や電力エネルギー分野だけでなく、電気機器や通信システム分野などの幅広い分野で技術者を育成しているからです。私は将来、電子機器メーカーに勤め、社会的な技術の進歩に合わせた電子機器の開発に携わりたい、と考えました。私は小さい頃から電気・電子機器に興味があり、その働きや仕組みを面白いと感じていました。高校生になり、スマートフォンやタブレットといった電子機器を個人で持つようになるとその便利さを実感し、使っていくうちに自分でもそれに関わる研究や開発がしたいと思うようになりました。

■課題克服のために自主練を続け チームに貢献できました

私は、小学 1 年生から 12 年間サッカーを続けてきました。高校 1 年生の頃は、サッカー部内でのカテゴリーが一番下であったため、試合の出場期間も少なかったのですが、自分の課題を克服するために部活後や朝の自主練を続け、3 年生ではトップチームまでとはいきませんでしたが、セカンドチームで試合に出場し、チームに貢献することができました。厳しい練習を続けていく中で、多くの仲間と出会い、切磋琢磨し、健全な身体はもちろん、忍耐力や協調性、前向きな姿勢といった精神的な成長を遂げることができました。また、チームや自分自身の課題と向き合い、仲間たちと試行錯誤を重ねるうちに、コミュニケーション能力や問題解決能力も養うことができました。

高校では部活動だけでなく、勉学に力を入れ文武両道を目標に掲げました。サッカー部は朝練があり、毎年 5 時起床という早寝早起きの日々であるため、勉学に費やすことのできる時間はあまり多く取れませんが、短い時間に集中して取り組み、隙間時間も効率的に活用して学習を行い、テストでは高得点を取れるような努力しました。

また、私は高校 3 年間寮生活をしており、掃除や洗濯など身の回りのことを自分でやっていました。慣れるまで大変でしたが今ではスムーズにこなし、しっかりとした生活リズムも身に付くなど、自立性を養うことができました。

令和6年3月 英進進学コース卒
中国出身

異文化の間で真実をわかりやすく 発信する力を大学で身につけたい

■将来は東アジアの情報を世界中の人に
発信したいと考えています

日本大学を選んだ理由はいくつかあります。まず、進学について悩んでいる時、この大学に在学している先輩に悩みを相談し、先輩から日本大学での日常生活をたくさん聞きました。二つ目は、日本大学は国際交流と英語教育を重視し、海外留学プログラムを開設しているところにも大変魅力を感じました。

国際関係学部を志望する理由は2つあります。まず、この学部では複数の言語を選択して学べる環境が整っています。多様な社会問題をグローバル的に捉えるための国際感覚を養うためには、いくつかの言語の学びと語学力の向上が必要だと考えています。また、韓国のK-POPに興味があります。私は日本語と英語の他に韓国語も学びたいと考えています。将来東アジアの情報を世界中の人に発信したいです。2つ目は、この学部には、幅広い教養と異文化理解を深めるプログラムや授業が充実しているところです。これらの授業を通じて、色々な視点から物事を見る力を養い、人々の行動の裏に隠された文化や考え方を理解したいと考えています。そして、異文化の間での誤解や偏見を減らし、正しい情報を得て、真実をわかりやすく発信する力を身につけたいと思っています。

■日本語能力試験を受験した経験から
挫折したとき諦めないことを学びました

高校生活で一番頑張ったのは、日本語の勉強です。その勉強の方法はいくつかあります。まず、日本に来たばかりの時、日本語を話すのが難しかったので、日本人の友達と話をし、自然な日本語の会話力を磨きました。次に、放課後、先生に質問して、教科書的な日本語も身につけることを目指しました。最後に、日本語能力試験の受験準備のため、過去問を何回も解きました。この経験で挫折したとき諦めないことを学びました。結果を知ったときはとても興奮しました。その後も忘れずに、一生懸命日本語を勉強しています。

面接官はとても親切でした。聞かれたことも基本的なものばかりだったので、そんなに心配しなくていいと思います。本番は練習ほど緊張感がないため、気を引き締めて安心して練習の成果を発揮してきてください。

高校では目標や夢を常を持って 好きなことに集中しましょう

■野球に集中するためにも勉強の面では 計画性と時間管理を心がけました

私の高校3年間は、とても充実した日々を過ごすことができました。部活動では硬式野球部に所属しており、勉強と部活を両立しながら、人間性においても多くの学びを得ることができました。高校1年生の頃は、好きな野球だけに打ち込んでいましたが、高校2年生の秋から先の進路を見据えながら過ごすようになりました。就職進学のどちらを選択しても学校での成績は重要なため、授業態度や提出物、試験で良い結果を残すために学校と自宅でのメリハリを意識しました。また、好きな野球に集中するためにも勉強の面では計画性と自宅での学習時間を確保することを心がけました。

私は、父の影響もあって建築の道に進みたいと思い、大学進学を決めました。指定校推薦での進学を決め、受験資格を得るために出席日数と一定以上の成績を取ることを意識しました。野球での朝練や放課後の練習がある中でも出席日数を落とさないために規則正しい生活を心がけることや、一日の中でのスケジュールを明確化することで同じ生活スタイルを繰り返すことができました。そして自宅での学習時間を増やし成績を落とさないように取り組んできました。受験資格を得て、入試内容にある面接と小論文の練習を行いました。面接では朝と放課後の2回、先生に面接官として指導していただき、コミュニケーション力を上げるために普段より会話を増やすことにしました。小論文の練習では過去問をたくさん解いて自信がつくまで行い、さまざまな面での情報を集めるようにしました。その結果、入試では緊張せずに自信を持って臨むことができ、合格することができました。しかし合格してからの学校生活がとても大事になってくるのでいつもよりいろいろな面で慎重に過ごすようにしました。

■諦めずに強い気持ちで取り組めば 必ず良い結果に繋がります

高校生活では好きなことに一生懸命取り組みながらも自分の目標や夢を常を持つことがとても大切です。目標達成や夢実現のために覚悟を決め、計画をしっかりと立ててそれを継続する力がとても重要になってきます。達成することが難しい目標でも諦めずに強い気持ちを持って正しい取り組みをしていけば良い結果は生まれると思います。周りの目を気にせずに将来どんな自分になりたいかを描いてそれを実現するために計画を作って一日一日を過ごしていけば可能性は出てくると思います。その可能性を広げるのは自分次第です。そして高校生活を振り返ったときに後悔が残らないように過ごしてください。

仙台育英で過ごした一年半で、 広い視野を持つことができました

■学校行事も多く日本の高校生活の おもしろさを感じました

私が大学進学を目指したきっかけは、歯科医師になりたいという目標があったことです。私は小さい頃から、虫歯になったり、矯正をしたりと、歯科医院に通うことがよくありました。その経験から、私は患者の辛さや歯科医学がいかに重要なものであるかを実感しました。そして、進学の方法に指定校推薦を選んだ理由として、自分が入りたい大学と夢に合っている学部があるため、この方法で進学することを決めました。仙台育英に入学してからは、指定校推薦の枠を獲得するために、普段の生活態度に気を付けることはもちろん定期テストで良い点数を取れるように勉強に取り組みました。留学生として、高校での日本語の授業に慣れるだけではなく、事務室に入る前に「失礼します」をいうなど、日本のマナーも注意しなければならない。仙台育英で過ごした一年半の間に、広い視野を持つことができました。もちろん教科学習から学べることもありますが、文化祭や体育祭など学校のイベントも多く、そのイベントを通して日本の高校生活のおもしろさを感じました。

■自分をよく知ってもらうため 面接や小論文は事前に準備しましょう

指定校推薦は、高校での成績が校内模試の結果、そして受験での表現という両方から判断されるので、普段から真面目に勉強することと早くから面接練習などが必要です。私は受験した学部で、小論文と面接二つ受験方法があるので、私はほとんどの時間を小論文に費やしました。事前に小論文のテーマが分からないので、受験する一ヶ月前から、毎週歯科についてのテーマを練習しました。受験日に練習したことがないテーマをもらったけれど、練習を通して身に付けた知識を運用して、小論文を完成しました。志望動機と自分自身について面接で質問されました。これらは自分のことを知ってもらう機会なので、試験前にゆっくり準備するのは大事だと思います。

学校行事にも積極的に参加して 自分なりの受験の武器をつくりましょう

■個人に合った勉強法を 見つけて効率的に進めよう

私が、専修大学を指定校推薦で受験しようと思ったのは、高校3年生の夏頃でした。興味のある大学の推薦枠があったことや、志望する大学へ早い段階に確実に入学したいと思い指定校推薦での受験を決めました。私が、合格のために取り組んだことは主に3つあります。

1つ目は、定期考査である程度の点数を維持することです。指定校推薦では高い平均評定が求められるため、1年生から高い評定を維持する必要があります。私は、普段の授業に集中して取り組むことや、定期考査の2週間前から勉強を始めるなどして対策していました。また、評定には課題の提出も影響するため、締切日より早めに提出していました。

2つ目は、自分に合った勉強をすることです。私は、3年生夏頃まで、指定校推薦で受験するつもりはありませんでした。それでも、それまで一般受験のつもりで受験勉強をしていたため、校内模試でも志望大の内定をいただける点数を取ることができました。元々、私は自宅だとだらけてしまい、全く勉強することができませんでした。そこで、勉強は学校の自習室や塾、図書館、カフェなどで行い、自宅では勉強しないようにしました。自宅にいる時間を必要最小限にすることで、だらけることがなくなり、勉強時間が格段に増え、効率が上がり成績アップに繋がりました。

3つ目は、部活動です。私は、3年間軽音楽部に所属し、文化祭やライブハウスなどのイベントに多数出演しました。また、生徒会にも所属し、オープンキャンパスの際の会場案内、入試業務の補助に取り組みました。部活動や外部の活動に取り組むことで、志望理由書や面接で勉強以外の自分をアピールするのに非常に役立ちます。

■進みたい大学の選択肢は 自分で増やしておきましょう

また、これから指定校推薦を考えている後輩の皆さんに力を入れてほしいのは、小論文対策です。校内模試が終わると、校内選考で提出する2000字の志望理由書、大学に提出する志望理由書・小論文、これらを同時期にこなさなければなりません。私は、小論文の対策を全くしておらず、完成がどれも締め切り直前になってしまい後悔しました。長期休みの小論文講習などに参加し、小論文対策を早めにするべきだと思います。

後輩の皆さんには、指定校推薦を考えていなくても、定期考査に力を入れ高い評定を維持すること、課外活動に積極的に取り組むことを意識してほしいと思います。そうすることで、受験の選択肢は大きく広がります。受験勉強は孤独かもしれませんが、自分を信じて努力し続ければ、合格をつかみ取ることができます。困難を乗り越えた先には、素晴らしい未来が待っています。応援しています。

勉強とサッカーの両立は工夫して どちらも全力で取り組みました

■校内模試の過去問を解いて 問題の傾向を掴みました

指定校推薦を利用するにあたり、校内模試でどのように高い点数を取るかを考えました。正直、仙台育英に入学してから部活動一筋でやっていた部分があったので、勉強をほとんどしてきませんでした。自分に合っている勉強法だったり、教材だったりthat分らなかったため、とりあえず周りのみんなの勉強の仕方を参考にしました。また、英語の文法などを1から勉強しては確実に間に合わないと思ったので、校内模試の過去問をたくさん解くようにして、問題の傾向を掴めるようにしていました。

■英検はなるべく早い時期に 取得しておきましょう

実に難しいと感じたのは、部活動との両立です。私は何か2つのことを同時に頑張ることが苦手なのですごく大変でした。ただ、どちらかを疎かにすることはできないので、切り替えを大切にしました。部活動のときはサッカーを全力で、勉強をするときは勉強を全力でやる。とても難しかったですが、ある程度1日の計画を立てることにより、何をすべきなのかが明確化されるので取り組みやすかったです。

他に取り組んだことと言えば、英検の取得です。私は英検準2級までしか取っていませんでしたが、大学によっては英検の有無で合格か不合格かが決まることがあるので取っておくことをおすすめします。また取る時期も絶対に早めがいいことは確かなので、まだいいやと思わずにコツコツ勉強をしてぜひ英検を取得してください。

長い文章となりましたが、私の体験したことが少しでも伝わっていたら、嬉しいです。今の1、2年生の方は、自分の目指している大学に合格できるように頑張ってください。応援しています。

たくさんのことに挑戦し視野を 広げれば必ず夢は叶えられます

■語学カリキュラムや少人数制クラスに 魅力を感じました

私は高校入学前から指定校推薦を視野に入れていました。元々、国際系の大学に進学したいと考えていたため、実用英語技能検定2級取得を目標に日々の勉強を頑張っていました。2年生のときに2級を取得することができ、大学選びの視野もさらに広がりました。私が獨協大学外国語学部交流文化学科を選んだ理由は、英語プラス1言語を学ぶことができる語学カリキュラムがあるところや、授業やゼミなどの少人数制クラスといったところに魅力を感じたことです。指定校推薦で受験するためにも、検定を取ることはもちろん、日々の授業にも真剣に取り組みました。定期考査では英語は80点以上を維持することを心がけ、その他の科目でも課題に取り組みながら高得点が取れるように隙間時間を利用して勉強していました。

■自主的に活動をして力を身につけられる 人材だということを示すことが大事です

また、指定校推薦で受験するために無遅刻無欠席を3年間続けました。推薦を受けるうえでアピールできるポイントにもなります。指定校推薦を考えている皆さんには実用英語検定やTOEICを受けることだけでなく、部活動に所属したり、ボランティアに参加するなど自分をアピールできる活動に打ち込んでほしいです。指定校推薦はただ応募基準を満たしていればいいというわけではありません。自主的にさまざまな勉強や活動をして多くの力を身につけられる人材だということを示すことができなければなりません。

1年生の時から探究活動があります。また先のことからといって先延ばしにしているとあっという間に3年生になってしまいます。私は、3年生になってからもっといろいろな検定に挑戦すべきだったと後悔している部分もあります。悔いの残らないようにたくさんのことに挑戦し、自分の視野を広げれば必ず自分の夢を叶えられると思います。

学業と部活、それぞれに 素晴らしいものが詰まっています

■硬式野球との出会いを通して 将来の目標を見つけました

私が獨協大学を志望した理由として挙げられるのは、法のスペシャリストになることができると考えたからです。私には経営者になり、多くの人にチャンスを与えられる会社をつくるという目標があります。そこで経営者になる目標のきっかけとなったのが、硬式野球との出会いでした。そこでは全ての人にチャンスを与えるという素晴らしい教育方針がありました。簡単なことに見えてしまいがちですが、実際の立場になると、とても大変で難しいことなのです。そういった人になりたいと思ったのがきっかけでした。

■学業をこなしてこそそのスポーツマンだと フレックスコースで学びました

この3年間を振り返るとたくさんの出来事そして、多くの思い出があるが、様々なことを学ぶことができました。フレックスコースの特徴として文武両道という言葉がありますが、その通りで片方が欠けていては意味がないこと、学業をこなしてこそそのスポーツマンということを学ぶことができました。また、私は硬式野球部に所属しており、学業では学べないことを野球というスポーツを通して学ぶことができました。そして甲子園という舞台にも立つことができました。このようにスポーツというのは、自分の人生を豊かにしてくれるものです。文武両道という目標を挙げているなら、学業、部活とそれぞれに素晴らしいものが詰まっています。ぜひ両方に全力で取り組み、最高の準備をし、最高の結果を出してください。

私は全力で学業、部活に取り組み、大学では野球というスポーツから離れてしまいます。しかし、後悔ややり残したことが一切ありません。それくらい打ち込んでみてください。

最後に、大学に向けての準備は大変だと思いますが、面接では書いて覚える必要はなく、人と対面して自分の思っている気持ちを率直に伝えるだけです。

後輩である仙台育英生の皆さんを心から応援しています。がんばってください。

人間性を成長させることができた 最高の3年間でした

■わからないことはとにかく先生に
聞いてみるのが大切だと実感しました

まず、大学進学を目指した理由としては、将来就職すると考えたときに、大学へ進学したほうが職の選択肢や、将来の幅が広がると考えたからです。将来の夢を考えたときに、地方公務員になり、地域の人たちのために働きたいと考えたため、その資格が取れる大学を選び、指定校推薦で受験することに決めました。校内模試の時期が部活動の大会前などで時間がなく、体も疲労している状態だったため、あまり模試対策ができずにいました。しかし、先輩の話などを聞き、やれることをやろうと思うようになり、そこから集中して勉強できるようになりました。

入試対策のほうは、小論文と面接だったためとにかく数をこなそうと思い、担当の先生に毎日教わりに行っていました。数をこなすことで、文の書き方や話の受け答えが徐々にできるようになり、試験当日もやってきたことを活かして臨むことができました。最初はわからないことがたくさんありましたが、先生に質問したり、とりあえずやってみることで徐々に覚えられることがあると実感できたため、人に聞くということは大事だと思いました。

■「人生は敗者復活戦だ」という言葉で、
負けからも学べることを教えられました

その仙台育英の3年間は、主に部活動に打ち込んだ3年間でした。メンバーに入りたいという気持ちや、仙台育英として日本一にならないといけないという気持ちなどが多くあり、途中は苦しい時期もありましたが、終わってみるととても充実していて、思い出が多く残った楽しい3年間だったと思います。最後の夏は、マネージャーとしてチームを日本一にするという目標でやっていたため、最後の決勝で負けてしまいとても悔しい思いでした。しかしそんなときに、須江先生の言葉で「人生は敗者復活戦だ」というのを聞き、負けから学べるものがあるんだと教えられました。

このように仙台育英の3年間は楽しかったこと悔しかったこともありましたが、それ以上に学校生活や部活動を通して多くのことを学ぶことができ、人間性を成長させることができた最高の3年間でした。

日頃の取り組みが影響するので コツコツと続けていきましょう

■教科ごとに勉強の計画を立て

その都度記録するようにしていました

私は、高校入学直後から指定校推薦を視野に入れていましたが、他にも推薦で受きたい大学があったため、最終的に指定校に出そうと決断したのは校内模試が終わってからでした。高校では、英語に触れる機会が多く、3年間において英語の学ぶ楽しさを知ったことや、将来の夢や具体的な目標が明確でなかったことから、就職において少しでも役に立つ英語を学びたいと考え、英文学科を志望することにしました。

私は、指定校推薦において日頃から課題提出の期限を守り、定期考査に向けたスケジュールをしっかりと立てることを意識しました。課題提出は平常点に影響するため、高得点が取れそうな教科であっても評定に影響するため、当たり前のことですが先生に言われた時点でしっかりメモを取って期限を順守するようにしていました。また、一学期は教科や先生によって問題の傾向と対策が練りづらい部分はありませんでしたが、定期考査ごとに改善点を見直し1年の間で挽回できるようにしていました。考査ごとに間が空いてしまうため、教科ごとにどれくらい前からどのぐらいの勉強量で進めていけば良いのか、その都度記録するようにしていました。校内選考では、校内模試の順位が一番重視されますが日頃の取り組みが大きく影響すると思うので、コツコツと続けていくことが大切だと思います。

■英検は入試に有利になることが多く

大学選びの幅も広がります

皆さんには、是非部活や資格習得に力を入れてほしいです。私は、茶道部とインターアクト部に所属していましたが、どちらも活動日が他の部活に比べると多くなかったので、学業との両立もしやすく、自分のためになる経験ができたのでとてもよかったと思います。特にインターアクト部は、都度様々なボランティアの募集があり、自分の都合のいい日程に合わせて参加することができ、受験にも繋がったのでとても良かったです。また、資格習得において英検と漢検に取り組みましたが、特に英検は、大学入試に有利になることが多く、大学選びの幅も広がるのでぜひ取り組んでみてください。

令和 6 年 3 月 外国語コース卒
南小泉中出身

ハワイ研修や「Stanford e-Sendai Ikuei」は 強いアピールポイントになります

■英語関連の学部学科を目指す人は
英検二級を取得しておきましょう

私は、入学当初から指定校推薦を利用して大学に入学したいと考えていました。志望大学は特に決まっていなかったため、自分が行きたいと思う大学が見つかった時のために定期テストで良い点が取れるように努力しました。また、英検などの資格の取得も大切だと思います。指定校推薦を使って受験できる大学を調べていると、英語関連の学部学科は、評定だけではなく英検二級を取得していることを条件としているところが多い印象でした。学年が上がる度に忙しくなってしまうので、持っていない人はぜひ一年生からチャレンジしてほしいです。そして、指定校推薦を利用するにあたって一番重要になる校内模試に向けての勉強にも取り組みました。英語は共通テストの問題をひたすら解きました。共通テストでよく出てくる単語を抜き出して単語帳を作り、覚えられるよう意識しました。国語は、問題をたくさん解くことも大事ですが、文章をどう読み解くかが重要です。少しコツを掴めば正答率が上がると思います。また、隙間時間を有効活用することを意識しました。電車に乗っている時間や休み時間に四字熟語や慣用句の勉強をしました。四字熟語や慣用句は、毎日やることで身体に染み付いていくと思います。毎日コツコツ勉強し、校内模試では自分が思っていたより良い成績を取ることができました。

■定期テストに真剣に取り組むだけでも
将来の選択肢の幅は広がります

また、勉強だけではなく部活動に所属したり、外部での活動に参加したりすることも大切だと思います。志望理由書を書くときに、自分が高校三年間で経験してきたことや自分のアピールポイントがたくさんあるととても書きやすくなるからです。私は、ハワイ研修と「Stanford e-Sendai Ikuei」というプログラムに参加しました。どちらも学校が主催で行われたものなので先生方のサポートもあり、不安なこともなく自分の英語力を伸ばすことができました。特にハワイ研修は色々なところに連れて行っていただきたくさんの経験ができたので本当におすすめです！

志望大学はまだなくても指定校推薦を使うことを少しでも視野に入れている人は、欠席をあまりしないように心がけて定期テストも真剣に取り組んで欲しいです。そうすれば将来の選択肢が広がると思います。高校生活はあっという間なので毎日を大切に楽しんでください！

部活で得た学びは今後も 様々な場面で生かされます

■時間の大半を部活動に費やす中で少しでも 勉強時間を確保するよう意識しました

大学進学をするにあたり、私は硬式野球部に所属していましたが、大学では野球を続けない決断をし、これからは他の勉強をしていきたいと思うようになりました。そこで今まで私が興味を持っていた映画制作の分野を学びたいと思うようになり、明治学院大学の芸術学科を目指すことに決めました。

高校生活の時間の大半を部活動に費やす中で、私はまず勉強時間を確保していくことに目を向け少しの時間を活用していくよう意識を変えていきました。学校での休み時間や帰宅後の夜の時間など、特に苦手だった英語の勉強を中心に取り組み3年生の6月に行われる第1回校内模試に向けて努力を重ねてきました。結果、明治学院大学の指定校推薦の枠をいただくことができました。

■様々なことに触れて自分の可能性を どんどん広げて行ってほしい

私は高校3年間で多くの学びを得ることができました。特に部活動で結果を出すためにどのようなプランを立て、どう努力していくかを学ぶことができたのは今後の様々な場面において生かされていくものだと考えています。そして、何でも相談できる友達や常に高い目標を立てお手本となるような仲間がいたことが高校3年間の一番の出来事だと思います。

これから大学進学を目指す人もいれば、どうしていか悩んでいる人もいると思います。自分がどの進路を選ぶにしても一番は自分のやりたいことを選択していくことだと思います。そして、様々なことに触れて自分の可能性をどんどん広げて行ってほしいと思います。

高校生活は多くの経験ができると思います。まずは何か取り組んでみるのが良いと思うので、視野を広く持って自分の興味のあることを探してみてください。

部活動でかけがえのないものを 手に入れることができました

■日頃の授業をしっかりと受け 理解することが何よりも重要です

私が大学進学を目指した理由は、将来社会に出た時に役に立つ経験や知識を得たい、と考えたからです。その中でも、語学力の向上に力を入れており、経済の基礎から幅広く学ことができる明治学院大学を志望し、指定校推薦で合格しました。指定校推薦では早い段階で受験が終了するため、短期間で集中して校内模試対策、受験に向けての準備をすれば、その後部活動に集中できると考え指定校推薦での受験を選びました。指定校で自分の希望する大学に行くため、私は校内模試の勉強に力を入れました。校内模試では、今まで学習してきた内容から問題が出題されるため、まずは日頃の授業をしっかりと受け理解することが何よりも重要だと思います。

■部活動は入試での面接の場面で アピールポイントにもなります

具体的な校内模試に向けての勉強としては過去問を解いて出題の傾向を知ることが大切です。そして自分の苦手な部分を重点的に勉強するという方法で私は勉強しました。英語では私は単語の知識が不足していたためターゲット1900で単語の勉強に積極的に取り組みました。国語では読解力をつけるために読書をしました。その結果、文章を読み解く力や読むスピードが向上し、校内模試本番では国語で良い点を取ることができました。また私は学習面だけでなく部活動にも力を入れていました。部活動では辛いことの中にも楽しさを感じることができ、かけがえのないものを手に入れることができるものだと思います。また部活動に取り組むことによって入試での面接の場面で有利に働くことや自分のアピールポイントとなるので良いと思います。

自分が志望する大学に行くため、将来のためにみなさん勉強や部活動、行事など様々な場面でがんばってください。

自分特有の色をいかに伝えるかが 推薦入試合格のカギです

■面談で先生が指定校推薦での 受験を勧めてくださいました

私は指定校推薦での進学を夏の面談までほとんど考えていませんでした。しかし、学校内試験の成績が良かったことや英検、調査書の条件を満たしていたことで志望していた國學院大学史学科の推薦枠を頂ける可能性が高いと担任の先生が教えてくださり、そこで初めて指定校推薦での受験を決めました。学校内試験では一般受験に向けて取り組んできた学習がそのまま結果になりました。また、特にやっていたよかったと感じているのが英検です。指定校推薦での受験をするにあたって英検のスコアを求める大学は非常に多いです。私のように直前で指定校推薦での受験を希望したとしても、英検を取得していなかったために受験ができないということにならないように機会があれば積極的に受験をすることをお勧めします。

■大学で何をしたいのか明確に伝えれば 自分の個性をアピールできます

最後に私が最も伝えたいことは自己分析を絶えず行ってほしいということです。私は3年生になる直前までどのような大学に進学して、何を学びたいのかという問いの答えを明確に持っていませんでした。言い換えると、高校生活で自分のことについて深く考える機会がほとんどありませんでした。指定校推薦などの推薦入試において最も大切なことは、自分特有の色をいかに小論文や面接を通して相手に伝えるかということだと思います。そのためには、大学に行って将来は何がしたいのか、どのような学習計画で大学生活を過ごしたいかなどについてよく考え、言葉にできるようにすれば、きっとありきたりな答えではなく自分の色が出たものになります。

卒業が迫った今振り返ると、高校生活は本当にあっという間です。皆さんが充実した高校生活を送ることができるよう願っています。頑張ってください！

大学に行きたいという気持ちを 勉強のモチベーションにしよう

■面接の受験だったため

学校では重点的に練習しました

私は、玉川大学のオープンキャンパスに行ったところ、施設が充実していて興味をもったので大学について詳しく調べることにした。私は将来「動物の福祉」に配慮しながら、より多くの人に動物の魅力を伝えられるような動物飼育員になりたかったので、そのためには動物の福祉について考えるために、この大学では、四つの研究領域はどれも魅力的で、充実したカリキュラムのもと、実践的な知識・技能を身につけることができる。4つの研究領域は大学に行った後に選択することができるということがとても良いと思った。また、大学の宮田准教授の元で動物のストレスを軽減するうえで摂食行動がもつ可能性について研究をしたい、またフィールド実習を通じて動物の生命の維持に欠かせない飼料の生産・安全確保への理解を深めたい、以上の理由がきっかけとなり、この大学に志望をした。勉強方法としては、受験では面接のみだったため学校の先生方や個別で面接練習を何度も行った。

■緊張で内容を忘れないように

アドリブの練習もしました

受験日では緊張して非常に静かな感じだった。面接では特に大学の志望理由、どのように大学を知ったかについてよく聞かれた。特に苦戦したことは志望理由などの長い文章を緊張で忘れないようにすることだった。面接では緊張して言いたかったことを忘れてしまうことは仕方ないため、できる限り原文を覚えつつ臨機応変に対応できるように少し変えて志望理由を話したり、覚えている範囲だけでも話せるようにアドリブの練習を行った。また、最近読んだ本や興味のあるニュースなど事前に準備が必要だったりするものも聞かれる可能性があるため、もし本をあまり読まない人やニュースや新聞などを読めていないという場合は早めに準備に入る必要がある。

また、大学は将来の自分に大きく関わる人生の分岐点だと思うので最も自分が興味のある大学を選ぶことがとても重要です。行きたい大学のために勉強することがモチベーションの維持につながると思うので、オープンキャンパスなどに行って本当に行きたい大学なのかよく調べて進路を決めることをおすすめします。

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
中山中出身

BTEC プログラムを通して 経済学に興味を持ちました

■校内模試はできるだけ準備を早めにし、
良い順位を取ることが大切です

私が経済学部を選んだきっかけは、高校 2 年生から履修した BTEC プログラムです。この BTEC プログラムでは、マリンスポーツを経営している社長に学校に来てもらい、お話をしてもらう機会や、実際にそこに行って職場体験しました。BTEC プログラムを通して、今までは気にしていなかった、お金やそれを取り巻く社会について興味が出てくるようになりました。

学校推薦型選抜で進学しよう、と決めたのは高校 3 年生になったときです。高校 1 年生や 2 年生のときは、指定校推薦の存在を知っておらず、自己推薦のような形で進学すると思っていました。しかし、準備を進めていくうちに、指定校推薦のことを知りました。指定校推薦を取るためには高校生活の評定が大切になります。私は学校生活の成績は良かったため、心配することなく準備を進めることができました。しかし、校内模試で失敗してしまいました。私は準備をするのが何事でも遅く、本格的に勉強を始めたのは 1 ヶ月前ぐらいでした。案の定、点数は伸びず、順位は上がりませんでした。これからテストがある後輩の皆さんは準備を早めにし、良い順位をとってほしいと思います。

■小論文は傾向をつかみ
たくさん添削してもらいましょう

私が進学する東京経済大学は、入試として小論文があります。私はこの対策の準備も遅く、始めたのは 1 週間前ぐらいでした。しっかりと対策をしていれば簡単に書くことができる内容でしたが、対策が遅かったため焦りと不安がありました。小論文の対策は難しいと思いますが、過去のテーマから傾向をつかみ、それからテーマを予測してたくさん書いて添削してもらうことをおすすめします。

部活動や勉強などいろいろなやるべきことはあると思いますが、自分の志望する大学へ進学できるように頑張ってください。

高校で参加した課外活動はどれも 学ぶことが数多くありました

■ 3年生から勉強習慣を改めて 指定校推薦に必要な評定を獲得

指定校推薦で受験しようと思った理由は2つあります。1つ目は、志望する大学への合格の可能性が高くなるという点です。2つ目は受験の合否が一般受験より早く出るため、大学入学後に向けた勉強の時間を多く取れるという点です。私は、数学が苦手で、大学では必須科目なので、大学入学前に克服しようと思いました。これらのことから私は、指定校推薦に魅力を感じ、この入試方法を選びました。

実際に、私が指定校推薦での受験を考え始めたのは3年生の頃からでした。しかし、2年生の時に成績が伸び悩んだことにより、3年生で私の志望大学を受験するのに必要な評定を満たすことが難しくなりました。そのため3年生になってからは日々の勉強習慣を改め、勉強でわからない所があった時は先生や友人などに積極的に質問するようにしました。それにより指定校推薦の受験に必要な評定を得ることができました。

■ 大学によって必要な資格や検定のスコアが 違うので早めに調べておきましょう

指定校推薦では、大学が必要とする評定を満たすだけでなく、校内模試での点数も重要です。校内模試は範囲が広いので、普段から授業の予習や復習をしっかりと行い、模試の解き直しをして自分に足りない知識を埋めていく方が良いと思います。また、大学によっては、出願資格を得るために英語や漢字などの資格・検定のスコアが必要な大学もあるので、早めに自分に必要かどうかを調べておくの良いと思います。

加えて、課外活動なども経験しておく、有利に働くことが多いです。大学としても、どのような生徒なのか印象がはっきりとしやすくなり、中には大学によって課外活動について書く必要がある所もあります。私は、高校では生徒会活動やハワイ研修、サイエンスラボなどの多くの課外活動に参加しました。どの活動からも学ぶことが多くありました。そしてこれらの活動は、大学に送る調査書にも書けるので積極的に参加した方が良いと思います。

すでに自分の進路を決めている人も多いと思いますが、まだ決まっていない人は、定期テストや模試などに真剣に取り組む、高い成績を維持することを目指し、時間があれば資格の取得や課外活動に取り組めば良いと思います。そうすることで選べる選択肢を増やしておくことをお勧めします。これを読してくれた皆さんが自分の志望する大学に合格できることを願っています。

仙台育英の指定校推薦枠を 最大限に活用しよう

■さまざまな活動が とても良い経験になった

私は、1、2年生のときは、ボランティアや部活動に力を入れて活動してきた。指定校推薦を受けるにあたって、ボランティア活動の経験や部活動は大学に書類として送られるため、合格に有利になると考えたからだ。

部活動は、生徒会執行部、よさこい愛好会、インターアクト部の3つの部活に所属していた。それぞれの部活動でさまざまな体験をすることができて、良い経験になった。

指定校推薦を受けるにあたって重要なことのひとつに評定がある。3年間頑張ってきたかどうかを見る判断材料として使用される。そのため1年生から定期テストを頑張ることが必要だ。2、3年ではどんどん内容が難しくなっていくので、1年生のときに評定を落とさない方が良い。実際、私が指定校推薦を受けたときに1年生のときの評定のおかげで救われたこともあった。大学によって評定が指定されているので、確認しておいた方が良いと思った。

■3年生の6月の校内模試は 指定校を勝ち取るのに重要です

3年生の6月には、校内模試があり、学校内全てのコースの生徒の順位が出るテストで、指定校推薦の大学枠を勝ち取るためには、とても重要なテストだ、2年生も受けるテストなので、2年のときから傾向などを知るのも良いと思う。6月は、このテストと定期テストがあるので、とても苦しい月になった。

そして、特に大変だったのは、二千字の志望理由書を書くことだった。誤字脱字や言い回しに気をつけて書くことが難しく、ボールペンで書くので、間違えたら書き直しの繰り返しでとても大変だった。

指定校推薦の校内選考は、評定、校内模試の成績、二千字の志望理由書の3つを判断材料として使用する。また、出席日数なども条件に入る。私は出席日数は十分に満たしていたので、健康な食事や住居を与えてくれる両親に感謝している。

仙台育英には多くの大学から指定校推薦がきているので、もし目指している大学があったら、チャレンジしたほうが良い。

勉強をする上で友達は良い刺激になり モチベーションを維持できました

■理系分野全般をひとつとおり学び

将来の目標を見つけていく

この大学を志望したきっかけは、主に小さい頃から医療関係や人体や生物の仕組みに関心があったことだ。しかし、いざとなって、進路を決めようとする、答えがなかなか見つからなかった。悩んだ末に、この大学の学部では医学、工学、薬学、理学、農学の理系分野のほとんどを学ぶことができ、将来的にやりたい仕事が見つかると思い選んだ。この大学の学部について詳しく調べてみると、さまざまなプログラムがあり、特に私が興味を持った「未来創薬人養成プログラム」が設置されていた。他にも、創薬、脳科学、バイオインフォマティクスなど私が以前から関心を持っていた内容を学ぶことができるということにも魅力を感じた。入試方式を考えたときに、この大学は本学園の指定校に入っており、挑戦してみようと思った。その結果、見事に合格することができた。合格する上で必要だと思ったのは、課外活動で私は、サイエンス・コ・ラボに参加したことぐらいだったので、もっと参加するべきだったと感じたのと、英検2級は高校2年生のうちに取得していてよかったと思った。評定は重要なので、学校出願の評定を下回らないように気をつけ、定期テストの勉強も最低限やっていた。

■高校生活は大変なこともあったけれど

友達の力で支えられここまでこれた

この大学の学部についてさらに調べてみると、特待生制度があり、こちらも挑戦しようと思った。対策としては、2科目100分と面接で、過去問を解いたり、面接指導の先生にご指導いただいたりした。試験当日は、指定校のときよりも緊張し、面接では頭が真っ白になり、自分でも何を行っているのかわからない状況にもなったが、自分なりに質問に答えることに努めた。学力試験では、見直し時間を確保できるように時間配分に気をつけた。結果として合格でき、2週連続県外に受験に行き疲れたが、行った甲斐があったなと思ううれしかった。

高校3年間は自分が思ったほど順風満帆ではなく、つらいことや思い通りに行かなくて諦めかけたこともあったけれど、友達の力で支えられここまでこれた気がした。勉強をする上で友達は良い刺激になり、自分のモチベーションを維持する上で大切だった。

後輩の皆さんもぜひ貴重な高校3年間で勉強だけでなく、友達という存在も大切にして高校生活を過ごしてほしい。

指定校推薦で最も重要なことは その大学に「行きたい」という気持ち

■オープンキャンパスに参加したことで どの学科に行くかを決定できました

私は、仙台育英学園高校に入学し、指定校推薦で受験し大学に進学することは一つの目標でした。中学では全くと言っていいほど勉強していませんでしたが、高校受験をきっかけとして、目標を達成するために今までの生活を見直し、自分の生活を変えようと決心しました。

指定校推薦を利用した理由としては、一般入試よりも早く合格が決まることです。希望した大学が専門分野なため合格が決まれば入学までの期間、大学に必要な勉強に取り組むことが出来るのが指定校推薦の一番のメリットだと思ったからです。指定校推薦を利用して受験する場合に、重要なことは希望する大学に対する「行きたい」という気持ちだと思います。当たり前のことかもしれませんが、すごく重要です。そこでお勧めなのが、オープンキャンパスに行くことです。オープンキャンパスに行く際には、気になった大学に何校か行くといいと思います。そうすることでオープンキャンパスでしかわからない特徴や校舎の雰囲気などを比べることができ、大学に対するモチベーションが高まります。私も、大学は決まっていたものの学科で悩んでいましたが、オープンキャンパスに行ったことにより、どういうことを研究しているのかななどを明確に知ることができ、進路を決めるきっかけになったのでオープンキャンパスには必ず行った方がいいです。

■高校生活では様々な経験したことで 精神的に成長することが出来ました

私が、指定校推薦で受験する上で大切にしていたことは評定平均です。定期テストの時には、2週間前から少しずつ勉強をしていき、どんなに苦手な教科でも最低3の評定はもらうようにしていました。今までの評定平均や提出物などのおかげで指定校推薦枠を獲得することができ、大学に合格し、目標を達成することができました。

3年間の高校生活を振り返ると、あっという間だったと感じているとともに、後悔していることがたくさんあります。例えば部活動に入ればよかった、や検定などを取ればよかった、など他にもたくさんありますが、高校生活では様々な経験したことで、精神的に成長することが出来たと思っています。最後になりますが、高校生活は人生で一度しか味わうことしか出来ません。後悔しないような選択をして高校生活を存分に楽しんでください。

定期テストはバランスよく勉強し 目標の評定が取れるようにしました

■提出物なども意識して 忘れずに提出しました

私は指定校推薦で拓殖大学に合格しました。まずは私が指定校推薦を受けるにあたって気をつけたことについてお話しします。

1つ目として学校を休まないということです。推薦の条件として、3年間の欠席日数に上限があるため、学校を休まないように心がけていました。また、各教科の提出物を忘れず提出するようにし、評価に影響ないようにしていました。

2つ目は、試験についてです。定期テストは各科目の目標点数を決めて勉強しました。受験する条件の1つに評定平均4.0以上というのがあったので、その評定を下回らないようバランスよく点がとれるよう勉強していました。また、3年生になると6月に校内模試があり、その模試の順位の結果で受験資格が得られます。国・数・英の3教科で多く、内容も難しいため、早い段階から模試に向けた勉強をすることが指定校推薦をとる上で重要なことだと思います。

■ワークショップ形式での受験で 事前に入念に準備しました

拓殖大学の指定校推薦はワークショップと呼ばれる受験で、教授のガイダンスを聞いた後、その内容についての考えを800字で論文にするというものでした。受験対策として、まず自分の今後の人生について、また社会の情勢などについて理解を深めます。拓殖大学の場合、問われる内容は事前に知ることができるので、先生に添削していただいた下書きを基に、ガイダンスの内容やテーマに添った論文を書いていきます。深掘りしていき、何度も先生に確認してもらい、誤字・脱字や文章の内容をまとめ上げることが大切です。行きたい学部・専攻の理由なども絡めて書くと書きやすいです。一般試験、推薦にかかわらず勉強することは必要です。受験方式に合わせた勉強を早い段階から始めることが受験において一番重要なことだと思います。

拓殖大学 商学部 国際ビジネス学科に
指定校推薦で合格

令和6年3月 英進進学コース卒
七郷中出身

受験の不安をなくす一番の方法は 勉強して自信をつけること

■担任の先生のサポートで志望大学の 推薦をもらうことができました

私が大学進学を目指すようになったのは、高校3年生の春からでした。それまでは、学校の定期試験の勉強を何となくしていましたが、大学を意識するようになってからは、定期試験の勉強に加えて、校内模試の対策にも取り組まないといけないと思い、自習室で勉強しました。そのおかげで、苦手だった英語の点数が上がりました。

本番の校内模試は、過去問で練習したときより点数は下がってしまいましたが、予想点にはギリギリ届きました。担任の先生に協力していただいたり、相談に乗っていただいたりして、行きたい大学の推薦をもらうことができました。皆さんも最後まであきらめずに頑張ってください。

■AJ クラスの小論文の授業での 対策が成果につながりました

大学の入試は、面接がなく小論文だけでした。私はAJクラスで、小論文の授業があったので、それで対策をしました。担当の先生に添削をしてもらったり、小論文模試での解答用紙に的確なアドバイスが書かれているので、それが大きな成果になったのだと思います。

受験当日は、あまり不安になりすぎないために、音楽を聴いたり、おもしろい動画を観たりして、気分を和らげていました。試験の手応えは良かったので、結果にはあまり緊張しませんでした。

みなさんも、受験勉強をする中で不安になることがあると思います。けれどその不安をなくしていくには、勉強時間を増やしていくしか方法はありません。不安が自信に変わるまで、頑張ってください。

指定校推薦のおかげで進学という 選択に踏み切ることができました

■部活は楽しむことに重きを置きつつ サポートしていけるよう心がけました

私は大学受験に向けて、まず部活動に力を注ぎました。高校 1 年生の頃は、将来についてそこまで考えていなかったため、スポーツ推薦などを含め、少しでも多くの選択肢を得られるように意識しました。部活動ではベンチメンバーとなり、レギュラーなどの目に見える活躍はできませんでしたが、そんな環境の中でも、楽しむことに重きを置きつつサポートしていけるよう心がけました。このような心持ちのおかげで、2 年間楽しく活動することができたと考えています。その他に評定平均値にも気を配りました。多くの人がわかっていると思いますが、評定が足りないと大学にいけなくなってしまうので、少なくとも評定平均を 4 以上にしておくことで多くの選択肢を得られるようになります。MARCH などのレベルを目指していくのであれば、少なくとも 4.5 以上を維持しつつより深く広い分野の勉強をしておくことで指定校などの推薦の枠に入りやすくなると感じました。

■できるだけ多くの選択肢を持つと 将来の道に繋がりやすい

仙台育英生のメリットとして、指定校推薦の数がとても多いことが挙げられます。もし、3 年生になっても進学先が決まらず、どのような分野に力をいれて良いかわからない人でも、抽象的でもいいので少しでも気になる大学や分野がある場合に進学しやすくなっています。さらには MARCH に属する大学も指定校の中に入っているため少しレベルが足りなくても挑戦しやすくなっていると感じました。私自身しっかりとした将来を 3 年生になっても見出すことが難しかったのですが、指定校推薦のおかげで、ある程度の将来性を見つけて進学という選択に踏み切ることができました。

これらのことから、将来についての目標や意思がはっきりしている場合はその分野を伸ばし総合型選抜や学校推薦型選抜などの道を目指すことと、はっきりとした目標がない人はより広い分野の勉強や部活動を続けることで多くの選択肢を持つことが将来につながる道となると思います。

怠らず勉強に取り組めば必ず 良い結果になって返ってきます

■一つ一つのテストも気を抜かずに こなしていくことが重要です

私がこの大学を受験するために、心がけていたことが3つあります。

1つ目は、継続的な勉強をするということです。定期考査の勉強をしっかり行い、評定を意識しておくことが大切です。得意教科を伸ばしつつ、苦手な教科も自分なりの勉強方法を見つけ、どれだけの努力をするかによって、大学を幅広く選べる1つのポイントになると思います。また、3年次のはじめにある校内模試の勉強を、事前に参考書や過去問をたくさん解いて勉強することで、自信がついて後悔することなく挑めると思います。一つ一つのテストも気を抜かずに、こなしていくことが重要だと思います。

2つ目は、経験をたくさんするということです。私は3年時の夏に中高生ボランティアに参加しました。高校も学年もバラバラだったため、各々の考え方やアイディアがありすごく勉強になりました。たとえ失敗しても、何事にも挑戦する心意気はすごくいいことだと思います。

■大学の先生のお話をメモに取っておいて 面接本番前に見返すとかなり効果的

3つ目は、たくさんオープンキャンパスに参加するということです。資料に載っていない話が聞けたり、個人相談をすることによって詳しく知ることができたため、自分に合っているかなど確かめることができ、比較することで将来の夢に繋がると思います。加えて、先生方の話を聞く時にメモを取ることがポイントです。指定校推薦や面接が必要な時に、そのメモを見返して面接でアピールすることは大きな強みになります。

最後に、3年間はあっという間に過ぎていきます。友達と制服姿の写真を撮ったり、行事ごとには全力で取り組み、思い出をたくさん作ってください。ですが、勉強も遊ぶぐらいに怠らずに取り組むことで、必ず自分に返ってきます。受験期は大変ですが自分を信じて突き進んでください。応援しています。

令和6年3月 外国語コース卒
住吉中出身

先生のアドバイスから 志望大学を決めました

■コロナ禍にあっても

視野を広げる努力をしました

私は、入学時から指定校推薦で大学に進学することを目標としていました。なぜなら、小学生から課外活動に取り組んでいて、その経歴を生かしたいと思っていたからです。しかし、目標があるものの自分に合った大学がわからず、迷走していた時に担任の先生に学習院女子大学を提案していただきました。オープンキャンパスに参加してみると落ち着いた環境で、さらに先輩方が自主的に活動していました。その姿を見て、学習院女子大学に進学することを志すようになりました。これからは高校3年間で私が大学で合格するために努力したことをお伝えします。

1つ目は、課外活動に積極的に参加することです。私は特に高校生のうちから視野を広げるために参加していました。コロナ禍ということもあり、一つ一つの活動に深く関わることは難しい3年間でした。しかし、それを生かして多くの活動に参加し、たくさんの人と出会い、一つの物事を多角的な視点から見ることを学びました。この経験は志望大学決定や面接試験でも大いに役立ったと思います。皆さんも是非チャンスを大切に、たくさんのことを経験してください。

■具体的な目標を掲げて

時間を上手に活用しましょう

2つ目は、校内模試や期末テストにしっかり取り組むことです。皆さんお分かりだと思いますが、指定校推薦は主に評定と校内模試の順位で決まります。私は休み時間と通学時間を使って勉強していました。校内模試直前には自分のわからない単語をまとめた自作単語帳などを使用して、工夫して勉強していました。勉強以外にも授業態度を改めたり、提出物を全て提出したりすることも大切です。さらに漠然とテスト勉強をするのではなく「オール5を取るぞ!」という具体的な目標を持つこともとても大切だと思います。

高校生活はあっという間です。この3年間は将来にとっても影響すると思います。今の自分だけでなく、常に将来の自分の姿を思い浮かべて行動してください。頑張ってください!!

令和 6 年 3 月 外国語コース卒
矢本第一中出身

海外大学とのプログラムや 留学の経験は独自のアピールポイントに

■指定校推薦を視野に

目標はいつも高く設定

私は高校入学当初から、指定校推薦を活用して大学に進学したいと考えていました。しかし、6月に行われる校内模試の結果を踏まえて、志望大学を考えると最終的に決定したのは校内選考に出す直前でした。外国語コースでは、ネイティブの先生と話す機会や世界で起こっている様々な社会問題に触れる機会が多かったので、大学卒業後に英語圏社会で活躍できる人材になりたいと思い、志望大学を決定しました。

1・2年生の頃は志望大学が決まっていなかったのですが、どこの大学に決めてもいいように、定期考査の評価は高く維持し続けることを一番意識していました。高い評定を保つには、テストの最低2週間前からはテスト勉強を始めること、提出物は期限内に必ず出すことが大切だと感じました。また、英検や TOEIC、GTEC など英語系の資格取得にも力を入れました。指定校推薦を利用して大学に進学すると、第1回校内模試がとても大切になってきます。私は文系の大学に進学することは決めていたので、現代文と英語の学習を中心に取り組みました。私の場合は通学時間が長かったので、その時間を英単語の暗記、国語の慣用句や四字熟語の学習に有効活用していました。

■自分の揺るぎない「芯」を

持つようにしましょう

そして、高校3年間では学校行事以外の活動にも積極的に参加しました。スタンフォード大学とのオンラインプログラムやオーストラリアへの留学を通して自分自身の視野を広げることもできましたし、自分が将来やりたいことは何なのかを見つめる、とても貴重な経験になりました。また、他の人とは違った自分だけのアピールポイントを持っていることは、推薦入試で受験する際にはとても自信に繋がると思います。

大学進学を視野に入れている人は早い段階から大学の情報を収集することが必要だと思います。自分が将来したいこと、大学で学びたいことを考えながら、自分の中に1本揺るがない芯を持って頑張ってください。

高校生の今しかできないことに、 積極的にチャレンジしてほしい

■留学してきたばかりの時は、 授業での日本語がとても大変でした

留学生である私は、指定校推薦で大学に合格しました。様々な学部の中で悩んでいたのですが、担任の先生と国際センターの先生のおかげではっきり決めることができたうえで、そのための準備をすることができました。

学習面では、大学の出願に必要な評定平均を充足するため、定期考査で高い点数を取るために、考査の準備と学校の授業の予習・復習に取り組むことはすごく大切だと思います。また、授業での態度と宿題に取り組むことも大切です。校内模試に積極的に取り組んで全国での自分のレベルを認識し、どの科目が足りないのか、どの科目が得意なのかを認識し、足りない科目をさらに熱心に勉強しなければなりません。そして、留学してきたばかりの時は、授業での日本語がかなり速く、難しく感じられました。そのため、留学生の場合は、日本語の勉強を熱心にするのがすごく大事であると思います。留学に来て色々慣れなければいけないことがたくさんありますが、留学生の皆さんを応援します。

■読書することで文章を読む力や 自分の世界観が広がります

また、自分が志望する大学の情報収集することは大事です。志望の大学でどのような授業をするか、面接ではどのような質問が出るのかなどを分かるためです。課外活動は大学入試にすごく役立てるので、なるべく多く多様な活動をするをお勧めします。そして、読書することで自分を成長させることができます。さまざまな本を読むことで文章を読む力、自分の世界観が広がります。また、こうして様々な本を読むことができるため、読書は大事であると思います。

大学の面接を準備する時は、自分一人の力では無理があるので先生方に面接の練習を頼むことが大事です。また、もっと多くの先生方に面接をお願いしたらさらに効果的に練習することができるので、おすすめします。そして、高校生である今しかできないことがあると思います。そのため、いろいろなことにチャレンジしてほしいです。みなさんの目標の達成を祈ります。

将来の進路が決まっていなくても 早めに勉強習慣をつけましょう

■ 3年間の定期テストの 積み重ねはとても大切です

私は2年生の冬から養護教諭になりたいと考えていました。しかし養護教諭という夢は簡単ではなく、とても高い倍率のなか教員採用試験に合格しなければなりません。資格取得可能な大学は少ないわけではありませんが、採用試験対策が充実している大学か否かは差があるもので、気になっていた他の大学と比較しても、ずば抜けて対策や合格実績が高く、名のある教授からの質の高い講義も受けられる女子栄養大学に惹かれました。

仙台育英には、女子栄養大学の指定校推薦の枠があると聞き、2年生の3学期4学期、調査書に影響の出やすい3年生の1学期の定期テストに力を入れ評定の向上に努めました。

私は進学したい大学が決まるのが遅かったのですが、1年生の頃から定期テストには力を入れていたので、3年間の定期テストの積み重ねの大切さを実感しました。

■ 苦手科目は基礎から取り組み 徹底的に潰すよう意識

私が希望していた大学は、調査書と小論文とレポートの提出のみで合否が決まったので、校内審査で最も重要視される校内模試対策に力を入れました。中でも少し苦手意識のあった英語を基礎から取り組み、着実に自分の苦手分野を潰すように意識しました。校内模試の結果は自分の中の最高点、納得がいく順位が取れました。

校内選考では順位が高い方が有利なので、順位によって指定校の取れる幅も広がりました。指定校の枠を狙っているのであれば、一年生からの基礎的な勉強や勉強習慣をつけておく大切さを改めて感じたので、自分はまだ将来の夢が決まってないから、別に行きたいところがないからと最初から決めつけずに後で自分が後悔しないように勉強の積み重ねをしておくことをおすすめします。

仙台育英は1人1人の可能性を信じ 最後まで全力でサポートしてくれます

■日々の授業を真剣に受け、 定期考査の2週間前から対策

仙台育英に入学した時から、推薦での大学進学を目指していました。1年生の頃から定期考査は高得点が取れるように、日々の授業を真剣に受け、定期考査の2週間前からしっかりと対策をしていました。また、当たり前のことですが、課題やノートなどの提出物は完璧な状態で出すということを心がけていました。校内模試では、5年分の過去問を解き、苦手な分野で1点でも多く点数を取れるように努力を重ねました。しかし、校内模試本番では納得のいく結果を出すことができませんでしたが、創価大学へ進学された先輩方の活躍もあり、他の大学よりも多くの指定校推薦枠があり、校内推薦をいただくことができました。

■緊張した時、友達や担任の先生からの 応援はとても力になりました

創価大学の指定校推薦入試は、事前に提出する自己申告書と面接でした。自己申告書は、担任の先生と国語科の先生に添削をしていただきました。文章の内容が決定してからは、30枚以上自己申告書を書きました。面接して下さる方は、私に会うより先に私が書いた自己申告書に会うため、提出日ギリギリまで書き続け、心のこもった納得のいく1枚を提出することができました。面接の対策は、先生方と練習するだけではなく友達ともたくさん練習しました。面接用にノートを準備して、質問対策以外にも自分自身のことや大学のホームページやパンフレットを隅々まで確認し、大切なことをまとめたり、仙台育英のこと、英進進学コースのことをまとめたりしました。そこから、どの受験生よりも自分自身への愛、大学への愛、高校への愛をもって自信満々に面接を受けることができました。緊張した時、友達や担任の先生からの応援はとても力になりました。

最後に、仙台育英は1人1人の無限の可能性を信じ、最後の最後まで全力でサポートしてくれます。自分自身の心に素直になって、興味のあること、やってみたいことに挑戦して後悔の残らない高校生活を送ってほしいです。夢や目標を叶えられるように、そして無事に志望大学への合格を勝ち取れるように応援しています。

自分にできることを積み重ねて アピールポイントにしました

■メディア学を学べることに 魅力を感じました

この大学に出願すると決めたのは、高3の夏です。それまでは理系の大学に進学するか、音大に進学するかで悩んでいましたが、どちらについても学ぶことができるこの大学を見つけ、この大学に出願することを決めました。メディア学について学ぶことができる大学は全国でも本当に数が少なく、カリキュラムも魅力的だったため、この大学に確実に入りたいと考えたことが指定校推薦を選択した理由です。

合格することに役立ったと思うことは二つあります。一つは、校内模試の順位が良かったことです。試験前に特段勉強した覚えはありませんが、科目が国数英の三科目だったので、以前から懸命に勉強していた成果がでたのかなと思います。二つ目はアピールできることがあったことです。私は英検を取得したり、多読賞を受賞したり、習い事のボランティアに参加したりしていました。私は内気なので、生徒会執行部などに参加する勇気はありませんでしたが、内気なりにできることを見つけて努力しました。

■定期考査は得意科目よりも 苦手科目に重きを置きました

指定校推薦を目指している方々は、国数英の勉強に重点を置き、校内模試に備えることが第一かな、と思います。評定に関しては、提出物を確実に提出したり、欠席しないことが大切です。定期考査は得意科目よりも苦手科目に重きを置いて勉強したほうが評定平均が上がります。あとは自分がアピールできることを一つでも持っているとし望理由書を書いたり面接をしたりするときに有利です。

後輩の皆さんは、勉強も大事ですが、まずはいろいろなことを経験して、自分の進路選択で後悔しないようにしてほしいです。皆さんが卒業まで、楽しく充実した高校生活が送れることを願っています。

友人と支え合い寄り添うことも 合格につながります

■面接の練習をしたことで焦らずに
どんな質問にも答えられる度胸ができました

私は人よりも大学進学を決めるのが遅かったと思います。本格的に入試対策を始めたのは8月の中旬で、指定校推薦で受けることに決めました。

私は東京工科大学に合格する前に、指定校推薦を受ける準備をしました。その試験内容は、面接試験前の書類提出、基礎力調査、面接試験でした。私は指定校推薦をもらうために、1年生のときから成績を4以上にしよう勉強に力を入れました。そのおかげで推薦をもらうことができましたが、私は話すことが苦手で、面接試験に自信がありませんでした。そのため、担任の先生に面接練習をしていただき、たくさんのアドバイスもいただきました。本番は練習するときより緊張して、練習通りの質問が来ることは少なかったのですが、練習したことでどんな質問にも答えられるようになりました。例えば思いがけない質問が来ても焦らないことが大切だと実際に面接試験を受ける上で、面接官の先生方は大学のこと学科のことを知っているのを前提に質問をしてくるので、パンフレットやオープンキャンパスなどで細かいこともたくさん調べて面接試験に挑む必要があります。そのため、パンフレットを読み、自分の進みたい分野のニュースを確認するなど準備をしました。

試験が近づくにつれ、面接、小論文を完璧にしても、不安が大きくなっていくことは当たり前のことです。そんな時に周りにいた友人や先生から、前向きな言葉をかけてもらい、精神面でも支えてもらうことが大事です。悩んだとき1人で考えるのではなく、友人と話したり、先生にアドバイスをもらったりするだけでも心が落ち着きます。早めに準備を心がけるとともに、互いに支え合い、寄り添うことが合格につながるのでしょう。

広い視野を持って定期考査や模試に 真剣に取り組んで欲しい

■目標のために何をすべきかという

筋道を自分の中で明確にしておきましょう

指定校推薦で大学に入学しようと決めたのは、高校 3 年生の春頃でした。指定校推薦で大学を受験する生徒の中ではかなり遅い方でした。指定校推薦だからといって決して受験は容易なものではなく、僕の受験した大学は英語の小テストや 800 文字の小論文、6 分間の面接がありました。英語の小テストは、基本的に文法問題や単語問題に 2 題ほどの長文読解というものでした。まず受験対策として英語の単語帳を毎日数ページ覚えようにしました。また、忘れてしまった単語などはノートに書いてすぐに見返せるようにしていました。さらに、小論文では担当の先生に課題を提示してもらい、添削などをしてもらって自分の起こしやすいミスを見つけたり、歯科医療についての本などを読んで知識の引き出しを増やしたりするなど様々な対策を練っていました。6 分間の面接では、大学側が掲げるアドミッションポリシーなどをよく読み、大学側が求める理想の生徒像に自分の長所を重ねてアピールするなど努力しました。また、自分が将来、大学に入った後何がしたいかという点は、おそらくこの大学の面接を受けるにしろとっても重要なことだと思うので“何がしたいのか”と“そのために何をするのか”の筋道を自分の中で明確にしておくことが大切だと思います。

最後に、後輩の皆さんへ、僕の場合は決断が遅く最終的に選べる道が狭まってしまいました。皆さんにはそうなって欲しくないで、広い視野を持ってとりあえず定期考査や模試などを真剣に取り組んで欲しいです。そうすれば、いざとなった時に指定校推薦に切り替えるなど様々な選択肢を増やすことができると思います。本当に頑張ってください！応援してます！

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
台原中出身

指定校推薦は校内模試が最重要、 今からでも対策を始めましょう

■大学調べと同時進行で 徹底的に校内模試の対策を

自分のやりたいことや学びたい分野をもとに、志望大学と学部を決めました。この際に私が重視したのは、ゼミの内容とインターンなど就活のサポートが充実しているかという点です。大学での 4 年間は、その後の人生で左右とても大切な時間だと思うので、いろいろな大学を調べたうえで、納得のいく決断をしてほしいと思います。また、大学についてよく知るためにはオープンキャンパスに参加すれば、キャンパス内の雰囲気や大学周辺の情報などホームページでは知ることのできないことを体感できるので、ぜひ多くの大学のオープンキャンパスに参加してみてください。

指定校推薦では何より校内模試が重要です。そのため、大学調べと同時進行で校内模試の対策を徹底的にすることが大切だと思います。対策をするのは、早ければ早いほど良いです。私の場合は、勉強を始める時期が遅く模試前にとてもキツイ思いをしたので、できれば 2 年生のうちから始めた方が後にラクができます。模試は大体 6 月の中旬のため、今始めれば十分に時間が作れるので計画的に勉強を進めるのが良いと思います。

■国語と英語の校内模試対策は 演習と過去問を中心に

私は文系だったので、校内模試では英語と国語の点数のみが必要でした。具体的にどんな勉強をしたかというと、英語はまずはじめに単語を覚えました。ターゲットを一冊覚えることを目標に、日々少しずつ覚えていきました。英単語を覚えるタイミングはスキマ時間を使っていました。合間合間でひたすら反復をするのが効果的だと思います。そして本格的に始めてからは、問題演習に取り組みました。模試の英語は、長文問題で構成されているので、長文に慣れるという意味でも演習はやるべきです。一番は校内模試の過去問を解くことです。出題の傾向や、問題のレベルなど、効率よく知ることができるので、取り組んでみてください。

国語も同じように演習と過去問です。また、国語の、漢字や慣用句などの知識が問われる問題は点数の取り所なのでしっかり勉強しておいた方が良いと思います。

私は、これらのことをして校内模試に望んだ結果、クラス 3 位、文系全体で二桁順位をとることができたので、ぜひみなさんも早め早めに対策をして、良い結果を、そして志望大学の推薦枠を勝ち取れるよう頑張ってください。

大学選びに迷ったらまずは オープンキャンパスに参加を！

■オープンキャンパスを見比べ 志望大学を決定

この大学を受験しようと決めたのは、校内模試が終わってからでした。高校3年生になってはじめての頃は、他の大学を目指していました。しかし、他にも興味のある大学があり、明確にどの大学を受験しようか迷っていました。そこで、両親や担任の先生からの薦めもあり、興味を持った大学の1つであった神奈川大学のオープンキャンパスにも参加しました。その際に、元々目指していた大学よりも、神奈川大学のほうが自分が学びたいことを学べると思い、受験しようと決めました。そして、指定校推薦枠や校内模試の結果を見て、指定校推薦での受験を選択しました。

大学を選ぶ際、オープンキャンパスに参加することはとても大切なことだと思います。オープンキャンパスに参加することで、実際にキャンパスの雰囲気を味わうことができたり、大学の講義を受けることができます。これらを体験することで、ホームページやパンフレットだけでは分からない大学の特徴や環境について知ることができます。さらに、私のようにいくつかの大学で迷った場合には、大学同士を比較する材料にもなります。オープンキャンパスに参加することは、進路決定のきっかけにもなるので、興味のある大学のオープンキャンパスには積極的に参加してみるといいと思います。

■計画を立てて学習を進めることで 3年間高い評定を維持できました

また、大学を受験するにあたって、評定や資格取得が大切になります。指定校推薦だけでなく、他の入試方式でも3年間の評定平均が提示されており、中には英検の取得が出願条件になっている大学もあります。私は部活動に集中し、計画を立てて学習を進めることで、3年間通して高い評定を維持することができました。さらに英検を取得したことで、大学の選択肢が増えました。自分の進路の幅を広げるためにも、楽しいことだけではなく勉強も一生懸命がんばってほしいと思います。

部活動で仲間と切磋琢磨しながら 志望大学の合格も手にできました

■部活動に専念したかったので 指定校推薦を利用しました

私は指定校推薦で大学進学することを選びました。指定校推薦を選んだ理由は、部活動をしていて冬まで活動が続けるので一般受験は厳しいと考えたからです。仙台育英学園には指定校推薦の枠が豊富にあり、より確実に早期の合格を得られ、部活動に専念できると思い、選びました。

高校1年生、2年生のときは、部活動が忙しくて勉強はあまりしていませんでした。しかし、高い評定をとることは意識していて、テスト1週間前からは勉強していました。3年生からは、指定校推薦に関わる校内模試対策を始めました。私は、文系なので英語と国語を勉強しました。英語は、英単語を中心に勉強しました。模試が近くになり、英単語を覚えてきた頃に過去問を解き対策をしていました。国語は、現代文でもらうアチーブに取り組んでいるうちに長文を解くことで問題の傾向が分かり対策を行ってきました。そのおかげで校内模試では、良い点を取ることができ目指していた大学の指定校推薦を取ることができました。

■コツコツ勉強することは 自信にもつながります

入試は、面接だけでした。対策して先生や友達と何回も面接練習を行い本番では練習の成果もあり冷静に受け答えできました。大学進学を通して私が感じたことは、しっかり過去の傾向を知り、対策することで指定校推薦をとれるということです。コツコツと勉強することで学力がつくだけでなく自信にもつながると思います。計画を立てて校内模試に向け勉強することが大切だと思います。

高校3年間、文武両道を心がけ生活してきました。部活動では、仲間と切磋琢磨し、勉強では、目指していた大学へ合格できたなどとても楽しく充実した3年間でした。

令和 6 年 3 月 特別進学コース卒
岩沼西中出身

友達と一緒に学校で勉強することは モチベーションの維持に効果的です

■定期考査 3 週間前から計画し、
休日は 12 時間以上勉強しました

私が受験を意識したのは 2 年生の時でした。この 2 年間でやったことを勉強面と生活面を中心に紹介します。

勉強面では、指定校推薦は使用したいと考えていたため、校内模試に力を入れました。過去問を 8 年分 3 教科のうち、国語と英語は 3 回以上解き、傾向を調べました。校内模試に続いて大切だと考えることは、定期考査です。後になって推薦を受験する際に評定がいかに大きく関わっているのかを知ったのですが、この文章を読んだあなたは反面教師として役立ててください。定期考査は、3 週間でどの教科をどれだけ勉強できるかだと私は考えます。そのためには、3 週間前からスケジュールを立て、休日は 12 時間以上勉強すると、私の場合は効果的でした。その中でも私が最も重要だと感じたことは資格取得に励むことです。調査書の円滑な作成のために、英検等の資格取得は必須です。

■コロナ禍であっても自分なりに工夫し、
高校生活を充実したものにしました

次に生活面では、受験を意識したのが 2 年生であったため、2 年生の際に部活動に入部しました。大学受験の面接では、高校生活の部活動にて何を行い、どのようなことを工夫し、どんな学びを得たのか質問をされたため、しっかりと答えられるようにたくさんの経験を得ることが重要だと考えます。過去に先輩方が聞かれたことにも目を通し、傾向を掴むことを忘れずに。

私自身、受験に成功した一番の要因としては、周りを巻き込んだことだと考えます。私の例としては、朝のホームルームの開始前と放課後に友人を誘い、学校の自習スペースで勉強をし続けました。この方法はモチベーションを保つ最適解だと考えます。その結果、自習スペースがほぼ友人で埋まったのは良い思い出です。この文章を読んでいるあなたが、自分が何をやりたいのか分からず立ち止まっているとしたら、心配しなくても大丈夫。私も同じでした。3 年生の 6 月頃に将来の夢が定まり、そのために語学力が必要だったため、大学進学を決意しました。そのため、自ずと自分の道は決まってくるのではないのでしょうか。新型コロナウイルスによって制限され、やりきれない気持ちになったことが多くありましたが、それでも楽しいことを自分なりに探し、高校生活を送りました。私の経験があなたの背中を押せることを祈っています。

令和6年3月 英進進学コース卒
中野中出身

自分の決断に自信を持って 受験に挑んでください

■生徒に生物の楽しさを教えられる 教員になることが目標です

私が神奈川大学理学部理学科生物コースを志望した理由は、私の将来の夢が、生物専攻の高校教員となって生徒に生物学の面白さや魅力を伝えることだからです。同じく教員を目指している友達と、互いに励まし合いながら努力し続けました。加えて私は、実験プログラムを交えた専門的な授業と充実した研究設備に魅力を感じました。教育学部ではなく理学部で教員を目指すのは、少し険しい道のりかもしれませんが、私はその体験した実践的な授業を生徒に教授し、生物に興味を持ってもらうことを目標として定め、進み続けることを決心しました。家を出発する前日の友達の激励の言葉は、受験当日も私の心の助けになりました。試験時間が午前10時頃であり、宮城から神奈川まで始発の新幹線でも間に合わないため、受験前日は試験会場近くのホテルで1泊しました。前日の夜は次の日の受験のことしか考えられず、心の中で面接のシミュレーションを何回もしていました。試験当日は、少なくとも面接の3時間以上前に起き、本来の力を発揮できるように万全の準備をして挑みました。神奈川大学横浜キャンパスの周りには非常に急な坂道も多く、マップアプリで予測された移動時間よりも長い時間をかけて、試験会場へ向かいました。単純な距離だけでなく、地形も事前に調べておくことが大切だと感じました。

■面接指導して下さった先生方のおかげで 本番で自分の力を発揮できました

試験本番、前日の夜から試験間近まで緊張を引きずっていましたが、面接室に入ったあとは練習の成果を出すことができ、無事試験を終えることができました。受験を体験して一番感じたことは、自分の未熟さと周りの人への感謝です。面接練習に付き合っていたいただいた先生方のおかげで本番でも自信を持って自分自身の力を発揮することができ、全力で受験のサポートしてくれた両親にも本当に感謝しています。決して自分ひとりでは取れなかった合格だったと思うと共に、まだまだ未熟だと痛感しました。これから受験する生徒には、一番に自分に自信を持つことをしてほしいです。自分の将来は、社会や他人に依存するものではなく、自分自身で決めることで、その決断の評価基準も自分自身であるため、自分の決断に自信を持って受験に挑んでもらいたいと思います。

令和6年3月 英進進学コース卒
原町第二中出身

スポーツ大会や、育英祭など 充実した高校生活でした

■今まで勉強方法を見直したおかげで
順調に成績を上げることができました

私は高校2年生の頃から、指定校推薦を使って大学へ進学することを決めていました。興味を持っている学科を学ぶことができる大学の指定校推薦があり、且つ受験方法の選択肢を増やし、確実に合格したいと考えたからです。私が合格に向けて取り組んだことは2つあります。

まずは、評定を確実に上げるために定期テストで一定の点数を取り提出物をきちんと出したことです。私は、指定校推薦を使って大学進学を決める前は、苦手教科で足を引っ張ってしまい成績がなかなか上がらず悩んでいました。しかし、それから今まで勉強方法を見直したおかげで順調に成績を上げることができました。

次は資格の取得です。一年次には英語検定3級、二年次は漢字検定準2級、三年次には漢字検定2級合格まで届かなかったのですが、大学進学後にもう一度チャレンジして合格を目指しています。

■指定校推薦で受験するなら
部活動か課外活動には参加しよう

また、指定校推薦で進学したいと思っている後輩の皆さんには、部活動か課外活動に参加することをおすすめします。私は遠距離通学で部活動をするのができなかったため、面接練習で高校生活で頑張ってきたことを聞かれたときにアピールできるものが少なくて苦労してしまいました。私の文章を読んでもらった後輩の皆さんに少しでも参考になれば幸いです。

勉強の話ばかりで長くなってしまいましたが、最後に高校生活について触れたいと思います。高校一年生の頃は感染症拡大防止のため学校行事にほとんど参加できませんでしたが、二年次以降はクラスの人たちと団結しながらスポーツ大会に参加したり、育英祭で出店したりしてとても充実した高校生活を送ることができました。高校生活は自分が思っている以上にあっという間なので後輩の皆さんは後悔のない生活を送ってください。応援しています。

受け身ではなく主体的に、 自分の進路を考えて決めましょう

■志望大学や受験方法が決まっていなくても 校内模試で高い点数をとっておくと安心

私は志望大学を決める際、将来やりたいことが特に決まっているわけではありませんでしたが、もともと社会が好きだったということと、学問領域が広くあらゆる業界や職種に通じる知識を身に付けられるということから、経済学部を志望しました。関東学院大学を志望した理由は、オープンキャンパスに参加した際に、地域と密着した教育が行われていてより実践的に社会を学べる環境が整っているということを聞き、そこに魅力を感じたためです。

私が、大学合格に向けて大切だと思うことは、まず 6 月にある校内模試です。この時点で志望大学や受験方法を決めることができていなくても、少しでも高い点数を取って、志望大学が決まり学校推薦型で受験しようと思ったときそこにいけるように、しっかりと勉強することが大切だと思います。そして夏休みにはいろいろな大学のオープンキャンパスに参加したり、進路について先生や両親としっかり話をしたりすることが大切だと思います。そして受験では面接形式が多いと思います。志望した理由や自分が高校 3 年間でやってきたこと、将来の目標などを自信を持って話すことができれば大丈夫だと思います。

■いろいろな人とのコミュニケーションは 将来の幅を広げることに繋がります

私は高校 3 年間で、サッカー部やクラスの仲間、先生方などとたくさんコミュニケーションを取り、たくさんの方に気づき、学ぶ機会がたくさんありました。そして、自分を成長させることができとても充実した 3 年間を送ることができました。いろいろな人とコミュニケーションを取ることで、自分には見えていなかった自分のことに気付いたり、自分の考え方や価値観の幅を広げることができます。そしてそれは自分の将来の幅を広げることに繋がると思います。また、積極的に行動することも大切です。受け身ではなく主体的になり、時間があるときに少しでも情報収集をしたり、資格を取得したり、長期休みなどでオープンキャンパスに参加したりして自分の進路についてよく考えて決めることができるように頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
高森中出身

三年間勉強を続けられたのは 友人や先生方の支えのおかげです

■薬剤師になることが私の 幼いころからの夢です

私が大学受験すると決めたきっかけは、幼い頃からの夢である薬剤師になるためです。私の夢を叶えるためには、6年制の薬学部のある大学に進学し、卒業しなければ、国家試験の受験資格を得ることができません。そのため、中学校の頃から志望大について調べ、最も確実な方法である指定校推薦を使って、大学進学したいと考えていました。志望大や進学方法を早めに決めておくことで、その大学について深く調べることができるし、その調べたことが推薦入試であれば入試対策になります。そのため、早いうちから大学についてたくさん調べ、志望大学を決定することをお勧めします。

■勉強する場所や環境を定期的に替えて 気分をリフレッシュしましょう

高校一年生になってからは、大学の指定校推薦をもらうために、成績の平均評定の目標を決め、目標を達成できるように日々勉強を頑張りました。具体的には、定期テスト前を中心に、復習予習だけでなくわからない問題を先生方や友人に聞くなどして、計画的に行動しました。資格は、出願に必要なこともあるので、自分の学力を向上させるためにも英検や自分の興味のある検定を受けるなど、計画性を持って積極的に取得しました。どこの大学を目指すとしても、資格取得をしておいて損はなく、むしろ長所として有利になることの方が多いので、英検や漢検のような、みんなが知っている資格を一つでも取っておくといいと思います。

私は人一倍勉強が苦手な方でしたが、三年間勉強を続けることができたのは友人や先生方の支えがあったからだと思います。一人で黙々と勉強するのもいいですが、たまには友人たちと一緒に勉強する。少しでもわからないと感じたら、すぐ先生に聞きに行く。勉強する場所や環境を定期的に替え、気分をリフレッシュした方が勉強の内容が入りやすいと思います。高校三年間を通して学んだことを、大学生活で生かし夢を叶えられるように頑張りたいです。

その大学を選んだ自分を 信じて受験に臨んでください

■経営やマネジメントだけでなく 英語コミュニケーションも決め手に

大学進学を目指した理由は、将来、マネジメントに関わる仕事に就きたいと考えたからです。私が進学する城西大学経営学部には、マネジメントの他に英語のコミュニケーションに関する分野もあります。私は当初、複数の大学を考えていました。しかし、城西大学の資料を見たときに、経営学部には、経営やマネジメントだけでなく、英語のコミュニケーションについても学べると書いていたので、マネジメントはもちろん英語のコミュニケーションや経営に関する資格なども取りいろいろなことを学びたいと思いました。そこで、私は実際に城西大学のオープンキャンパスに行き説明を聞いて、自分が本当にやりたいことなのかを真剣に考えました。大学選びは今後の人生に関わることなので、妥協せずに考えました。

■練習を重ねたことが自信となり、 面接本番は緊張もすぐに和らぎました

私は大学へは指定校推薦で合格しました。高校の単位を落とさないように、私は普段の授業を真面目に取り組み、定期テストでは他人より勉強量を増やし、クラスの上位に入れるよう努力してきました。内定をいただいたときはホッとしましたが、そこがゴールではありません。試験内容が面接のみだったので、小論文など文章力や学力を見ることがなかったからこそ、面接をしっかりと練習しました。先生と練習した時から不安でいっぱいでも学校でも家でも常に面接試験の勉強をしていました。面接のみだったため、その一つに集中して勉強できることはとても良かったのですが、大学側の審査内容が一つしかないというプレッシャーも多くありました。当日はそれまでやってきたからこそ、緊張もすぐ和らぎ自分のことをしっかりと言うことができました。やはり、面接がある人はできるだけ多く練習しましょう。

受験時期は大学によって異なってきます。そのため、辛いことがあるかもしれません。受験が異なれば合格発表も違います。ですが、自分がその大学を選んだことを信じて受験してください。遊ぶのも受験を頑張ってからにしましょう。

様々な活動をして自分がどんな 人物なのか見せることも重要です

■海外での経験を通して、話し合いながら 問題を解決することにやりがいを感じました

私は、幼い頃に海外で言葉や文化が異なる生徒とグループワークを行う機会が多くありました。私はその中でそのような生徒を尊重し、相手ができることを探して、問題の解決方法を提案しました。その時、私は周りの人々と話し合って問題を一つずつ解決していくことにやりがいを感じ、将来異なる背景を持つ人々の個々の意見を尊重しながら、先頭に立って問題を解決する仕事がしたいと考えました。そのため、人間尊重の経営を学びたいと考え、この大学を志望しました。

私は入試方法として指定校推薦を選択しました。その理由は、成績や他の外部活動を通じた先生との信用度を見せるために一番適すと思ったからです。

私は高校生活で様々な活動に参加し、能動的に行動することで、先生との信用を向上し、貴重な経験をしました。

■生徒会執行部でサブリーダーとして 先頭に立つ良い経験ができました。

私は JICA 東北の意見交換会に参加したことがあります。意見交換会で韓国の文化や歴史などを説明するため、主体的に準備し発表しました。相手の発表も聞いて質問し、話し合うことで国際的なコミュニケーションを取ることができました。また、日本語弁論大会に参加して、宮城県大会や東北大会で最優秀賞を受賞し、全国大会では外務大臣賞を受賞することができました。加えて、私は毎日計画を立てて、一生懸命に勉強した結果、半年で日本語能力試験の N1 に合格することができました。そして、生徒会執行部に入部し、オープンキャンパスや文化祭など様々な活動に参加したことで、サブリーダーとして、みんなを引っ張っていく経験をすることができました。

このように指定校推薦で入学するためには、成績だけではなく、様々な活動をして自分がどのような人か、自分ができることを先生に見せることが重要だと思います。また、学校を代表して選ばれたと思って、強い責任感を持ってどのような状況でも最善を尽くさなければなりません。

令和6年3月 フレックスコース卒
日吉台中出身

事前に担任の先生などに助けを求め 万全に準備することが大事です

■小論文や自己推薦文では部活で得た 経験や学んだことを書きました

私は指定校推薦で、スポーツマネジメントを専攻する大学を受験し合格しました。受験資格を得るために私が努力して来たことは、部活動、日々の出席日数、テストや提出物の評定に力を入れることです。小論文や自己推薦文では、内容が濃くないと相手にも気持ちは伝わらないと思い、部活動の事を中心に書くことにしました。私は、初心者で女子サッカー部に入部し、プレイヤーとマネージャーを経験しました。プレイヤーとして続けられなかった原因や実際に体験して感じた事、その時の自分の感情や立場などを深く取り入れました。また、マネージャーとして得た知識や自分の居場所、成長した部分を取り入れ、担任の先生に放課後残ってもらい高校3年間で得た経験や自分が学んだことについて書きました。また、学習面や生活面では、テストで赤点を取らないようにしたり、授業態度や生活態度、提出物などで学習の姿勢を示し、評点を高くすることを努力しました。そのおかげで、指定校推薦の枠も大きく広がりました。

■沢山のことに積極的に挑戦して、 話題のネタの引き出しを増やしましょう

指定校推薦での入試は、面接と資料請求が重要になると思います。高校3年間で自分が努力したことや学んだこと、体験したことなどを、全て伝えることが大事です。そのためには、沢山のことに積極的に挑戦して、自分の話題のネタの、引き出しを増やしていくことが大事だと思います。入試は、3年間の日々の励み、努力してきたことを全て発揮できる瞬間だと思います。努力した事が無駄にならないように事前に担任の先生などに助けを求め、万全に準備することが大事だと感じました。

合格する為には、自分1人で叶えられることではないと思いました。担任を初め、友達、両親、監督などの支えやアドバイスを謙虚な気持ちで受け入れながら、感謝の気持ちを第一に自分の夢への実現に努力することが最も大切な事だと考えさせられました。

令和 6 年 3 月 情報科学コース卒
高森中出身

学校の授業や行事がある日常を 全力で楽しんでください

■部活動に入部したことで 自分の世界が変わりました

まず、仙台育英の 3 年間を楽しんでください。現在はコロナが落ち着いて、通常通り授業や行事などが行われています。特に行事は全力で楽しんでください。私が 1 年生の頃は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4 月から分散登校やオンライン授業などが半年間あり、そこから通常通りになってもイベントは安全のため中止の対応や、体育も座学で学ぶ時期がありました。3 年生になってからは、スポーツ大会や育英祭などが行われて高校生らしいことを体験できました。後輩の皆さんはこの大切な 3 年間を楽しく過ごしてほしいです。仙台育英は部活動にも力を入れているので部活動にも参加してほしいです。仙台育英は強豪の部活が多いので、軽い気持ちで入部してもいいのだろうか、私のように躊躇してしまう人も多くいると思います。私も 3 年生まで無所属でしたが、友人に部活に誘われて入ってみると世界が変わりました。他のコースの人と友達になれたり、高校の部活動の楽しさに触れることで新しい経験を積むことができました。皆さんも是非参加してみてください。

■小論文の文字数は必ず 確認してください

ここから大学入試のアドバイスです。まず一番注意してもらいたいのが志望理由書や小論文です。必ず 600 字以上 700 字以内などの文字数が記載されているので確認してください。あと文字数の 9 割以上書いた方がいいので必ず書いてください。私はこれでミスをしてしまい、本当に焦りました。絶対確認しましょう。

高校 3 年間はあっという間に過ぎ去ります。高校生にしかできないことをたくさんして最高の思い出にしてください。

夢を叶えたい気持ちは 最強のモチベーションです

■英検対策は自分の 苦手意識を失くしました

私は、高校1年生のときから、学校推薦型選抜という入試形態を念頭に置いて高校生活を過ごしてきました。そのため定期テストの重要性を深く理解していました。推薦してもらうには評定平均を常に高く保つ必要があり、1年生の時から定期テスト前は徹底的に勉強していました。具体的な勉強法として、事前に計画をきっちり立ててから取り組むことが重要で、どの教科もバランス良くやるのはもちろんのこと、苦手科目には特に時間をかけて勉強していました。また、指定を受けるには校内模試や普段受けている模試などを判断材料になります。特に校内模試は過去問を解いて、対策していく必要があります。他にも英検か漢検といった資格を大学側から求められることもあり、私自身英語が苦手で避けがちだったのですが、英検取得のための対策は自分の苦手意識を失くし、取得できたときは大きな自信に繋がりました。ですから、積極的に資格に挑戦することをお勧めします。

■受験に成功した要因は 将来の見通しを持って勉強すること

次に合格のために努力したことです。私が受けた大学の入試内容は英数理の3科目と小論文・面接でした。筆記試験が3科目もあり、夏休みの休日にひたすら赤本を使って対策をしていました。合格するためには大学についてよく調べることが大切で、入試問題の傾向を把握することや大学のホームページを見て入学者に求める像について深く考えました。

最後に、私が受験に成功した要因は将来の見通しを持って勉強したことです。自分が今後やりたいことはどんなことなのか、どんな大人になりたいのかと先のゴールを見据えることが大事だと思います。受験は正直苦しいし大変です。でも乗り切った先が見えていると、最後まで走り抜くことができると私は思っています。もし具体的な先の目標がよく分からない人は、目の前にある小さなことを目標にして続けていけば最後まで頑張れると思います。努力は裏切らないので続けること。夢を叶えたい気持ちは最強のモチベーションです。

令和6年3月 フレックスコース卒
習志野第一中出身

何度も面接練習をくり返して いつもの自分で返答できるように

■面接練習で先生に指摘いただいたことは
次回までに改善しました

私の大学合格体験は、自分自身を知り、伝える力を養う重要なステップでした。まずは、自分が希望した大学の学部、学科について調べ、面接官に何を聞かれても答えられるぐらいに一生懸命調べました。けどやっぱり最初は緊張と不安に支配されていましたが、先生に面接練習を頼んで、ダメだった所や少し詰まってしまった所を何回も練習をして成長できたことが自信に繋がりました。最初のポイントは、自分の強みと弱みを把握することでした。自分の短所や長所について、どう話したら面接官が聞きやすくなるか、を重点的に考えました。また、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の意見や考えを明確に表現できるようになりました。フィードバックを受ける中で、何回も繰り返し練習をしていき自分の中で自信を持つことができました。また、具体的なエピソードや体験を交え、抽象的な言葉だけでなく具体的な事例で自分をアピールすることが重要でした。また、緊張感を和らげるためにはリラックス法が効果的でした。深呼吸やポジティブな言葉をイメージすることで、面接の緊張を和らげ、自分らしさを出しやすくなりました。最終的に、自分の過去の挑戦や困難を振り返り、それを克服する中で得た成長をアピールすることが、大学の面接で好印象を与える鍵でした。面接で自信を持って望むためには、何回も練習を繰り返しやることで、先生に指摘されたことを次はやらないように改善していくことで、何を聞かれてもいつも通りに返すことができるようになりました。ですから、本番で詰まってしまったとしても、すぐに切り替えて他の質問などをしっかり答えればいいと思います。大学に入ったら、自分がやりたかったことをできる場所なので、しっかりと頑張って自分の希望する大学にいけるように頑張ってください。

自信を持ち余裕を持てるように、 早い時期から対策しよう

■不安を解消するためには 自信が持てるぐらいの努力を

私は高校1年生の頃に、指定校推薦の枠で出願しようと決めました。私は体調崩しがちだったため、テストでいい点数を取り、なるべく評定を高く取ることを意識して学校生活を送りました。また、指定校推薦を目標としている方は、何か自分をアピールできるようなものを用意すると思います。部活動、資格の取得など、自分にできることをやるといいと思います。私は部活動にも入っておらず、資格に関しても何か難しくアピールできるようなものではありませんでした。それに加え欠席も多かったため、自信も持てませんでした。欠席数が少ない友達を見たり、部活動を頑張っていた友達をみたり、難しい資格を取得している友達を見ると不安になってしまいます。その不安から集中力が欠けてしまったり、体調管理にも影響が出たりしました。それを解消するためには、自分が自信を持てるぐらいの努力をすることをおすすめします。

■できるだけたくさんの先生方に 面接練習をしてもらうことをお勧めします

受験前に頑張った方がいいことは面接練習だと思います。他にも小論文や適正テストのようなものもありますが、私の志望する大学では、面接の点数の割合の方が圧倒的に高かったです。大学についてよく調べなぜ自分がその大学に行きたいか、その熱意が伝わるような志望動機を考え、そのほかに一般的な面接で聞かれるようなことも言えるように準備をした上で、一人の先生だけでなく、いろんな先生と面接練習をすることで、違う指摘をしてくれたりするのでいいと思います。私は、面接練習などを始めるのが少し遅かったため、最後の面接練習まで完璧と言える仕上がりで受験することができませんでした。その状態での受験は不安だったため、頭が真っ白になってしまいました。自信を持ち、余裕を持てるように、早すぎるかなと思うぐらいの気持ちで動いた方がいいです。指定校推薦で受験をするのは自分一人ではないため、他の方が練習を入れている場合は他の先生にお願いをするか一人で内容を覚えることになると思います。早くから練習などをお願いして、他の人と被ったら譲れるぐらいの余裕があれば完璧だと思います。受験は準備が大切だなと感じたので、焦らないように余裕を持って準備できるようにすると思います。

休み時間や授業中に効率よく 勉強するように心がけました

■コツコツ積み重ねていくことで 直前に焦らずテストに臨めます

私は、高校 3 年間で文武両道に力を入れました。私は、部活動での活躍を目標に仙台育英に入学しましたが、怪我が多く思い通りにいかなくて苦しい経験をしました。一方、大学進学も考えていたので勉強の面にも力をいれました。特に定期考査に力を入れ、高得点を意識し、評定平均値を高いところで維持していました。授業を受けていてわからなかったところは復習をし、理解できるように友達に聞いたり、授業動画を見るなど工夫をしていました。そのようにコツコツ積み重ねていくことでテスト直前に焦らず余裕を持って勉強できていたので計画を立て、早め早めの準備が大切だと感じました。

■仲間と喜びや悔しさを共有し 陸上の楽しさを実感できました

私が指定校推薦で進学すると決めたきっかけは成績が良かったことです。また指定校推薦はより確実に早期に合格できるという利点があり、この方式なら文武両道できると思い、指定校推薦を選びました。私は部活動でなかなか勉強する時間を確保できなかったのが休み時間や授業中に効率よく勉強するように心がけました。具体的には誰か他の人に自分が問題を説明するなどアウトプットをするようにしました。アウトプットすることで自分自身の長期記憶、相手も理解してくれるという一石二鳥なので取り入れて良かったと思っています。

部活動では怪我が多く満足いく走りができませんでした。色々な試行錯誤を繰り返し、怪我が減り徐々に走れるようになりました。また仲間とともに厳しい練習を乗り越えた時の達成感や駅伝で喜びや悔しさを共有することで陸上の楽しさを実感できました。苦しい時期が多かった反面、とてもいい経験ができた部活動になりました。

大学の受験では面接があったので面接練習を 1 カ月前から行っていました。先生と何度も練習をし、実践を想定しながら行い、本番リラックスして臨むことができました。

小論文対策は先生に頂いた 過去問を大いに活用しました

■志望理由書は大学で何をしたいか 明確にしておくとききやすいです

指定校推薦での入試形式に重要な事は主に次の3つだと考えます。内申点と校内模試の結果、そして志望している大学になぜ入学したいのかという明確な意思。内申点の高さによって志望できる指定校大学には制限がかかり、校内模試の成績は、校内選考の大切な判断材料の1つとなります。判断材料といえば、志望理由書を書かなければなりません。そこで必要となるのが、明確な意思です。高校側と大学側に最低2つは書くのが義務づけられる志願理由書ですが、私は完成させるのにとても苦労しました。余裕をもって書き始めることをお勧めします。個人的にですが、志願理由書を書く前に、アドミッションポリシーを熟読して求めている学生の人物像や、他大学にはないその大学ならではの魅力など大学について多くの要素を調べるべきです。自分がもしこの大学に入学したら何をしたいな、とイメージできる位までには、大学を知っていると書きやすいと思います。

■いかに面接に慣れるかが 面接練習の肝です

校内選考を通った後は、本格的に面接練習や小論文対策を行いました。面接練習の肝は、どれくらい面接に「慣れ」るかだと思います。もちろん、ある程度質問を想定し答えを暗記していくことも大事ですが、本番で1番怖いのは緊張です。面接特有の緊張感を練習で実感して「慣れ」ることで、本番の緊張を和らげることに繋がるのです。そのため、面接練習はあまり面識のない方をお願いし、回数を重ねることが大事だと考えます。また、小論文対策も回数をこなすべきです。私は、先生に頂いた受験する大学の何年か分の過去問を大いに活用しました。過去問の傾向をとって、試験問題にでそうな分野の大まかな予想をたてて、練習を繰り返しました。時間内に書き切れることは当然の条件ですが、私にとっては難しく、最初は内容より時間内に終わらせることを目的に練習しました。時間に余裕がでると、内容や構造、またテンプレートをいくつか覚えることにまで手がまわるようになりました。

以上は私の個人的な意見ですので、参考程度にお読み下さい。ここまで読んで下さりありがとうございました。皆様の将来が良きものとなりますように。

令和 6 年 3 月 特別進学コース卒
矢本第一中出身

学校での頑張りが反映される 指定校推薦に魅力を感じました

■ 3 年間無遅刻無欠席を意識し 達成することができました

指定校推薦では、学校での成績や普段の生活態度、生徒会での活動が直接反映されるということに魅力を感じ、2 年生の半ば頃から指定校推薦での受験を考え始めました。そのため私は定期考査、日々の学校生活、校内模試に力を入れました。推薦をもらうためには評定も必要となってくるので、定期考査で確実に点数を取る必要があります。苦手な教科や暗記科目は、少なくとも 1 ヶ月前から徐々に始めるようにし、締め切りのある課題などは、溜め込まず、常に取り組むようにしてきたことで、考査でも安定して得点を取ることができ、評定に困ることなく大学選択ができました。また、学校への出席日数も大切な条件になります。私はなるべく欠席日数を増やさないことを入学当初から意識し 3 年間無遅刻無欠席で通いました。遅刻をしないことなどは、社会に出てからも人との信頼関係を築くためには欠かせないことだと思うので、その意識を身につける良いきっかけにもなりました。

■ 学校からもらった過去問に 何度も挑戦しました

また、最終的には校内模試での点数が重要になってくるため、その対策として学校から配信された過去問を校内模試の傾向を掴むためにも繰り返し解き、その傾向に合わせた勉強をすることで自信を持って受けることができました。

受験する大学の決定後は、先生に志望理由書の添削や面接の練習を何度もしていただきました。これにより受験対策でができるだけでなく、自分がその大学で学びたいことを明確にすることができ、その大学に入りたいという気持ちが強まるため、一層練習に力が入るきっかけにもなります。

毎回の試験を大切にしたり、普段から整った生活を送ったりと、毎日の積み重ねが夢の実現へとつながっていると思います。後輩の皆さんも 1 日 1 日を大切にしながら頑張ってください。

校内模試と普段の学校での学習は 日頃からしっかり取り組みましょう

■校内模試では過去問で

出題傾向を把握し、対策を練りました

私は、高校三年生の夏に指定校推薦で大学を受験することを決めました。私は、もともと国立大学を一般受験か公募型の推薦で受験するつもりで勉強していたのですが、成績が思うように伸びなかったことと、興味のあった大学の推薦枠があったことから、指定校推薦に応募してみようと思いました。

校内選考で内定をいただくには、まず提出物をしっかり期限までに提出し、小テストに真剣に取り組み、定期考査で高得点を取ることが大切です。これらの取り組みは評定に直接関わります。塾に行っている人や習い事が忙しい人は大変ではあると思いますが、指定校推薦で内定をいただくにあたって学校での学習態度が悪いと印象が悪くなってしまうので、学校の授業をないがしろにしないのがマストだと思います。また、欠席が多いと評価が下がってしまうこともあるので、極力休まず授業に出た方が良いと思います。上位の大学を志望する場合は評定は5.0を取るつもりで取り組むと、実際には取れなくてもそれに近い高い評定を取れると思います。

校内模試も高い順位を取るべきだと思います。私は校内模試を受けた時点ではまだ指定校推薦で受験することは考えていませんでしたが、過去問を見て出題傾向を把握して対策をしたところ、良い順位を取ることができました。過去問は授業で配られたり配信されたりするので、印刷して時間を測って演習するのがおすすめです。

また、指定校推薦を考えている人は部活動に取り組んだり、習い事やボランティア活動などの自分のアピールポイントになる活動をした方が良いと思います。

■事前に自分の試験内容を把握して

入試に臨みましょう

校内選考が通った後は、早めに入試対策を始めた方が良いと思います。私は試験日が遅く試験も口頭試問のみだったので、比較的時間に余裕を持って対策ができましたが、小論文や筆記試験がある人もいると思うので、自分の試験内容をしっかり把握し、できるだけ早く対策をしましょう。

高校三年の夏になって指定校推薦で受験する大学を選ぶ際、一、二年の時からの評定と校内模試の順位が高かったおかげで、レベルが高い興味のあった大学を選ぶことができました。私のように、もともと一般受験を志望していても、急に指定校推薦で受験したいと心変わりすることがあるかもしれないので、現時点では指定校推薦で受験することを考えていなくても、校内模試と普段の学校での学習はしっかり取り組んでおくの良いと思います。欠席もできるだけ避けましょう。以上の点に気を付けて生活して、指定校推薦での受験を考えている方は校内選考で内定を貰えるように頑張りましょう。これから受験に臨む皆さんが志望大学に無事合格できることを祈っています。

迷ったとき、担任の先生が 私の背中を押してくれました

■校内選考を勝ち取るには

「普通の生活」を送ることが大切です

指定校推薦での進学を検討し始めたのは3年生になってからで、他の指定校推薦合格者のみんなよりもだいぶ遅めなのかなと思います。そんな自分でも校内選考を勝ち取れたのは、普通に高校生活を送ってきたからです。校内選考を勝ち取るにあたって特別なことは必要でなく、いたって普通の生活を送ることが大切です。毎日学校に来て、授業を受け、提出物をしっかり出し、周りのみんなと同じように受験勉強をする。そんな普通な生活を送るだけで平常点はかなり高い点数をもらえますし、テストも校内模試も普通に点数が取れると思います。あとは大学が出願資格に指定している資格や検定をしっかり調べて受けるだけで、校内選考はそこまで難しくなく勝ち取れると思います。

■情報に惑わされずに

自分にあった進路を選択しましょう

指定校推薦を受けるにあたって一番大事なことは、情報に惑わされないことです。SNSやインターネットでは、指定校推薦があまり良くない印象で言われてるのをしばしば見かけることがあると思います。自分も、指定校推薦は受験から逃げているんじゃないか、大学に入った後授業に追いつけないんじゃないか、と思い3年生になるまで指定校推薦を受けると決め切れていませんでした。そんな自分の背中を押してくれたのは二年生の時の担任の先生でした。先生は「大学に入学してしまえば入試方式は関係ない」とおっしゃってくれて自分は指定校を受けようと思いました。これから指定校推薦を受ける皆さんも、インターネットの情報に惑わされずに、自分にあった進路を選択しましょう。

部活動でインターハイ出場を 目標にして2年連続達成しました

■ 2年生から積極的に 大学の情報を集めましょう

私は指定校推薦で受験し、淑徳大学 人文学部 人間科学科に合格しました。指定校推薦に選ばれるために頑張ったことは2つあります。

1つ目は本当に体調が悪い時にだけ休むことです。なぜなら条件や面接の際に欠席日数も関わってくるからです。この大学は3年間で欠席が10日未満と評定が3.3以上であることが条件でした。私は学校を休まず通っていたので、授業内容も見落とすことなくテスト勉強にも励みましたので、この2つの条件は難なく満たすことができました。

2つ目は部活動に入って真面目に取り組むことです。私は高校から新しい競技を始めたくて、宮城県内でまだ競技人口が少ないライフル射撃部に入部しました。部活動では1,2年生はインターハイ出場を目標とし、毎日部活動に参加していました。2年生で目標のインターハイ出場を達成し、その日から3年生の目標がインターハイの上位に残ることになりました。3年生ではインターハイ出場を達成しましたが、上位に残ることができませんでした。しかし、ここ2年生・3年生と2年連続出場したことが、自分の強い武器になり、受験の面接や書類で胸を張って主張することができました。結果を残せなくても3年間休むことなく通い続けたことも自分の自己アピールになります。部活動に入っていたこと自体を自分の強みにすることができました。それに加えて、テストの点数や出席日数も良ければ、もっと自分の強みになり、スポーツ推薦や指定校推薦という目標に近づけることができます。

大学も高校2年生の後半からオープンキャンパスに積極的に参加し、様々なところに行き、おおよその志望学部や学科を決めておきましょう。3年生ギリギリにならないように、2年生からコツコツを計画を立てていれば推薦や合格に近づくことができます。

英検は余裕を持って 2 年生のうちに取得しましょう

■英語を極めたいという気持ちから 外国語コースを選択

高校 1 年生の頃から指定校推薦で大学に進学することを目標にしていました。しかし、具体的に志望する大学や学部は決めていなかったのも、どんな進路を選択しても対応できるように、1 年生のうちから、定期テストでも常に高得点・評定 5 を取ることを目標に勉強していました。2 年生、3 年生になっても、それは変わらず、成績を維持することを意識しました。

そして、私が志望大学を決定したのは 3 年生になってからです。私は幼い頃から英会話教室に通っていました。高校でも、もっと英語を学びたいという気持ちから、外国語コースを選びました。そのため大学でも外国語の勉強を継続したいという理由と、経営学にも興味があったため、国際経営学科を選びました。

■英検はただ合格するだけでなく 高い CSE スコアを目指しました

指定校推薦では校内模試の順位がとても重要になるので、校内模試の対策に力を入れました。国語は、副教材の漢字を 1 冊全て覚えることを目標に、何度も繰り返し勉強しました。校内模試では 1 点でも差が開くので、国語常識（漢字や四字熟語）にも力を入れました。

評論や小説は、過去問や問題集を何度も解き、文章を読むことに慣れるようにしました。英語も国語と同様に、過去問や問題集を何度も解きました。私は文系でしたが、数学でも最低限の点数は取れるように勉強しました。しかし、校内模試本番の英語では、普段練習していた問題よりも難しく感じ、時間もギリギリで試験中に焦りを感じました。結果的には想像以上に良い順位が取れていたのが安心しましたが、試験本番ではどんなことが起きるか分からないので、十分な試験対策をしていくことが大切だと感じました。

そして私は、英検 2 級の取得にも力を入れました。私は、ただ合格するだけでなく、高い CSE スコアを取れるように勉強しました。大学によっては、英検 2 級が出願条件になっていることが多く、中には CSE スコア何点以上という条件がある大学もあります。私は英検 2 級を 2 年生のときに取得しました。3 年生でも英検を受けるチャンスはありますが、校内模試や定期考査などで忙しいので、余裕を持って 2 年生のうちに 2 級を取得しておくのが良いと思います。

大学は目標達成の通過点、 将来やりたいことを明確にしましょう

■部活動で身に付けた集中力と体力で さらに勉強に励み、成績が伸びました

本格的に指定校推薦で受験しようと考えたのは高校3年生の時でした。放課後や休日は部活動に参加していたため、勉強の時間を確保することが容易ではありませんでした。そこで、その日にやることをリスト化して目標を立てたり、部活動に向かう宮城野原から多賀城の電車の中で英単語を覚えたりしました。勉強の効率をあげ、隙間時間を利用することで周りの人から遅れをとらず、文武両道という目標を達成することができました。部活動引退後は、部活動で身に付けた集中力と体力でさらに勉強に励み、成績が伸びました。

大学を決めるうえで大切なことは、自分が将来、何をやりたいのかを決めることだと思います。そのためには大学で何を勉強しなければならないのかを調べる必要があります。大学は、将来やりたいことを達成するための通過点にすぎません。私は、将来の夢がはっきり決まっていなかったため、自分のやりたいことをたくさん調べる良い機会になりました。

■部活動と生徒会での経験から培った能力を どう発揮するかをアピールしました

指定校推薦で合格するために重要なことは3つあると思います。

一つ目は、校内模試の成績です。校内模試の結果が校内選考に大きく影響するからです。私は過去問を解き、苦手分野を中心に類題などを探して対策をしました。また、見直しの時間も含めて時間内に終わるように心がけました。

二つ目は、部活動やボランティア活動などです。指定校推薦の場合は、自分自身をアピールする自己推薦書を書きます。私はボランティア活動に参加しませんでした。部活動と生徒会に所属していたため、それらの経験から自分の得意なことや培ってきた能力をどのようにして発揮していけるかをアピールしました。

三つ目は、大学が求めている推薦基準、受験資格を満たすことです。希望する大学の評定平均を満たしていなければ応募できません。評定平均は、3年間の総合平均になるため、1年生の時からこつこつ勉強してきました。私が合格した関西大学外国語学部では、英検やIELTS、TOEFLのような英語資格を必要とするため、それぞれの大学の基準を調べておきましょう。

高校3年間は、本当にあっという間でした。大変なことや不安なことがたくさんあったけれど、充実した学校生活でした。一番そばにいて支えてくれた家族、素晴らしい先生方、応援してくれる友達、たくさんの支えがあって合格できたと思います。ありがとうございました。

最後に、一度しかない高校生活、たくさん挑戦することで新しい発見や出会いがあると思います。後悔のないように一日一日を大切にしながら過ごしてください。

関西学院大学 法学部 法律学科に
指定校推薦で合格

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
北海道教育大学附属函館中出身

熟語を暗記してから長文問題を解く、 これで英語を得意科目にできました

■英検 2 級を取得しておく
指定校の選択肢が広がります

私は 3 年間サッカー部に所属していました。2 年生の冬に肩の怪我で手術をすることになり、半年以上サッカーをすることができませんでした。それまで、大学でサッカーを続けるかどうかや、どの入試方法で大学に通学するかを悩んでいました。しかし、手術をきっかけに半年間の時間ができたことで、指定校推薦で受験することを決断しました。

仙台育英の指定校推薦は、校内模試の結果が選考に大きく関わるという特徴を持っているため、半年間で校内模試の勉強を中心に行いました。文系では、国語の現代文と英語の長文読解の二つが模試の科目です。そのため、比較的勉強する内容が限られ、点数を取りやすい模試だと思います。私は長文読解が得意ではなかったため、英語の学習に力を入れました。最初はターゲット 1900 の単語を 1500 語までを完璧にし、熟語の暗記、長文の問題をたくさん解くという順で勉強をして英語を得意科目にすることができました。さらに、指定校の選択肢を広げるために英検 2 級の受験をしました。英検のための勉強も長文の練習にとっても役立つと思います。大学によっては、条件に英検 2 級を持っていないといけない大学もあるので、なるべく早く受験するべきだと思います。

準備は早ければ早いだけ良いと思います。第一志望の大学に行けるように頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
ウガンダ出身

仙台育英でクラスメイトに 出会えたことを感謝しています

■意思決定において重要なことは 情報収集です

私はウガンダ出身の留学生です。2022年の2年生の時に仙台育英学園高校に来ました。

私はクラスメイトに出会えて本当によかったと思っています。強い男子や私のようなスリムな男子がいたり、美しい女子やとても知的な生徒もいたりしました。おしゃべりなクラスメイトも無口なクラスメイトも、そして最高の担任の先生もいました。クラスメイトたちは、いつが競い合う時で、いつが協力し合う時なのかを知っていました。クラスメイトたちは、パーティをするときや、他者に共感するときを楽しんでいました。責任感のあるクラスリーダーもいました。私たちは別々の道を歩むことになりますが、みんなの幸運を祈っています。

意思決定において最も重要なことの一つはリサーチです。まず、得られる限りの情報が必要です。自分が何をしたいのか、何に興味があるのかを心の中で見つけ、親や先生と話し合い、将来やりたいことについての情報を得ることが大切です。可能性のある就職先や、なりたい自分になるためには大学で何を学ばなければならないか（コースの詳細）など。自分と家族、保護者が納得できる入学方法と学費の大学を見つけてください。そして、自分のやりたいことに自信を持ち、好きなことであれば、必ず実現できることを約束します。それに、もしうまくいかなかったとしても、結局は自分の意志でやったことだから、誰かにやらされたと責める必要はなくなります。

■周りの人の意見を受け入れて 成長していきましょう

先生や保護者、あるいは先輩の意見に耳を傾けるよう注意しなければなりません。なぜなら、彼らはより多くの経験を持ち、私たちのために最善を尽くしてくれるからです。秘訣は、オープンマインドで彼らの意見に耳を傾けることです。他の人からのアドバイスや意見を受け入れ、別の視点から物事を見るようにしましょう。失敗したら、必要に応じて謝り、失敗から学び、後悔を捨て去る。それが成長です。整理整頓を心がけ、課題の締め切りを守り、早めに書類を提出することが大切です。毎回指示されるのを待ってはいけません。

規律を守り、不必要な欠席をせず、仲間との関係を良好にし、先生を尊敬しましょう。楽しむ時は、明日がないように遊び、真剣な時は全力になりましょう。必要なときは休んだり、他の人と議論したり、わからないことがあれば先生に質問するなど、勉強を楽しく続けましょう。自分が一番能動的だと思うときに、復習の時間を作りましょう。言われたから勉強するのではなく、自分の将来のために勉強しましょう。

先生から声量や敬語の使い方など 指導していただきました

■楽しみながら小論文練習が できるように心掛けました

大学合格に向けて頑張ったことや心がけたことは三つあります。

一つ目は小論文の練習です。自分は小論文を書くことを苦に思わず、楽しみながら練習を行いました。最初の頃は題が難しく、うまく読み取るのに時間をかなり使いましたが、日々の成果で入試のときには多少考えるだけで小論文を書くことができるようになりました。また小論文を書くときに思っていたことは、自分の考えを書けば良くて、模範的でなくてもいいということです。何が正しいとかはなく、簡単な感想文だと思えば気軽に書くことができます。ただ一つ言えるのは漢字を使えるようにしたほうが良いということだけです。

二つ目は面接の練習です。面接は極論、話がうまければ、日々いろいろな人と会話していれば難しい問題です。しかし、会話が少ない方は難しいと思います。面接官に伝わる声量で、相手を敬いながら会話をするのが大切だからです。そのため自分は苦労しましたが、先生方との練習で声量についてや敬語の使い方、質問の答え方について練習したおかげで無事成功できました。しかし反省点もあります。試験当日に緊張で言う内容が飛ぶことがあるので、臨機応変に答えられるようにしたほうが良かったと思います。

■生活リズムや日々の習慣は 崩さない方が賢明です

三つ目は日常を崩さないことです。よくありがちなのは、試験勉強のためにルーティーンや習慣を崩すことですが、ストレスを感じるだけなのでやめた方が良いでしょう。試験では心と体の健康も重要になってきます。心に余裕があれば緊張と軽減できます。なお、日常を崩さずとは言いましたが、深夜まで起きるという日常がある方は早く寝た方が良いでしょう。体の健康には睡眠が関わってくるからです。ゲームや動画配信アプリ、SNSを使うことは悪くはありませんが、限度を考えましょう。この上記に書いたことを守れば、日常を崩さなくても試験勉強は可能です。

この三つのことができれば必ず大学に合格できるはずです。私はこの三つをやっておいて良かったと思っています。

勉強が苦手だった私が 高校で学ぶことの大切さを知りました

■仙台育英に志望大学の

指定校推薦があることを知って

北海道医療大学の薬学部薬学科に、指定校推薦で合格しました。北海道医療大学は、6学部9学科の医療系総合大学で、医療従事者を目指す仲間と医療を学べる大学です。特に、私の進学する薬学部薬学科は、薬剤師国家資格の取得に向けたカリキュラムが充実しています。実際、去年の国家試験合格率は8割を超えており、全国の薬剤師国家試験の合格率の平均より高い結果を維持しています。

私は、高校1年生の頃から、薬学部に行くことを目標にしていたため、薬剤師国家試験合格率が高い薬学部がある大学に進学したいと考えるようになり、1年生頃から勉強に力を入れ始めました。いざ勉強を始めようとしても何から始めたらいいのかわからなかったのも、薬学部で必要になる数学、科学、生物の理系科目を中心に勉強していました。また、自習室や図書館を学習スペースとして利用した結果、定期試験で良い成績を取ることができました。私にとって勉強に取り組む上で大切にしていたことは周囲の環境です。3年生になった時に仙台育英には北海道医療大学からの指定校推薦があるのを知ったため、推薦の獲得を意識し、校内模試に向けて勉強をしていました。問題演習では過去問に挑戦しました。過去問に取り組む上で問題の傾向や対策を把握し、苦手分野の克服に専念していました。そのおかげで無事推薦を獲得することができました。

■面接突破は先生方と

何度も練習したおかげです

指定校推薦枠を獲得した後は面接対策を始めました。様々なパターンを想定し、先生方と放課後何度も練習をしました。その成果があって、試験にも合格することができました。試験合格後も勉強を続けました。一般入試の過去問を積極的に解き、自分の学力を確かめるようにしていました。また、大学からの課題にも取り組んでいました。

最後になりますが、私は中学生の頃、勉強することが苦手で、成績も良くはありませんでした。そんな中、仙台育英に入学して勉強することの大切さを知ることができました。大学に合格できたのも、薬学部に行きたいという強い思いがあったからだと思います。人によってはモチベーションを保つのが大変だと感じるとはと思いますが、志望大学へ行きたいと思う気持ちがあれば、長く保つことができると私は思います。

3年間の高校生活はあっという間に過ぎていきます。志望大学が決まっていなくても、少しずつ勉強しておくことを勧めます。

先生に質問する習慣をつけると 苦手科目が得意科目に変わります

■ 苦手克服が勉強を頑張る 原動力につながりました

私は、高校 1 年生の頃から指定校推薦での合格を目標としていたため、定期考査や模試の対策を重点的に行いました。具体的には、定期考査の 2 週間前から苦手な教科や復習をくり返し行い、評定を落とさないようにしていました。また、考査の結果だけでなく、提出物の期限を守ること、授業態度などが平常点に繋がるのでしっかり守ることが大切です。

また、私が八戸学院大学を志望した理由は、看護科がある 4 年生の大学で、学科が看護以外にもあり、他の学科の人たちと関わりができるので、多くの友人ができると思ったとともに、地域密着型の看護をくわしく学べると思ったからです。

私は、数学が苦手で、いつも点数が低く、赤点ばかり取っていました。看護系の大学に進学するには、数学も必須になると知り、数学科の先生にテスト前の放課後に自分の分からないところを聞きに行き、得意になるまで教えていただきました。その結果、3 年生のテストの点数が 60 点以上あげることができました。勉強法としては、ワークの問題は、2 回以上解き、教科書の問題を簡単に解けるまで問題を解くことが大切です。難しい、分からないと思ったらすぐ先生に質問しましょう。先生と仲良くなることにより、よりたくさん話を開けたり、質問しやすくなります。私の担任の先生は英語科の担当の先生だったので、分からないところをすぐ聞き、得意になることができました。評定も良い結果になり、より勉強を頑張る原動力につながりました。

■ 面接は先生のアドバイスをメモし、 翌日にはそのメモを活かして練習

校内模試では、私は文系クラスだったので、国語と英語の 2 教科の点数で順位が出るのでこの 2 教科はよく勉強しておいたほうがいいです。

受験では、私は面接と小論文が必須だったので、私は受験前の 1 週間の放課後毎日違う先生と面接練習を行い、想定していない質問にもすぐ答えられるようにし、先生のアドバイスをしっかりメモし、翌日にはそのアドバイスを活かして練習しました。また、小論文練習は私は 2 日前に先生に添削してもらい、一度しか練習できず本番でも自信が持てませんでした。皆さんは、絶対 1 カ月前から先生に添削してもらいましょう。過去問題は、必ず去年の問題だけでなくその前の問題から解いてください。

受験当日は、小論文から始まり、次に面接となるので、小論文の書き方や面接ノートを作り、ノートを見返しましょう。面接まで時間があるのでしっかり対策して自信を持って面接に臨みましょう。

自分を信じて、本当に自分が行きたい大学なのかを考え、後悔しないような選択をしてください。そして高校 3 年間は思っているより短いので、行事や学校生活を思い切り楽しみ、思い出をつくってください！

合格できたのは勉強の積み重ねと 周囲の人からのサポートのおかげです

■放課後、先生にお願いして 校内模試の対策をしていただきました

私は、指定校推薦で、山形にある東北文教大学人間科学部子ども教育学科に合格しました。高校三年生へと進級して受験生となった私は、大学生活へのイメージがなかなかできず、ギリギリまで進路に迷っていました。そんなときに頼ったのは家族や先生、友達などの方々でした。自分の将来の事、進路先など今後についてたくさん話しました。その積み重ねから、自分のなりたい職業で必要な資格や、どのような進路へ進めば最善かなど、少しずつ形になってきました。私の将来の夢に対して、真剣に向き合ってくれる方々にはとても感謝をしています。形になっていくにつれ、挑まなければならないことが次から次へと出てきました。

1つ目は校内模試です。志望した大学へと進むには、校内模試で少しでも点を取り、自由に大学を選ぶことが大切と知った私は、先生の力を貸してもらい、過去問の解説など放課後の時間を使い丁寧に教えていただきました。そのおかげで私は志望していた大学の指定校推薦を獲得することが出来ました。

■1年生のころから先生や友達、親に 相談して力を貸してもらいました

2つ目は入試対策です。志望した大学によって入試の方法は様々で私の場合は面接の1つだけでした。私は、選択授業のC学説で面接講座を取っていたため、入試へ向けて長い時間をかけて話し方や礼儀作法を練習し、内容を深め完璧なものにしていきました。

進学を考えるにあたって私が大切にしていたことは、少しずつの積み上げと頼れる人に相談や力になってもらうことです。1年生の頃から、部活と勉強の両立の文武両道を心がけ、高い成績を意識し頑張りました。先生や友達、親に相談して力を貸してもらい、とても助かりました。推薦の枠はとても広いので、自分が努力すれば進路の幅は広がると思います。高校生活は楽しいもので3年間は長いようで短くもありました。自分にできる最大限のことを発揮し進路へと繋げて欲しいです。

夢を実現するにはとにかく 自分を信じ努力することが大事です

■先生との二者面談で受験対策を変更し 一家総力戦で受験に挑みました

私は昔から歴史が好きで、中学 3 年生の時にこの大学にしようと決めました。そして高校も指定校推薦枠の多い仙台育英を選び入学しました。そのため、私は高校 1 年生の時から指定校推薦を希望しました。1 年生のときはあまり成績が伸びなかったのですが、2 年生で成績が出された時、以前よりも成績が上がっていて、とても嬉しかったです。また、勉強を頑張ろうという気持ちになり、コツコツ努力をして、学力をキープしていました。

受験の年がやってきた 3 年生の頃は、不安な気持ちが大きかったのですが、先生や家族などの言葉に励まされました。私は成績は問題なかったのですが、6 月の校内模試が最難関でした。私の志望大学は特別進学コースの人にも人気があり、ここ数年は英進進学から指定校を手にした人はいないと言われてしまいました。それでも諦めたくないと思いき、春休みから対策をはじめました。そして本番では今までのテストの中で一番の本気を出し切りました。しかし、テストの結果は良かったものの、指定校を手に入れるまでには及ばない点数でした。そのため夏休みは総合型の対策をしていました。夏休みの先生との二者面談の日に志望大学の指定校志願者の中で一番の成績であることを知り、急遽受験対策を変えました。家族も驚き、一家総力戦で受験に挑むことにしました。夏休み明けは毎日のように小論文の過去問を解き続けて、受験が近くなった時には先生に添削もお願いしました。

■自分是可以という自信を持てば 自ずとやる気も湧いてきます

いよいよ受験本番の時、前日に近所の神社に行き、手を合わせました。受験当日、朝に近所のコンビニに行き、両親に頑張ってねと飲み物を買ってもらいました。会場に着くと、様々な学校の生徒がいました。私が受験した教室には 100 人ほどの受験生がいて、空気がピリピリしているのを感じました。本番の小論文は今までの何倍も難しく感じ、時間もかかって本当に大丈夫なのかと心配になりました。でも、合格したのです。私は中学 3 年生からの夢を叶えることができたのです。夢を現実のものにするには自分を信じ、とにかく努力するのが必要だと改めて気付きました。

後輩のみなさんも、まず合格のために必要なのは気持ちです。少し成績が下がったからとずっと落ち込んではいけません。自分ならできるという自信を持ってください。するとやる気も湧いてきます。そして成績が少しでも良くなったらたくさん自分を褒めてあげるのも必要です。私は子どもの時から勉強が得意ではなかったのですが、このように志望大学に合格できました。大丈夫です。皆さんならきっと良き未来を切り開けます。

どんな入試形式でも対応できるよう 日頃から意識して生活しましょう

■ 1、2 年次から気を抜かず 基礎を固めることが重要です

私が、指定校推薦で大学に入学しようと思ったのは、高校 2 年生の終わりごろでした。志望大学の入学の選択肢を増やし、校内選考や推薦枠の内定をいただくことで、より確実に合格したいと思った点と、一般受験と比べ早い時期に進路が決まることで、時間に余裕ができることを生かし、志望大学での勉強に必要な教科に費やせる時間ができる点に魅力を感じたことがきっかけです。

校内選考で内定をいただくにあたって、取り組んだことは主に 3 つあります。

一つ目は、校内模試で高い点数を取るための勉強です。まず、授業で行われる国語、数学、英語の過去問を授業前に解き終え、授業中に分からなかった問題の解説を重点的に聞き、自分の苦手な部分をできるだけ減らせるようにすることが大切だと思います。そのためには、1、2 年次から気を抜かず、そして、毎日少しずつでも勉強し、基礎を固めることが重要だと思います。

二つ目は、評定平均を上げるための定期考査の勉強と課題提出です。私の志望大学では評定平均 3.8 が最低条件だったため、絶対に評定を下げないように、1 年生の頃から定期考査や普段の授業に真剣に取り組み、高い評定を保つことが大切です。

三つ目は、英検 2 級の取得です。様々な大学で出願資格として英検が必要になるので、志望大学が決まっていなくても英検を受けることをおすすめします。学校の Weblio での面接対策や英検講習を受けられるので、ぜひ活用してみてください。

■ 指定校推薦では自分の 3 年間の 頑張りが評価されます

また、指定校推薦を考えている人たちには、部活動に所属したり、外部の活動や、資格を取得したりなど、自分のアピールできるところを増やせるようにしてほしいです。指定校推薦では、自分の 3 年間の頑張りが評価されるため、自分ができることから頑張って取り組んでほしいなと思います。

校内選考が通ってからは小論文対策に取り組みました。自分の受験する大学の小論文の過去問に何回も取り組み、担当の先生に添削してもらうことで、だんだんと書けるようになってきたので、先生にはとても感謝しています。

まだ入試方法を考えていない人たちでも定期考査や日々の授業態度、課題提出、欠席日数に気をつけるなどを意識してほしいと思います。そうすることで 3 年生になったときにどの入試方法を選んだとしても安心して頑張れると思います。卒業が迫った今振り返ると本当に高校 3 年間はあっという間です。皆さんが充実した高校生活を送れるよう願っています。頑張ってください！

毎日努力を続けることで 良い成績を維持できました

■勉強方法はやはりコツコツと やることが大事です

指定校推薦を取るにあたって、特に努力したことは、毎回の授業を確実に理解すること、毎日机に向かい勉強することです。小さな積み重ねを続けることは難しいことではありますが、諦めず、毎日努力を続けることで入学当初から良い成績を維持し続けることができました。その結果、第一志望の大学の指定校推薦をいただくことができました。

大学の試験は、小論文のみでした。私は小論文が苦手だったので不安でしたが、現代文の先生や小論文の先生に添削をお願いしたり、過去問を何度も解いたりすることによって、少しずつ上手に書けるようになっていきました。

入学試験当日は、とても緊張しましたが、家族や友人、先生方の応援やサポートとこれまでしてきた練習の成果もあって力を出し切ることができ、無事合格することができました。

高校での勉強方法は、やはりコツコツとやることが大事だと思います。しっかり授業を聞き、分からないことは先生方に教えてもらうなどすると良いと思います。

私にとって、高校生活はとても楽しかった思い出です。友人と楽しい日々を過ごして良かったです。後輩の皆さんは、しっかりと高校生活を楽しみながら勉強をしてほしいと思います。これからも頑張ってください。

1年生からコツコツ勉強すれば 評定平均は十分に取れるはずです

■校内模試対策は出題形式や
苦手分野を知ることが重要です

指定校推薦で受験しようと決めたのは2つの理由があります。1つ目は志望大学の入学の選択肢を増やし、確実に合格したいと思ったからです。自分の興味のある分野が学べる大学を比較していたら、自分にあった大学を見つけることが分かり、さらに指定校推薦の枠が来ていることを知り、この受験方式を選びました。2つ目は、一般受験と比べ早い時期に連絡が決定することです。このメリットを生かし、自分に必要なことに効率的に取り組みたいと思いました。

しかし指定校推薦の枠を取るには、校内模試でなるべく高い順位をとることが必要になってきます。私は、過去問を先生にもらい、何度も解き直しを行いました。そこで出題形式や苦手な分野などを知ることがとても重要です。高い順位を取ることで選択できる大学の幅が広がるため、本気になって取り組むことをお勧めします。

■小論文は書いて先生に添削してもらい、
を繰り返したら力がついてきました

もう一つ、指定校推薦の枠を取るのに必要なものが、自分が行きたい大学の必要評定平均を上回る、ということです。これに関しては1年生の頃からコツコツ積み上げてきた定期考査の結果が大事になってくるので、しっかりと勉強しておけば評定平均の心配する必要はなくなると思います。評定平均は4あればだいたい大学は大丈夫です。

入試の準備について、私の場合、小論文がありました。最初はまず何も見ずに小論文を書き、自分が書いたものを先生に見てもらって直すということを何度も行いました。するといつの間にか小論文を書く力が身についてきました。小論文は書かないと力がついてこないので何度も書くことをお勧めします。頭が真っ白になっても最後まで諦めずに字を埋められるようにすれば大丈夫です。

周りのサポートもあったので 安心して臨めました

■志望大学が決まったら早いうちから オープンキャンパスに行きましょう

高校1年生の頃から東北学院大に入りたいと思っていました。そのために、夏にはオープンキャンパスなどに参加して、学校の設備や学びなどについて知ることができました。志望大学が決まったら、ぜひ早いうちからオープンキャンパスに行くことをお勧めします。

私は一般受験で受けるか、推薦で受けるか悩みました。定期テストで8割以上取るように心掛けていたため、良い成績を取ることができました。そこで、指定校推薦で受けると決めることができました。指定校推薦で受けようと思っている皆さん、定期テストの評定が一番大事なので、良い点を取れるよう頑張ってください。例えば、数学はワークを最低でも3周はやる。社会などの暗記教科は、マーカーペンなどで単語をしっかりと覚えることが大事です。

■小論文は1カ月前から対策、 先生に添削してもらうのが大事

指定校と聞くと、面接と小論文があると思いますが、この2つは、勉強するのにとても時間がかかります。東北学院大は今年から面接試験がなくなり、小論文だけとなりました。しかし、油断禁物なので、参考書などを買い、1カ月前から対策をしました。その際に、書いたら終わりではなく、先生に添削してもらうことがとても大事です。また、面接も5回ぐらい練習しましょう。特に志望理由についてはしっかり答えられるようにしましょう。

一般受験の人にも伝えたいことがあります。受験は誰しもが経験する大きな壁です。そのため、緊張や不安になりがちです。しかし、決して忘れてはいけないのは、一人ではないということです。周りにはサポートしてくれる先生や友達、そして大事な家族がいます。受験をするのは一人ではないので落ち着いて勉強に取り組んでください。日頃の努力をしっかりと積み重ねて、指定校や一般受験、その他の推薦で第一志望の大学に合格できるよう頑張ってください。

令和6年3月 情報科学コース卒
蛇田中出身

一人では分からないことがあれば 先生方を頼るのが一番です

■豊富な指定校推薦枠に惹かれて 仙台育英に入学しました

この大学を目指したきっかけは、情報学部で学んだことを直接将来に活かしたいと思ったからです。仙台育英には様々な大学への指定校枠があったので、指定校推薦を1番目に志望しました。指定校推薦を貰うためには、普段の授業で得られる評定と、3年目の6月に行われる校内模試での結果の両方が必要でした。

私が志望する東北学院大学の指定校推薦の評定平均は3.8だったため、4以上をキープするために、テストの点数を大事に過ごしました。テストの1～2週間前からテスト期間に入り、各教科からテストの対策プリントが配られることが多いので、対策プリントを中心に勉強しました。テスト点を安定させることにより、評定を安定して獲得することが出来ました。

大学への推薦を得るためには、校内模試も同様に重要です。校内模試は、各教科の先生が作る定期テストと異なり、共通テストに則った形式で行われます。そのため、教科書や参考書を用いて、広い範囲の基本を抑えることが重要になっていたと思います。

■情報関係検定は1級まで取得して 受験の武器にしました

推薦の獲得において、資格取得も評価に加えられていたと思います。情報科学コースのカリキュラムにも含まれる情報処理検定を、私は1級まで取得していました。前述した2つ程ではないと思いますが、資格取得も重要だと思います。

このようにして指定校推薦を取得出来たのですが、指定校推薦を志望する時の注意点が校内選考の時期です。私の場合第1志望から校内選考で東北学院大学に志願していたのですが、実際に指定校推薦を受けられることが決まったのが9月以降になりました。その時期になると総合型推薦の出願が終わっている大学、専門学校も多いので、もし校内選考に落ちてしまった時の準備も必要になります。数学と英語は理系文系問わず必要になるので、最低でもこの2教科の基礎固めをしておいた方がいいです。

指定校推薦が決まった後は、先生方に小論文の添削、指導をしてもらい、スムーズに合格することが出来ました。小論文の書き方なんて分からないのが当たり前なので、先生方に頼るのが1番早いと思います。

私が進路を決めたのは3年に入ってからでしたが、進路を決めるのは早ければ早いほどいいです。自分が本当に進みたい進路に進めるよう、1.2年の内からこれから自分のやりたいことを少しでも考えておくだけで、受験への対策が立てやすくなります。充実した高校生活を送り、皆さんが進みたい進路に進めるように頑張ってください。

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
高崎中出身

自分自身を信じて 指定校推薦に挑戦しました

■校内模試で良い結果を残し 指定校推薦の枠を獲得

私の強みは 0 から 1 を生み出すことが得意なことです。自分の強みを活かす職業に就きたい、そのための勉強を大学でしたい、との思いを担当の先生に伝え、面談で東北工業大学を紹介してもらって、ここだ！と思い受験を決めました。

私が特に頑張ったのは校内模試です。その中でも大切だと思うのは部活動との両立です。私は吹奏楽部に所属していました。校内模試と演奏会がどちらも 6 月にあり、毎日の練習をしっかりとしながら、勉強時間を確保することが大変だと感じました。さらに 6 月には定期テストもあったので、とても忙しい日々でした。しかし、「今日はこの勉強をする」や「今日は 7 時から勉強をする」など小さな計画を毎日自分の中で立てながら勉強を進めていくことで、校内模試では予想よりも良い順位を取ることができました。また、東北工業大学は指定校推薦をもらいたい人が定員数の 3 倍近くいる、と事前調査の段階で言われていました。私はギリギリ定員に収まるか収まらないかくらいだと言われましたが、思い切って本調査でも志望大学を変えずに調査表を提出しました。その結果、指定校推薦をもらえることになりました。思い切って自分に賭けてみるのも大切なかもしれません。しかし、ただ自分に賭けたのではなく、自分を信じて自分に賭けることができたのは校内模試の勉強の際に頑張った自分がいたからでした。校内模試や定期テストのために計画を立てて勉強するというのは、この先の大学生活でも生きてくると思います。

■予想外の展開にも対応できるよう しっかり準備をしましょう

受験方法は面接とプレゼンテーションがありましたが、どちらもしっかり準備していく事が大切である一方で、イレギュラーな事態にも、対応する力が必要だと思います。予想してなかった質問をされたり、直前に資料のミスに気づいたり、当日はドキドキしてしまうような出来事も多かったです。それをいかに上手く乗り越えていくかということも大切だと感じました。

より多くの人を笑顔にするため 地域に貢献していきたい

■ iPadを活用するといつでも 勉強を進められました

私は、高校入学時から、指定校推薦での大学合格を目指していました。指定校推薦は、入試時期が早いので早めに進路を決めることができ、もし合格を逃しても、一般や共通テスト等のチャンスが多くあるので気負わずに受けられると考えたからです。指定校推薦を利用するために、定期テストや資格取得、部活動に力を入れました。定期テストでは、評定を高く維持するために各教科80点以上取ることを目標にしていました。iPadは、移動中や暗い部屋でも容易に勉強できるので、部活動をしている私に合っていて、隙間時間ややりたい時に勉強を進められました。また私の周りには、部活動などを学業と両立している人が多かったため、部活動を理由に勉強を怠ってはいけないと、部活動との両立も頑張れました。勉強はあまり得意なほうではありませんが、テスト直前に友達とギリギリまで内容を詰め込んだり、放課後勉強を教え合ったりと楽しく取り組みました。

■ 授業や研修旅行がきっかけで 地域に関する分野に興味をもちました

高校での社会系の授業を通して、社会問題や地域に関する分野を深く学びたいと考えるようになりました。また研修旅行で沖縄に行った際に、現地の特産品や地形を活用した観光地が多かったことから、宮城県も地域の良さを活かしたまちづくりができるのではないかと、思ったことがこの学科を選んだきっかけです。

高校では、誰かの心の支えになればとチアリーディング部に入部し、地域のイベントやスポーツの応援に参加させていただきました。たくさんの人と関わり、たくさんの方の笑顔を見ることができた3年間はとても濃く、充実していて、周りの人に恵まれた楽しい日々でした。部活動を通して得た経験や成長を活かし、今後はより多くの方の笑顔をつくり、生活を支えられるように地域に関する知識を増やしていきたいです。積極的な資格の勉強やボランティアに参加する等、自分から行動し新しいことに挑戦することが今の目標です。

令和6年3月 英進進学コース卒
富谷第二中出身

緊張感を持って準備して良かった、 大学受験を通してそう感じました

■目標を達成するという経験を 重ねることで自信がつきます

私が大学進学を目指した理由は、大学での4年間を通して、より専門的で実用的な知識を得て進路の選択肢を増やしたいと思ったからです。指定校推薦での大学受験を視野に入れたのは、中学3年生の高校入試のときです。仙台育英は、指定校推薦の枠が他の高校に比べて多いことを知り、入学を決めました。私は早い段階から志望大学が決まっていたため、高校3年間は指定校推薦をもらうために努力することに決めて、1年生の時から定期テストは妥協せずに、自分が納得いくまで対策をして目標の成績を取ることができました。最初の成績が良くても、徐々に悪くなることは良くないということを中学生の時に身をもって感じたので、その反省をもとに、学習においては特に継続することを心がけました。毎回のテストで成績が下がることのないように、自分の改善のすべきところを明確にしてしっかり対策することを意識しました。目標を達成するという経験を重ねることが、確実に自信につながるので頑張ってください。また資格の取得すると確実にアピールポイントになるので、ぜひ一つでも挑戦してみてください。

■1年時から志望大学を調べていたので 余裕をもって臨むことができました

また、私は早い段階から志望大学を決めましたが、志望大学を決めるにあたって重要なことは情報集めだと考えています。志望大学を決めるのは他人ではなく自分なので、しっかりと自分にあった大学を、責任を持って早い段階から決める意識が大切だと思います。私は、1年生の時からオープンキャンパスに参加したり、気になっている大学の指導方針やカリキュラム、アドミッションポリシーを、早くから把握していたため、面接などの際にとても役に立ち、余裕を持って入学を決めることができました。楽観的な考えではなく、緊張感を持って準備しておいて良かった、と大学受験を通して改めて感じたので、進路実現のためにぜひ皆さんも計画的に頑張ってください。

不安や焦りも友人と分かちあい 精神的にも強くなりました

■早めに大学準備ができる

指定校推薦に魅力を感じて入学

私は、高校入学時から指定校推薦で大学に入学しようと考えていました。その理由は指定校推薦で合格が早く決まることによって、早めに大学入学まで勉強等の対策ができ、時間を有意義に活用出来ると考えたからです。大学の授業についていけるか不安もありますが、入学まで時間ができるため、より大学での学びを深めるための対策を講じることができます。また、地元から通える大学を考えていたので、その中でも志望大学の選択肢を増やし、確実に合格を目指せるため、私にとって安心感を得ることに繋がりました。そして大学で学びたい分野を絞り、探していくうちに地元で建築を学べる大学を知りました。指定校推薦もあるとの事で、決心することができました。大学を探して学部を見ていくうちに自分自身が何に興味があり、どんなことを将来の仕事にしたいのかが見えてくるようになりました。

■仙台育英での様々な経験が

将来への目標になるはずです

また、指定校推薦を確実に取るためにも、定期考査で安定した点数を取り、評定を気にすることで、普段からの勉強にも力が入りました。そのため、指定校を決める校内模試の勉強も集中して取り組むことができました。また入試の際も先生方の支えもあり、面接、プレゼンテーションの練習を積み重ね、受験当日は慌てることなくスムーズに挑むことが出来ました。無事に大学に合格出来たのは、自分で行った対策だけでなく、周りの支えがあったからこそだと感じています。日々過ごす上で将来に関する事や勉強等の不安がありましたが、周りの友人と支え合い、乗り越えることで自身のメンタルも強くなりました。高校生活で、大学へ合格するという目標に向かい未来へ繋がる結果が得られたと考えています。

受験が迫るまでに様々な経験をして、興味がある分野を知っておくと将来の目標が決まりやすいと思います。本当に好きなことなら目標が立ち、受験やその先の壁も乗り越えて行けるはずです。後悔のない高校生活になることを願っています。将来に向けて頑張ってください！

令和6年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

大学で学びたいことは 興味と情熱をもって調べましょう

■不安でいっぱいだった私を 支えてくれた理学療法士が憧れに

私は、将来理学療法士になるという目標を叶えるために、私は東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科への進学を志望しました。私は患者さんと親身に向き合い、その人の人生を全力で支え、サポートをする理学療法士になりたいという目標があります。この目標を達成するためには、医療に関連する知識はもちろん、患者さん一人一人と向き合うために、コミュニケーションを取り合って、治療をしていく中で心の支えになれるような存在になることが大切だと感じました。

私が理学療法士の仕事につきたいと思った理由としては、私が生きてきたこの18年間で、理学療法士の方々に支えられた機会が多くあったからです。小学2年生の時、交通事故にあって、左足に大きな怪我をしました。医師からは治ったとしても走ることは出来ないかもしれないと言われるほどで、小さいながらも恐怖と不安でいっぱいでした。そんな時に私を支えてくれたのは、家族や理学療法士の方々でした。リハビリはとても痛くて辛いものでしたが、理学療法士の方々に、精神的にも身体的にもたくさん支えていただきました。そのおかげで約3ヶ月の治療を乗り越えることができ、退院したあと走れるようにもなりました。

大学生活では、理学療法を学ぶだけでなく、患者さんと親身に向き合い、その人の人生を全力で支え、サポートをする理学療法士になりたいという目標を達成するため、大学4年間で様々な観点から学びを深め、日々努力を積み重ねていきたいです。

指定校推薦を得るため 高校1年生の頃から対策しました

■ ボランティア活動に参加することで コミュニケーション能力が高まりました

私は高校入学当初から大学進学を目指していたため、高校1年生の頃から常に大学進学を意識しながら様々なことに取り組んできました。

学習面では、定期考査で高い評定をとれるよう計画的に勉強をし、日々の授業態度や提出物を忘れずに出すことも大事にしていました。指定校推薦では推薦をいただくために校内模試の点数や順位がとても重要なので、何度も過去問を解き、苦手なところをなくしていくことを意識して取り組んでいました。また、私は資格を持っていなかったため、英語検定も取得しました。資格を取得しておくことは自分の強みになるので、早い段階から多くの資格取得に挑戦してみると良いと思います。

学習面以外では、ボランティア活動にも積極的に参加しました。ボランティア活動に参加することで、コミュニケーション能力やチームワーク能力を高めることができ、推薦でアピールできる重要な材料になるので、学外の活動も参加してみると良いと思います。

■ オープンキャンパスに参加して 実際に確かめることはとても重要です

私は、受験方法や志望大学をなかなか決めることができず、指定校推薦で希望する大学を受験しよう、と決めたのは高校3年生になってからでした。それまでは、オープンキャンパスや進路のセミナーなどに何度も参加し、多くの大学を見比べました。志望大学を決定するのに一番大事だと思うことは、オープンキャンパスに参加してみることだと思います。大学のパンフレットやホームページでは分からないことが、オープンキャンパスで分かると思うので、実際に自分の目で確かめることはとても重要なことだと思います。

指定校推薦では、校内模試の点数や評定、活動記録などが重視され定期考査で高い評定をとることや、資格も早い段階から取得しておくことで大学の選択肢が広がります。高校生活は早く終わるので、学校生活を楽しみつつ目標に向けて頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

先生方の対応のおかげで楽しく 充実した日々を送ることができました

■定期テスト対策はワーク等を 何度もひたすら解きました

私は、指定校推薦入試の内容を得るために、大きく分けて3つの努力をしました。1つ目はテストです。テスト1週間前ぐらいから勉強に励みました。前日にワーク等を終わらせるのではなく、1週間前ぐらいには終わらせてテスト当日までワーク等を何度もひたすら解くという勉強方法で頑張りました。分からない問題はそのままにするのではなく、先生や友達に積極的に聞くということを特に努力しました。指定校推薦では、評定が一定レベルでないと資格が得られないので、評定を上げるために特に大事なテストを頑張りました。定期テストだけでなくその教科の授業の小テストはいい点数をとれるように予習や復習を頑張りました。また、定期テストではワークなどの提出物をしっかりと出すようにして、内申点に響かないように心がけました。

2つ目は生活態度です。遅刻はもちろんのこと、早退や欠席を極力しないように体調管理をしっかりとって次の日に備えるようにしました。また、服装や頭髪等をきちんと整え、人前に出ても恥ずかしくないように精進し、日々を過ごしました。仲の良い友達とも授業中に話し合いの機会を求められたら話し合い、見解を述べました。

■先生方も親身になって アドバイスしてくださいました

3つ目は面接です。指定校が決まった後は、試験に向けた面接練習に入りました。面接練習では様々な質問のパターンを想定し、何度も繰り返し練習しました。先生方も親身になってアドバイスなどを与えてくださり、しっかり面接対策を行うことができました。そして面接本番では緊張はしていましたが、練習の甲斐もあり自分の意欲をしっかりと伝えることができました。

仙台育英での3年間は、コロナによる様々な影響もありましたが、オンライン授業などの先生方の対応のおかげで、楽しく充実した日々を送ることができました。また、この3年間で新しい人間関係の構築やコミュニケーションの取り方、自分から積極的に行動することの大切さを学ぶことができました。

令和6年3月 技能開発コース卒
高砂中出身

進路が早めに決まった場合は 対応する講座の受講をおすすめします

■校内模試の対策には

ちょっとした空き時間を活用

私は高校入学後から、指定校推薦を視野に入れていました。将来私が、どの分野に進みたいと思っても大丈夫なようにするため、1年生の頃から良い成績を残せるように心がけてきました。そして2年生の2学期のとき、パソコンの道に進みたいと思い、志望する大学を探していたときに東北文化学園大学のことを知りました。少数教育やTA制度などの充実したカリキュラムを教育方針としていることに魅力を感じ、オープンキャンパスに参加しました。そして実際の校舎の雰囲気や講義のわかりやすさが決め手となり、志望することを決断しました。それからは、合格を目標にこれまで以上に良い成績を残せるよう意識しました。3年の校内模試では、寝る前や入浴中などの隙間時間を活用して勉強し少しでも良い点を取れるようにしました。そして志望理由書の添削や面接練習を先生方にお願ひし、対策してきたからこそ目標に近づくことができたと思います。

■無遅刻無欠席が

当たり前のできる環境を

指定校推薦では平均評定が大事だと思います。行きたい大学があり、指定校推薦の枠数があつたとしても、平均評定が足りなければ推薦をもらえません。そのためにも、体調管理や無遅刻無欠席など当たり前のできることから心がける必要があります。そして普段の授業もしっかり集中し、提出物は後回しにはせず、すぐ取り組むよう心がけた方が良いでしょう。考査では先生の話をよく聞き、出題範囲や重要な箇所をしっかり理解します。わからないことがあれば、遠慮せず先生に質問して良い点を取り高い評定を残しましょう。特に1年生の時は、勉強が2年生や3年生よりも簡単ですので1年生の頃から頑張った方が良いでしょう。次に大事なものは面接だと思います。他が良くても面接で答えられなければ落ちてしまいます。ですので先生方とたくさん練習し慣れた方が良いでしょう。行きたい大学が1年生や2年生の時点で決まっているのであれば面接対策講座を受けるといいと思います。進路実現のため頑張ってください。

令和6年3月 技能開発コース卒
塩竈 第二中出身

受験当日は練習の甲斐あって 自己採点で100点の面接ができました

■学校にギリギリまで残って 自己推薦文の完成まで頑張りました

3年生になり大学進学を本格的に意識し始め、いろいろな大学のホームページやパンフレットをじっくりと見て、カリキュラムや就職実績などを元にして大学を決めました。目標の大学への合格へ向けて、自己推薦文や面接練習などに取り組みました。自己推薦文は夏休み頭から取り組み始め、たくさんの先生方に添削していただき、毎日学校が閉まるギリギリまで残り、自己推薦文を完成させるために頑張りました。最終的に完成したのは締切最終日で、もっと早く計画的に取り組んでいれば、余裕を持って仕上げられたなと強く思いました。

その後に待っていたのは面接練習でした。私は人と喋ることがとても得意でしたが、面接は一筋縄では上手くいかず、空気感や話し方など、普段の会話とは全く違う環境の差に圧倒され、聞かれたことに対して上手く答えることが出来なくて、言葉が詰まってばかりでした。上手く喋れないことへのストレスでご飯が食べられないこともありました。しかし、練習を重ねるにつれて、少しずつ自分の中で何をしたいのかが明確になっていき、次第にスラスラ喋れるようになって、面接練習が楽しくなっていました。

■苦勞して目標を達成できたことは とても良い経験になりました

試験当日、私はその日までに面接で何を聞かれても答えられる自信があったので、緊張もそれほどすることがありませんでした。面接本番、私は言葉につまることなく喋ることができ、自己採点で100点をつけられるほど面接が上手く行きました。試験室から退場した瞬間の達成感はとても気持ちがよく、清々しいものでした。

これまでの人生で、ご飯が喉を通らないほどのストレスを感じながらも目標達成に向かって頑張ってきたことは、本当に数えられるほどしかなかったのもので、とてもいい経験になりました。

これから私は大学生活を送ることになりますが、自分に足りないものをはっきりと明確にさせて良い部分は伸ばし、悪い部分は改善していき、4年間の学びを通して、つきたい職に就けるように頑張っていきたいと思います。

高大連携講座への参加を通して 自分の興味を再確認しました

■ 1・2年生で積み上げてきた 頑張りが合格に繋がりました

この度は、幸いにも東北医科薬科大学に合格出来ました。私は指定校推薦で大学に合格しましたが、実際には高校3年生になるまで指定校推薦どころか、はっきりとした進路を決められずにいました。高校1・2年生で行われた様々な大学の講義を見ることができる夢ナビをきっかけに様々な学部を知り、実際に興味があった学部に関わる高大連携講座や大学のオープンキャンパスに参加しました。その中の1つである東北医科薬科大学の高大連携講座を通し、自分が薬に興味があることを再認識し、薬学を学ぶことに決めました。その結果、いろいろな学部について理解したうえで納得のいく進路を決めることができました。

当初は一般入試や公募推薦を考えていましたが、高校3年生になってから自分の志望大学の指定校推薦があることを知り、入学できるチャンスを増やすために指定校推薦を決めました。高校3年生という遅いタイミングであったにも関わらず、校内選考を通り、指定校推薦の枠に入ることができたのは1・2年生で積み上げてきた頑張りがあったからだと思います。

■ 放課後や部活動後にも オークルームで勉強

私は高校1年生の時、中学校と高校の学習内容の差に苦戦し、思う通りの成績を取ることができませんでした。このままでは今後のためにならないと考え、高校2年生以降の定期考査では納得のいく成績を取れるように努めました。また、オークルームで実施されている atama+ を利用し、放課後や部活後にも勉強習慣をつける工夫をしていました。その甲斐があり、高校2年生以降の成績は少しずつ上がるようになりました。

勉強面以外でも、高校1年生の時から部活と生徒会に入り、高校2年生からは生徒会役員として生徒会に参加してきました。これらの活動を通し、コミュニティを広げることでコースに関わらずたくさんの仲間と出会い、勉強に関しても切磋琢磨して合格を目指すことができたと感じています。

他にも、私はハワイへ語学留学に行きました。前文にもある通り、私は最初、様々な分野に興味がありました。その中でも薬学以外に国際関係学に魅力を感じていました。留学という経験を通し、国際関係という枠を超えて多種多様な観点から視野を広げることができました。

最後になりますが、遠回りになってもその経験を通してでしか得られないものがあると思います。もし、やりたいことや興味が少しでもあるならばぜひ挑戦し、中身を深めてみることをお勧めします。仙台育英学園では興味のあることをさらに深められる機会があると私は思います。学年問わず、大学のオープンキャンパスや高大連携講座、サイエンスコラボなど身近でできそうなところから始めてみるのも1つです。

皆さんの高校生活がより実りあるものとなるように願っています。

東北医科薬科大学 薬学部 生命薬科学科に
指定校推薦で合格

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

定期試験の結果や部活の実績も 勝負の分かれ目になります

■テストは2週間前から対策しれ 部活との両立を頑張りました

私が、指定校推薦で大学に進学しようと思ったのは、高校2年生の時でした。進路について真剣に考え始めた高校2年生の頃、部活の先輩に、指定校推薦の枠が取れたら大学への進学が楽になるから、生かした方がいいと教えられました。指定校推薦について調べると、私が行こうと思っていた大学にその枠があることを知り、推薦を使うことを決めました。

資格は、部活もあって取るのが遅れましたが、2年生の冬ごろに英検準2級を取得しました。また、校内選考を通るために、評定は5に近く、出席日数はなるべく10日を超えないように努力しました。定期テストに関しては、クラス内順位よりいかに5に近づけるかに注目して頑張りました。テスト対策は2週間前から計画的にやることで、部活との両立を頑張りました。校内模試の勉強に関しては、自分は英語と数学を勉強しました。特に数学は2カ月ほど前からテキストなどで勉強しました。指定校推薦は学業重視のため、校内模試での高い順位が必要になります。そのため同じくらいの学力の人と順位の競い合いになった時、今までのテストの結果や、部活動の実績も重視されます。そのため、勉強も部活もなるべく大切に、文武両道を目指すことが重要だと考えます。

■3年間はあっという間、 1日1日を大切に過ごしましょう

私は指定校を取ったあとでも、オープンキャンパスには参加せず、キャンパスの場所や空気感を体験することなく、面接の日になってしまったので、何か聞かれた時のためオープンキャンパスに参加することをお勧めします。高校より大学のほうが勉強する期間が当然長いので真剣に考えたほうがいいと思います。部活などをしていたら3年間はあっという間に終わるので、1日1日を大切に過ごしてください。応援しています。

令和6年3月 英進進学コース卒
上杉山中出身

英語に触れる機会が多い英進で 英会話の楽しさを知りました

■大学でももっと英語力を 高めていきたい

私は、高校1年生の頃から指定校推薦を視野に入れていました。そのために、定期テストでは高い評定が取れるよう、2週間前から何度も繰り返しテスト勉強に取り組みました。また、平常点も大切になってくるので、授業中にとるノートを自分なりに工夫したり、ノートやワークなどの提出期限を守るなど、最大限自分にできることに取り組みました。また、部活動で部長を務めたことは、自分の強みになりました。志望大学を決めたのは3年生になってからでした。

私は英進進学コースということもあり、英語に触れる機会が多くあり、英会話の授業などで英語を使って会話することの楽しさを知り、大学でももっと英語力を高めていきたいと思ったことがきっかけで、英文学科を志望しました。まず、指定校推薦を取るためにはなるべく高い順位を取ることが大切だと思いました。その他にも、評定や資格があると有利だと思うので、日々コツコツと勉強に取り組むことと、なるべく早めに英検などの資格をとった方が後々自分のためになると思います。私は英検準2級以上を持っていないくてとても後悔したので、これから受験を目指す方は積極的に資格にチャレンジしてください。

■英文学科を受験したので面接は 英語担当の先生にお願いしました

3年生になってから、指定校推薦の予備調査や重要な校内模試が始まるので、その前から志望大学や何を準備すべきかを考えることが大切です。また、勉強と部活動が忙しい時期になるので両立できるようにスケジュールの管理も大切です。指定校推薦では小論文と面接がほとんどです。そのため、小論文が得意な先生に見てもらって何度も練習したり面接も何回も取り組むことが大事だと思います。私は英文学科を受験したので英語担当の先生にお願いしました。

私は志望大学を決めるのが遅く、後悔したこともあったので、皆さんは何事も早めに取り組んで全力で頑張ってください。応援しています。

令和6年3月 英進進学コース卒
佐沼中出身

指定校推薦で受験することを 入学時からの大きな目標に

■自分の短所や長所も

しっかりと考えて向き合えました

指定校推薦での受験をしたいと考えていたため、高校1年生の時から、定期テストを一生懸命に勉強して良い成績を取れるようにしてきました。また、生活する上で当たり前のことはできるように心がけていました。私は、指定校推薦を取るために大きく関わってくるとされている校内模試では、過去問も直前に手をつけ始めたため、自分の思うような結果ではありませんでした。やはり、直前ではなくもっと前から対策をしておくことが大切だと感じました。また、日頃の授業を真剣に取り組むことであったり、提出物や課題を期日通りに提出することをして、高い評定を取れるようにしてきました。このような日頃の積み重ねで指定校推薦をいただくことができました。指定校推薦が決まったからは自己推薦書の作成をしました。高校生活のことや自分自身のアピールポイントを書くので、最初は書くのが難しかったのですが、自分がこの大学でどんなことを学んでいきたいかであったり、自分の強みを細かく理解し将来の夢や自分の短所や長所も深く考え書くことができました。

■合格の結果が出た時は

心の底から嬉しい瞬間

大学の入試では、小論文と面接の試験があり対策をたくさんしました。小論文と面接の試験があり対策をたくさんしました。小論文では過去問を何回も何回も解き、先生に添削をしていただきました。最初はグラフの読み取り方も分からず、文字数も足りなかったりしていましたが、回数を重ねるごとに、表やグラフの読み取り方や言葉の使い方に気をつけて書くのを心がけていくことができました。面接練習でも、過去に開かれている質問を中心にそれ以外も様々な質問に答えられるように何回も何回も練習しました。いろいろな先生方とすることで、一人一人の先生の面接の感想や指摘してくださるところが違うので、いろいろな先生方と練習した方が良いと思いました。また、日頃からテレビでニュースを見ておくこともとても大切だと感じました。受験を終えてからは、不安がありましたが、これまで小論文や面接の練習を何回も行っており、先生方にもたくさん練習をしていただき、自分がやってきた中で最前を尽くしたので本当に合格といった結果が出たときは心の底から嬉しかったです。

何事にも日頃の積み重ねが大切だと気づかされたので、これからも少しずつコツコツと積み重ねていき、将来になげられるようにしていきたいと感じました。皆さんが希望する大学に合格することと将来が良いものになることを応援しています。

令和6年3月 英進進学コース卒
将監中出身

大学受験の方法は複数決めて 選択肢を準備しておいてください

■小テストは高得点が取れるように 一生懸命勉強をしました

私が大学進学を目指したきっかけは、宮城学院女子大学の現代ビジネス学科で学んでみたいゼミがたくさんあり、自分の将来の夢に近づける第一歩となると確信したからです。また、家族が私のやりたいことを一番に理解し、応援してくれたことが決め手となり、心強かったことです。ですから、皆さんも家族と相談し話し合うことで少し楽な気持ちでいられると思います。

私は指定校推薦で受験しました。高校2年生の冬ぐらいに最初は総合型選抜で受験しようと思っていたので、定期考査や様々な授業の小テストの高得点が取れるよう、一生懸命、たくさん勉強しました。その結果、評定には困ることなく大学進学への一歩となりました。そして、高校3年生の夏には指定校推薦の枠が取れることを知り、私は指定校推薦で受験することを決めました。学校推薦型でも総合型選抜でも受験ができるように勉強をしておくことが大切です。

また、私が一つ後悔していることはもっとたくさんの資格を取ることです。部活をやっていたこともあり、定期考査などで手一杯で資格を取る時間が得られませんでした。自分の効率が悪く、もっと計画的に勉強に目を向けられていたらと後悔しました。したがって、高校最後の総体に力を入れることも大切ですが、勉強も視野に入れておいたほうが今後のためになると思います。

■志望動機はしっかりと決めて 面接で内容がぶれないように

定期考査の勉強方法として、私は文系であったため暗記が多かったので、とにかくたくさん書いて覚えしました。数学に関しては、一番苦手な科目としていたので、優先順位を考えて勉強に取り組みました。自分に必要な科目を見つけ、評定を取ることが大事だと思います。私の受験方法は面接と小論文。一番大変だったのは面接で話す志望動機と小論文でした。まず志望動機が明確でないと、次に話す内容が一致しなくて全ての内容が変わってしまったことに苦戦しました。話す内容を決め手から考えること。小論文はとにかくたくさん練習すること。自分がどういうところが苦手なのかが分かるので練習あるのみだと思います。

最後に一番気をつけていたことは体調管理です。高校3年生になったら受験の始まりです。受験間近のとき、私たちの周りではインフルエンザが流行っていたため、感染対策は徹底していました。受験が近くにつれ、大変なことが多くなったりするのでそれに負けずに頑張っておきたいです。

令和6年3月 英進進学コース卒
鹿島台中出身

受験は一人で頑張るものではなく 周りの人の協力も支えになります

■小論文は先生にお願いして 何度も添削してもらうことが大切です

志望大学を決定したのは3年の春頃で、周りと比べたら遅い方だったのではないかと思います。しかし、大学進学を目指すにあたって、勉学は必ず必要となってくるものなので、受験を意識し始めた二年生頃からテスト勉強に力を入れていました。また、私はバドミントン部に所属していたため、勉学と部活動の両立を目指し、受験で自分をアピールしようと考えていました。

私の受験方法は、面接と小論文だったのですが、今思うともっと早く受験対策を行うべきだったと感じました。特に、小論文対策はすればするほど自信がついてくると思い、回数を重ねることが大事だと思いました。私は過去問を何度も解き、国語科の先生に添削をお願いし、一題につき三回ほど解き直しをしました。しかし私は受験当日三週間前ぐらいから対策を行いましたが、完璧と言えるほど自信をつけることができなかったのも、何度も添削してもらうことが大切だと考えました。

■面接対策は、先輩方が残した 過去の面接のレポートが役立ちました

また、面接では志望大学のことをどれだけ知っているかということが大切になってくるため、オープンキャンパスに積極的に参加して志望大学について詳しく知ることが大事だと感じました。オープンキャンパスに参加した際にそれぞれの学部で学べることや宮城学院女子大学の魅力や特徴を知ることができ、面接で質問に答える際にとても役に立ちました。先輩方が過去の面接のレポートを残してくださっていたため、そこから情報を得て、一人の先生と何回も練習を行うのではなく、たくさんの先生と練習を行うことでさまざまな視点から質問をしてくださるので、とても練習になりました。

このような経験から、受験は一人で頑張るものではなく、たくさんの人に協力してもらいながら行うものだと思います。どの入試方法だとしても自分一人では乗り越えられるものではないです。もちろん自分の努力も大切になってくるので、後輩の皆さんには頑張ってくださいと伝えたいです。

令和6年3月 英進進学コース卒
塩竈 第二中出身

受験に向けて今から何ができるかを 早い段階から考え取り組みました

■頑張ってきたことが多いほど 焦らず答えられます

私は、高校入学時から大学進学を考えていたため定期考査や提出物には特に力を入れて取り組み、他にも英検取得やボランティアへの参加をしました。また、無遅刻無欠席を心がけていました。自分の出来る基本的なことが何かを考えて取り組んできました。大学受験の面接では、高校生活で頑張ったことやボランティアの参加について内容を深く聞かれるため具体的に話せるような対策が重要だと思いました。

1回だけではなく、何回も大学の説明会やオープンキャンパスに参加して、いくつかの大学を見比べ、どの大学が自分に合っているのか早い段階で始めた方が良いと思います。私は授業や講義だけでなく、大学の雰囲気や行事、先生、先輩の皆さんに注目して進学先を選びました。

授業中の分からないところや疑問点は先生に聞いたりクラスの友達に聞いたりしてすぐに解けるように心がけて授業を受けていました。

私は部活動に入っていなかったので、自己PRや志願理由書の長所での話題が少ないと感じ、資格取得やボランティアの参加などで高校生活で頑張ってきたことを言えるようにしました。面接では、長所と自己PRどちらも聞かれたので、頑張ったことや努力してきたことなどのレパートリーが多いと焦らず答えられると思いました。進学の目的が明確にある場合は、その分野に沿ったニュースなどを見て知識を増やすことも大事だと思いました。

■先に受験が終わっている人に 面接練習を手伝ってもらいました

指定校推薦は文章を書く量が多く、受験日も遅めなので疲れますが、今までの自分の頑張りを強く示すことができ自信を持って受験することが出来ます。進学を考え1年次から努力してきた人にはとても合っている受験方法だと思います。

私は小論文対策が不十分でしたが、とにかく書いて紙を埋めることを目標にしました。どんな課題が出るのか、どんな形での問いなのか不安になりましたが、緊張せずに自分の考えたことをひたすら書いていけばなんとかなります。でも、練習するにこしたことはないのいろいろな先生に添削をお願いしたり、書き方について教えていただくと本番でも書けると思います。

指定校推薦は、専門学校の人や自己推薦の人たちに比べて受験日が少し遅いので、先に受験が終わっている友達やクラスの人に面接練習を手伝ってもらうことはとても良かったと思います。言葉遣いや受け答えについて事前に教えてもらい形をつくることで、先生との練習でもスムーズに進めることができると思います。

やらなければいけないことがたくさんあって、プレッシャーもあると思いますが、後悔しない受験にできるように頑張っています。

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
鹿島台中出身

部活に勉強に頑張った 3 年間は あったからこそ今がある！

■先生の丁寧な指導のおかげで

ラクロスの基礎は完璧になりました

私が指定校推薦の受験資格を得るために頑張ったこととして二つ挙げられます。

第一に部活です。ラクロスという、初心者しかいない部活に入り不安もあったのですが 3 年間続けられました。一年生の頃は、コロナが流行っていたのでなかなか思うように練習ができずにいました。分散登校という形で週 3 練習が続いていて、ルールも分からずこのまま続けていても意味ないのかと思う毎日でした。しかしその中でも先生方は優しく丁寧に基礎を教えてくださいました。隅から隅まで教えてくれたおかげで基礎は完璧になり、先輩方とミニゲームまでできるようになりました。二年生の頃からは本格的に皆と練習ができるようになり大学生や都内の高校生と交流も増え楽しい日々が続きました。試合で自分の実力を発揮できなかった時はとても悔しかったですし、改善点を見つけるまで時間がかかっていました。先輩方と同じチームで出た最後の試合では、シュートを決めることができ楽しかった思い出として残っています。先輩方が引越してからは人数が少なくなりミニゲームもできない中で毎日頑張っていました。それでも、同期の仲間と練習すること自体楽しく一緒に技術も向上できました。3 年間はすごく長い期間でしたが最後まで頑張ることができました。

■2 年生で必死に勉強したおかげで

今まで以上の点数をとれました

第二に定期考査が挙げられます。勉強があまり得意ではなかったので、一年生までは気にせず、勉強をしないでテストを受けていました。しかし、二年生からは指定校推薦という受験方法を知り頑張って勉強するようになりました。定期考査前はしっかり覚えられるまで頑張りました。頑張ったおかげでテストの点数もあげることができ今まで以上の点数をとれたと思っています。これまでの努力はとても大事だったし、今まで頑張ってきて良かったです。部活や勉強も、とても大変な 3 年間はあったからこそ今があると思っています。3 年間の努力を無駄にしないように、大学ではもっと上を目指して頑張りたいと思っています。

令和6年3月 英進進学コース卒
塩竈 第二中出身

チャレンジ精神を大切にしながら 中身の濃い3年間にしましょう

■面接練習は、目線や話の抑揚など 細かな部分にも重点を置きました

私は、学校推薦型選抜を利用して大学受験に臨みました。この方法で受験した理由は、常日頃の努力が影響するからです。私は部活動に所属していたため、文武両道を心がけていました。勉強を疎かにしないためにも、授業中は集中して問題に取り組み、テスト二週間前から勉強していたため、評定5近くをキープしていました。このような今までの努力を見てもらいたい、と思ったのが選んだ理由になります。そして合格するために、小論文練習や面接練習を数多く行いました。目線や仕草、話の抑揚など細かな部分に重点を置き、面接練習を行いました。自分が納得するまで練習することで、より良いパフォーマンスができることを学びました。

■さまざまなことを考え挑戦して 成長にも繋がった高校生活でした

高校3年間はあっという間に過ぎていきます。常に後先のことを考えながら、計画的に物事を進められるように考えておくのが大切になります。

高校生活を通して自分の成長にも繋がりました。新しい環境でどうやったらなじめるのか、早く慣れるためにはどうすればいいのか、新しく友達を作るためにどうやってコミュニケーションを取るか、さまざまなことを考え実行してきた3年間になりました。新しい環境で大切になってくるのはチャレンジ精神です。いろいろなことに挑戦し成功だけではなく失敗は自分の経験となり次に活かすことができます。やらないで後悔するよりもやって後悔するという言葉を心に受け止め、生活することでより中身の濃い3年間になると思います。

前の文章に述べたように高校3年間はあっという間です。自分の成長になるように、時間を無駄にせず過ごしていくことが大切です。

東北文化学園大学 経営法学部 経営法学科に
指定校推薦で合格

令和 6 年 3 月 情報科学コース卒
増田中出身

休み時間や自習の時間にも 友人と面接練習を重ねました

■受験を意識しながらも

学校を全力で楽しんでください

私は東北文化学園大学を指定校推薦で受験しました。指定校推薦は校内選考を突破する必要があるため、1 年生の時から推薦枠を取れるように、無遅刻無欠席を徹底し、授業態度や提出物をしっかり提出することを心がけました。また、情報科学コースで取得できる情報処理検定や MOS の資格の勉強、体育祭などの学校行事に実行委員長として積極的に参加しました。

入試面接練習では先生方にご指導いただき、休み時間や自習の時間を活用し、友達と練習を積み重ねたので、受験当日は自信を持って面接に臨み、無事合格することができました。

高校 3 年間はあっという間なので、受験を意識した日々の生活と友達との時間を大切にして、充実した学校生活を全力で楽しんでください。

令和6年3月 情報科学コース卒
向洋中出身

まず高校生活を楽しみながら 受験も意識して生活しよう

■校外学習での経験が 志望大学決定のきっかけ

私は、2年生の終わり頃までどこの大学に行くか決まっていませんでした。そこで、校外学習で行った大学のことを思い出し、大学について調べました。調べていくうちに大学に興味がわき、推薦枠もあったことから指定校推薦で大学に入学したいと決めました。私が大学合格までに取り組んだことは主に3つあります。

一つ目は評定平均を上げることです。評定平均は指定校推薦で受験をする人はとても大事です。上げるためには、まず1年生の頃から定期考査ではなるべく高い点数を取る。そして、課題提出や普段の授業には真剣に取り組み、評定平均を高いままにしておくことが大切です。

二つ目は学校を休まないことです。指定校推薦では、試験を受ける条件として欠席日数が指定されることがあります。そのため、欠席日数が多いと受験できる大学の幅が狭くなってしまうので、なるべく休まないようにしましょう。

三つ目は何でもいいので、とにかく資格を取得することです。資格はどんな受験方法でも自分をアピールできます。自分が受けた大学では、出願資格に英検や英語に関する資格を必要としていませんでしたが、いろいろな大学で英検や英語の資格を必要とするところが増えているので、取得した方が良いと思います。

■学校での多彩な経験は 自己アピールなどで役立ちます

また、指定校推薦で大学を受験することを考えている人は、部活動に所属することをおすすめします。自己推薦書や自己アピールの際にその経験が役に立つはずですよ。

面接練習はなるべく早めに始めた方がいいです。大学で何を学びたいのか、将来どういう仕事に就きたいかを明確にしておくといいですよ。

後輩の皆さんにはまず高校生活を楽しんでほしいです。ただ、遊びすぎず、受験のことは頭の片隅に置いていてください。そして、高校生活はあっという間に過ぎます。充実した高校生活を送れるように頑張ってください。

1年生から大学受験に意識を向けて 学校生活を送ってきました

■定期試験や校内模試など 早めの準備が欠かせません

私は学校推薦型（指定校推薦）で受験しました。校内で志望する大学の推薦枠を勝ち取るために、1年次から定期考査や提出物を徹底して頑張りました。2年次から校内模試に向けた勉強を始めました。AJは模試が多かったので、どういう問題でも慣れておく練習をしていました。3年次に、本格的に校内模試の過去問を解き始めました。私は理系だったので、理系の中で何位以内に入らないといけないというプレッシャーもあり、もっと早くから準備をしておくべきだったと後悔をしました。ただ推薦枠を取ることに必死になって努力していたことは、合格後のいま改めて考えるとほんとに頑張ってたよかったと思いました。「学校推薦型だから頑張らなくていい」は間違いで、校内模試では上の順位の人から枠が埋まっていくので、実際に志望大の枠を取れなかったという人を何人も見ました。

■先生方との面接練習は とにかく早めにやっておこう

枠を取れた人は、受験に向けての面接練習や小論文、口頭試問の練習が始まります。私は、面接とその科に沿った口頭試問がありました。受験前の2週間で、面接で話す内容を考え、口頭試問にむけた勉強を再復習しました。たくさん先生の先生方に面接練習をしていただいたり、専門分野の先生に問題を出していただいたりなどしました。受験本番に向けてもやる事が多かったのですが、余裕を持って練習を始めると、最後になって焦らないで本番に備えることができると思います。面接練習はやったらやった分自信になりました。友達に合わせるのではなく、自分がどのくらいしたら安心して本番をむかえられるのか、しっかり考えて先生方に早めに面接練習予約を入れておくのがいいと思います！3年間の努力が無駄にならないよう頑張ってください。

令和6年3月 フレックスコース卒
鳴瀬未来中出身

事前練習を重ねるほど 面接本番で自信ができました

■ 評定5を目標に掲げて

友人にも手伝ってもらいました

大学合格まで頑張ったことと言われて一番最初に出てくるのは部活です。三年間部活動をして、最後までやり切る力や継続力が付きました。その事を生かして、定期考査も評定が5になるように勉強を続けました。オール5を取することは出来ませんでした。が、国語や英語は常に高得点を狙って勉強をしました。苦手な数学は評定5を貰えたことがありませんでしたが、なんとか友人に手伝ってもらいながらギリギリをキープしました。指定校推薦を貰うために校内模試が大切になります。1点でも多く取ることが大切だし英語は絶対できた方がいいです。私は文系だったので、国語と英語の点数が基準でしたが、英語をもっと頑張れば順位も上で補講も受講せず良かったのに、と後悔しています。英語の基礎力は身につけておくことをお勧めします！

■ たくさん練習を重ねて

よかったと心から思います

勉強についてはここまでにして、指定校推薦を貰えると聞いた時はとても嬉しかったし、決定した時はより嬉しかったです。私の試験内容は小論文などなく、面接練習のみでした。面接練習をするにあたって、自分の長所と短所、高校生活で頑張ったことを聞かれるのが一般的です。部活動をしていたので、悩むことなく話す内容を考えられました。面接練習で担任の先生や国語の先生にお願いしましたが、練習するだけ自信がつくので、受験生は最低でも4回はするといいです！受験当日は待ち時間の方が長く感じましたが、面接は楽しくできたし、受かった自信しかありませんでした。たくさん練習してきて良かったと思いました。

受験生の皆さんは評定オール5を目指して頑張ることと校内模試を1点でも多く取ること、高校生活で自分の強みを見つけられるように過ごしてみてください！校則をやぶらず楽しんで学生生活をしてください！

日常で感じる興味や関心を大事にして 将来の目標を見つけよう

■「やる」「まもる」という

習慣を先につけておきましょう

私は指定校推薦という形で尚絅学院大学に合格しました。私が受験方法や希望する大学を考え始めたのが2年生の後半でした。それでも1年生の頃から自分が選べる選択肢を増やせるように意識して取り組んでいたことが3つあります。

1つ目は定期考査の取り組みです。定期考査の点数は評定に直結し、特に推薦をもらう時に必要です。対策プリントは1回だけではなく、2回3回と解くことを意識しました。また、問題の解き方を友人に教えることで問題の理解度を上げることができました。

2つ目は些細な興味や関心でも大切にすることです。私は具体的な将来の目標がありませんでした。しかし、日常や授業で興味を持ったことを調べてまとめると、もっと追求したいこと、やりたいことと、そうでもないことの選別をすることができました。そこから自分で学びたいことを自由に組み合わせることができる尚絅学院大学への進学を決めました。

3つ目は提出物の期限や時間を守ることです。周りに飲まれたり、1回の怠慢が習慣化してしまったりすると、平常点に響くことはもちろん、大学に入ってから急にできるようになることはないので「やる」、「まもる」ことを早いうちに習慣化されることは大切だと思います。

先生方との緊張感のある面接練習の体験が 本番で大いに役立ちました

■自己推薦文の作成は スケジュールに余裕を持つ

私は、尚絅学院大学 人文社会学群 人文社会学類に指定校推薦で合格しました。私が大学進学を目指したのは高校2年生のころです。進路を決めるのは、早ければ早いほど良いと思います。早ければ、それに向けての準備や勉強が出来ます。大学選びで大事なことは、自分の将来の目標に合っていることです。様々なことに目を向けると、将来の視野も広がってきます。指定校推薦の試験日は11月頃になります。目指す人達はまず、自分の通う高校から指定校推薦の枠を貰わなければなりません。そのためには3年間、成績、出席日数、学校での生活状況等が良好であることが必要です。最後に、指定校推薦を貰うための、自己推薦文を書き、先生方にみてもらい、そこで指定校推薦の枠をいただけるかを判断してもらいます。この自己推薦文は夏休み前から書き始め、9月に提出します。夏休みには学校に来て書き、9月も毎日残り、徹夜で毎日書き直ししていたのは大変でした。そこで私はもっと計画的に前から行っていたらと後悔しました。

■面接はとにかく緊張しますが 内容をしっかり伝えること

指定校推薦の枠をいただいたあとは、人によりますが、私は試験と面接があったので試験勉強と面接練習を毎日行いました。大学を目指す決めた私は必死に練習をして辛かったこともありました。面接練習で1番大切なことは数をこなすことといろいろな人とやることです。1人だけと何回もやることもいいですが、本番は全く知らない人と面接をするので、1人にな慣れてしまうと本番はとても緊張し、言うことが飛んでしまうことがあると思います。練習ではたくさんの質問に答え、質問に慣れることと、いろいろな先生とやるのが大事です。学年主任の先生や、教頭先生にやっていただいた練習は、今考えるととても有効的でした。本番はとにかく緊張します。言いたい内容が飛んでしまうこともあるかもしれませんが、そのときは少しお時間をいただき、考える時間をつくります。何も言わないことがいちばんだめです。合格発表までは毎日緊張していました。その後は指導などを受けないよう生活しました。人生で1度の大事な進路を決める時なので、悔いの残らないようにがんばりました。

令和6年3月 英進進学コース卒
七郷中出身

成績は常に上位をキープすることで 大学受験を見据えた準備ができます

■母と同じ大学をめざしたい

強い気持ちで受験に向き合いました

私が大学進学をめざした理由は、自分の将来の夢の達成に繋がっており、私の母親もその大学の卒業生だったからです。受験方法は元々総合型選抜での受験を考えていましたが、大学側に自分の強い気持ちを伝えたいと思ったので学校推薦型選抜を選択しました。受験方法が決定した時点でもうすでに受験資格を得られる状態でした。そういった状態でも英検の取得、受験の準備などを行い安心してしまわないよう努力しました。

様々な準備や対策をする中で一番大変だと感じたのは面接練習です。私は、本番の1カ月前に先生方との練習をはじめました。それまで、言うことを実際に文字を起こしてまとめたり、頭の中で整理したりしていたので大丈夫だろうと思っていました。しかしいざ人を目の前にしてみると、まったく話せず頭が回らなくなってしまいました。とてもくやしいと感じましたが、逆にそれがもっと努力しようという気持ちに変わりました。先生にいただいたたくさんのアドバイスを紙にまとめて改善点がすぐに分かるようにしました。そんな中、本番二週間前にインフルエンザになってしまいました。一週間も練習ができないという焦りもありましたが、早めに様々な準備をしておいて良かったとも思いました。練習最終日には、担任の先生に準備をしていない質問に素早く答えるという練習をしていただきました。この練習のおかげで準備したものを完璧に答えるのではなく、その場で考えて思ったことをすぐに言葉にするという力がつきました。本番では志望動機について多くの質問をされました。その他の質問は、先生との練習のおかげで考える時間も少なくスラスラ答えることができました。そして無事に合格できました。

■体調のことも日程に入れて

練習はすべて早めに行いましょう

私の経験を踏まえて後輩の皆さんに3つアドバイスがあります。1つめは明確な志望動機を持つということです。これは志望理由書や面接で使うことが多いからです。考えなくても自然と話せると良いと思います。2つ目は定期考査では常に上位をキープすることです。どこの大学に行きたいか決まっていなくてもテストを頑張っていれば成績でいけない大学が出てくることも少なくなります。また面接で自己PRとして話すこともできます。3つ目は面接練習はなるべく多くの先生と早い時期からはじめることです。私のように本番前にインフルエンザになり一週間練習できなくなるかもしれません。またたくさんの先生方と練習することでさまざまなアドバイスを得ることができます。あまり話したことのない先生と練習することも大切です。これら3つのことを活かして、大学受験に挑んで欲しいと思います。

令和6年3月 フレックスコース卒
増田中出身

仲間や友人との時間は 忘れることのない大切な思い出

■先生のアドバイスのおかげで 自信を持って面接に臨めました

私が大学について真剣に考えたのは、高3の高校総体が終わってからです。それまでは、学業と部活動の両立を頑張っていました。私は大学進学したいと思っていたのですが、具体的な夢がなく、学部学科を決めるのに大変でした。気になる大学のパンフレットを見たり、オープンキャンパスに参加したり、調べていくうちに理学療法という職業を知りました。部活動をやってきて怪我をして、治してもらった経験から今度は自分が知識を得て、人のためになりたいという思いから理学療法の道に進もうと思いました。

私は高校1年生の頃から推薦枠で大学への入学を考えていたため、学習面ではテスト勉強や資格を取得するために過去問を解いたり、提出物を期限内に出すことを心がけて取り組みました。生活面では、身だしなみ、言葉遣い、特に体調管理をしっかりとし、出席日数には気をつけていました。さらに高3になると校内模試の結果と順位が大切になってくるため、時間の使い方や、解き方を見つけ点数を上げられるように努力しました。その他にも、小論文を何度も書いて先生に添削してもらい内容構成を教わりました。面接練習もたくさんの先生方をお願いをしてアドバイスをもらい自信を持って臨むことができ、大学合格に繋がったと思います。先生方には感謝をしています。

■参加できた行事を 思い切り楽しみました

私にとって、高校生活は3年間あっという間だった気がします。楽しいこともあれば辛いこともありました。私は部活動にも力を入れていました。毎日真剣に練習に取り組み、メンバーとも限られた時間ですが、大切なときをともにしてこられたのも思い出です。そして学ぶことができました。友人関係や時間の大切さ、何よりも仲間と出会って、一緒に活動できたことが幸せで忘れることのない思い出になりました。コロナの影響もあり、行事は3年生になって初めて体育祭と球技大会をしました。最初で最後の行事だったのですが、クラスの人とさらに仲良くなることができ、楽しめたので良かったです。これらの経験から大学で夢に向かっていろいろなことがあると思いますが、頑張りたいと思います。最後に私が言えることではありませんが、高校生活はあっという間なので、何事にも楽しんで、たくさん経験してほしいなと思います。応援しています！

令和6年3月 フレックスコース卒
青葉中出身

将来、地域の方々に必要とされる 存在になれるよう努力していきたい

■自分の思いを相手に伝える力や、 相手の心と寄り添う方法などを学びたい

私は将来、地域の方々に必要とされる存在になれるように、多くの人たちと接する職業に就きたいと考えています。私が人との接し方に関心を持ったきっかけは、重度の障害を持つ姉の存在です。人との関わりが苦手なところや強いこだわりがあるなど、落ち着きがないことが彼女の特徴です。一人で行動するのは困難な場合が多いため、生活をしていくにあたって支援が必要な姉は、家族はもちろんのこと、多くの方々に支えられ、助けられて成長してきました。その姉を見てきた私は、人との心の繋がりや相手の行動に表れる心の動きというものにも興味を持つようになりました。人間として自分の思いを相手に伝える力や、相手の感情や困難に共感して支えることができる心の寄り添い方などを学びたいと思い、福祉や心理などに関することが学べる分野がある石巻専修大学人間学部人間文化学科の地域社会支援コースを志望しました。高齢者や児童、障害者など一人ひとり違う対象者に、どのようにすれば安定した福祉サービスを提供できるのか、この大学で地域社会に関する幅広い知識と諸技能を修得するために、深く考えたり調べたりしていきたいと考えています。そして将来、地域の方々に必要とされる存在になれるように、努力していきたいと思っています。

■実績を残せたのは私の努力はもちろん 誰よりも支えてくれた両親のおかげです

私の高校生活は、新型コロナウイルス感染拡大防止により家庭学習か、オンラインでの授業が何度となく続きました。その中で、感染予防対策をしっかりと徹底しながら、新型コロナウイルスに負けない気持ちで日々過ごすことを心がけました。大変な生活ではありましたが、それでも持ちこたえてきた私の頑張りは、高校に入学してからこの3年間、ほぼ無遅刻、無欠席、無早退で来られたことに繋がりました。このような実績が残せたのは、私の何事にも真面目に取り組む姿勢と、根気強さからだけではなく、誰よりも支えてくれた両親のおかげだと思います。これから進路を決めて前に進んでいく後輩たちにも両親への感謝の気持ちを無駄には絶対にしてほしくないです。このような大きな経験をもとに大学の学びを得て、人間の尊厳のために貢献できる人材になれるように皆さんにも精進していったほしいと思います。

将来像を明確にしながら 目標に向けた努力を怠らないでください

■授業でわからないところは すぐに先生に聞きに行きました

私は高校入学時から保育士になることを目指していたので、大学進学に受けて勉強を頑張ってきました。指定校推薦を取得するにあたり頑張ってきたことは、生活面・勉強面です。先生方は日々の生活態度を見ているので、制服の着こなしや身だしなみを常に意識し生活しました。勉強面では、校内模試を頑張りました。校内模試で良い結果を残さないと指定校推薦を取ることは難しいと先輩や先生方先から聞いていたので、計画を立てて勉強し、分からないところがあったらそのままにせず授業終わりに先生に聞きに行くなど自分なりの試験対策をし努力してきました。

私の試験内容は、面接と書類審査でした。書類審査の中に含まれている志望理由書の作成も頑張りましたが、面接に力を入れました。指定校推薦での受験が決まってからは面接で話す内容を考え、国語科の先生だけでなく他学年の先生方や他教科の先生方にも添削をしてもらうほか、自分から模擬面接を申し込みに行ったりと面接に向けた対策をしました。試験当日は、少し緊張しましたが、日々の面接練習のおかげで、言葉が詰まることなくスラスラ話すことができました。受験に成功した一番の要因は、面接練習だと思いました。

■仙台育英での3年間は 毎日充実してあっという間です

仙台育英での3年間の生活は、友人と楽しい日々を過ごすことができ、毎日がとても充実していてあっという間な3年間でした。また、自分のなりたい職業の明確な目標を立て、その目標に向かってひたすら勉強を頑張ってきました。本当にあっという間な3年間なので、楽しむことはもちろん自分の将来像も考え、一生に一度の3年間の高校生活を楽しく、後悔のないように送ってほしいです。何事にも最後まで諦めずに自分の目標に向かって向頑張ってください。応援しています。

大学では自主性が重要になるので 自ら行動することは大切です

■学習面や生活態度に加えて 体調管理も大切にしました

私は、指定校推薦で大学進学をすることになりました。指定校推薦を取得するにあたり、生活面、学習面、部活動で特に意識したことを挙げます。生活面ではまず、体調管理を大切にしてきました。欠席日数が増えてしまうと指定校推薦に関わってくるため、体調を崩すことのないように努力しました。また、学校での過ごし方や授業態度、言葉づかいに気をつけました。特に授業態度が悪くなってしまうと担任の先生からの評価はもちろんのこと、全体的に評価がされなくなってしまうと思います。先生方からの信頼、評価があってこそその指定校推薦による大学進学が可能になると思うので注意して生活しました。

■小論文の構成や面接の答え方は 練習を重ねてかなり上達しました

学習面では、普段の定期テストの他に校内模試の勉強に力を入れました。定期テストは赤点を取らないこと、高得点を目指せるようにしてきました。校内模試は3学年全員が受験し、点数の順位によって指定校枠に入れるか入れないか決まるテストでもあります。私は目標にしていた大学に進学できるように勉強に励み、枠に入ることができました。枠に入れた後も油断することなく、大学入試に向けて自己推薦文を書いたり、小論文や面接練習を先生方に積極的をお願いをし、繰り返し練習をしました。最初は小論文の構成や面接の答え方もなかなかうまくいきませんでした。練習を重ねるにつれてすらすらとできるようになりました。大学では高校よりも自主性が重要になってくると思うので練習の時から自ら行動することは、大学に入学してもスムーズにできるため大切だと思います。

部活動でも学習面でも学ぶことがたくさんあると思うので、そのような部分を有効に活用していきたいと思っています。

面接練習でのアドバイス通りに 言いたいことを一番最初に伝えました

■自己推薦書に高校3年間の 出来事を詰め込もう

私は、指定校推薦を利用して、志望大学への合格を勝ち取ることが出来ました。指定校推薦を受けるためには、必須条件を満たしていることが重要です。日々の授業態度や課題をしっかりとこなし、評定を下げないことが基本です。それにプラスして、学校で行われる校内模試の結果が重要となります。

その校内模試を受けて、私は仙台大学への進学を決めました。出願に必要な自己推薦書を書くためには、自分の目標やこれまでの高校生活を振り返ることが大切です。私は高校3年間バレーボール部に所属しており、そのことをアピールしました。また大学入学後にどのような資格を取りたいか、その資格を将来どのように活かしたいか、などを書くことをおすすめします。

私が志望した仙台大学は、面接試験と小論文試験がありました。私が、面接練習をしてよかったと感じるところは、志望理由など1番大事な部分をしっかりと練習をし、本番ではスラスラと言えたことです。志望理由を言う練習で、「志望理由を言うのは最初で、1番相手に印象を与える質問だから、しっかりとスラスラ言えるようにしましょう」とアドバイスをしていただきました。実際、面接本番で志望理由をお願いしますと言われた時に、練習通り落ち着いて答えることが出来ました。面接練習では多くの先生に見てもらうことで、様々な視点からのアドバイスをいただけます。

本番当日まで練習をすることが大切だと実感しました。

■小論文にはエピソードを 具体的に入れこむことが大事

小論文については、最初は全然上手く書けませんでした。しかし、小論文の構成として問題提起→自分の意見→反対の立場の意見→結論を意識したら、上手くかけるようになったと私は感じています。自分の意見を述べる時には、具体例があると意見の説得力が増しその意見の補強にも繋がります。そのためにも、小論文に必要な知識が載っている教科書などをたくさん読んで、具体例として活用ができるよう練習しました。あとは過去問などを解いて先生に添削してもらい、アドバイスをたくさんもらい、修正すればいいと思います。志望大を決めたときの準備などが大変だと思うのですが、折れずに頑張ってください

陸上競技部で学んだこと全てが 合格につながりました

■冬期の練習はとても辛かったのですが
仲間たちの励ましで乗り越えられました

私は仙台育英学園に在学していた3年間、陸上競技部に所属していました。仙台育英学園の陸上競技部はとても強く、顧問の先生方が凄い記録を持っていた方々ということもあり、練習内容もとても濃かったため、成長を感じることができました。しかし冬期の練習は走り込みが多く辛い練習が続いていました。何度か辞めそうになったこともありますが、仲間たちの応援や励ましがあり乗り越えることができました。このように私は、仙台育英学園に在学していた3年間陸上競技部に所属していたことにより、仲間の大切さと諦めないということの大切さを知ることができました。また、練習が多い中で休みの日は勉強に取り組むなど、文武両道を目指してしました。

■部活を通して学んだ“諦めない心”は、
受験の際にも役立ちました

このような経験から私は、仙台大学子ども運動教育学部への指定校推薦で進むことを決めました。一般入試では部活動の話をアピールする機会がなく、私がアピールしたいことを伝えることができないため、部活動をアピールできる指定校推薦を選択しました。指定校推薦入試の内容は面接と小論文でした。面接の対策をしては様々な先生にお願いしていました。担任の先生だけでなく様々な先生と面接の練習をすることで質問への答えを広げることができます。小論文の対策としては、小論文を読んだり書いたりすることで小論文の書き方を覚え、上達を心がけていました。

私が受験に成功した一番の要因は部活動だったと考えています。諦めない大切さを学び、受験の際にも諦めない大切さを改めて実感したため、私は部活動をしていて良かったと思っています。

私が後輩たちに送りたい言葉は諦めないでという一言です。諦めなければ報われます。大学入学の自分を想像していきましょう。

何事にも近道はなく コツコツの積み重ねが大切です

■ネイル検定講座の資格取得では 自信を持って試験に挑めました

私が高校生活で努力してきたことは3つあります。

まず学業においては、選択科目で自分の興味関心のある教科を毎年受講してきたことです。2年生で受講していたネイル検定講座の資格取得では、今まで受けてきたような試験とは違い、実技もあるためとても不安でしたが、友達や家族、先生方に練習台になっていただき、何度も練習を重ねたことで自信を持って試験に挑むことができ、無事3級を合格することが出来ました。これらによって、自己力向上することが出来たと思います。

また、苦手科目もありましたが、諦めずに繰り返し問題を解くことで学力向上を目指しました。2年生前期では副室長を務め、クラスがより良くなるように室長のサポートなど努力しました。

■部活の仲間たちと過ごした時間は かけがえのない思い出です

部活動では、3年間弓道部に所属していました。練習中は、教え合いをして互いを高め合ってきました。大会では、思うような結果を出すことは出来ませんでしたが、責任感、チームワークの大切さなどの部活動以外のこともたくさん学ぶことができました。コロナ禍ということもあり、練習時間短縮、遠征自粛という悔しい思いもありましたが、仲間たちと過ごした時間はかけがえのない思い出です。

この3年間を振り返ると、コロナ禍でオンライン授業などもあったためか信じられないほどあっという間でした。3年生では、修学旅行、体育祭、球技大会、育英祭とたくさんの行事に参加することができ嬉しかったです。家族、先生方、友達などのたくさんのサポートのおかげで充実した高校生活を送り、勉強面以外でも多くのことを学んできたと感じました。何事にも近道はなくコツコツの積み重ねが大切と実感しました。これらのことを今後に生かしていきたいです。

楽しむことを忘れずに、 悔いのない時間を過ごしてください

■共に励む仲間の存在は モチベーションにもなります

私は、志望大学を決めることに長く時間をかけました。どうしたいかが具体的に決まっていなかった分、色々な可能性を考え、出来るだけ良い成績を取り続けることや、資格取得などの経験を積むことに重点を置きました。

成績に大きく関わる期末考査前は、学校に残って出題範囲の復習をしていました。友達と一緒に教え合いながら学習を進めることで、楽しみながら理解を深めることができました。加えて、共に励む仲間の存在はモチベーションにもなってくれるのでありがたいです。また、私は大まかにことを捉え理解する方法よりも、詳細を知る方が記憶しやすかったので、授業で板書にないことも積極的にメモを取り、足りない時はiPadを活用しました。内容をより理解するためのノートやプリントが授業中に自然と出来上がるので、後の復習が容易になり役に立ちました。自分に合った勉強法を実践してみることで、より効率良く学習することが出来るのではないかなと思います。

■どんな質問をされても臨機応変に 受け答えが出来るように練習

高校に入学するまで、何かの資格を取得した経験がなかったのですが、どれだけ自分が頑張ったと思っていても、具体的な証拠がなければ説得力がないという話を聞き、資格の大切さを感じました。英検や漢検は、パターンを覚えるまで繰り返し過去問の解き直しをしました。また、赤十字社主宰の講習に参加し、幼児安全法支援員の資格も取得しました。自分の将来や人の役に立つ資格も取得しました。自分の将来や人の役に立つ資格は沢山あると思いますので、探してみてください。

聖和学園短期大学の指定校推薦の受験方法は面接のみだったので、どのような質問をされても臨機応変に受け答えが出来るように練習しました。自分の考えた答えを一字一句間違えないように暗記しようとするのではなく、自分の考えを確立させて言いたいことを漠然と覚えておくと、とても受け答えが楽になります。楽しむことを忘れずに、自分について沢山考えて、悔いのない時間を過ごしてください！

令和6年3月 英進進学コース卒
田子中出身

努力を積み重ねた自信と経験が 評価されるのが指定校推薦です

■英検対策講座は文の読み解き方などが
よくわかり実力がつきました

私は、仙台青葉学院短期大学を目標に決めてすぐに、指定校推薦の枠があるか、そして何枠あるのかを確認しました。高校1年生の時点で、もし指定校推薦での入学をしたくなったときのためにと、日頃から自分の行動に気をつけていました。1年次には、「なるべく欠席をしないために体調管理に気を付ける」「提出物は必ず出す」「定期考査のテストは平均点を超すことを心がける」この3つに気をつけていました。基本的なことでも自分の中の目標とすることで、達成したときに少なからず自信がつきます。何事においても、自信があるにこしたことはないので、そのような観点でも、自分のためになる行動だと思います。

2、3年次には、上記に記した3つのこと以外にも何かやろうと決めていました。そこで私は英検準2級の取得を目指しました。資格取得のために私がやったことは、学校の先生方が開いてくれた対策講座に積極的に参加することです。英検以外の場面でも使える文の読み解き方などを教わることで自分の力になったと感じました。他にも、とにかく単語を覚えたりしました。その努力が実り合格できた際にはとても嬉しかったです。

■ボランティアを通して
自分の視野も心も広くなりました

そしてもう一つ、休み期間中にボランティアに参加をしました。学校生活では体験することのできない社会貢献をすることができて新鮮でした。ボランティアを通して、自分の視野も心も広くなりとても良い経験になりました。学生時代にボランティアに参加したかどうかは面接でもよく聞かれることなので、活動して損はないと思います。

そして、指定校推薦の枠が取れたあとに私が一番苦労したのは面接練習です。先生によって質問をどれくらい掘り下げるか、明るく話してくれるか厳しい口調で対応するかなど様々です。同じ先生と何度も練習しているとその状況に慣れてしまい、いざ本番のとき想像と違い焦ってしまうことがあります。そうならないためにも、練習は複数の先生に何度も相手をしてもらうことをお勧めします。

もし、指定校推薦での大学合格を目指している人は日常生活での努力の積み重ねを大切にすべきだと思います。どんなに小さいことでもそれを積み重ねることで自信と経験に繋がります。そして、その自信と経験が評価となるのが指定校推薦入試だと私は思っています。

大学入学後は資格取得に励み、 さらにスキルアップを目指します

■様々な資格や検定を取得できる

大学を志望先に決めました

この大学に進学を決めた理由は、資格や検定を取得したいと考えたからです。私は、高校3年生にもかかわらず、自分の就きたい職業ややりたいことを見つけることがなかなかできませんでした。そんな時に父から、簿記を取得できれば職業の幅が広がる、ということを教えてもらい、簿記を含めた様々な資格や検定を取得することができる大学に進学したいと決断しました。多くの資格や検定を取得するための過程の中で、様々な職業に触れることができるので、目標が決まらないまま適当に大学を決めて進学するより、広く多くの幅で学ぶことのできる大学を選択する方が将来のためになると私は考えます。また、私は数学が得意で計算したりすることが好きなため、現時点では一般企業の経理部門や銀行などといった金融機関などの、自分の好きなことや得意なことを活かせる職に就きたいと考えています。夢や目標が決められずにいる人は自分の好きなことや得意なことを見つけて、それを元に進学したい大学を選択したり、夢や目標を見つけやすくなると思いました。大学入学後は、資格や検定の取得に励み、さらに自分自身のスキルアップもできるよう頑張りたいと思います。

■指定校推薦の枠を得た人は

仙台育英代表として胸を張りましょう

指定校推薦の枠を得るには、日頃から勉強に取り組むことで、自分に合った勉強方法やそれぞれの教科の基礎知識を身につけることができます。また、仙台育英の代表として大学に入学するので普段の学校生活の中で提出物や身だしなみなどをしっかりしておくのが大切だと思います。もし指定校推薦の枠を得ることができた人は胸を張って頑張っていきましょう。

面接の質問に的確に答えられるよう 練習を必ずしておきましょう

■自分自身の個性やリーダーシップも 受験時に評価されるはずです

私が指定校推薦合格のために努力したことは、成績の向上に向けて勉強に取り組むことが重要です。定期テストや成績を上げるために、授業に積極的に参加し、宿題や課題をしっかりとこなすことが大事だと思います。個性やリーダーシップ、協調性などを評価されることがあります。また、志望大に関する情報収集や自己分析も重要です。自分がなぜその学校を志望するのか、どのような特徴やカリキュラムに魅力を感じているのかを明確にすることが求められます。そのためには、学校のウェブサイトやパンフレット、オープンキャンパスなどを利用して、情報を収集することが大事だと思います。指定校推薦での受験は面接がありますが、面接練習は必ずしておいた方がいいと思います。練習をせずに面接を受けても、面接官の質問にすぐ対応できないと思うので、2週間前から始めるといいと思います。1人の先生だけでなく、多くの先生に頼むと質問が固定しないので考えやすいと思います。

3年間はあっという間なのでこれから受験する人達に頑張って欲しいです。

令和6年3月 英進進学コース卒
東仙台中出身

受験は“当たり前”のレベルを 上げることが一番大切です

■国語・数学・英語と

まんべんなく勉強しました

私は指定校推薦の受験資格を得るために、自分の学校での生活態度に気をつけていました。挨拶をする、遅刻をなくす、制服を正しく着用、提出物は期限を守って提出するなど、当たり前のレベルを上げることが大事であると考えます。また、校内模試の結果も受験資格を得る上で重要になってくるので、国語・数学・英語とまんべんなく勉強することも大切だと思います。普段の授業からすぐ問題集を解くようにし、分からない点は先生方や友人に聞くようにしたりなど学習していました。特に、評定に関わるととても大切な定期考査前には学習に力を入れていました。私は部活動にも参加していました。少しでも多く部活動に参加することは、推薦の内定の得ること以外にも、大学受験の際の面接での内容にもプラスになるので重要になってくると思います。

■なんとかなる、ではなく、

なんとかする

私が受験した大学は、他と比べて専門的な学びをする学校だったので、オープンキャンパスに参加し、大学入学後に行う学習内容であったり、大学入学までの高校生活で何を勉強したらいいのかということを知りました。また、専門分野を学ぶ大学では面接でも志望理由などを詳しく聞かれる可能性があるため、大学や受けた授業の内容なども詳しく調べておくべきだと思います。自己推薦書は、志望理由や大学入学後にやりたいことなどを、できるだけ詳しく書くようにしました。この学校にしかない魅力、この学校でないといけない理由をアピールするために、志望する大学の特色や講義内容も細かく書きました。アドミッション・ポリシーや、その大学が求める人物像などに自分が当てはまっているということを主張するために、高校3年間で頑張ったことや、部活動などの具体的なエピソード等を書くようにもしました。面接練習などは、たくさんアドバイスをくれる先生や友人と本番のように練習したりなど、少しでも自信をつけられるようにすると良いと思います。大学合格をするためには、当たり前のレベルを上げることが一番大切であると思います。なんとかなる、ではなく、なんとかする。練習は本番のように、本番は練習のように。最後まで諦めず頑張ってください。

大学では歯科衛生士の資格の 取得を目指します

■専門的な分野だけでなく 土台の勉強もできることが魅力

私がこの大学を目指した理由は3つあります。1つ目は、宮城県唯一の歯科衛生士の資格が取得できる短期大学からです。短期大学は専門的な分野の勉強だけでなく、土台となるような勉強もできることが魅力の一つであり、歯科医院だけでなく、病院や介護施設など就職の幅が広がります。

2つ目は、オープンキャンパスに参加した際に、学校の設備が他の学校と比べて整っていたからです。学校内で行われる実習や座学、普段の生活もとても過ごしやすそうで素敵だと感じました。

3つ目は、校舎が仙台駅の近くにあるため電車通学を考えている私にとって交通の便が良いからです。

■面接は卒業生が残した内容を中心に どんな質問も答えられるように

私が指定校推薦を受けるために努力したことは、欠席日数の限度が決められていたため健康管理を徹底することです。自分自身の健康を守ることによって自己管理能力を身につけ、大学へも休まず通うことのできる健康な体を手に入れました。

大学入試の内容は面接と口頭試問だったので、短時間で自分自身を知ってもらいアピールすることが重要だと思いました。面接練習では、過去の卒業生が残してくださった内容を中心にどんな質問でも端的に分かりやすく答えられるように努力しました。面接を受ける際に意識したことは、笑顔ではっきりと答えることです。早めに資格を取りアピールポイントを作るのも良いと思います。

大学では、より充実させられるように頑張りたいです。

吹奏楽部のステージで感じた喜びが 将来の夢へとつながりました

■たくさんの人を笑顔にする ウエディング業界に憧れて

高校2年生の頃から、自分がどのような職業に就きたいのかを考えていました。進路に迷っている頃に、SNSで結婚式を行っている映像を見ました。多くの人が笑顔になっている姿を見て、結婚式をつくりあげているウエディング関係の仕事はとても素敵だと思いました。このことから、ウエディングについて学びたいと考え、仙台青葉学院短期大学の観光ビジネス学科を目指しました。

私は、高校入学当初から指定校推薦を利用して進学することを考えていました。指定校推薦を利用するためには、大学側が出す条件の評定平均を満たす必要があります。そのため、入学当初は進路が決まっていませんでしたが、進路を決定する際の自分の選択の幅を広げるために、3年間の定期考査の勉強に力を入れていました。すべての教科で評定4以上を目指し、早めに準備をしていました。

■毎日の活動を充実させていくことは 自分の将来にも影響します

学習面以外にも、部活動などの課外活動に積極的に取り組むことも大切だと思います。私は3年間吹奏楽部に所属し、そこでの経験から目標につながる一つのきっかけを得ることができました。高校3年生で行った定期演奏会では、自分たちの学年が主体となって演奏や演出をつくりあげました。仲間とコミュニケーションを取り、練習を進めていくことで、完成したステージを見た観客の方々が笑顔になっている姿を目の当たりにし、人を喜ばせ笑顔にすることの嬉しさを実感しました。このことから人を笑顔にできる仕事に就きたいという思いが生まれ、ウエディングプランナーという仕事を目指すきっかけになりました。

志望する大学が決まっていなくても、普段から学習に力を入れ、毎日の活動を充実させていくことで自分の将来につながることができます。自分の将来を考え、自分が出来ることを確実に取り組んでいってください。

校内模試の過去問に何度も取り組み 指定校推薦の枠を得られました

■先生にもご指導いただき

分からないところをなくしました

この大学を選んだ理由は、自分の将来の夢である看護師を目指すためです。そんな中、私は指定校推薦の存在を知り、そのために3年間部活動と両立しながら勉強に励んでいました。

指定校推薦を得るためには、校内模試の結果と普段の評定が大切になってきます。校内模試では、前々から過去問を解いて対策し、分からないことは放課後に先生に教えていただきました。評定は毎回の定期テストでの高得点を目指して取り組んでいました。テスト対策でプリントやワークを何回も解き、対策をしていました。定期テスト以外にも普段の授業態度や提出物をしっかりと提出することで内申点を得て、3年間安定して評定を取り続けることができました。この2つのことをして、しっかりと取り組んだことで、指定校推薦に繋がったと思います。

■剣道部での3年間は

高校生活を豊かに

私は3年間部活動にも取り組んでいました。部活動では剣道部に入部し、毎日稽古に励んでいました。土日や年末年始、長期休暇には全国各地に遠征に行っていました。剣道部では、剣道の技術だけでなく、仲間を尊重して共に高みを目指すなど、人として成長することができました。仲間と助け合い、支え合うことで、一人では成し遂げられないことも乗り越えることができました。部活動での経験や成績が大学入試の際にアピールすることができ、合格に繋がったと思います。

仙台育英剣道部での3年間の活動は、私の高校生活を豊かにし、自分の人生にも大きく影響を与えました。部活動を通じて培った努力や精神力は、これからの大学生活でも活かしていきたいと思います。

フレックスコースは、勉強と部活動などを両立する文武両道のコースです。その中で大学進学を目指すことは簡単なことではないと思っています。特に校内模試はフレックスコースの普段の定期テストとレベルが違います。それに加え、他の様々なコースの生徒と同じ推薦枠を競うこともあります。今まで以上に勉強して対策をしていかないと行かないと思います。これから、フレックスコースで大学進学を目指している人はこのことを考えておき、文武両道に頑張ってもらいたいと思います。特にフレックスコースの人は、大学進学、専門学校、就職など、様々な進路を選択する人がいます。私はその中で大学進学を選んだことに後悔はしていません。高校でしか味わえないこと、大学でしか味わえないことがあると思います。少しでも大学に興味があるなら選択肢の一つにしてほしいなと思います。そして自分の決めた進路に自信を持って進路達成に向けて頑張ってもらいたいと思います。

2024 栄光への軌跡

2024 年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【公募制推薦】

お茶の水女子大学、東京外国語大学、名古屋工業大学、
岩手大学、山形大学、宮城教育大学、
関西大学、近畿大学、東北学院大学、東北福祉大学、
東北工業大学、東北医科薬科大学、仙台青葉学院短期大学…

令和 6 年 3 月 特別進学コース卒
古川学園中出身

志望大に先輩を合格まで導いた先生に 志望理由の指導をお願いしました

■入念な準備をした上で

受験当日は余裕を持てるように

志望大学を決定したのは遅く、高 3 の 9 月でした。スタートが遅い自覚はありましたが、覚悟を固めるには必要な時間だったと割り切り、一般受験と並行して推薦の資料作成のための時間も多めに取るようにしました。お茶の水女子大学に生徒を合格まで導いたことがあるという先生に志望理由の添削を頼み、完成まで指導していただきました。

10 月末までに提出すべき書類を仕上げ、11 月中旬に第一次選考の書類審査が通ったという通知がありました。その後は、第二次選考の面接に向けて先輩から聞いた情報で傾向を掴み、それを元に 4・5 人の先生方と模擬面接を数回行い、同時に英文で行われる小論文の対策もしました。

11 月は定期テストもあり、一般受験をする周りの友達は過去問を詰めている時期でした。一方の自分は学校では推薦、塾では一般に向けた勉強をしていましたが、直前期になると推薦に大方の時間を振り分けざるを得ませんでした。推薦でダメだった場合を考えると共通テストに向けて一直線に勉強できないもどかしさはありませんでしたが、あらかじめ想定はしていたのでなんとか両立していました。

とにかく入念な準備をしたので、受験当日は時間に余裕を持って行動するようにだけ心掛けました。また試験会場では私は受かるべくしてここにいるんだ、というマインドを持って受けることができました。面接で 7 人の教授たちと会えることが楽しみの域に達していたのでとてもワクワクしていましたし、試験後は手応えも感じました。事前にできることはやりきり、自分に自信が付けられるようになるまで準備することで当日の試験を楽しめると思います。

合格発表までは 10 日ほどありましたが、不合格の場合を考えて共通テストに向けて切り替えて勉強しました。この間不安はつきませんが、共通テストまで時間もないので勉強するより他ありません。そして 12 月 7 日に無事合格の通知を見ることができました。

■信頼できる先生と先輩に

積極的に指導をお願いした結果です

受験が終わって考えるに、私が合格できたのは、信頼できる先生方や先輩方にお世話になるために、自ら行動を起こしたためだと考えます。合格したことで喜びを噛みしめると同時に、今まで支えてくれた家族やお世話になった人たちに感謝を伝えることができました。

ここまで、私が大学に合格するまでの体験記ということで綴ってきましたが、人生において受験がゴールというわけではありません。受験が終わって勉強をやめるのではなく、常に目標を見定めて“生涯学ぶ人”として、人生を豊かにするための勉強をし続けてほしいと思います。

これまで仙台育英学園で日々を過ごし、まずはその集大成として東京で学びの門が開くことができたわけですが、現状に満足することなく、生涯にわたって学び続けられる教員を目指して大学生生活を過ごしていきたいと思っています。後輩の皆さんの前途が明るいことを願っています。

令和6年3月 秀光コース卒
仙台青陵中等教育出身

IB で学びたいという思いから 仙台育英への入学を決めました

■大学受験と IB の最終試験の 準備で大忙しの日々

私は、IBDP の学びを通じて英語力を高め、グローバルな視野を身につけたいと思い、仙台育英学園高校に入学しました。IB を始める前から、課題が多く忙しいことは聞いていて覚悟はしていましたが、3 年次は 2 年次より段違いに忙しくなりました。各科目からの課題に加えて、課題論文の執筆や大学の出願準備、IB の最終試験に向けた勉強など、多くのタスクを同時にこなしていく必要がありました。身につけた知識を基盤として自分の意見を持ち、それをディスカッションやプレゼン、論文を通じて他者に伝えるために、論理的思考力と批判的思考力を毎日最大限に利用して学習していました。量の多さはもちろん、正解が 1 つに定まっていない、という IB での学びの特色が重荷になっていたように思います。しかし、タスクの多さから大変な時期が続いた時でも、乗り越えるために時間管理や健康管理などを徹底し、自己管理スキルを身につけることができました。また、コア科目の 1 つである CAS の一環で中国語学習や日本語教室の企画・運営、七夕祭りでのボランティアなどの課外活動に取り組んだことで、グローバルな問題に意識を向けたり、自己理解を深めたりすることができました。

■進路に迷ったときは 先生に相談に乗っていただきました

IB での主体的な学びや、課外活動で他者と協働する経験を通じて、国籍や年代を超えた人と関わり、プロジェクトを円滑に進めるために欠かせない、コミュニケーション能力や協働スキルを向上させることができました。学校推薦型など特別入試では、学力以外の実績なども評価してもらえるため、以上のような課外活動や身につけたスキルを活かせると考え、人数制限公募で受験することを決めました。

さらに、先生方との距離が近く、相談しやすい環境が整っていたことも、苦しい時期を乗り切り、将来の目標を確立し志望する進路を達成できた要因の 1 つだと考えています。学習面では、質問に対する回答や研究に対する指導、弱点をカバーする学習方法などについて、丁寧にアドバイスしていただけたことで、IB の特殊な学習スタイルに適応することができました。また、進路を迷っていた際には、対話を通じて思考を整理する手助けや IB 資格や活動実績を活かすことができる選択肢の提案をしてくださったことで、過去の経験、高校での学び、将来の目標の 3 つを結びつけて進路志望を明確にし、それを達成することができました。

周囲のアドバイスを聞くことで 選択肢を広げることができました

■大学教授と出会ったことで

関心が高まり志望大学を決定できました

私が進学する大学を決めたきっかけは、夢ナビでの大学教授との出会いでした。行きたい学部、学びたい分野はありましたが、何を基準に大学を選べばよいのか分からず、悩んでいました。そのような時に、夢ナビで参加した講義で、私は進学する大学の教授と出会いました。どの大学の講義、研究も興味深いものでしたが、その中でも一人の教授が講義を受けた全員に「気軽に質問してください。」とLINEを教えてくださったことが非常に印象的でした。この時から私は教授と連絡を取り始めました。高校2年生になり、オープンキャンパスに参加することを教授に伝えたところ、大学で直接教授からお話を聞かせていただくことが出来ました。これらを通してこの大学への関心は高まり、私は目指す大学を決めることが出来ました。

■問題の傾向をつかむことで

対策がしやすくなります

しかし、最初に目指した学科には推薦型選抜はなく、高校3年生の6月まで一般型選抜で受験することを決めていました。そんな私が推薦型選抜で大学を受験することを決めたのは、周囲からのアドバイスがきっかけでした。3年生になると周りの人が次々と進路を決めていくため、焦ってしまい、一つのことしか見えなくなりやすいです。そのような時こそ周囲のアドバイスを聞くことで新たな道を見つけ、自分の選択肢を広げることが出来ると思います。

受験勉強では、過去問を早めに解くことが重要だと身を持って感じました。個別試験には大学ごとに特色、傾向があります。必ずしも今までと同じ傾向の問題が出るとは限りませんが、傾向をつかむことで大学がどのような力を要求しているのかを把握し、対策がしやすくなると感じました。これは推薦入試に限らず一般入試にも共通することかもしれませんが、特に受験時期が早い推薦型選抜では効率良く勉強を進めることが大切になります。

一般型選抜に向けた受験勉強と同時並行で対策をしなければならない推薦型選抜では、大変なことも多いと思いますが、悔いが残らないように頑張ってください。

積極的に学校で活動してきたことが 面接で私自身の自己紹介になりました

■「私がどんな人間か」を 面接官に分かりやすく伝える

私は公募推薦を活用して、帯広畜産大学畜産学部合格することができました。

私は公募推薦を活用するに当たり、評定を落とさないこと、高校生活の中で様々な活動に参加することが大切だと考えています。評定では、私の志望大学は平均評定 4.0 以上必要だったため、その基準を下回らないよう、定期テストなどの勉強に取り組みました。また様々な活動に積極的に取り組むことで得られる、チャレンジ精神や経験が面接のときに武器になると感じました。様々な活動を行うことにより、調査書を通して面接官の数多くの受験生の中から自分を知ってもらえるきっかけとなります。実際に、私は面接試験の際に、高校時代様々な活動を通してどのようなことを学んだのか質問されました。経験は、自分がどのような人間なのかをわかりやすく伝えることができるため、高校生活の中で様々な経験をすることをお勧めします。

■添削は分野別に先生方に ご指導をいただきました

次に、具体的な受験対策についてお話していきます。私が受験した大学の受験内容は、小論文と面接です。小論文では、日本の農業の問題点や、その対策を本で一通り勉強してから過去問に取り組みました。それに加え、北海道の農業について問われることがあったため、道内の地域ごとの農業の特徴を学びました。また添削は複数の先生にいただき、効果的な表現の仕方などの言語面は国語の先生に指導していただき、データの分析方法や計算問題は理系科目の先生に指導していただきました。小論文を書く上で最も大変だと感じたことは、時間内に書き終えることです。私の場合は、受験ギリギリまで時間内に書き終えることができなかったのですが、過去問を繰り返し解くことで改善させていき、本番では時間内に書き終えることができました。面接練習では、約 10 回以上計 5 人の先生に指導していただきました。面接練習の様子を録音しておき、話すスピードや言葉遣いを修正していく練習が一番効果的だと感じました。私は受験するにあたりこのような対策を行いましたが、自分の慣れない土地での受験などにより緊張をしてしまうと思います。しかしその時に十分に受験対策を行っていることが自信にもつながってくるので後悔の無いように頑張ってください。

IB 学習は「食に関わりたい」という夢を 具体的なものにしてくれました

■食料・農業・環境など

総合的に食について学びたい

私は中学三年生のころから、「食」に関わる職業に就きたいという夢があったのですが、具体的に「食」のどのような職業に就きたいといった明確な夢は決まっていませんでした。料理人になりたいのか、食料の生産者になりたいのかなど、定まっておらず、苦悩を抱えていました。

具体的な夢を定まるきっかけとなった出来事は IBDP のカリキュラムです。その中でも、「Personal Project」や「美里町の地域探求」のカリキュラムがきっかけで、夢がより明確に定まったと考えています。「風評被害」や「農業労働力問題」といった現存する食に関する問題について、各地域の地場産品を用いた改善策等を考案し、提案・試行を行ってきました。これらの活動を通して、私は将来、現存する「食」に関する問題に対し、料理を通じて、生産者とそして自然や文化、そして地域の人とともに食や食問題に対する興味関心を高める活動を行いたいと決めました。食料や農業、環境にまつわることにについて総合的に学ぶことができ、現在の日本の食料生産における多様な技術やそれらを用いた農業の6次産業化について学びを深めることが出来ることに目を付け、岩手大学農学部で公募推薦入試で志願しました。

■周囲が支えてくれたおかげで

諦めずに挑戦し続けられました

入試に向けて、岩手大学農学部で食料や農業、環境にまつわることにについて研究したいことが明確であったこと、先生方のお力をお借りして、志望理由、面接ノートの内容確認や面接練習、小論文対策などについて最大限の指導をしていただき、諦めず最後まで挑戦できたことが合格をつかみ取ることが出来た最大の理由だと考えています。加えて、ここまで支えてくださった、先生や先生、友人の方々の存在があったからこそここまでやりきることが出来たと思います。自身の趣味や小さなきっかけから、自身の将来の夢を見つけることで、大学で学びたいことが更に明確となり、それが志望大学決定につながり、志望大合格への努力のモチベーションにも繋がると 생각합니다。

令和6年3月 英進進学コース卒
寺岡中出身

自分なりの方法を確立し テストの成績が安定しました

■通学中の隙間時間に勉強したり、
授業に集中して頭に入れました

もともと国公立の大学に進学したいという希望があったことに加えて、模試などでわかった自分の学力と相談をした結果、志望を山形大学に決めました。最初は、一般入試という形での入学を考えていたのですが、学校推薦型選抜の出願条件の評定平均を超えていたので、可能性を増やすために出願することに決めました。

学習面について、私はサッカー部に所属していたため、家に帰ってからあまり時間をとって勉強することができませんでした。そのため、私は、電車やバスなどの隙間時間に勉強したり、授業中に内容を覚え切れるように集中して取り組むように心がけてきました。定期テストは、普段の授業をしっかり聞いていれば高い点数を取ることができると思います。

■2級まで取得していた英検は
面接で自己アピールに使えました

推薦型選抜では面接と口頭試問があったのですが、口頭試問は普段の勉強をしていれば分かるような問題でした。面接は二週間前から学校の先生方に練習をお願いしていたため、落ち着いてできました。また最初は英語力を伸ばすために始めた英検ですが、私は2級まで取っていたため面接でも自己アピールとしてとして使うことができました。

部活はサッカー部に所属していました。三年間充実した学校生活を送ることができました。

私はこの三年間の目標として部活と勉強の両立を心がけて生活するようにしていました。サッカー部は他の部活に比べても大変な部活だったので、勉強の面で不安なことが大きかったです。しかし、自分なりの勉強方法を確立していくことで定期テストでも安定して点数を取れるようになりました。とても充実した三年間を送ることができたと思っています。

令和6年3月 特別進学コース卒
五橋中出身

「逆転の仙台育英」が、 大きな心の支えになりました

■日々の積み重ねで得た知見は 面接や小論文に大いに役立つはずです

中学校の頃から、将来は教員になりたいと考えていました。尊敬する先生が宮城教育大学出身だったこともあり、大学選びで迷うことはありませんでした。また、大学の募集要項から一般入試だけでなく推薦入試があることを知りました。そのため、早い段階から一般・推薦双方の対策ができました。

高校生活において、生徒会執行部で役員として活動したことや、インターアクト部でボランティア、被災地訪問したことも大きな経験となりましたが、私が一番大切にしていたことは学校を休まないことです。とても当たり前の事に思えますが、3年間休むことなく通い続けることは難しいです。しかし私は、このことが推薦入試で合格するために一番大切だと思います。大学によっては欠席日数に上限がありますし、高校から推薦をいただく際にも重視されるポイントです。そして何より、毎日の学校生活で得られることはたくさんあります。何気ない日々の積み重ねで得た知見は面接や小論文に大いに役立つと思います。

■信頼のおける先生方からのサポートが 大きな自信につながりました

定期テスト、一番重要である校内模試を乗り越え、無事推薦がもらえた後、本格的に準備を始めました。人数制限公募推薦は確実性の低い「いちかばちか」の挑戦になります。倍率によっては落ちる可能性の方が高いことがほとんどです。そのため、先生の力を借りつつ自分としっかり向き合い、覚悟をもって行動する必要があります。

私は入試の際に小論文・個人面接・集団面接（グループディスカッション）を行いました。信頼のおける先生方に小論文の添削や面接対策をしてもらうことで自信につながりました。また、集団面接対策として、グループディスカッション講座に参加することによって、自分の考え方を見つめ直すことが出来ました。教育に関してだけでなく、様々な大学学部の過去のテーマについて討論したことで、本番もあまり緊張せず臨むことが出来ました。

「逆転の仙台育英」。高校入試で一度挫折している私にとってこの言葉は大きな支えになりました。自分を信じ、周囲の協力を得ながら、思い描く未来に向かって努力すれば自ずと結果はついてくると思います。頑張ってください。応援しています。

大学は何校も比較して 自分に合った大学を見つけましょう

■スポーツの現場で活躍できる 理学療法士になることを目標に

私が受験で一番大切にすることは、自分の将来の理想像を明確にすることです。私の夢である理学療法士になるためには、法律で決められたカリキュラムをこなし、国家試験に合格する必要があります。これはカリキュラムが揃っていて、国家試験受験資格を得られればどの学校に通っても叶えることは可能です。しかし、公募制推薦では「なぜこの大学でなければならないのか」が求められます。（公募制に限らず、指定校、総合型にも言える話ではありますが）私が順天堂大学に進学しようと思ったきっかけは、国際的にスポーツの現場で活躍することができる理学療法士になりたいと考えたからです。先生方が最前線の臨床業務を兼任しながら、理学療法について指導していただける環境があり、日本代表チームで理学療法士として活動している先生方のもとで学ぶことができるため、臨床現場のよりリアルな話を聞くことができる機会が多いと考えたからです。

これは順天堂大学の特徴であり、この大学でなければこの夢を叶えることはできません。もちろん、他の大学にもその大学にしかない特徴があります。それぞれの大学の持つ学べる環境や、力を入れている研究などが、自分の将来の理想像に近づくために適しているかで大学を選んでほしいと思います。やりたいことの為なら、きっとそれを叶えるために、全力で取り組めると思うので、ぜひ何校も比較して自分に合った大学を見つけてください。

■オープンキャンパスは、過ごし方次第で とても有意義なものになります

また、私がやって良かったと思っていることは、オープンキャンパスに参加し大学の学生さんや先生方に直接お話を聞いたことです。通っているからこそ見える大学の魅力や、受験勉強のヒントを教えてくださいました。取得していた方が良い資格も教えていただけたので、資格勉強のモチベーションにもつながりました。オープンキャンパスは、過ごし方次第でとても有意義なものになります。大学入試は情報戦でもありますので、ぜひ志望大学合格のためのステップにしてください。

受験勉強は想像以上に大変です。推薦入試では志望理由書や小論文試験、学力試験、面接練習など多種多様な試験に対応するために多くの時間を費やします。受験が終わった後に頑張った良かったと思えるように1日1日を大切に過ごしてください。皆さんの夢が叶いますように。

面接や受験で支えてくださった 先生や周りの方に感謝します

■国境なき医師団で働く

看護師の方の姿勢に憧れて

私は、中学2年生の時に TED Talks というコンテンツで、国境なき医師団で働く看護師の講演を聞きました。その方の看護師としての姿勢に憧れ、私も看護師として世界中で困っている人々のために自らが赴いて医療を届けたいと思うようになりました。

その後、書籍やインターネットを通して国際看護を中心に調べていたところ、災害現場で働く看護師がいること、また近年、国内外で自然災害が多く起こっていることから看護師の需要が高まっているということを知りました。国際看護と災害看護そのどちらも学ぶことができるのが日本赤十字看護大学だったため志望大学に決めました。日本赤十字看護大学は公募型推薦での選抜を行っており、夢が定まっている私にとって公募型推薦は合っていると思ったため、受験しました。

■夏休み中はメリハリをつけて

1日10時間勉強しました

推薦系の選抜に合格するために必要なことは、なぜその大学に行きたいのか、そこで何を学びたいのか、将来何をを目指すのかを明確にすることです。そして、その興味があることについてある程度の知識を持っておく必要があると思います。私は、書籍やインターネットの情報だけでは限度があると思ったため専門家に聞きました。国際看護は NGO 団体、災害看護は宮城県看護協会に連絡し、実際に災害看護に携わっている看護師を紹介していただきました。そして直接お話を聞くことができました。お会いした後も何度もメールでやり取りし、たくさんの論文を紹介していただきました。たくさんの論文を読む中で知識が身につけてきましたが、私は、論文を読んで疑問が解決して終わりではなく、それを発展させて自分の意見を持とうと努力しました。

試験本番の面接で試験官は何を求めて質問するのかを考えると、私の考えやその考えに至った経緯を知りたいのではないかと思ったからです。

総合型は確実に受かるという保証がないためとても大変です。私の場合、夏休みは10時間勉強に充てるとしたら一般の勉強は6時間、推薦の勉強は4時間くらいに分けていました。メリハリをつけて勉強することが鍵だと思います。特に志望理由書は、限られた字数で自分の考えや思いを簡潔にまとめなくてはなりません。これは思っている以上に難しく、何度も何度も書き直しました。とても時間がかかるので早い段階で準備することをお勧めします。

私の受験にあたり、志望理由書の添削や面接の練習、グループディスカッションを指導してくださった先生方の支えがあって合格することができました。改めてたくさんの方に支えられていることを実感しました。この気付きは大学の合否よりも私の大きな財産だと思います。みなさんも夢に向かって頑張ってください。

令和6年3月 特別進学コース卒
東向陽台中出身

基礎を完璧にしておくと 発展問題でも解くのが楽しくなります

■アプリで平日と休日の勉強時間を
それぞれ管理しました

志望大学、受験方法を決めたのは3年生の6月でした。志望理由は校風に惹かれたこと、参加したいプログラムがあったことです。

評定平均が5だったことはとても役に立ったと思うので、高校生活について書いておきます。定期考査は毎度前日に焦っていました。真面目にやれば大丈夫。授業はできるだけ休まないで出席してよかったと感じました。生徒会執行部にも所属していて、育英祭の準備が一番の思い出となりました。

受験で一番大変だったのは志望理由書です。志望理由と熱意を伝えることを意識して書きました。でもすごく時間がかかったのも、もっと早くから始めていれば余裕で終わったのかなと思っています。

2年の秋ごろから、勉強時間を記録するアプリで管理しました。平日は5時間以上、休日は9時間以上でした。勉強の内容は教科書傍用問題等を完璧にしつつ発展問題を解きました。基本ができていると、発展でもパズルみたいに解けるので面白かったです。やはり基礎は大事だと思います。化学は苦手ですが、実験の動画などを見て教科書を見て暗記していました。

私の体験が少しでも役に立てれば嬉しいです。自分を信じましょう。

令和6年3月 英進進学コース卒
タイ出身

一番の勉強法は過去問、 大学のウェブサイトを利用しましょう

■公募制推薦の過去問すべて解き、
近畿大学の一般試験の英語の赤本も解きました

私は近畿大学に合格しました。私は、この大学を卒業した、同じ国の仙台育英生の先輩を通して知りました。様々なアドバイスはこの先輩からもらいました。この大学に興味をもったきっかけは、この大学は独自の受験方式があるからです。独自方式は1科目で合格判定する方式です。私の場合は英語だけで国際学部を受験できました。おすすめの勉強法は過去問をやることと、単語の復習です。過去問は近畿大学のウェブサイトに乗ってあります。その中の公募制推薦の過去問の全部をやるのがおすすめです。そして私は公募制推薦の過去問のすべてをやったし、近畿大学の一般試験の英語の赤本も解きました。でも公募制推薦の方が比較的易しいのでその過去問を復習だけでも十分かと思います。そして間違った問題を見返してどうして間違ったかを理解できるようにしたほうがいいと思います。目標の点数は75点を目指したら合格できると思います。合格最低点の確認もしておきましょう。それを見て自分がとった点と比べて自分のレベルがわかります。あとは単語の復習もしたらいいと思います。単語は2級くらいのレベルが多いと思います。そして大学のサイトでよく出る単語のクイズもありますのでそれをやるといいと思います。試験は会話文の空所問題を6問、4択文法問題8題、各文の意味に近い文を選ぶ問題4題、長文問題7問。長文の問題のアドバイスは一つの段落を読んで1問を答えるのがおすすめです。一番の勉強法は過去問なので、それを中心に勉強すると合格する可能性が高いです。ぜひ頑張ってください。応援しています。

高校時代は人生をどう歩むかを考え 自分自身を見つめ直す時間

■さまざまな活動で責任感と積極性が身につく 交友関係も広がりました

入学当時は将来の目標が定まらず、なんとなく大学進学を目指していたものの、具体的な志望大学は全く考えていませんでした。そのため、1、2年次の模試の志望大学や進路希望調査で、毎回違う大学名を記入しては担任の先生を困らせていました。

何も決めていなかったのも、とりあえずどんな受験方式にも対応できるように、自分のアピールポイントとして武器になる活動をしようと思い、生徒会執行部、よさこい愛好会、インターアクト部に所属しました。2年次には生徒会会計とよさこい愛好会部長を務め、責任感と積極性を身につけることができたことに加え、交友関係も広がりとても充実した高校生活でした。また、インターアクト部の活動として震災遺構見学やボランティアに参加したり、英語の資格試験に挑戦したりして様々な経験を積みました。

■生徒会役員として携わった学校行事の 運営の反省から将来の目標ができました

3年の6月になり志望大学を決定しなければならないとなった時、自分と真剣に向き合って本当に好きなことは何か、積極的に学びたいと思うことは何かを自問しました。そこで浮かんだのが、生徒会役員としてオープンキャンパスや育英祭等の学校行事の運営に携わったことです。どれだけ準備をしても当日は予想もしていなかったトラブルが生じてしまい、臨機応変な対応が求められました。入試補助の際には、緊張している中学生になるべく明るく声をかけることを意識するなど相手のことを考えた対応を心がけました。しかし、反省点も多かったことからもっとホスピタリティについて学び、誰かのために最高のおもてなしを提供できる人になりたいという思いが芽生えました。関西外国語大学ではエアラインやホテル、ホスピタリティの講義を受けることができたり、就職に必要な資格取得へのサポートも充実しており、自分の夢に直結した学びが得られると思いました。

どの大学に入るかではなく、大学生活の中で何を学びどう成長していけるか、新しい自分を見つけることができるかが大切だと思います。大学のネームバリューに固執せずに自分が本当にやりたいことを見つけ、周りに流されるのではなく自分に合った進路を進んでください。高校時代は「これからの人生をどう歩んでいくか」を考え自分自身を見つめ直す時間です。夢を見つけれない人は高校生活を上手く活用し、様々なことに挑戦して自分と向き合ってみましょう。みなさんの進路が実現することを願っています！

weblio 英会話で苦手意識を払拭でき 英語力を高めることができました

■将来は地方公務員になり食の安定供給や アニマルウェルフェアの増進に寄与したい

私は幼少期から動物が好きで、人と動物の役に立つ仕事に就きたいと考えていたため、獣医学部への進学を決意しました。進路を達成するため勉強以外で取り組んだことは3つあります。

1つ目は大学をよく調べることです。私は将来地方公務員になり、食の安定供給やアニマルウェルフェアの増進に寄与したいと考えています。そのため産業動物や農家の方と接する機会が豊富で、産業動物の病気を研究されている先生方が多い大学に進学したいと思っていました。獣医学部のある大学一つ一つの特色を調べ上げたことで、自分の本当にやりたいことができる志望大学を見つけることができました。

2つ目は資格の取得です。私は高校2年時に英検準1級を取得しました。その際 weblio 英会話がとても役立ちました。私は英会話を習ったことがなく、中学校で英語の授業が始まるまであまり英語に触れてきませんでした。そのため英会話に苦手意識があり、会話に参加できないことがよくありました。そこで長期休暇の間上限までレッスンを予約して毎日英会話に取り組みました。その結果、すぐに単語が出てこなくても身振り手振りや交えつつ自分の意見を伝えることができるようになり、英会話への苦手意識を払拭でき、自分の英語力を高めることができました。もし、私のように英会話が苦手でも英検を取得したいと考えている人がいれば weblio を活用してはいかがでしょうか。

■面接練習では欠けている知識や根拠を実感でき、 本番では説得力のある受け答えができました

3つ目は志望理由書の作成と面接対策です。志望理由書は先生方に添削していただくたびに自分の考えを深化させることができるため、なるべく余裕を持って作成することをお勧めします。面接では志望理由書を踏まえた質問が多かったのですが、納得がいくまで志望理由書を書き直し続けてよかったと感じています。面接練習では自分の主張に欠けている知識や根拠を実感でき、面接本番ではより説得力のある受け答えができました。また志望理由書を作成後、担当の先生が何度も丁寧に面接指導をしてくださったので試験当日の緊張も緩和できました。

後半の皆さんが充実した高校生活を送り、志望大学に合格されるよう願っています。

努力が結果につながることを 部活動を通して実感しました

■女子サッカー部と勉強との両立は 簡単なものではありませんでした

大学受験では、先生方や友達、家族に支えていただいたからこそ頑張ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。中学生の頃、私は勉強することが苦手でしたが、高校での最初のテストをきっかけに、部活動と勉強の両立を目標にして頑張ろうと思うようになりました。仙台育英の女子サッカー部で活躍したいと思い、部活動の後に自主練習を始めました。なかなか成果を出すことができず、たくさん悩むこともありました。そんな時、私の周りには、声をかけてくれる仲間がいました。そのおかげで諦めずに続けることができ、部活動を通して努力が結果につながるということを改めて感じました。しかし、私にとって部活動をしながら勉強と両立させることは簡単ではありませんでした。普段はサッカーばかりで勉強をする時間はあまりなく、テスト1週間前に始めていました。そのため、焦ることもあり、嫌になることもたくさんありました。それでも、自分なりの勉強方法を見つけて勉強し、成績を維持し続けてきました。

■不安だった面接も先生方のご指導で 少しずつ自信をつけることができました

大学受験には面接があり、正直私は不安でした。先生方が昼休みや放課後、面接の指導をしてくださり、少しずつ自信をつけることができました。当日まで努力し続けたことで、受験本番は緊張せず、力を出し切ることができました。私は高校での3年間を通して、どんなことでも努力すれば必ず結果はついてくる、ということを強く感じました。また、それは自分一人では出来ることではなく、支えてくれている人がいるからこそ出来ることだと思いました。後輩の皆さん、これから進路決定まで悩むこともあると思いますが最後まで自分を信じて、諦めずに、感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって一生懸命頑張ってください。

野球の頑張りが認められて 推薦をいただくことができました

■大学でも勉強と野球を 両立させていきたい

硬式野球部に3年間所属していました。現役時代はひたすら野球と向き合い、目標に向かって日々練習していました。大学進学したいとは高校入学時から考えており、高校野球をしているうちに大学でも野球をしたいと考えるようになりました。それから自分の行きたい大学、興味のある大学を調べ、監督や担任の先生と相談しながら決めていきました。その際私が一番しんどかったのが、野球の結果で大学が決まるといっても過言ではないので、いつしか結果と大学進学を重視しすぎてしまっていた時期もありました。今考えてみるともう少し冷静に物事を考えていけば良かったのかなと思います。それでも現役時代頑張ってきたことは報われ、東北学院大学から推薦をいただきました。

東北学院大学の他にも、さまざまな大学からお誘いをいただいていた。その際に私が考えたことは、大学で野球を続けるのならプロ野球、社会人野球など野球を職業にすること、を第一に考えました。その次に、プロ野球や社会人野球に入れなかった時やその先のセカンドキャリアなどを考えた時に、東北学院大学で4年間勉強と野球の両立をしていくことを一番に考えました。これから大学進学し、勉強と野球の両立を図っていきたいです。

これから大学進学する方は、まず自分の将来の目標や、やりたいことを今のうちに明確にしそれに向けて勉強、部活動に励んでいってください。

仲間と協力することと努力の 大切さを野球を通して学びました

■硬式野球部で素晴らしい仲間と出会い 貴重な3年間を送ることができました

私はこれまでの高校生活で部活動に力を入れてきました。部活動で学んだことは、仲間と協力することの大切さと努力の大切さです。仙台育英学園高校の硬式野球部はとても強く、入学したときはレベルの高さに驚きました。入学前に個人としては甲子園でプレーする、チームとしては日本一を取ると目標を立てました。

きっかけとなったのは最後の夏の大会です。結果は準優勝でしたが前年度優勝校というプレッシャーがある中でも甲子園の決勝戦まで勝ち上がったからです。全部員が練習のときから日本一になると意識して練習し、一体となって試合に臨めました。メンバーに入る入らない関係なくそれぞれの立場でベストを尽くし仲間と協力することの大切さを実感することができました。3年間順風満帆とはいきませんでしたが、人一倍練習したり取り組みにこだわったりして地道な努力を重ねてきました。メンバーに入ることができ夢でもあった甲子園でプレーするという目標を叶えることができました。仙台育英の硬式野球部に入り、いろいろな経験や素晴らしい仲間と出会い貴重な部活動生活を送ることができました。

■大学でも好きな野球を長く続けられるよう さらに上を目指していきたい

しかし、野球のほうに偏りが出てしまい勉強面がおろそかになってしまいました。高校を卒業すると社会に出たり大学に進学したりして高校の勉強が大事になってくるので、それぞれの部活動の後輩たちには文武両道を大切にしたいと改めて思いました。

大学では、高校での反省である勉強での向き合い方を見直して文武両道に励んでいきたいと思います。また、好きな野球を長く続けられるように仙台育英で学んだことを活かして上を目指していきたいと思います。

高校生活3年間は中身の濃いものになりました。たくさんの方々のサポートやご支援などで野球部ではいい思いをすることができました。人としても大きく成長することができ、貴重な3年間となりました。進学先でも仙台育英での学びを活かして日々生活していきたいと思います。

悔いのないように高校生活を頑張ってください。

高校生活に全力で取り組むことが 自分自身の将来の幅を広げてくれます

■試合では応援団長として 全力で仲間のサポート

私はスポーツ推薦で大学に進学しますが、高校野球では三年生の春に一度だけしか公式戦に出たことはありません。私は打撃が一番の長所だったので、打撃を磨くことだけを考えて取り組んで、最後の夏の大会で背番号を取る事だけを意識して最後まで諦めずにやり抜くことができました。その結果として、スポーツ推薦という枠を獲得することができたと考えています。そして私は三年生の選抜と夏の大会では、応援団長という役割になり、プレー以外のところでチームに貢献することができました。自分が試合に出る、出ないに関係なく、どういうところでチームに貢献できるのか、スポーツ推薦では大事なポイントのひとつだと思っているので、そういう意識を持っておく必要があると思います。

そしてトップクラスの大学に行きたい人は、結果が一番大事になってくるので、試合での発揮力や、自分を磨き続けるスキルを身につけた方が良いと思います。結果は取り組みの先にしか出ないので、まずは取り組みから意識を変えて練習をしていけば、推薦の枠も多く貰えると思うし、注目される存在になっていくと思います。

■成長できるきっかけを 意識して生活したことが強さに

私がスポーツ推薦で大学に行く理由は、野球だけをやるためではなく、自分が高校野球で体験した心の問題と実際のプレーでの影響について、もっと知りたいと思うからです。高校生活を最後までやりきることによって、将来の幅も大きくなっていくと思うから、将来の自分が成長するきっかけとなるように、スポーツで大学に行きたいと考えている人は、とにかく最後まで諦めずに取り組むことが一番大事だと考えています。

なお、スポーツ推薦で大学に行く人は、推薦枠を使っていくので、万が一大学を辞めてしまうなどすると、後輩にも影響します。そういうところも考えながら、生活をした方が良いと思います。また、勉強にも野球と同じように取り組んで、大学の勉強についていけるように準備していくことが大切だと思います。

自分がやるという強い意志を 持つことが一番重要です

■大学でもバレーボールを続けて 高校以上に力を入れたい

なぜ私が東北福祉大学への入学を希望したかというと、大学でもバレーボールを続けたいと思ったからです。大学では高校以上に一層力を入れたいと考えています。リベロでスタメンとして試合に出場はしましたが、大学ではセッターとしてスタメンに定着し、活躍したいという目標があります。この目標を実現したい、達成したいと思い、そしてその中で、将来福祉関係の仕事に就きたいと考えており、この大学への入学を志望しました。

■特に評定と面接に力を入れることで 良い結果に繋がります

公募制推薦で入学するにあたり、私は評定と面接に力を入れました。中学生の頃、仙台育英学園にスポーツ特待生として入学しました。中学時の最終評定は4.2で、英進進学コースを受験するための3.8を満たすことができました。高校でも同じように、大学に入学するにあたり、提出物を期限までに完璧な状態で提出すること、定期テストの点数を安定して取り、最終評定4.5を取ることができました。面接練習では、担任の先生以外にも、自分から積極的に協力していただくことが大切になると思います。受験をするにあたり、先生に頼るのではなく、自分がやるという強い意志を持つことが一番重要になってくると思います。もちろん、先生に助けてもらいながら作業しなければなりません。このことを大切にして、その中でも評定と面接に力を入れることで良い結果に繋がると思います。

練習で面接の空気感に慣れておくと リラックスして本番に臨めます

■小論文対策は最低 2 ヶ月ほど前から 対策しておくとおく安心です

私は志望大学合格のために、小論文対策や面接練習を明日欠かさずに取り組みました。小論文対策では、自分が受ける大学の受験内容がテーマ型か課題提示型なのかをしっかりと確認し、原稿用紙を準備して、何度も練習しました。私の受験した東北福祉大学ではテーマ型小論文と課題提示型小論文の両方が出題されており、私はどちらも練習しました。ネットでは社会問題を調べて自分自身でテーマを作り練習をしました。夏休み中の課題でも小論文が出されており、夏休み中から小論文の対策などを行いました。それぞれ医療問題や地方での問題についてなどテーマが様々でありとても苦労しました。受験の 1 ヶ月前ほどから小論文対策などを行いました。しかし、実際に受験当日になってみると全く足りなかったと感じました。小論文対策は最低 2 ヶ月ほど前から対策しておくべきだと感じました。小論文を書いて先生方に添削してもらう時間も入れると 1 ヶ月に多くて 4、5 回ほどしか小論文を提出できないため、最低でも 2 ヶ月から練習をしておくべきだと考えました。

■練習 3 回目ぐらいから受け答えの コツをつかむことができました

面接練習では担任の先生以外にもしてもらいました。1 回目の面接練習では、本当にこのままで合格することができののだろうかと思いました。しかし、3 回目あたりから、受け答えのコツをつかむことができました。面接練習ではたくさんの先生と行うことで一人一人によって違う質問をされてとても練習になりました。試験の 1 ヶ月前ほどから面接練習を行いました。実際に受験してみると緊張してしまい、しっかりした受け答えをすることができませんでした。面接ではリラックスして自分の言いたいことを言うこと、そしてリラックスするためには、面接の空気感に慣れることが大切だと感じました。そのためには 2 ヶ月以上前から練習するべきだと思いました。東北福祉大学ではアドミッションポリシーについて聞かれました。そのために憶えるのがとても苦労しました。自分の志望大学のアドミッションポリシーや校訓は憶えておくべきだと感じました。

令和6年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

一人で抱えず周りを頼ったことも 受験に成功した要因のひとつです

■ 1年生からコツコツ勉強し続けたことが 1つのアピールポイントにもなりました

大学進学を目指したきっかけは、専門的なことを学びたいと思ったことと、大学で過ごすこと自体が人生経験として重要だと思ったことです。東北福祉大学には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜などがありますが、私は学校推薦型選抜を選択しました。この受験方法を選択した理由は、大学の授業を体験し、レポートを作成して大学に送るリエゾンプログラムというシステムと繋がっていたことです。大学の授業を体験することができるとともに、受験するために必要な条件を満たせるということが貴重なことだと考えたためです。

他にも、高校での評定を強くアピールしたいという思いもありました。私は、高校1年次や2年次では、まだどの大学に進学するのか考えていませんでしたが、定期テストではなるべく高い点数を取れるように勉強していました。その努力のおかげで、受験の条件である評定をあまり気にせずに志望大学を選択することができ、1つのアピールポイントにもなりました。

■ 根気よく練習を続けたら 苦手な小論文も上達しました

定期考査で高い点数を取るためには、同じような問題を何度も繰り返すことだと思います。模試などと比べると範囲がかなり限られているため、諦めずに繰り返し行うことで高い点数を取れると思います。

学校推薦型選抜には小論文と面接があります。私は、文章を書くことが苦手なため、早めに小論文対策を始めました。最初は上手く書けませんでした。時間が多くあったため、焦らずに練習をすることができ、上手く書けるようになりました。このことから、小論文に限らず、何事にも余裕を持って取り組むことがとても大切なことだと気づくことができました。

私が受験に成功した一番の要因は、周りを頼ったことだと思います。面接練習や小論文対策、志望理由書の作成など多くのことで、先生や友達の手を借りました。自分一人では分からないことやできないことが多くありましたが、先生や友達が助けてくれたことで、大学に合格することができました。

令和6年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

小論文と面接の対策は 細かく計画して取り組みました

■小論文対策は1ヶ月前から 余裕を持って進めれば高得点がとれます

大学に進学するにあたって学校推薦型選抜を選び、少しでも可能性が高くなる受験方法を選択し、推薦をもらえるように高校生活3年間で頑張ってきました。普段の学校生活は、勉強そして部活動を頑張るよう意識してきました。生活面は先生方の信頼を得るために行動し、勉強面では自分に必要な知識だけではなくプラスして学びを深め、部活動では頭を使って柔軟な考えを持てるようになって、より合格率が上がり進学することができます。

大学入試の受験方法で小論文を面接が主にあります。この二つを対策するために、前々から作業に取り組む必要があります。私は小論文は1ヶ月前から始めて、最初は構成を理解しながら書き、後は回数をこなしていって、余裕があれば小論文についての本で知識だったりと蓄えていけば、小論文でも高得点がとれると思います。

■自作のプレゼンや作品を持参して 発表すると面接の完成度が上がります

面接の練習は、志望大学の過去問を先生からもらって、その質問に対する返答を完璧にするようにし、その他のイレギュラーな質問にすぐに対応できるように、学校の自習時間や休み時間を使って友達と一緒に練習したことを、放課後の先生との練習で生かしていけば、面接はある程度は対応できると思います。さらにはもっと面接の完成度を上げるには、自作のプレゼンや作品を持って行って発表することで有利になると思います。

後輩の皆さんは残りの高校生活を全力で楽しんで、今しか体験できないことを体験して、たくさんの友達と笑って卒業するときにはいい思い出になるように楽しんでください。

途中から勉強時間を見直し 毎日努力する大切さを実感しました

■英単語や長文を勉強し

暗記はとにかく量をこなしました

私は、幼い頃から薬剤師になることが夢で、高校入学以前から国立大学薬学部と東北医科薬科大学を視野に入れていました。高校一年生の勉強不足が原因で、2年生に上がる時に選抜クラスから落ちてしまい、この悔しさをバネに、2年生は心を入れ替えて平日は6時間以上、休日は10時間以上勉強するようになりました。進路を決める際に工学部と薬学部を迷ったこともありましたが、2年生の夏に様々な大学のオープンキャンパス行って自分の本当にやりたいことと向き合った結果、薬剤師の道を選ぶことにしました。東北医科薬科大学では、地域医療に根ざした薬剤師の養成を行っていること、そして医薬連携を積極的に行っている点が、私の将来の夢である地域医療に貢献できる病院薬剤師になることと一致していたため、東北医科薬科大学薬学部薬学科の公募制を受けることに決めました。3年生は選抜クラスに戻れたこともあり、勉強のモチベーションも上がり、平日は7時間以上、休日は12時間～14時間勉強に費やしていました。1年生の時から、薬学部で重要な化学を中心に他教科も勉強していましたが、公募制にシフトしたことで、化学と英語を重点的に勉強することができました。休日や長期休みの時は、化学メインで学習し、休憩に英語をやっていました。1日1長文、毎日英単語を見ることを徹底して学習していました。私は覚えることが苦手だったため、とにかく量をこなしました。具体的には、薬科大の公募制と一般の過去問3年分をそれぞれ6周程、セミナーは数え切れないほど周回、基礎問題精講や重要問題、化学の一問一答など、様々な参考書を何周も解きました。また、センター時代の過去問、共通テストの過去問も10年分取り組みました。公募制を受ける11月には、共通テストの過去問や模試で化学が7～9割、英語が8～9割を安定して取れるようになりました。この3年間で努力すること、そして周りの支えてくれる人の大切さを実感しました。毎日遅い時間に送り迎えをしてくれた母や、私の事を励ましてくれた友人や先生、支えてくれる存在なしでは私の受験は成功していなかったと思います。大学入学後も、向上心を忘れず努力し、将来の夢である薬剤師になることで、支えてくれた人に感謝を伝えて行きたいと思っています。

友達や家族の存在が 受験時の支えになりました

■自分で作った苦手克服ノートは 弱点つぶしに効果的でした

私は、地域医療に貢献する薬剤師になりたいと思い、東北医科薬科大学を志望しました。部活動をやっていたこともあり、3年生の春ごろから受験勉強をはじめました。当時やっていた勉強方法を紹介します。公募制推薦を考えていたため、試験科目であった化学に特に力を入れていました。化学のセミナーという問題集を何周も解き、知識が不十分なところは教科書を読み込んで復習しました。過去問を約10年分用意して問題傾向を把握したり、学んだ知識が定着しているか確認するために使っていました。この時、本番の試験に近い環境で時間に注意して解くことを意識しました。何度も間違える問題や、定着しない知識を1冊のノートにまとめて、自分だけの苦手克服ノートを作ったことはとても効果的でした。実際、受験直前にこのノートを見ていたおかげで解けた問題があったので作ってよかったなと思っています。受験期は、不安や緊張からモチベーションを維持することが難しかったです。しかし放課後一緒に残って切磋琢磨し合って勉強してくれた友達や、どんな時でもそばで支えてくれた家族の存在に救われました。“受験は団体戦”という言葉もある通り、もし何かにつまづいてしまったときはまわりの人に頼るということも一つの手だと思います。

■やるべきことは多くありますが 着実に取り組んで行きましょう

受験生活を振り返ると1、2年生の過ごし方も重要だったと思います。例えば定期考査は評定に大きく関わるので力を入れて損はないと思います。しかし教科数が多く教科ごとに提出しなければならない課題に取り組む必要があり、高得点を取るための対策などやるべきタスクがたくさんあります。評定によっては受験資格が得られない場合があるので注意してください。私自身受験資格を得るために評定が必要だったので力を入れました。3週間前ぐらいから計画立てて取り組み、はやめに課題を終わらせて残り1～2週間で考査の範囲の問題をひたすら解いて対策していました。順位より点数を上げることを目標にして過去の自分に勝ったことをモチベーションに頑張っていました。私がやっていたよかったことは部活動です。勉強との両立が難しい反面、部活動で得た学びや経験を受験や受験生活に生かすことができました。入部当初は正直受験に役立てようと思っていませんでしたが、推薦書類や面接の自己アピールなどメリットを感じることも多くありました。部活に入部することが難しい人は資格取得や学校行事など様々な事に挑戦し熱心に取り組むと高校生活が充実し受験にも役立つのでお勧めです。

高校生活は限りがあり、あっという間です。後になって後悔しないためにも有意義に過ごしてください。応援しています！

薬学を学ぶという目標のため 試行錯誤して頑張りました

■ひとつの大学に固執せず

いくつか選択肢を持つことも大事です

私は幼少期から、人を助けるために働きたいと考えていました。また、母が薬剤師として現在も働いており、物心がついた頃から、薬剤師の仕事であったり薬の知識であったりと薬学に関する情報を母が教えてくれたこともあり、高校進学と同時に薬学部のある大学への進学を考えていました。

2年生の時点で国立大を第一志望にしていました。しかし、いくら努力しても成績が伸びず、受験勉強に身が入らない日々が約一年ほど続きました。そのため国立大への進学が難しいと判断しました。そこで、両親との話し合いの中で薬剤師国家試験への合格が目標だと再認識し、東北医科薬科大学を第一志望へとシフトしました。

3年生の夏までは、私立一般選抜での合格を目標に数・英・化の勉強に力を入れました。そして7月の時点で、公募制推薦型選抜での応募の条件を満たしていたため、一般選抜ではなく公募制推薦を利用し進学を目指すことにしました。大切なことは、大学選びは国立だけでなく私立も考えておくこと。そして将来の自分へのイメージを持つことです。自分になりたいものによっては、頑なに国立を目指すのではなく、私立を目指すことも一つの手段であると思います。私立であれば国立とは違いますし、受験科目も限られてくる場合もあります。そのため普段は受験する大学の科目だけを勉強するべきです。しかし定期考査はおろそかにせず、ある程度の点数を知る必要はあるので、考査の勉強は大事です。特に推薦を狙う人は一般で受ける人より考査の勉強をする必要があると思います。

■勉強は日によっていろいろな

場所で取り組みました

次に公募制を利用することを決めてからの勉強ですが、公募制で不合格になったときの心配をしていたので、私の場合、数・英・化を変わず勉強しつつも、化学と英語に重点を置いて勉強していました。私は時間ごとに教科を分け勉強する方法で行っていました。朝は英語、放課後は数学と化学、夜は化学でした。また、一つの場所で勉強するのが嫌だったので、平日は自習室と自室、休日は自室と祖母の家で勉強をしました。化学は「セミナー」と旺文社の「標準問題精講」を中心に取り組みました。後者の教材は問題は非常に難しいですが、解説が教科書より丁寧でわかりやすいので、どのページに何があるのかわかるほど解きました。そして前者の参考書で知識の定着をさせていました。次に英語は「ネクステージ」で文法長文に関しての様々な参考書を買ってあさり、英文をひたすら解いていました。また、寝る前に単語帳の単語、例文を声を出して読み上げ発音の確認を1時間近く行っていました。数学に関しては「青チャート」の難易度が2と3の例題を中心に解いていました。その参考書も（英語長文以外）は1年で3周ぐらいしたと思います。また、授業の隙間時間や自分の知識が定着したと思った箇所は先生の話聞き、重要だと思えばメモをしつつも自分の参考書で勉強をしていました。

海外研修での挑戦が自信になって 柔軟性も身につけられました

■平均評定が重要なので テストと提出物は意識しよう

東北医科薬科大学を志望大学に選んだ理由は、高齢社会や地域に役立てる薬剤師になり、緊急時には柔軟に対応できるオールラウンド薬剤師を目指したいと思ったからです。

高校2年の冬に志望大学がきまり、東北医科薬科大学の公募推薦を利用したいと考えていました。しかし当時の私は理系の科目に苦手意識があり、模試の点数もあまり良くありませんでした。この時期から、数学・英語・化学により一層力を入れました。

東北医科薬科大学の公募推薦では3年間の平均評定が必要となるので、定期テストでは点数を下げないように学習し、各教科で出された提出物は必ず提出していました。また学業のほか、特別活動では生徒会に所属し、コロナ禍で制限された活動の中で、校外の活動に力を入れました。また2年時にハワイ ホノルルに留学しました。現地の家庭に約2週間滞在しながら、Rainbow Academyに通学し、Rainbow Academyでは英語でのアクティビティプログラム研修を行いました。そこでは海外という完全アウェーな状況で、英語が通じなかったりしましたが、間違えてもいいから積極的にトライすることで、現地の人々と触れ合い、視野を広げることができ、自分に自信ができました。

常識だと思われていた様な事でも、そうではない事が分かったり、それによって考え方も柔軟になったり知識が増えました。また高校3年時に英検二級を取得しました。

■家族が支えてくれたことに とても感謝しています

そして次に私自身が受験までに取り組んだ内容を紹介します。

まず初めに試験日までどれくらい時間があり、何を学習して準備していかなければいけないかを確認することが大切です。

化学…化学基礎ではセミナーを数えきれない回数こなしました。初めは問題をよく読み込み、丁寧に解きました。その際に教科書や、参考書も活用して行いました。そこから徐々に多くの問題を解きました。過去問は、初めは自力で行いその中で出来なかったものを解説や、教科書、別年度の類似の問題を見つけて、正確な解答が出せるように何回もこなしていききました。

英語…英語では授業中、自主学習中も単語帳を常に活用していました。単語帳にない単語があるときは、ノートにメモしたりしてあとから確認できる状態にしていました。化学同様に過去問を傾向を掴みながら、参考書や単語帳を活用して取り組みました。東北医科薬科大の英語では、医療英語も試験で多く出題されます。早い段階から学習しておくといいと思います。

また公募試験では面接があります。面接に関しては、自分が志望大学で何がしたくて、何になりたいのか、なぜこの大学でなければいけないのか、自己アピールも含め先生や友達と繰り返し練習しました。以上が学習内容です。

私の受験勉強の支えは家族の存在でした。私自身の家が学校から遠いこともあり、朝早い時間や夜遅い時間に送迎をしてもらいました。常に肯定的な言葉をかけてもらい、自分のペースで学習することができました。家族には感謝の気持ちでいっぱいです。受験は、早い段階から準備しておく事が鍵になると思います。限られた時間の中でも、受験生の皆さんの可能性は無限大だと思います。最終的には周りの声や視線など気にせず、自分自身を信じて、積み上げた全てをぶつけるだけです。私自身も夢に向かい皆さんと共に頑張ります！

東北医科薬科大学 薬学部 薬学科に
公募制推薦で合格

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
塩竈 第三中出身

中学の頃の怪我がきっかけで 薬学に興味を持ちました

■面接練習では複数の先生をお願いして
違った意見を取り入れました

薬学の道を選んだのは中学 3 年生の頃です。中学 2 年の時に右膝前十字靭帯断裂という怪我をしてしまい、復帰するために手術を受け、手術後の痛み止めや栄養の薬を処方されました。そのときに、薬に興味を持ちました。また東北医科薬科大学を選んだ理由は、3 年次に医学部と合同で行われる解剖実習の機会や薬害等について学習し、倫理観を学ぶことができることです。さらに、5 年次に薬局や病院で学生の頃から医療現場で実習することで、臨床現場での対応の仕方や流れ、薬剤師としての心構えを身につけることができるからです。

私が、東北医科薬科大学薬学部薬学科に合格するために取り組んだことは化学の学習です。東北医科薬科大学の公募制推薦のテストの点数配分は、320 点満点で 200 点が理科、100 点が英語、20 点が面接です。そのため特に化学に力を入れました。また、化学の理論の原子のことや有機の部分など、全体的に勉強しました。さらに、英語では長文より、文法や会話文、単語を勉強しました。その理由は毎年同じ系統で出ているとわかったからです。10 回ぐらい対策しました。また面接については、過去に質問されたことを事前に考え、いろいろな先生を相手にすることで違った意見を取り入れることをしていました。また、テストは理科が最初で次の英語までの時間が 40 分なので、その時間で医療系の英単語を見ていました。

令和6年3月 英進進学コース卒
蛇田中出身

仙台育英で私自身の視野を 広げることができました

■日々の努力が結果に出ることに 嬉しさや楽しさを感じました

この大学を志望したのは、得意とする理系科目を伸ばし、社会貢献をしたいと考えたことです。高校に入学し、初めてのテストの結果が散々であったことに、私はひどく焦りを覚えました。そこから、授業には積極的に参加し、自主学習にも力をいれたことで、成績が上がり、理系科目である化学や生物は他の教科よりも成績が良く、日々の努力が結果として出ていることに嬉しさや楽しさを感じ、このことを何か将来に繋げられないか考えました。そのような中、東北医科薬科大学のパンフレットを見て、薬学を学び、社会貢献ができるのではと考え、この大学への進学を志望しました。

私は大学受験の際に、公募制推薦を利用しました。試験内容には、苦手とする英語が出題されており、対策方法として長文読解に生かせるよう単語力を身につけることから始めました。問題集でよく見かける単語や、授業の中でよく頻出する文法などに重点を置き、繰り返し暗記しました。また、受験の参考書などに取り組み、教科書にも記載されていない用語や注意すべき点にも気を配りながら学習しました。面接対策としても、英検を取得できたことや、苦手とする物事に対する姿勢とした点でアピールすることが出来るためとても役に立ったと考えます。

■先生方も親身に接して下さるので 高校生活を楽しく過ごせました

高校生活では、私自身の視野を広げることができたと考えます。他県からの生徒や海外から来る生徒も多いため、まだ知らない知識や文化にも触れ合えるのは仙台育英ならではの感覚です。また、先生方も親身に接して下さるので、コロナ禍であっても思い描いていた楽しい生活を送ることができました。学習面においても、自分に合った学習方法を探し、一日一日の目標を立て一つずつこなしていくことが大事だと感じました。あっという間に三年経ってしまうため、どのような学生生活を送りたいかを計画し、過ごすことが重要だと感じました。その中で、自分の目標や夢に近づくことができると考えます。

令和6年3月 英進進学コース卒
関上中出身

仙台育英で友人と過ごした日常や、 授業を受けた時間を一生忘れません

■勉強を学校することは、
青春の一つであり思い出になります

初めは一般選抜で大学に進学する予定でした。志望する大学も学科も、夏のギリギリまで迷っていました。そして学校推薦間近に進路変更をしたため、軌道修正が大変でした。面接や小論文対策もする機会も少なく、たくさんの先生方、主に担任の先生にはとてもお世話になりました。受験の書類で、何も分からなかったので、丁寧に教えてくれた先生には感謝の気持ちでいっぱいです。あらかじめ書類の期限や書き方などを確認したり、志望大学を早めに決めておくことが大事だと学びました。

学校生活において、英検などの資格をとったり、定期テストの勉強は、後になって必要となるので、甘く見ずに真面目に取り組んだ方がいいと思います。大学に進学しても、学科によっては高校での知識が必要になるし、特に英語は、大人になったら必ず使うので、勉強しておくべきだと思います。また英検は、指定校推薦や学校推薦と受ける人にとって、取得して損はないので、受けるべきだと思います。勉強を学校することは、青春の一つであり思い出になります。学生のうちは、勉強をめんどくさいと思ったり、何のためにするのかと考えたりすると思います。私も昔はそう思っていました。しかし、大人になると勉強をすることが、どれだけ楽しく素晴らしいことが分かる時が来ると思います。後輩のみなさんには、勉強せずに後悔はしてほしくないなので、今を大事に生きてほしいです。

■うまくいなくて挫折をしても
臨機応変に対応して乗り切りましょう

私にとっての仙台育英学園高校での3年間は、とても有意義な毎日でした。友人たちと過ごした日常や、真面目に授業を受けた時間を私は一生忘れません。この高校を選んで良かったです。

高校生のうちは様々な悩みや辛いことがあることでしょう。時には夢を諦めて、別の道に進まなければならないという選択をしなければならないときがあるかもしれません。人生、何事も臨機応変に対応することが大切です。

令和6年3月 英進進学コース卒
岩切中出身

自分の努力だけでなく 周囲の支えが力になりました

■自分の選択が決まらないとき

担任の先生や家族に助けられました

私は志望大学へ行くために、公募制推薦で受験しました。私は最初、他の大学を総合型選抜で受験しました。その大学は、一次試験の結果、二次試験で合格率が低い評価を受けました。私は、一次試験の評価を受けたあとに志望大学を変更しました。受験生の皆さんに伝えたいことは、プランAだけでなく、プランBなどの候補を挙げておくことで、自分の気持ち的にも安心して受験することができるのではないかと思います。

私は大学に合格するまでにたくさんの人に支えられました。志望大学を変更するときに、担任の先生にいろいろ助けてもらいました。違う学部を受けるか、二次を受験するか、大学を変更するかなど自分の選択がなかなか決まらなくて泣いたこともありましたが、担任の先生や、親は「どんな選択をしても後悔しないように」と言ってくれました。

■先生のご指摘で口頭試問は

早口にならないよう意識しました

たくさん考え、志望大学を仙台青葉学院短期大学に変更しました。大学受験は、必要な物事をしっかり練習することがとても大切です。面接や小論文が主だと思いますが、とにかくしっかり練習をしましょう。私は面接の中に英語での口頭試問があると聞いていたので、英語担当の先生と練習を何度もしました。一番最初の面接練習では、緊張して言葉が詰まるばかりでした。私は緊張すると早口になってしまうので、先生によく指摘されていました。でも何度も練習することで、面接の時のコツや、早口にならないようリラックスしながら喋ることを意識し、練習し続けました。小論文対策では、志望大学の過去問を解き、現代文担当の先生と小論文担当の先生に添削をたくさんお願いしました。私は、小論文を書くのがとても苦手だったので、何回も解き直しをしました。先生からのアドバイスを元に解き、家でも小論文に充てる時間を多く作りました。

大学受験は、自分だけでなく、周りの人たちからの支えが力になりました。絶対に、自分の周りの人たちへの感謝を忘れないでほしいと思います。

2024 栄光への軌跡

2024 年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【スポーツ推薦】

明治大学、立教大学、中央大学、法政大学、専修大学、
駒澤大学、大東文化大学、東海大学、仙台大学…

本当にやりたいことを追求し 努力を惜しまないでください

■スポーツと学業の両立をしつつ 実力も高めました

大学に合格するために私はまず最初に、自分がどの分野でスポーツをしているのかを明確にしました。大学のスポーツ推薦は、スポーツの実力や成績が重要なポイントです。したがって、自分の得意な分野に対して日々練習を重ねていました。

次に、日々のトレーニングや練習に取り組みました。大学のスポーツ推薦では、実力の高さが求められるため、日々の練習やトレーニングを欠かさず行うことが重要です。私は、スポーツクラブや学校の部活動での練習に加えて、自主的にトレーニングを行いました。体力や技術の向上に努め、自分の実力を高めることを意識しました。

また、学業もおろそかにせず、勉強にも取り組みました。志望した大学は、学問においても優れた大学ですので、成績も重要なポイントとなります。私は、スポーツと学業の両立を図るために、時間管理や集中力の養成に努めました。適切な勉強方法を見つけ、効率的に学習を進めることが大切だと感じました。

■合格のためにはなにより 努力と継続が大切

さらに、将来の目標や志望動機についても考えました。私は、スポーツへの情熱や成長を通じて、人間性やリーダーシップ能力を学びたいと思っていました。そのため、志望理由や将来の目標を明確化し、自己PRの中で伝えることが重要だと感じました。

最後に、自己表現力を高めるために、面接やエッセイの準備をしました。私は、大学になぜ進学したいのか、自分のスポーツ活動や経験から得た価値をどのように伝えるかを考え、それを具体的に表現できるように努めました。

このように、合格するためには取り組むべきことがたくさんありましたが、努力と継続が大切だと実感しました。自分が本当にやりたいことを追求し、それに対して全力で取り組むことが、大学のスポーツ推薦に合格するための鍵だと思います。皆さんも自分の目標を明確にし、努力を惜しまずに頑張ってください。

大学での学びを通じて、 将来のキャリアにつなげたい

■テニスに対する情熱と努力で インターハイ3位になりました

私は、大学に合格できたことを嬉しく思っています。スポーツ推薦で入学することになりました。スポーツ推薦を受けたスポーツは、硬式テニスです。このスポーツに対する情熱は非常に強く、努力し続けた結果、インターハイ3位になる事ができました。大学でのスポーツ活動においては、さらなる成長を目指し、チームと協力して目標を達成したいと思っています。

大学での学業についても真剣に取り組みたいと考えています。スポーツと学業の両立は挑戦的な課題かもしれませんが、私は自己管理能力を高め、時間を効果的に使う方法を学ぶことに意欲を持っています。大学での学びを通じて、自分の能力を最大限に引き出し、将来のキャリアにつなげたいと思っています。

大学生活においては、新しい友人や先生との出会いも楽しみです。異なるバックグラウンドや興味を持つ人々と交流し、多様な視点を得ることで自己成長を促進したいと思っています。また、大学のサポート体制やキャリアサービスを活用し、将来の進路についても考えていきたいと思っています。

部活動と学業を両立した努力そのものが 合格につながったと信じています

■硬式野球部では目標のための 練習を毎日欠かさずに実行

私は大学合格のためにスポーツ推薦を受けることを決めました。私が選んだ競技は硬式野球でした。以下は私が合格するために心掛けたことを800字程度でまとめた合格体験記です。

高校入学時から硬式野球部に所属し、日々の練習に励みました。私は常に目標を持ち、それに向かって努力することを心掛けました。まず、体力の向上を目指し、朝の練習やウエイトトレーニングを欠かさず行いました。また、練習時間は全力で行い、技術の向上を図りました。

さらに、チーム内での役割を果たすことも重要だと考えました。私はチームの一員としての責任を自覚し、他のメンバーとの連携やコミュニケーションを大切にしました。試合では自分の役割を果たすことに集中し、チームの勝利に貢献することを目指しました。

また、学業との両立も大切な要素でした。私は学校の授業に真剣に取り組み、成績を上げることを心掛けました。学校と部活動の両方での努力が、大学合格につながると信じていました。

■自分自身の努力と熱意が届いて 見事合格を掴みました

大学受験では、スポーツ推薦枠を活用するために、大学の選択にも慎重に取り組みました。私は自分の将来の進路や目標に合った大学を選ぶことを重視しました。また、大学の入試要項や選考方法についても詳しく調べ、対策を立てました。

最終的に、私は努力が報われ、スポーツ推薦で大学に合格することができました。私の努力と熱意が評価され、大学入学の夢を叶えることができました。

スポーツ推薦を受けるためには、競技力や運動経験だけでなく、日々の努力や責任感、学業との両立などが求められます。将来もスポーツを続けながら、学業や社会で活躍することを目指していきたいと思います。受ける方は頑張ってください。

心が躍るような将来の自分を目指し、 その場所にたどり着く努力をしよう

■部活の仲間たちと共に暮らした経験が 将来進む道を見つけるきっかけに

私はこの3年間、部活動に特に力を入れて生活してきました。全国有数の強豪校で、陸上競技部として多くの方々から見られる立場であったからこそ、人間性を磨くことができたと思いますし、大学進学をスポーツ推薦枠で受けさせていただくにあたり、一人の高校生としての近くと責任がより一層深まりました。

私が部活動をするにあたり、常日頃から、顧問の先生から言われていた言葉があります。それは、「ものの見方、考え方」といものでした。人として、高校生として、特待生として、仙台育英学園陸上競技部として、自覚と責任を持った言動や振る舞いというものを強く指導していただき、人間として大きな成長をさせていただいた3年間だったと感じています。親元を離れ、全国各地から集まった全く異なる環境で育ってきた部員と同じ屋根の下で暮らすということは、難しい点も多くありましたが、価値観の異なる人たちとの関わりを多く経験させていただくことができたからこそ、人の心という部分に大きく惹かれるきっかけとなり、心理学に強く興味を持つようになりました。

■全国トップレベルのチームで たくさんのことを吸収しました

大学進学に向け、高校3年時には、担わせていただいた副主将という役割の中で部員と主将や顧問の間の橋渡しのような存在となれるよう、チーム運営に特に力を注ぎました。また、競技面ではU20の全国大会に出場したり、チームとしては3年間で優勝と二度の準優勝を経験させていただき、全国トップレベルのチームで強い仲間から多くのことを吸収できるよう、努力してきました。大学という場所は高校以上に大きなコミュニティの中で専門的な学びを深めていく場所だと思います。自分の学力や成績は二の次として、自分が何に興味があり、どんなことを学んで行きたいのか。もちろん現実的に考えなくてはなりませんが、大学生になった自分を想像してワクワクするような選択をし、その上で目指す場所にたどり着くための努力をしていくことが大切だと感じました。

令和6年3月 フレックスコース卒
広島 二葉中出身

継続して取り組むことを忘れず 真剣に進路について考えてほしい

■ 2年生で甲子園優勝を経験できたことで
野球のモチベーションがさらに上昇

私が大学に進学するために取り組んできたのは部活動です。野球を職業にするために仙台育英学園高校を選び、レベルの高い環境の中でやってきました。その結果、甲子園に3度出場することができ、高校野球の3年間で多くの経験ができました。しかし、1年目の夏、春での甲子園出場はできませんでしたが、敗戦した悔しさをバネにこれまで以上に意識を高く持って野球に取り組んできました。その結果、2年生の夏には東北勢初の甲子園優勝することができ、個人として大きく成長できた大会となりました。2年生でこのような経験ができたことで、野球に対してのモチベーションが上がり、さらに高いレベルでできるように取り組んできました。

■ 野球を職業にすることが目標だったので、
レベルの高い大学に進むため努力しました

この頃から進路について考えるようになりました。大学に行って野球をすることは決めていたので、その中で良い環境でできる大学を考えていました。私は野球を職業にすることが目標だったので、レベルの高い大学に進みたいと思っていました。そのためには結果を出すことが求められました。1回でも多く全国大会に出場し、結果を残すために練習に取り組みました。私たちの代では、明治神宮大会、選抜甲子園大会、夏の甲子園大会、国体と四大大会全てに出場することができました。多くの方々の支えがあり、このような結果を残すことができました。その結果、中央大学からスポーツ推薦の話をいただき、親や先生方と相談し、中央大学に決めました。私が、高校に入ったときは中央大学のような素晴らしい大学から声がかかるとは思ってもいませんでした。中央大学に進むことができたのは高い意識を持って努力を続けられたことが大きな要因だと思います。これからも、この経験を活かし日々精進していきたいと考えています。将来の夢が決まっている人やいない人がいると思いますが、継続して何かに取り組むことを忘れず真剣に進路について考えてほしいと思います。

仙台育英の先生方は生徒の夢を 全力でサポートしてください

■国内外の大会に積極的に参加したことで 大学の監督にお声がけしていただきました

私は、スポーツ推薦という形で、法政大学への進学を決めました。法政大学を志望した理由は、法政大学の硬式テニス部は、関東地方の大学の中でもレベルが高く、監督、コーチ、トレーナーの方々からのサポートが手厚いため、自分自身がより成長できる環境だと思ったからです。私は、高校入学時から、全国から強い選手が集まる関東地方の大学へ進学しプレーしたいと考えていました。そのためには、高校ではより戦績を残さなければなりません。しかし、入学当時の私は、全国大会への経験は数回しかなく大きな舞台で戦うことに慣れていませんでした。そこで、私は、試合経験が必要だと考え、関東で行われている大会や、国際大会に積極的にエントリーし多くの試合経験を積みました。費用はかかりますが、自分に対して自信を持つことができました。結果として、インターハイや全国選抜に出場し、大きな舞台でも自分の実力を発揮することができ、大学の監督の目に留まったと思います。さらに、実際に大学の練習に参加し、どのような雰囲気なのか体験しました。これから、大学4年間活動するにあたり、自分がより成長できる環境はどこなのか考えるうえで、ビジョンを立てることと、早めの行動が大切だと思います。

■BTECの授業が大学でも社会問題を 学びたいと思うきっかけに

また、私は法政大学を志望した決め手として、社会学部が単体として設置されていることに加え、その講座の多さから現代社会が抱える社会問題について広い視野で学べると思ったからです。私は、高校でBTECコースを選択しました。BTECでは、スポーツビジネスや社会福祉について学びました。私は、BTECの授業を通して社会問題について興味を持ち、大学でも社会問題を学びたいと思うきっかけになりました。

大学受験では、面接と小論文がありました。小論文の内容はスポーツ関係のことが多く、自分が体験したことをノートにまとめたり、最近あったスポーツのニュースをチェックするようにしました。面接練習では、自信がつくまで何度も練習しました。多くの先生方に協力をいただき、たくさんアドバイスをもらいました。本番では、焦らずゆっくり、相手に伝えることが大切だと思います。

仙台育英はスポーツが強いと知られていますが、その裏側には顧問の先生や担任の先生の協力があります。自分の夢を全力でサポートしてくれます。困った時は先生方に相談し、自分の選択に悔いのないようにしてください。

継続力はすごい力に繋がるものと 高校生活を通して学びました

■フレックスコースでスポーツ選手ならではの 話ができることが一番の思い出です

高校生活では主に4つのことを学ぶことができました。学習面では、学ぶ姿勢を大切にし、知識を身につけ、情報を選択し、筋道を立てて分析的に説明できる表現力の向上に力を注いできました。また、学校生活の思い出はサッカー部やバレー部、駅伝部の他競技の生徒とたくさん交流できたことです。スポーツを全力でやっている人たち同士が集まったクラスなので、他競技のことについてや食事、コンディショニングなど、スポーツ選手ならではの話をできたことが一番の思い出です。

部活動では、全国のどこの高校生よりも充実した3年間を過ごせたと思います。入学した頃は同級生や先輩たちの動きに圧倒され、心配になることもありました。しかし、毎日継続して練習を行うことにより、徐々に実力も自信もついていきました。高校2年からは1年生時に怪我を多くしたことの反省を活かして、コンディショニングを毎日のように行っていました。継続力が自分のひとつの武器であり、すごい力に繋がるものなのだと高校3年間を通して学びました。高校2年生時には甲子園優勝、3年時には甲子園準優勝と、最大の経験値を得ることができ、これはこれからの野球人生にとっても貴重な財産になりました。

■ボランティア活動にも励み、 地域の方々との一体感を大切にしました

寮生活では自炊でご飯を作ったり、洗濯や洗い物など生活する上で必要な力を獲得することができました。大学では自由の中に自分を律する力が必要であるため、時間を有効活用し、今何をすべきなのかを頭の中でスケジュール立てして生活してきました。具体的には自主的な練習やストレッチを継続的に励み、時間の使い方を工夫しました。

高校では毎年野球部の仲間と協力しながら、除雪作業にも取り組みました。チームとしては「地域の皆さまと感動を分かち合う」といふスローガンを掲げ、大会ごとに大きな声援をいただき、地域の方々と一緒にいると感じることができました。

これらの経験を活かし、大学生活でも充実したものにできるよう、日々精進していこうと思いました。

高校3年間努力し続けた柔道を 大学でも続けていきます

■事前課題は題材をよく調べてから 先生方に添削をお願いしました

私はスポーツ推薦選抜という形で、駒澤大学法学部法律学科フレックスAへの進学を決めました。駒澤大学を志望した理由は、公務員試験対策講座があり、身近な先輩も進学しており、部活の練習の雰囲気も高校の練習と似ている部分があったからです。

入試に合格するため事前課題と面接を頑張りました。事前課題では、課題の題材が発表された時から毎日ネットを使い調べて、題材を深く知ってから書き始めて先生方に添削をお願いし、取り組み続けました。面接では、オンラインでの面接だったので、入退室の練習はせず、どのような質問がきても答えられるようにさまざまな先生方や部活動の仲間にお話し、質疑応答を重点的に練習しました。

■どんな試合でも強い相手でも 前に向かっていくスタイルを貫きました

部活動では、柔道部に所属していました。中学時代は新型コロナウイルスの影響で中総体が中止になるなど、自分が今まで培ってきた実力を試すことが許されず、やりきれない思いを抱いた状態で仙台育英に入学しました。そのため、高校では当たり前前に練習できていることに感謝して、1日1日を無駄にしないように心がけながら練習に取り組みました。また、大会では試合に出たくても出ることができなかった人がいることを身を持って知ることができたので、どんな試合でも後悔を残すことのないよう、強い相手でも前に出て向かっていくスタイルを貫き通しました。今年度の全国大会に出場するため、それに向けて毎日の練習の中で目標を立て技術向上のため細かい部分まで意識して、先生方のアドバイスを素直に聞いて取り組むように心がけました。フィジカル負けしないため、日々の食事回数を増やすことや柔道に必要な筋力を考えトレーニングに励み力負けしないようになりました。大学生は高校生に比べて体格が大きいので、入学するまで更に筋力トレーニングなどに励みたいと思います。

試験内容はオンラインでの面接でした。合格するためにさまざまな先生方と面接練習を行うことが必要だと思いました。更に時事問題に関する内容が出る可能性があるので、ニュースを見る習慣を身に付けているといいと思います。休日は繰り返し声に出して読み、考えなくても言えるまで練習しました。平日は先生や部活の仲間と面接練習をやっていました。また、面接用のノートを作り、質問に対しての言いたいことを箇条書きで書き、面接練習で言われたアドバイスをノートに書き足していき後で読み返しできるようにしておくといいと思います。私が受験に合格した要因はこれだと思います。高校生活の3年間はあっという間に感じました、悔いの残らない高校生活を送ってほしいです。

令和6年3月 フレックスコース卒
新潟 津南中出身

自分に今何ができるのか、何をすれば 今後に活かせるのかを常に考えました

■進学先はどこに行けばより目標に 近づけるのかを考えて決めました

大学進学を目指した理由は、小さい頃からの夢である箱根駅伝出場ということと、中学生の頃からの夢であるスポーツの指導者や学校の保健体育の先生といった職業に就くため、大学で学びの幅を広げ、経験を増やしていきたいと考えたからです。これらの夢を叶えるためにどこに行けばより近づけるのかを考え進学先を決めました。

私はスポーツ推薦で受験をして部活の結果も重要になっていたので高校入学時から部活はつねに高い意識で行うことを心がけていました。怪我などで思うように走れないときもありましたが、今自分に何ができるのか、何をすれば今後に活かしていけるのかを考え、少しずつコツコツ行ってきました。

■日々の生活から小さいことでも 意識して過ごすのが大切です

受験が近くなってくると受験の対策と部活を両立するのが大変でした。私は大学を決めるのが少し遅かったこともあり、受験対策も遅れてしまったことも原因の一つでした。部活も駅伝が近くなり、忙しい時期と被るので早めに志望大学を決めることが大切だと思いました。早めに大学を決めて、対策を前々から進めておくことで受験間近になったときに焦らず部活とうまく両立できると思います。また日々の学校生活では、提出物をしっかり出すことや、テスト前の勉強など当たり前のことをしっかり行い、成績を高く保つこと、そして成績によっていける大学も変わってくるので、日々の生活から小さいことでも意識して過ごすのが大切だと思いました。

最後に学校推薦型・総合型選抜での受験は早い時期に終わり時間ができるとは思うのですが、この時間でなまけて生活するのではなく、一般受験の人たちと同じ気持ちで自分にできること、大学に行くまでの期間でやれることを考えて生活しましょう。この期間で大学に入ってから成長具合も変わってくると思うので、最後まで気を抜かずに生活していくといいと思います。

刺激し合える仲間がいたからこそ 練習に打ち込む事ができました

■陸上競技部では目標を見失わずに

1日1日を大切に練習に取り組みました

私は、総合型選抜 指定クラブ型入試で、東海大学体育学部競技スポーツ学科を受験し合格することができました。この学校を受験した理由としては、大学内の施設やトレーニング環境が整っているため、知っている先輩も進学しており、自分自身の成長に繋がると感じたからです。

部活動では陸上競技部に所属していました。初めの方は、全体の練習に全くついていけず1年生の頃は辛い日々が続いていました。それでも、目標を見失わずに1日1日を大切に練習に取り組んできました。

3年間で自分自身1番に大事にしてきたことは、どんな結果だろうと目標を見失わずに目標達成のためになにが必要かを考えて、練習に取り組むことでした。

私の目標は、インターハイで入賞することでした。その目標が明確になったのは高校2年の東北高校総体のあとでした。私は初めて挫折を知り、そこから明確に目標を段階的に組み立て、一から始めることにしました。

■これからの私の目標は、

世界を舞台にして活躍すること！

そうした中で常にチーム内競争がある環境での練習は、力をつけていく中で互いに刺激しあい、大切な存在であり必要なものでした。そういった仲間達がいたからこそ、目標に向かって継続して練習に打ち込める事ができました。結果的には自己ベストを更新して6位入賞することができました。このような目標達成の要因としては、インターハイ当日までにたくさん思うようなことがあり、練習ができずに心が折れそうなきときもありましたが、どんなときも常に目標を見失わずに練習を行った結果だと思っています。

私の目標は、世界を舞台にして活躍することです。そのために東海大学での4年間を通して競技力の向上だけでなく、人として成長しアスリートとしてさらなるレベルアップに向かってまずは目の前の小さな目標から一つずつ乗り越えていくことで、確実に近づけると 생각합니다。

そのためにどんなときでも自分の目指している目標を見失わずに、やり遂げることが一番大切なことだと思います。

令和6年3月 フレックスコース卒
倉敷 児島中出身

勉強や部活動に全力で取り組めば、 進路の選択肢も増えるはずです

■結果を出せなくても自分の頑張りを 大学の監督が認めてくださいました

私は、仙台育英での3年間を通して文武両道を目指して頑張りました。勉強があまり得意ではなく自ら勉強をするタイプではなかった私ですが、大学に通う先輩方を見て自分も部活動だけではなく、勉強もしっかり頑張らないといけないと思い、高校では文武両道を目指して日々の生活を送りました。

部活動は陸上競技部に所属していました。高校3年間は怪我に悩まされ、思うような結果がでなくて陸上をやめようか悩む時期もありました。でも、怪我で走れない日々が続くと、走りたいと思う欲が出てきて、改めて自分は走ることが好きなんだと実感し、大学でも競技を続行しようと思いました。3年生の時にはスランプに陥り、高校3年間はこれといった結果は出せませんでしたが、監督やコーチ、仲間に励まされ、足を止めることなく陸上に向き合うことができたので感謝の気持ちでいっぱいです。納得のいく結果ができなかった高校3年間でしたが、自分の頑張りを大学の監督が認めてくださり、希望した大学の総合型選抜（スポーツ推薦）、指定クラブ型という受験方法で合格することができました。

■将来の目標のためにも大学では 高校以上の勉学に励みたい

また、部活動と一緒に勉学の方も頑張りました。部活動の練習のあとに勉強するのは時間的にも厳しかったので、休み時間の間に勉強をしたりと効率よく勉学に励むことを意識して日々コツコツと積み重ねることができました。また、大学受験に向けた試験対策では、放課後や休み時間に先生に力を借り、小論文の対策や面接練習、口頭試問などの対策に協力していただき、自信をもって試験に挑むことができました。

また、将来就きたい仕事の分野の学部学科に進学することができ、大学では将来の目標のためにも高校以上の勉学に励みたいと思っています。東海大学では、最新の機材や多くの研究室や実習室が充実しており、自分の将来の目標へ近づける環境だと感じました。さらに、基礎から学べるカリキュラムが豊富にあり、専門的な知識や技術がない自分でも丁寧に学ぶことができるため東海大学で頑張ることを決意しました。大学での目標は、小さい頃からの夢であった箱根駅伝に出ること、そしてチームに貢献すること、学習面では将来の目標に近づけるよう資格取得に向け頑張りたいと思います。

高校生活で勉強や部活動を一生懸命取り組めば、自分の可能性が広がり、進路の選択肢も増えると思うので、自分に合った大学選びが可能になり、充実した大学生活を送ることができると思います。毎日コツコツ努力することや諦めず最後までやり遂げることでいつかその努力が報われる日がくるはずです。自分の可能性を信じて目標達成に向けて頑張ってください。

毎日の授業、自主学習をはじめ 十分な準備が欠かせません

■受験は一瞬の勝負で 心の準備も必要です

私が大学受験に挑んだ時、心はとても複雑でした。期待と不安が入り混じり、将来への不確かな感じがありました。しかし、その経験は私にとって非常に貴重なものとなりました。

まず、大学受験に際しては十分な準備が必要であることを強く感じました。学校の授業だけでなく、放課後の自主学習も欠かせませんでした。試験範囲を把握し、計画的に取り組むことが重要です。また、専門の先生からの指導や仲間との切磋琢磨が受験勉強を助けてくれました。

受験は一瞬の勝負ですが、それに向けての心の準備も重要です。私は、モチベーションを保つために目標設定をしました。自分の大学進学の原因や将来の夢を明確にすることで、辛い勉強にも意味を持たせることができました。また、周囲のサポートも欠かせません。先生や友人に励まされ、応援してもらいながら頑張ることができました。

■諦めなくなった時も 乗り越えた先に喜びがあります

そして、一番大事なのは努力と諦めない心です。受験勉強は大変なこともありますが、その辛さを乗り越えることが大切です。苦手な分野にも挑戦し、理解するための工夫をすることが必要です。そして、試験の結果が出るまで諦めずに頑張りが続けることが重要です。私も何度も挫折感を感じましたが、それを乗り越えた先に合格の喜びが待っていました。

受験はただ合格することが目標ではありません。自分が進学したい大学を志望し、自分が本当にやりたいことを追求するための一歩です。受験は大変ですが、その経験を通じて自己成長することができます。私自身、大学受験を通じて自信を持つことができ、新たな自分と出会えたと感じています。

後輩たちに一つだけ伝えたいことは、自分の夢に向かって努力し続けることの大切さです。受験勉強は大変ですが、その先には素晴らしい未来が待っています。自分自身の可能性を信じ、一歩踏み出してください。後悔しないように全力で取り組み、自分の夢を叶えましょう。

自己管理能力と計画性を培って 毎日のやるべきことを見失わないこと

■頑張るだけではなく

時には休憩も大切なことです

私が立正大学を合格できたことを振り返ると、何事にも計画性は重要だと感じました。スポーツ推薦での受験をするために、私は部活動に力を入れてきました。その中でしっかりと目標を設定し、それに合わせて具体的な計画を立てることが重要です。

そして、計画通りに進めるためには、自己管理能力が求められます。その日の気分や状況に流されず、事前に決めた毎日のやることを行うことが大切です。また、不得意なことや弱点を克服するためには、効果的な練習法を見つけることも重要になります。試行錯誤を繰り返しながら、自分にあった効率的な練習法をみつけましょう。

さらに、ただ練習をするだけでなく、適度な休息をとり、体を休ませることやストレスを発散することは、結果を出すためにも必要になってくる要素でもあるので、そこを考慮しながら計画を立てましょう。

■好きなことをするために

勉強やテストもしっかり両立しよう

スポーツ推薦といっても、勉強をおろそかにしてはいけません。勉強と部活動の両立は学生の本分であり、どちらも真面目に取り組まなければ、勉強やテストが足を引っ張り、好きなことに集中出来ずに、結果的にどちらも中途半端になってしまいます。それを念頭に置き、好きな物に没頭するためにも両立を図りましょう。

そして何よりも、自信を持って挑むことが大切です。学習も部活動も自分の力を信じて日々の努力を続ければ必ず結果がついてきます。失敗してもそれは成長の機会ですので挫折せず、諦めずに最後まで頑張りましょう。私自身も結果が思うようについてこなかったり、途中で上手いかず一番の夢を絶たれてしまうなどと、様々な困難に立ち向かいましたが、それを乗り越え次のステージを見据えることができました。一つ一つの小さな成果を積み重ねることで、自信をつけることができました。後輩の皆さんも、計画を持ち、確実に目標に向かって進みましょう。

令和6年3月 フレックスコース卒
東京 修徳中出身

文武両道の重要性を教えてくれたのが 仙台育英での学校生活でした

■トップアスリートに近づくため

寮生活は見直しと成長を意識

高校生活では主に3つのことを学ぶことができました。

まず1つ目は、学校生活です。学校生活では、中学校まではスポーツだけをやってればいいと思いましたが、高校に入り勉強と部活を両立してテストでも授業などの予習復習など、空いている時間などの学習時間の確保し、高得点を取って赤点にならないようしてきました。他にも、挨拶や、相手と話す時の表情や身だしなみなど様々なことを1から学び、成長できました。

2つ目は、寮生活です。寮生活では、初めて親元を離れての生活になり、不安などありましたが、色々なことが成長できたと思っています。寮の中で、仲間との絆や繋がりや深め、協力し、成長していく中で、今まで親がやってきたことを自分で全て行うため時間の使い方など、生活リズムなど改めて見直しました。食事のバランスなど、トップアスリートになるための空き時間のトレーニングや、ストレッチや疲労回復など、パフォーマンスを上げるための生活を考え、行ってきました。誰でも、疲れている時など妥協してしまうことがあると思いますが、そこを耐えるからこそ自分の成長に繋がっていくと思います。そのような経験を積み重ね、自分の未来がどんどん広がって行くと思いました。

■中学生の頃とは異なる視点で

練習メニューを勉強しました

3つ目は、部活動です。部活動では、中学までとは練習メニューが大きく変わり、自主練習がいっぱいあります。チーム練習も大切ですが、個人練習はもっと大切だと思います。自分がやりたいプレーができるようになり、同時にまだ自分に足りないものを身につけていくことで、自分の成長に繋がると思います。野球で一番大切にしているフィジカルに対して、練習でどれだけ向き合うかが勝負だと思うので、私は、そのことに対して効率の良い練習やトレーニング方法やプロテイン、サプリメント、食事などの勉強をいっぱいしました。そして、将来の夢でもあるプロ野球選手もそうですが、野球のトレーナー、コーチやジムのトレーナーになるというもう一つの夢に繋がるための一歩だと思います。日々の生活を大切にしてください。

「人との繋がりを大事に」という 監督の教えを大切にしています

■大学はしっかりとした 理由を持って選びましょう

私は3年間で、人との繋がりを大事にして生活してきました。本校硬式野球部監督である須江航監督が、「人との繋がりを大切にしてください」とおっしゃっていました。人との繋がりを大切にするご縁があるということをお教えいただきました。大学でも、留学生などが多くいるため繋がりを大切にしていきたいと考えています。

東京国際大学を選んだ理由は、体育教師になりたいという夢があり、その夢を果たすのに最適な大学だと感じたことと、大学の名前の通り国際ということで、留学生との関わりを持っていきたいと感じたからです。

大学に進学するということは、将来の夢に近づくことだと思うので、高校の頃のように子供のような気持ちを捨て、大人としての一歩を踏み出していけるよう、心の準備で整理をしていこうと考えています。

大学は、なんとなくといった理由で選ぶのではなく自分の夢に合った大学を選ぶべきだと思います。親にも迷惑をかけるため、真剣に考え自分の人生を決めたほうが良いと感じました。

私は野球をやっていて、大学からの推薦をいただきましたが、野球だけでは通用しない社会に出ていくため、高校時代から、勉強と部活の両立や、社会勉強をしておく必要があると考えます。

周囲の人に遠慮せずに頼りながら 常に前向きな態度を心掛けよう

■自分の意見を大事にしながら 将来の構想を描いていこう

まず、自分の目標をはっきりと定め、それに向かって努力することが重要です。失敗や困難があっても、それを乗り越える経験が成長に繋がります。友達を大切にし、新しいつながりを築くことも忘れずに。協力とサポートは大学生活を豊かにします。同時に、自分の意見や価値観を大切にし、他者と異なる視点を理解することも大切です。授業や課外活動に積極的に参加し、多様な経験を重ねることで自分の興味や才能を発見できるでしょう。計画的な時間管理も大切ですが、柔軟性も持ち、予期せぬ変化に対応する力も養ってください。将来のためにキャリアの構想を描き、それに向けてスキルやネットワークを築くことも大切です。最後に、適度な休息も忘れずに。心身の健康が最良のパフォーマンスを引き出します。成功を信じ、前向きな気持ちを持って、充実した大学生活を送ってください。

■計画的なスケジュールを立てて 時間を有効に使いました

大学での成功に向けて、後輩にはいくつかの重要なアドバイスがあります。まず第一に、オープンマインドを持ち、新しい経験やアイデアに対して柔軟でいることが重要です。異なる文化や考え方に触れ、自分の視野を広げることで、豊かな大学生活が待っています。また、時間管理が鍵となります。授業や課題に加えて、自己成長や友情を築く時間も大切にしましょう。計画的なスケジュールを立て、優先順位を考えながら適切に時間を使うことで、バランスの取れたキャンパスライフを送れます。同時に、質問をどんどん先生や先輩に恐れずに相談することも大切です。遠慮せずに自分の意見や疑問を表現することで、より深い理解を得られますし、人間関係も築きやすくなります。最後に、失敗は成長の源です。何かがうまくいかない時でもめげずに前向きな態度を保ち、そこから学び取ることが大事です。大学は自己発見と成長の場であり、挑戦と成功、失敗からの学びがあなたをより強くしてくれるでしょう。

城西国際大学 経営情報学部 総合経営学科に
スポーツ推薦で合格

令和6年3月 フレックスコース卒
埼玉 三郷北中出身

これから先この3年間の経験が必ず 役に立つときがくるはずです

■どんな進路でも困らないよう1年生のうちから 部活と学習に力を入れました

私が大学進学を目指した理由は、大学でもっと様々なことを学びたいと思ったことと、競技も高校で終わらせずに、まだ頑張りたいという気持ちがあったためです。高校1年の頃は、大学進学のことをあまり深くは考えていませんでしたが、どのような進路になるとしても困ることがないように、部活動では少しでも良い成績を残せるよう取り組み、評定も高い点が取れるように努力をしました。部活動は3年間でたくさんの経験をし、自分にとってとても成長するきっかけになることも多くありました。3年間で学んだことが、大学進学をしてからも必ず生かせると思っています。

■勉強はもちろんのこと 睡眠と体調管理にも気をつけました

評定で良い点を取るためには、まずはテストで毎回確実に高い点数が取れるよう、勉強しました。部活動の時間があり、多く勉強の時間を取ることがあまり出来ていませんでしたが、定期考査前には短時間で集中して勉強に取り組み、テストでの点数は取れるように努力しました。直前の勉強でも集中して取り組みば定期考査で点数を取ることはできましたが、前々から計画的に勉強をするのが確実に学力は身につくもので、なるべくはそうすべきだと感じました。また、普段の私生活の過ごし方で、授業や部活動の取り組みに大きく影響がでてしまうと思うので、まずは適切な睡眠時間の関係だったり、毎日元気に過ごしていくことが大切だと思いました。

私にとって高校3年間はとても濃いものとなり、これから先、一生この3年間の経験が役に立つときがくると思っています。勉強も部活動を精一杯頑張れば、必ず連絡にも良い方向で繋がると思います。

かけがえのない仲間の存在が 苦しいときの力になりました

■面接練習のおかげで

本番も迷わず答えられました

スポーツ推薦で大学に合格しました。大学受験では面接の試験だけだったため、それに特化した対策を取ってきました。面接の対策としては、事前に先生方と模擬面接を行い、本番の試験で聞かれそうなことを事前に考えそれに対して準備してきたことで、本番でも迷わずはっきりと答えることが出来ました。

将来、スポーツ科学を学びスポーツバイオメカニクスなどの研究分野や、スポーツトレーナーとして競技スポーツを行う人の役に立つ仕事に就きたいという目標があります。その目標を達成することが出来る大学を考え選びました。

私は、高校生活で部活動を1番頑張りました。私は、部活動を通して大きく2つのことを学びました。まず1つ目は仲間がいることの大切さです。私は、仲間というのは本当にかけがえのないものだと考えています。私が思うように結果が出ず悩んでいた時に、一緒に頑張ろうと引っ張ってくれた仲間がいたからこそ、辛いことや苦しいことを乗り越えることが出来ました。また、1人では限界があることでも、仲間と協力すれば大きい事を成し遂げることができたので、私は仲間がとても大切だと感じています。そして2つ目は考える力です。コロナ禍から始まり様々な経験をした3年間でしたが、その中で物事を様々な方面から捉え、どうすれば自分が上手くなれるのか、チームが強くなるのか、ということを常に考えてきました。限られた時間の中で、質を高めるために一つ一つの動きの意味や意図を理解して練習に取り組むことや、効率よく練習する工夫のために事前にやるべき事を決めて、その決めたことをやりきるなど試行錯誤を重ねて3年間を過ごしてきました。現状に満足せず、何が足りていないかなどを自分たちで考えることで、思考力や発想力は大きくなりました。この経験は今後の人生に必ず役立つものだと考えています。

夏の甲子園を目標に入学して 優勝することで達成できました！

■明確な目標を設定して そこから行動していこう

小学校1年生のころから野球を続けてきました。その頃から、ずっと、プロ野球選手になりたいという夢を持っていました。高校生活で活躍をしてプロになりたいと考えていましたが、私の思い通りにはいかず、高校を終えた時点ではプロ野球選手にはなれないと判断しました。それでも今は大学に入学し、4年後に絶対プロになると切り替えることができます。

私が仙台育英に入学した理由の一つに、甲子園東北勢初優勝に貢献したいという理由がありました。やはりその目標というものが大切だと思います。私が2年生の時に夏の甲子園で優勝することができました。私は絶対自分たちが東北勢初の優勝をしてやると強く思っていたので、このような結果に結びついたのだと思います。誰もがなんでもいから目標設定をすることによってそのためにはどうしたらいいか自分で考えて行動することができると思います。小さくても大きくてもいいので、明確な目標設定をすることが大事だと思います。

■夢を最後まで諦めずに やりきる自信があります

高卒でプロになりたいと考えていましたが、そんなに簡単に行けるものではなく、プロの世界には行くことができませんでした。そんな中で、私は野球以外にもやりたいことが見つかりました。それは幼稚園の体育の先生になることです。もともと小さい子供と触れ合うことが大好きだった私は、仙台大学の子ども運動教育学部に入学したいと強く思いました。もちろんプロ野球選手という夢も追いかけていきます。2つの夢を目指すことはとても難しいことだと思います。それでも、どちらも自分のやりたいことなので最後まであきらめないでやり切りたいと思います。

私が考えるのは自分がやりたいことを選択するということです。私自信それで成功したという体験もありますし、自分がやりたいことでしか幸せを感じられないと思います。最後までやり切れる自信があるものを、最後の最後までやり抜いてください。

2023 栄光への軌跡

2023 年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



総合型選抜

東北大学、筑波大学、奈良女子大学、宮城大学、
早稲田大学、法政大学、立命館大学、東北芸術工科大学、
東北学院大、東北福祉大、東北文化学園大学…

誰よりも学んでやるといった 気合いと意欲が大事です！

■ボランティア活動や英検等に挑戦すると 入試方法が選びやすくなります

第一志望に合格できず、落ち込んだ気持ちのまま始まった私の高校生活。1年生の頃は、自分の進路と向き合うこともなく、大学受験を意識して勉強に励むクラスメイトもいる中で、遅れを感じつつもだらだらと過ごす日々でした。そんな、目標を持っていなかった私ですが、定期テストは毎回しっかりと取り組んでいました。そのおかげで、AO入試Ⅱ期を受ける際、評定に困ることはありませんでした。

総合型入試を視野に入れていなくても、1年生の頃から提出物や定期テストにしっかりと取り組むことをおすすめします。またボランティア活動への参加や英検の取得などにも挑戦しておく、一般入試以外の入試方法での合格を目指すことができるようになります。

■行き詰まったら自分一人で抱え込まず、 誰かに相談してみましょう

私が大学受験を意識し本格的に勉強を始めたのは、高校2年生の冬。E判定からのスタートでした。周りと比較すると、受験モードへの切り替えが遅く、焦りや不安もたくさんありました。そこで、私が受験勉強において大切にすることは、2つあります。1つ目は、日々の授業や放課後講習を怠ることなく参加することです。授業中にどれだけ学べるかは、授業への参加態度次第で変わります。誰よりも学んでやるといった気合い、意欲が大事です。2つ目は、隙間時間を活用することです。休み時間や電車の中、歯磨きをしながら、勉強の休憩時間などを使って英単語を学習したり、教科書を読み込んだりしました。スマホを見る代わりに単語帳、教科書を見ることを意識しました。急には難しいですが、徐々に活用する隙間時間を増やすことで、効率の良い学習に繋がります。

時には学校の先生や塾の先生、先輩や友達に頼ることも大事です！自分一人で抱え込まず、相談してみたら何か変わるかもしれません。

受験は最後まで何が起きるか分かりません。最初から無理だと諦めて後悔するなら、挑戦してみるのはいかがでしょうか？自分の信じる道を進んでください！！

令和6年3月 秀光コース卒

秀光中等教育学校出身

IBの学習で経験値を積み重ねて 不安なときは周囲に頼れるようになりました

■ 6年間の学びと活動で学んだ

挑戦する心構えを自信に

私は、小学生の頃から人の心に関心を持っており、心理学について学びたいという気持ちがありました。高校1年生で取り組んだ Personal Project において、セクシュアルマイノリティをテーマとした小説を執筆した経験は、人々が抱える「生きづらさ」というものについて深く考える機会となりました。これをきっかけとして、心に問題を抱えている人が気持ちを整理するためのサポートをしたいと考え、公認心理師を志しました。私は臨床心理学について最も強い関心がありましたが、脳科学や神経科学に近い領域についても学びたいという思いがあったため、幅広く、かつ高度な学びが得られる大学に進学したいと思い、筑波大学の受験を決心しました。

私にとって筑波大学を受験することは大きな挑戦であり、志した当初は自信よりも不安の方が圧倒的に大きかったです。しかし、思い返せば秀光での6年間も挑戦の連続で、実行委員や生徒会役員としての活動、IBの中で取り組んだ数多くの課題など、初めてのことに積極的に挑戦し、その過程で失敗や学びを経験してきました。私が受験に全力で向き合うことができたのは、挑戦の仕方と挑戦するときの心構えを知っていたからだと思います。これまでの挑戦があったからこそ、一人で進めようとせずに先生方を頼ったり、失敗したときに上手く立て直したりすることができました。受験対策はどれだけやっても不安なものだと思っていましたが、これまでの6年間で経験したこと、挑戦してきたことなど、全てのことが自信に繋がりました。

■ 経験を自分の糧にして

後悔のない道へ

私は受験を終えて、「経験」というのがいかに重要であるかを再認識することができました。特別なことをしていなくても、一つ一つの経験に意味を見出し、そこで得たものを理解するということは、必ず自分の糧になります。賞賛されるような大きな挑戦である必要はないので、日常的に新しいことに挑戦するというチャレンジ精神を持って、後から「自分は挑戦したのだ」と思えるような毎日を送ってください。皆さんが後悔のない道に進めるよう、応援しています。

受験のプレゼンテーションは 誰でも理解できることを目標に練習

■ IB の学習で挑戦した 課題論文もきっかけの一つ

私が奈良女子大学工学部を志望した理由は二つあります。一つ目は、IBDP において「ボールの構造による流材の影響」をテーマとして 8000 文字の課題論文を執筆した経験より、情報工学を活用したスポーツの発展に寄与したいという目標を持ったことです。二つ目は、文理横断的かつ自由な履修選択が可能であるということです。私は IBDP 受講により、文理にとらわれない進路選択をしたいと考えるようになりました。奈良女子大学では、リベラルアーツを基盤とした STEAM 教育を分野や学年を問わず自由に選択することができます。これら二つの要素を満たす環境が整っているこの大学を志望しました。

私が受験した『探究力入試「Q」』（総合型選抜）Q3 型（キューブ）では、志望理由書と、これまでの探究活動をもとに、大学で取り組みたい研究計画書の作成、という課題が与えられました。私は課題論文で取り組んだテーマを軸に発展させた内容を計画しました。試験は、計画書をもとにプレゼンテーションもしました。練習では、「誰でも理解できる」を目標に、様々な教科の先生に協力していただき、8 対 1 で取り組んだことによって自信を持った状態で試験に挑むことができました。

■ 受験生の中で一番の自信を持って 頑張ってください

総合型選抜で受験するにあたり、アドバイスできることは二つあります。一つ目は、自分の強みと希望のバランスが取れた大学選択をすることです。総合型選抜では、受験者がアドミッションポリシーと合致しているかを明確化するためには大切となります。二つ目は、課外活動に積極的に取り組みことです。私は本当に様々なことに興味があり、多くの人に支援していただいたおかげで、ラクロス部や生徒会執行部での活動、拉致問題啓発活動、ジュニア・リーダー活動など様々な経験をすることができました。これらの経験は、進路選択における判断材料、自分の強みとして大いに受験に生かすことができました。

総合型選抜は準備が命です。その分、本番は「受験生の中で一番の自信」を持って臨んでください！応援しています。

令和6年3月 特別進学コース卒
角田中出身

動機や目標、これまでの経験などを 言語化できるかどうかが大事です

■総合型で落ちても一般で受かる自信があると
心に余裕を持って入試に臨めます

宮城大学を志望したのは、建築やデザインを学べるという条件に合っており、先生方の雰囲気が良かったからです。総合型選抜を選んだ理由は二つあります。一つ目は、受験への準備によって大学入学後も役立つスキルが得られると考えたことです。宮城大の総合型には、グループディスカッションやレポートが課されます。そのため、受験のために練習する中で、大学でのグループワークに必要なコミュニケーション法やディスカッションでの案の出し方、結論のまとめ方などを学ぶことができると考えました。二つ目は、総合型で落ちても一般で受かる自信があったことです。この自信があったことで、私は万が一受かればいいな、くらいの気持ちで受験に挑むことができました。総合型落ちたらもう後がない、みたいな感じになってしまうと心の余裕もなくなってくるので、総合型にはダメもとで挑むのがいいんじゃないかと思います。

■人とは違う体験をしているということは
大きな強みになります

総合型に向けて私がしたことは、書類の準備と練習です。特に、書類のなかでも自己申告書の準備が一番大変でした。先生のサポートによって、自分がやりたいことと自分の強みを具体的に絞りでいくのですが、いざ文にしようとすると全然出てきません。その職業に就いて何をしたいのか、誰の役に立ちたいのか、宮城大で学ぶことが将来の目標にどう関わってくるのかや、自分が今までしてきたこととそこから学んだことなど…分かっているようで分かっているしなかったんだな、と思い知りました。総合型受験を考えている人は、その辺の言語化から始めてみることをおすすめします。また、自分の強みを書くにあたって、人とは違う体験をしているということは大きな強みになります。高校や志望大学が企画するプログラムなどに積極的に参加し、経験や学びを積み重ねていくことを強くおすすめします。書類の準備を夏休み明けごろに終わらせた後は、11月の本番に向けてディスカッションの練習が始まりました。私は良い先生と仲間に恵まれて、本番まで7、8回練習できましたが、それでも本番では緊張して、受験特有の雰囲気に吞まれそうになりました。グループディスカッションは、一見できそうでも、とても難しい項目です。必ずきちんと練習して挑みましょう。面接の場合は、慣れるための練習は良いですが、回答暗記のための練習には効果がないと思います。面接のためには練習よりも自己申告書の深掘りをしておいたほうが良いです。

私の合格体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。

自分の強みや弱みを理解することは 大きな武器になります

■ 2年生の夏に全国大会優勝を 達成したので条件をクリアしました

受験をする前に、入学するためのある一定の基準があり、それは、全国大会ベスト8以上か日本代表に選出されるというとても高いハードルでした。それに加え、三年生の夏の大会の時には、ほとんどの選手が進路が決まっていた競技に集中している期間なので、最低3年生の春までには結果を残さなければいけませんでした。私は2年生の夏に全国大会優勝を達成していたので条件をクリアしました。

受験方法に関しては、周りの大学とは少し違うイメージを持ちました。それは受験する為の予備的な受験をする必要があったことです。まずは、8月末に自分の事について1000文字以上のレポートを提出し、10月にそのレポートをもとにして、オンライン面接という形で受験しました。15分程度、自分が書いたレポートについて質問をされるのですが、何点か書いていない質問だったり、自分の知識をフルに使って答える質問があったりなど、少し緩急のある面接が行われました。

■ 受験は早めに準備をして 最高の状態で臨んでください

そこに合格すると、次が本当の受験となります。小論文と面接があるのですが、大体はスポーツについて書いたり話したりすると思うので、自分の練習してきたことを精一杯発表すればいいのです。加えて、一番武器として持っていて欲しい考え方は、自分の強みや弱みを理解することだと実際に体験してみて感じました。自分を理解している人は、周りから見ても大人っぽく見える、というか落ち着きがあるように見えます。面接は、どれだけ相手に良いイメージを残せるかなので、今からでも遅くないので、自分の発言の仕方や言葉遣いなどに気をつけて生活してください。

受験が間近に迫ってから行うのではなく、前々から準備をして、最高の状態で望めるように頑張ってください。後輩たちから、素晴らしい報告が聞けることを期待しています。

令和6年3月 フレックスコース卒
佐沼中出身

目標があるからこそ 質を高めながら継続できました

■つらい日々も周囲の人のおかげで
乗り越えることができました

私は、早稲田大学スポーツ科学部に進学をします。将来、私は人の性格や特徴・考え方を理解し、生活や将来と親身に向き合うことで、その人の人生を支えられる理学療法士になりたいという目標があります。この目標を達成するためには、医療についての勉強をすることはもちろんの事、日頃から色々な人とコミュニケーションを取る事や、患者さんに寄り添い信頼関係を築き上げ、支えていくことが大切だと感じました。

また、3年間硬式野球部に所属し、幼少期から憧れていた仙台育英でプレーすることができました。日本一になることやエースになってチームを勝利に導くことを目標に掲げ入部しました。しかし、現実は甘くなく、入部後1年間は多くの挫折を経験しました。様々な地域から、レベルの高い選手たちが集まっているため、背番号をつけられない日々が続きました。思い通りにいかない苦しい日々、心が折れそうになることもありました。逃げ出したいような日々の中でも、先輩方や同級生の仲間、何より両親が私に励ましの声を多くかけてくれたことで、投げやりになることもなく、目標に向かって走っていくことができました。

■初優勝は支えてくれた人たちへの
恩返しできた瞬間でもありました

その結果が実を結び、2年の春からベンチ入りを果たし、2年の夏には第104回全国高等学校野球選手権大会で東北勢初の優勝という結果を収めることが出来ました。努力が報われた瞬間でもあり、支えてくれた両親、仲間へ恩返しできた瞬間でもありました。私が二年半の高校野球で学んだことは、仲間の大切さと目標を持つことの大切さです。仲間の存在が自分自身を大きくしてくれた二年半であったと感じております。また、苦しい日々の中でも前を向いて歩みを続けられたのは、「エースになって日本一になる」という目標があったからです。目標があるからこそ、日々の練習の計画を立てることができ、質を高めながら継続できたと思っております。大学に進学後も多くの壁にぶつかることと思います。しかし、私には高校野球で学んだことがあります。新たに出会う仲間とともに壁を乗り越えていき、新たな目標達成に向けて精進していきたいと思っております。

令和6年3月 外国語コース卒
矢本第二中出身

韓国語の資格と日韓交流会の経験が 受験で大きく役立ちました！

■海外と日本の架け橋になる その夢を叶えるために

私は小学生の時から、海外と日本の架け橋になりたいという夢を持っていて、情報化社会において異文化を発信することで、より国際理解を深めたいと感じていました。さらに中学生の時に K-POP に出会って韓国語の勉強を始め、高校入学後も韓国語や韓国文化について勉強し続けていました。そのため、進路を決める際には韓国語を学ぶことができる国際系の大学を主に探しました。

私が法政大学国際文化学部を推薦で受けようと思ったのには、2つの理由があります。1つ目はディプロマポリシーが理想の将来像と一致していたからです。各大学のサイト等で、ディプロマポリシー（学位授与の方針）や大学でどのような学びを得られるのかをよく調べることが重要です。

2つ目は仙台育英での生活を受験に生かしたかったからです。私には、韓国語の資格検定や日韓交流会への参加経験があったので、推薦入試ではこのような経験を用いて韓国について、深い関心や学習意欲があることを存分にアピールできました。推薦入試を視野に入れているのであれば、ボランティアや交流会、視覚検定の取得など様々なことに挑戦してみてください。

■明確な目標があれば すぐに行動しましょう

推薦入試の準備をする中で強く感じたことは「様々な経験を積むこと」、「自分の目標を学びたいことを明確にすること」が重要だということです。私は K-POP が好きだという理由だけで韓国語を勉強し始めましたが、2年生の時に参加した日、韓交流会を通してより韓国文化に興味を持ち、大学でも韓国語を勉強したいと考えるようになりました。ぜひ積極的に様々なことに挑戦して、アピールポイントを増やし、自分の目標を学びたいことが何かを見つけてみてください。また、すでに明確な目標があるのであれば、どのようなスキルや経験が必要かを考えて、すぐに行動に移すことが重要だと思います。

推薦入試では、大学によって評定平均や資格検定の出願基準が高く設定されているところもあり、出願前数ヶ月で準備するのは難しいです。出願前に急いで準備することがないように、日々努力を怠らず可能性を広げていってください。

令和6年3月 秀光コース卒
宮城教育大学附属中出身

IBでのCASプロジェクトは 1年の期間をかけて学びを得ました

■将来社会調査士になるために キャリアを積み成長したい

私が高校生活で迎えた大きな挑戦、それが大学入試の総合型選抜でした。この道を選ぶきっかけは、高校2年生からのIB生活でした。この体験記では、その選択の背後にある想いや、どのようにして準備を進めたかをお伝えします。高校2年生から開始したIBでは、勉強の他に、CASの活動や論文執筆を通して得たリサーチスキルなど、社会で役立つたくさんのスキルを学ぶ事ができました。中でも、CASのプロジェクトでは、一年という長い時間をかけてリサーチ段階から熱心に取り組み、二度のワークショップを経てたくさんの学びを得る事ができました。

高校三年生になり、このような経験を生かせる入試方法として、自己推薦型選抜を選ぶことになりました。私は将来、社会調査士としてのキャリアを目指しているため、将来的なキャリアにおいて多岐にわたるスキルを身につけることが、私の目指す夢に近づく手段だと確信しました。その中で、私は2年生から計画的に準備を行い、なかでも自己分析を徹底しました。何が自分にできるのか、またはどんな環境が向いているのかなどを細かく書き出し分析することで、自分の興味と得意を割り出し、自分に合った専攻を選びました。

法政大学GISの自己推薦では、海外大学で出題されるような一次として personal profile、英語資格の提出が求められ、二次では英語面接が課されています。このうち、personal profile では自己分析の結果をまとめ、大学での学びの計画と将来の夢を自分の興味と合わせて書きました。

■検定・資格も取得して 受験のための力に

英語資格は、IBで培った英語力と自主勉強で4技能の演習を行い、最終的にIELTS6.0を取得して受験に臨むことができました。面接練習については、たくさんの先生方に協力していただき、一般的な質問から予測質問まで考え、入念な対策を心がけました。

苦しい時期もありましたが、着実な準備と努力が実を結び、私は無事に法政大学のグローバル教養学部合格することができました。この経験を通じて、幅広い知識と柔軟な思考力を身につけ、将来の道に自信を持つことができました。これからも夢に向かって、一歩ずつ前進していきます。

仙台育英ならではの学習プログラムは 自分の強みとしてアピールできました

■ハーバード流リーダーシップ養成講座で コミュニケーション能力も高まりました

総合型選抜で受験した理由として、合格の機会を増やすことができることと、高校での活動を活かすことができるからです。1年から進学を見据え、提出物は期日内に提出したり、定期テストは力を入れて取り組んでいました。また、インターアクト部としてボランティア活動を多く行ってきたことは、総合型選抜で受験する上で自分の強みになったと思います。その他にも、面接で他の学校では取り組まないことや、仙台育英ならではの学習プログラムを受け学んだことを話したいと思っていました。その中で、私は世界最先端の新たな取り組み、ハーバード流リーダーシップ養成講座「ハーバード流 LEADERS BOOTCAMP」の授業を受けました。この授業は主にディスカッションをして進んでいきます。話し合う過程で相手の意見を否定せず、聞き入れ自分の意見との差異を思考することで視野が広がっていく感覚がありました。この授業を通してコミュニケーション能力も高まったと感じています。この経験が大学でも活かせると感じたため自分の強みとしてアピールできました。受験をするときに面接を受ける人は少しでも自分の強みとして話すことができる材料を早いうちから行動、経験し多くのことを感じる大切だと思います。

■3年間は思うよりも ずっと早く過ぎていきます

また、私は、高校入学時から大学に進学をしたいと考えていましたが、なかなか志望大学を決めることができずに高校3年になってしまいました。結局、志望大学を決めたのは3年生の夏でした。私が志望していた大学の中に、検定の取得を絶対条件としている大学がありました。その時期から検定取得を目指しても出願までに間に合わないため諦めざるを得ませんでした。そのため、成績だけに目を向けて取り組むのではなく、英検や資格などを取得できるように、1年生のうちから取り組んで行くと良いと思います。

3年間は思うよりもあっという間に過ぎていきます。準備を怠らず実りある高校生活を送ってほしいです。

令和6年3月 英進進学コース卒
玉川中出身

不安だった私に先生や友人が 手を差し伸べてくれました

■小論文は獨協大学で配信している 対策講座と、過去問を利用しました

1、2年生の頃から獨協大学外国語学部への進学を決めていました。私は、1年生の頃から外国語について学びたいと考えていたからです。獨協大学で選んだ理由は、少人数制クラスを取り入れていて、コミュニケーションが行いやすい環境にあることで、スキルアップできると考えたからです。

獨協大学の自己推薦入試は、最低条件として英検2級が必要でした。そのため、私は日々英検合格に向けて、単語帳や過去問を繰り返し勉強しました。この入試の試験内容は、小論文と面接です。小論文は、公開されている過去問と獨協大学で配信している対策講座を利用しました。面接対策では、担任の先生に用意していただいた過去の受験レポートを利用し、実際に先生方と実践練習を繰り返し行いました。

■失敗や悔しい思いもしたけれど 仙台育英で良かったと心から思います

この経験から、私は2つのことを学びました。1つは、早めに準備することの大切さです。私は面接対策の準備が遅かったことから入試直前まで不安が残っていました。これから推薦入試を利用して大学進学で狙っているのであれば、2ヶ月以上前から準備を始めるべきだと思います。2つ目は、人に頼ることの大切さです。私は、人に頼ることが苦手な性格で、私は直前まで頼ることができませんでした。このことから、私は直前まで不安を抱えていました。しかし、そんな私に手を差し伸べ、励ましてくれた先生や友人がいました。彼らのおかげで私は獨協大学へ合格することができました。私を支えてくれた先生や友人への感謝は言葉で言い表すことはできません。皆さんの周りにも、支え、寄り添ってくれる人がいると思います。その人たちを大切にしてください。

最後に、私は仙台育英に入学してから、多くのことを経験しました。その中で、たくさん失敗し、たくさん悔しい思いをしました。しかし、それ以上に笑顔になれる思い出がたくさんできました。仙台育英に来てよかったと心から思います。皆さんが爽りある3年間で過ごせることを祈っています。

令和6年3月 外国語コース卒
横手南中出身

難しい受験も周りのサポートや 自分の努力次第で結果が変わります

■叶えたい夢を明確にしながら とにかく情報を集めていこう

私はスポーツクライミングをしている。約7年間続けていて、多くの大会に出場し、多くの経験をしてきた。これらの経験を生かし、将来はスポーツで伸び悩む選手を支えるアスレティックトレーナーになりたいと考えるようになった。アスレティックトレーナーとは、スポーツ活動中の外傷や障がい予防や、医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応などスポーツをする人の安全と安心を確保した上で、パフォーマンスの回復や向上を目指す人だ。順天堂大ではアスレティックトレーナーになるためのサポートがとても充実していて、アスレティックトレーナーの受験資格を取得できるため志望大学に選んだ。

順天堂大学は倍率が高く、自分には入学は厳しいのではないかと思っていた。だが、周りのサポートや自分の努力次第で変わる。私が面接時気をつけたことは、まず将来の夢を明確にすることだ。その夢を実現するために順天堂大学を選んだことを伝えるために、大学のことをしっかりと調べた。また、自分の夢であるアスレティックトレーナーはどんな職業か、どうしたら実現できるか、アスレティックトレーナーの受験資格を取るために資格の受験内容も調べていた。そして、アスレティックトレーナー受験資格を取得したこととしても経験がないとプロの現場に立つことはもちろんできないので、国家資格を取るために目標にあった専門学校に通い、国家資格取得後に経験できる場で働き、知識を増やし、何年後かには絶対にアスレティックトレーナーになると言い切った。その他にも自分の長所など、少しでも面接官の方の印象に残るように、他の人とかぶらないようなことを伝えるようにした。自分が学校でどんなことをしてきたか、細かく書いてまとめることもした。また、順天堂大学では1年次は寮生活と決まっているので、寮生活のメリット、デメリットなど多くの情報も集めた。

■一問一答を作って 周囲の人に出题してもらいました

順天堂大学スポーツ健康科学部は、面接と口頭試問が試験内容だった。口頭試問は保健の教科書から出題されるため、教科書の内容をよく読み、ノートにまとめて、そこから一問一答・問題を自分で作って、先生や友達に休み時間などに出してもらっていた。教科書1冊では物足りなかったので、自分の代の教科書と最新の教科書2冊で頑張った。

とにかく情報を集めることが大事だと感じた。そして先生方、友達、家族とたくさん練習することが大事だと思う。みんなに感謝！

令和6年3月 英進進学コース卒
増田中出身

大学でもハンドボールを続けて 良い成績を残したい

■色々な大学、学部、学科を知ること、
本当に行きたい大学が見つかります

私は高校でハンドボールという競技に出会いました。1年次から試合に出させてもらい、3年次にはキャプテンとしてチームをまとめてきました。しかし、3年間で良い成績は残せませんでした。この悔しさから、大学でも競技を続けたいと思うようになり、大学を選ぶきっかけにつながりました。私は大学選びで重要なことは3つあると考えます。

1つ目は、いろいろな大学を知ることです。日本にはたくさんの大学があります。大学によって、学べる内容が違います。歴史や文化も違い、就職先も全く違います。そのため、色々な大学、学部、学科を知ること、本当に行きたい大学が見つかると思います。

■順天堂大学は私が考える
理想のチームそのものでした

2つ目は、学びたいことややりたいことを明確にすることです。私は、質の良い練習環境があり、チームが強く、周りの選手から良い刺激がもらえるチームで、ハンドボールをやりたいと考えていました。いろいろな大学を調べていた中で、順天堂大学は、私が思うチームそのものでした。新しく作られた大きな競技場があり、その中にレントゲン室が備わっている医務室があることで、ケガをしてもすぐに診てもらうことができます。チームは、関東学生ハンドボールリーグ1部に所属しており、5位という成績ですが、日本で一番強いリーグと言われているリーグで勝てるチームに憧れを抱きました。チームには、世代別日本代表に選ばれている選手がいたり、インターハイで活躍しているような、全国トップクラスの選手が揃っています。こんなに良い環境は他になく、ここで自分のプレーを磨きたいと思うようになり、この大学を志望するようになりました。

3つ目は、対策は早めにあることです。総合型選抜の入試には、志望理由書と面接は必ずあります。私は、10月に入試があり、8月から対策を始めました。6月や7月から対策は始めた方が良く強く思います。私は、結果的に合格することができましたが、非常に焦りを感じながらの3カ月でした。余裕を持って合格できるように、計画を立てて頑張ってください。

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
矢本第一中出身

BTEC プログラムの受講がきっかけで 将来進みたい道が見えてきました

■ BTEC プログラムの受講で

データサイエンスに興味を持ちました

私がこの大学を目指したきっかけは、高校 2 年生から始まった BTEC プログラムを履修したことです。BTEC とは、イギリス商業技術教育委員会で認めた専門資格を取得できるプログラムです。仙台育英学園では、日本で初めて BTEC プログラムを導入し、スポーツの専門資格を取得することができます。私はその第一期生になりました。BTEC の授業では、ウェルビーイングについて、健康と絡めて考えたり、自分でスポーツビジネスプランを考えて、多賀城市のビジネスプランコンテストに応募したりしました。さらには、スポーツパフォーマンスという授業で、部活動の試合や自主練習の動画を撮影し、SPLYZA Motion というアプリで分析し、自分の苦手な部分をプロの選手の映像と比較して、自分とどこが違うのか、体のどの部分をどのようにして使っているのかなど細かく分析しました。私は、このスポーツパフォーマンスの授業で、スポーツにおいて分析し、論理的に説明することにとっても興味を持ちました。そこで、先生に順天堂大学健康データサイエンス学部健康データサイエンス学科を紹介されました。指定校推薦にはなかったため、総合型選抜で受けることになりました。

■ 自分がやってきたことを

試験当日は信じましょう

総合型選抜では、数学の基礎的な問題と小論文、面接の試験がありました。試験に向けた準備として、自分が大学の求めている人物像に合っているか、今までしてきたことが大学で強みになるかということが大切です。私の場合 BTEC がとても強みになるので、BTEC を強調することを心がけました。また、数学の一次関数や log の計算などが出題されたので、それらを中心に復習することが大切だと思います。それから、面接練習はできる限りたくさんやった方が良いでしょう。試験当日はとても緊張しますが、自分が今までやってきたことを信じるしかありません。そのためにも、はやくから試験対策を始めた方が良いでしょう。そして、分からないことは先生や友達などに聞くようにして、分からないままにしないようにしましょう。

総合型選抜はリスクが高いと思いますが、受かると、1 2 月頃からは大学進学が決まっているので、時間を有意義に使うことができます。大学に向けてしっかりとした準備ができるし、高校の友達と思い出を作ることでもあります。メリットの方が多いと思うので今後、私に続く後輩が増えることを期待しています。頑張ってください！

努力とは最後まで諦めない心、 負けずに乗り切りましょう

■勉強に疲れたら運動して ストレスを発散させました

私は総合型選抜で東海大学の生物学部海洋生物学科を受験し、合格しました。合格するにあたってまず大切になってくるのは生活リズムを整えることです。私は、朝ごはんを最初はあまり食べてはいませんでした。しかし、朝にバランスのとれた食事をするることにより、腹痛もなくなり勉強にも集中することができました。そして、次に大切になってくるのは運動です。これをするにより気分が良くなり勉強に集中しやすくなりました。勉強をし続けるとストレスが溜まっていきやすいです。そのため運動をすることによって、ストレスを減らすことが大切になってきます。私は6時から7時の間に一人でもサッカーやバスケ、ジョギングを週に5回ぐらい行っていました。運動することはストレスを減らすだけでなく、健康にもいいのでおすすめです。

■諦めそうになった時期も 頑張ってレポートを完成

最後に最も大切なことは努力です。努力とは最後まで諦めない心だと思います。勉強を一ヶ月頑張ったのに結果が出ず、諦めてしまう人たちがたくさんいます。しかしここで諦めてしまう人は負け組です。ここを乗り越え諦めず頑張ることが努力をするということだと思います。私は、東海大学に入るため、三ヶ月かけて難しいレポートを作成しました。諦めそうになった時期もありましたが、何とか頑張ってレポートを完成させることができたため今があるのだと思います。これから受験をする人たちはこれらのことを参考にしてみてください。

先生や先輩の意見を取り入れながら 面接の準備は重点的にしましょう

■礼儀正しい態度で

自分の意見を丁寧に伝えよう

もし将来、東海大学文化社会学部心理社会学科を志望するかもしれない後輩がいるなら、面接前の準備や態度についての経験を教えてあげたいです。

まず面接前には、学科のアドミッションポリシーを理解し、志望動機に関連する質問を予測することが大切です。学科の特徴やカリキュラムについての知識を深め、なぜその学科を選ぶのかを考え、整理することが必要です。

さらに、面接官に好印象を与えるためには、積極的で礼儀正しい態度が重要です。初対面でも自信を持って挨拶し、相手の質問には具体的かつ丁寧な回答を心がけましょう。自分の考えを明確に伝え、熱意を表現することで、自分のポテンシャルをアピールできます。

面接前の練習では、先輩の記録や先生と一緒にこれらのポイントに焦点を当てることが役立ちます。アドミッションポリシーを踏まえた志望理由の整理や模擬面接を繰り返して、いろんな質問への対策や緊張に少しでも慣れるようにすべきだと私は考えます。

■面接は相手の方との

コミュニケーションです

そして、面接当日は冷静でありながらも自分らしさを大切に、相手とのコミュニケーションを大切にすることを私は強く捉えています。質問には自信を持って答え、挨拶や態度にも気を配りましょう！

最終的に、自分の努力と先生とした練習での自己表現の向上が合格につながりました。後輩もぜひ自分の強みを大切に、熱意を持って志望理由を伝えることで、素晴らしい結果が得られることを願っています！

将来スポーツ関連の仕事に就くため 勉学を怠らずに頑張っていきたい

■どんな競技でも、ケガに悩む人が いることに気付きました

私が大学進学を目指した理由は、小学校1年生から高校3年生まで柔道をしていたことと、高校2年生の時にした首のケガの影響です。もともと選手として大学で柔道を続けようと考えていましたが、高校2年生で首にケガをしてしまい、完治してもケガを繰り返しました。その影響で思うように練習が出来ず、やれることを探し、できる限りのトレーニングや、選手のサポートをする日々でした。どんな競技でも、やりたい気持ちがあってもケガに悩む人がいることに気付きました。そこでケガの予防やケガをした時のサポート、さらに、楽しく誰もがスポーツすることを広めたいと思いました。ですので、スポーツ系の仕事を将来やりたいと考えました。

■英語は単語帳やアプリ、熟語帳を使って 基礎をしっかり固めました

そのため、私は自分に合う大学探しをしました。運動面の知識から医療面の知識を幅広く学べるところで探したところ、帝京大学の医療技術学部に入学しようと思いました。どの入試方法で入ってもよいという考えなので、まず総合型のI期を受けることにしました。様々な方法で入試が行われましたが、私は面接や英語で受験しました。英語の勉強方法としては、単語帳やアプリを使用して単語を覚え、その次に熟語帳で英文を参考にしながら熟語を覚え、基礎の部分を固めました。さらに面接では、過去の質問例を参考にして回答をしっかりと考えました。

その結果、合格しました。これからは自立した生活をし、自分のことは自分でやらなければならないのでしっかりやりたい。さらに将来の夢のために、勉学を怠らずに頑張っていきたいと思います。

拓殖大学 工学部 デザイン学科に
総合型選抜で合格

令和6年3月 英進進学コース卒
中国出身

あなたはあなたのもの、 自分を信じてください

■合格という結果を見た時は、
努力や苦勞が報われたと感じました

私が大学を目指した理由は、より良い教育を受けて、なりたい自分になるためです。みんなが大学受験を選び始めた頃、私はまだパニックで混乱していましたが、その方が選択肢が増え、総合型選抜を選択しました。デザインが好きだったので拓殖大学を選びました。合格という結果を見た時は泣きそうになり、これまでの努力や苦勞を思うと、すべてが報われたと感じました。もしあなたが受験を前に混乱していても心配しないでください。あなたはあなたのものです。自分を信じてください。あなたは間違いなくそれを行うことができます。失敗は気にしないでください。これらはあなたの経験です。頑張りましょう。

受験期で身につけた心理的な強さは 将来の仕事でも役立つはずです

■執筆スキルの向上のために、
弁論技術を磨く数々の努力をしました

帝京大学法学部への合格に向けて、私は無数の努力と挑戦に直面しました。それぞれの日々は、知識の渴望と未来への憧れに満ちていました。まず最初に、私は不屈の努力が成功の鍵であることを深く理解しました。

大学法学部の試験に向けての準備の過程で、私の学習スケジュールは緊張感に満ち、同時に充実していました。毎朝、私は朝日を浴びながら新しい一日を始め、法学の海に身を投じました。授業では真剣に講義を聴き、積極的にディスカッションに参加し、各法的概念を深く考えました。同時に、私は毎晩の自習の習慣を身に付け、精力的な研究を通じて法学の中心的な知識を徐々に掌握していきました。執筆スキルの向上のために、私は法学の名著を暗記し、模擬法廷の弁論に参加し、自分の弁論技術を磨く努力をしました。これらの取り組みは、試験で自分を余裕を持って表現し、法学への深い理解と独自の視点を示すのに役立ちました。

学問的な準備だけでなく、心理的な強さも身につけました。模擬試験や模擬面接では、さまざまな状況に冷静に対処し、自信を持ち続けることを学びました。これは試験場での緊張に対処するだけでなく、将来の法律職業での適応能力を養うのにも役立ちました。

■大学受験に向けて努力したことは
人生を成長させる貴重な経験となりました

帝京大学法学部への道は一筋縄ではいきませんでした。そこで学んだことは自分自身についての洞察を深めるものでした。真の成功は知識の蓄積だけでなく、忍耐、自律、そして目標への執念の追求が不可欠であることを発見しました。これらの努力は、私の人生の成長において貴重な経験となりました。

最終的に、帝京大学から合格通知書を手にしたとき、その喜びと誇りは溢れ出しました。これは自分の努力が認められただけでなく、未来への無限の可能性に対する期待でもありました。

帝京大学法学部は私にとってより広範なプラットフォームを提供し、法学の領域でより深い学術と職業の発展を追求する機会となるでしょう。

令和6年3月 秀光コース卒
秀光中等教育学校出身

面接や小論文を周囲に見てもらい 新たな視点を得ました

■将来はスポーツを通して 社会に貢献したい

私は、小さい頃からスポーツが好きで、空手や陸上などの習い事で、全国大会上位に入ることもあったため、将来はスポーツ選手になりたいという気持ちがありました。しかし、中学生になると、練習をする時間があまりとれなかったため他選手との間に差ができ、県内の大会でも良い結果を残すことができなくなり、スポーツ選手になりたいという夢は消えて将来の夢がなくなりました。将来の夢がないまま、秀光コースに進学し、目の前にある課題だけに取り組み、将来について考えることができなかったのですが、元スポーツ選手がスポーツマネジメントで選手を支える側になり、選手やステークホルダーのために考え、行動をとるというドラマにとっても魅力を感じたため、スポーツマネジメントに興味を抱くことができました。空手を長年続けていたこともあり、選手が力を発揮するには環境づくりが重要だと実感しているため、スポーツマネジメントについて理解し、スポーツマネージャーとして、選手がよりよい環境や待遇で競技を続けられるように支援したいと将来についても考えることができました。その夢を達成するために、総合型選抜探究型の入試方法で日本体育大学を志望しました。私は日本体育大学のスポーツマネジメントについて、理論的に学べるだけでなく、経営戦略など実践的な知識を養うことができることや、スポーツを通じて社会貢献を目指す充実したカリキュラムが将来に役立つと考えたからです。

■最初は自信がなかった部分も 周りを頼って力をつけました

課題探究型の入試方法は、小論文と面接で、どちらも自信がありませんでした。しかし、小論文は「笹川スポーツ財団」の調査、情報などを見ることで、小論文で参考にできるところを探し、知識を増やしていきました。また、面接では毎日のように先生方の元へ通い練習しました。時には、友達にも書いた小論文や、面接をみてもらい、多くのアドバイスを多方面からいただくことでどのようなことを意識すればよいか、どのようなことを詰めていけばいいのかを認識することができました。受験生はこのように1人ですべてやろうとするのではなく、周りの人たちを頼りながら頑張ってほしいです。

令和6年3月 秀光コース卒
秀光中等教育学校出身

周囲から適切なアドバイスをもらえる 高校の環境に感謝しています

■先生に勧めていただいた大学に 「トキメキ」を感じました

小学校の時、将来の夢というものがなかった私は、IBMYPを経験し、多くの物事に触れることで将来の夢を見つけようと、秀光中に入学しました。結局、ただなんとなく海外に行きたいという願望を持ったまま、さらに秀光コースに進んでIBDPを受講しました。IBDPの文学と英語の授業を通して、英文学に興味を持ち、もっと英語を学びたいと思うようになりました。そこで、先生に紹介してもらった学校が神田外語大学でした。私がこの大学を受験しようと決めたのは、夏にオープンキャンパスに参加して、実際にキャンパスを訪れたことがきっかけでした。私はそれまで、一度も大学のオープンキャンパスに参加したことがありませんでした。しかし、実際に神田外語大学を訪れて体験授業を受け、キャンパスツアーに参加し、この大学に行きたい、ここで学びたいと強く感じました。具体的で論理的理由というよりも、ぱっと、トキメキ！という感じでした。

■IBDP 受講とオーケストラ部での 経験が自信となって

私はIBDPを受講しており、人前に立って発表したり、議論したり、レポートや論文などの執筆を多く経験してきました。また、5年間オーケストラ部に所属し、部長を務めてきたので、高校生活で自分がやってきたことに自信を持って、総合型選抜で受験することにしました。試験内容に、英語プレゼンテーション、英語で質疑応答というのがありました。プレゼンテーションを作成するにあたって、内容に行き詰まったこともありましたが、その時は先生のところに相談に行きました。英語も内容についても発表の練習も全てにおいてアドバイスをいただきました。そのテーマに詳しい後輩やクラスメイトにもアドバイスをもらいながら、プレゼンテーションを作成しました。多くの人にアドバイスをもらい、プレゼンテーションをした後、質疑応答では、自分の発表について自分が一番理解しておくことで、どんな質問にも対応することができるのだと感じました。最終的にトキメキで決めたので、志望理由を書くときにトキメキの中にあるものを言語化することに苦労しました。神田外語大学についても、自分の将来就きたい職業についてもさらに調べて、先生にアドバイスをもらいながら作成しました。

私の受験は先生、クラスメイト、後輩と多くの人の助けがあってこそ成り立ったものでした。高校生というのは周りにたくさんの人がいて、様々なアドバイスをもらうことができる素晴らしい環境です。私は、大学受験を通して、周囲の人の意見をもらうことの大切さを実感しました。

令和 6 年 3 月 英進進学コース卒
東和中出身

早い段階で資格取得に励んだことが 入試の様々な場面で役立ちました

■ “この大学良いかもしれない”と直感し
聖徳大学を調べ始めました

私は、幼稚園の時から小学校の先生になりたいと思い、さまざまな方向へ視野を広げるため、中学生の時に大学への進学率が高い仙台育英学園高等学校を進学先を選びました。高校に入学後は大学入試に向けて普段の授業以外に日本漢字能力検定や実用英語技能検定の資格の勉強にも励み、在学中に準 2 級に挑戦し取得しました。取得するために、単語や文法等欠けている部分が多かったので良い機会だと思い、英語を 1 から学び直しました。諦めず挑戦して良かったと思います。

進路を考えるにあたっては、初めから関東に上京すると決めていたので、関東で自分にあった教員免許を取得出来る大学をいくつか挙げ、そこから気になった大学へオープンキャンパスへ行ったのが高校 1 年生の時でした。その時いくつか行った中の一つが聖徳大学です。その時の印象はたくさんの取得可能な免許、資格がある学校だったと思います。私はさまざまなことにチャレンジするのが好きなので、その時に“この大学良いかもしれない”と聖徳大学が気になりそこから調べるようになりました。私は調べた際に、グローバル特待制度を見つけ、実用英語技能検定準 2 級を取得していたので総合型選抜に出願しました。その時私は検定に挑戦して取得しておいて良かったと感じました。

■ 面接は聞かれそうなことと答えだけを
箇条書きで書き、本番に挑みました

聖徳大学総合型選抜の入試方法は、小論文と面接、または小論文と探究型活動発表方式という方法があります。私は小論文と面接を選択したのですが、実用英語技能検定準 2 級を取得していたので小論文は免除になり面接だけでした。面接練習はマニュアルで作ると言葉が出なかった時に頭が真っ白になり話せなくなるという理由から 1 回もせず、聞かれそうなこととそれに対する答えだけを箇条書きで書き、本番に挑みました。私は本番には強いので、当日は聞かれたことに対してスラスラと受け答えをし、無事聖徳大学教育学部教育学科小学校養成コースに合格しました。入試を振り返ると面接時に「仙台育英学園から参りました…」と言うと、「甲子園見てました！すばらしかったですよね！」と持ち時間 10 分のところ 5 分弱甲子園の話で盛り上がったことがすごく印象に残っています。

後輩にアドバイスとしては、取得できる資格、検定はとっておいた方が後々自分のためになるということ、何事にもあせらず自分に合った方法で物事を進めることが大事だと思います。オープンキャンパスに参加して自分の目でその大学の雰囲気味わってから決めることも大事だと思ったので、自分が気になった大学のオープンキャンパスには参加したほうが良いと思います。

可能性の幅を広げられる大学で 自分の道と答えに辿り着きたい

■ハワイでのホームステイでは 積極的に英語で話しかけました

大学進学を目指した理由は、小学生だったとき、英語の授業でALTの先生と会話し、国籍や人種が違っていても、英語を用いて会話ができることに感動したのが理由です。自分は、その頃から英語を使って会話する仕事に興味を持ち、大学で資格を取得し、将来英語を使って様々な外国人と会話してみたいと思いました。

僕が部活動で心がけたことは、あきらめずに最後まで続けることです。僕は普段の学習評価のために提出物の日付はしっかり守り、ノートを書き毎日登校を心がけました。資格取得のために英検準2級を受けるために、対策資料を読んだり友達や先生に面接練習の相手をしてもらい、結果、準2級を取得することができました。他にも語学の勉強のためにハワイにホームステイに行きました。向こうではさまざまな人種の人々がいましたが明るく接しやすい人が多かったので毎日日常会話を自分から積極的にすることができました。

■オープンキャンパスでは教授に学校の説明を聞き、 面接の本番で、それを話に盛り込みました

大学の入試では小論文の他に英語の長文を書く課題があったので分からない単語はネットや電子辞書を使い、自分なりにまとめることができました。休日は、テスト期間は図書館に行って勉強し、テスト期間ではなくても自転車や電車で買い物に行ったりと家にいる時間を少なくして体を動かすことを心がけました。長期休暇の時は実家のある福島に帰り、地域の人々の手伝いや友人たちと交流しました。

大学を受験するにあたって僕が気をつけたことは、オープンキャンパスに参加した際に教授に学校の建物や施設の説明を聞き、それを面接当日に話の一部として話すことです。おすすめの勉強法はわからないところは青ペンで書いて覚えたり、声に出して読んだり、小さな心がけが大事だと感じました。自分にとって大学とは全ての可能性があると思っています。さまざまな出会いがありさまざまな体験をすることができるので、自分の可能性の幅を広げることができる大学で自分なりの道と答えにたどりつき、将来の夢を叶えられるように頑張りたいと思っています。

令和6年3月 英進進学コース卒
南中山中出身

日々の積み重ねが重要だと 入試を通して実感しました

■どの受験方法でも選べるように

1年生の頃から準備を重ねてきました

私は新潟医療福祉大学で、他職種との連携や診療放射線技師としての高い能力を身に付けたいと思い、志望しました。高校入学当初は、志望大学がはっきりと決まっていませんでした。そのため、多くの大学の資料を読み、自分に合った大学を探しつつ、受験方法がどれになっても良いように、1年生の頃から3年間勉強や部活動に力を入れてきました。多くの大学の資料を読んでいく中で、新潟医療福祉大学に魅力を感じ、資料では見ることのできない大学の雰囲気や、在学生の方から話を聞くためにオープンキャンパスに参加し、志望大学を決めました。そして、受験方法が多々ある中で早く大学を決めることが出来、進学に向けての準備や勉強に力を入れることができる総合型選抜を受験し、多くの先生方や家族のおかげで合格することができました。

■指摘されたポイントをノートにまとめ、 入試本番前に見返せるようにしました

私の受験した試験内容は、マーク試験と面接試験でした。マーク試験は過去問をひたすら解き、傾向を把握し、わからない問題は先生に聞くなど対策を取りました。面接対策は多くの先生に協力していただき、実際に面接指導をしていただきました。指導していただいたことのポイントをノートにまとめて、入試本番前に見返せるようにして対策を取りました。入試を通して重要だと思ったことは日々の積み重ねです。良い評定を得るためには、1年生の頃から日々勉強に取り組み、大学進学を想定して早くからオープンキャンパスに参加したり、資料を読んだりするなどが重要だと思いました。一日一日を大切に目標に向けて頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
中国出身

計画的な学習と定期的な休息、 適切なアドバイスを求めることも大切です

■大学で視野を広げ、社会での役割を 果たす力を身につけたい

大学に進学する決断を下すにあたって、私は将来のキャリアの展望と自己成長のために大学教育が不可欠であると考えました。高校を卒業する際、より広い視野を得るために大学で学び専門的な知識を深めたいという欲求が私を駆り立てました。また、大学でさまざまな分野で学び、異なる立場を持つ人々と交流することで、自分の視野を広げ、社会での役割を果たす力を身につけたいと思いました。

私は総合型選抜に挑戦することを決意しました。総合型選抜では、筆記試験の成績だけを評価するのではなく、総合的な能力や学生の思考力などの評価も含まれています。そのおかげで、自分の興味がある分野の知識を早めに活用することができました。

合格のためには日々の努力が欠かせませんでした。毎日、学校終了後や週末には長時間勉強しました。また、定期的に休息をとり、運動や趣味に時間を充てることで、ストレスを軽減しました。バランスの取れた生活が学習効果を向上させる一因となりました。

■大学合格の先にはさらなる成長や 新たな挑戦が待っています

最後に、後輩へのアドバイスすると、私の経験から言えることは、計画的な学習と定期的な休息の重要性です。焦らず、一つ一つの課題に集中し、着実に進んでいくことが大切です。また、適切なアドバイスを求めることも大事です。先生や先輩に相談することで、学習の方向性やアプローチについて有益な情報を得ることができます。

大学合格は目標達成に向けた一歩にすぎませんが、その先にはさらなる成長や新たな挑戦が待っています。大学での学びを通じて、新たな知識や友人、経験を得ることで、より豊かな人生を築く手助けになることでしょう。

多言語コミュニケーションのスキルを 向上させ将来のキャリアに役立てたい

■日本留学試験に向けて 毎日読解と聴解を練習

私が龍谷大学を選んだ理由はいくつかあります。まず、龍谷大学は国際的な学習環境を提供しています。私は留学生として日本で学び、異なる文化背景を持つ人々と交流することで国際的な視野を広げ、異文化間コミュニケーションのスキルを向上させたいと考えています。さらに、龍谷大学は留学プログラムに参加する機会が豊富であり、外国語の運用能力を高めるとともに、異文化理解を求めるチャンスが提供されています。このプログラムを通じて、国際的な視野を持つだけでなく、多言語コミュニケーションのスキルを向上させ、将来のキャリアに役立てたいと考えました。

私は日本留学試験で大学を受験しました。日本留学試験を準備するために、私は毎日学校の授業が終わって、文科総合についての授業を受けました。日本語の点数を向上させるために、毎日読解と聴解を練習しました。

■「模擬国連」への参加で 英語力が大幅に向上しました

高校生活について一番印象があったことは中国の高校に模擬国連に参加したことです。この活動で一番難しいところは、ネットにある膨大な資料の中で、どのように整理、分析して、必要なデータや情報をまとめることだと思います。時にインターネットでの情報は全て正しいというわけではなく、信頼できる情報を見つけて判断することは容易ではありません。この問題を解決するため、先生と先輩たちに様々な意見やアドバイスを聞いて、正しい情報分析方法などの資料を調べて勉強しました。ようやく、より信頼できる情報を入手し、この問題を解決することができました。その資料はほとんど英語で書かれたので、この活動を通じて、私の英語力やコミュニケーション能力が大幅に向上することができました。日本の高校に入ったら、日本人の学生と一緒に授業を受けてとても楽しかったです。

最後に、面接の前に、必ず面接についての質問をちゃんと準備して、面接の時緊張しないようにしてください。

令和6年3月 情報科学コース卒
七北田中出身

仙台育英での学校生活は 永遠に心に残る思い出です

■美術系の大学を目指したい

その気持ちを諦めずに進路を決定

神戸芸術工科大学を志望した理由は、自分の将来の夢であるゲームのグラフィックデザイナーになりたかったからです。仙台育英学園高等学校の受験で面接を受けた際にも、ゲームプランナーなどのゲーム関連の職になりたいと言っていました。しかし、特に詳しくは決められていませんでした。高校生活を送っている中で、もともと好きだった絵を書いている時に、自分も、ソーシャルゲームやコンシューマーゲームなどで、絵を書きたいと思い始めました。ソーシャルゲームやコンシューマーゲームなどにおいて、ハイレベルの画力を求められます。そのため、基礎から学ぶたくさんの練習と時間が必要でした。最初は、今からじゃ間に合わないかと避けていたのですが、大学の進路を決めなくてはいけない時に、どうしても夢を諦められず、美術系の大学を目指すことを決めました。

■デッサンの練習は

描き分けに苦戦しながら

美術系の大学を受ける上で一番必要なデッサンがあまりできておらず、デッサンの練習から始まりました。最初は立方体と長方形と円柱を描き、基本的なトーンの描き分けから学びました。ここでも物の反射光や光の描き方を詳しく学びました。そして次に野菜を描きました。ジャガイモ、ホウレン草、タマネギを描いています。3つの材質の違いを描き分けるのが難しく、今も苦戦しています。大学の受験では総合選抜で受けました。体験授業と面接の2つを受けました。体験授業の内容は扉をテーマにグループ1人1枚絵を描いて、自分たちで物語を作って発表するという内容でした。面接の方の内容は特に変わった内容は聞かれず、大学まで何で来たかなど、私が答えたことに関して、面接官の方が気になったことを質問されながら終わりました。仙台育英の3年間はいろいろありましたが、2,3年生での学校生活はとても楽しく、永遠に心に残る思い出になりました。

自分のやりたいことを信じるのが 進路を決める上で重要です

■自分が目指している所から

ブレないように気をつけてください

私が進路を決めたのは、この学校の中でもかなり遅い方だったと思います。選択肢が複数あったために、どの選択が一番自分にとってベストかを見極めるのに時間が必要でした。私は3年生になった頃は、進路もざっくりとしか決めておらず、ただ部活を続けたいなといったぐらいでした。私は、みなさんに自分を信じることの大切さを伝えたいと思います。進路を決めていく上で、何か一つでも自分のやりたいことを信じるのが重要だと思いました。私の場合、バスケットボールをずっと続けたいという気持ちを持って過ごしていました。それでも、大学卒業後の進路などを考えて、指定校で他の大学に行こうと心に決めかけていた時期もありました。でも、自分を信じて大学の練習会へ行ってみました。その結果、大学から声をかけていただき、自分のやりたいことができる環境へと進むことができたと思っています。

そのための準備として私は日々の努力をちゃんと積んでいくことが大切です。これは間違いありません。特に自分が目指している所からブレないように気をつけてください。周りの人たちは決めるのも早く、定まっているかもしれません。そうであっても、より多く悩んで、よりベストな選択ができるように頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
秋田 泉中出身

部活動で自分を変えることができ、 得たものもたくさんありました

■ライバルと刺激し合ったことが 書道の好成績に繋がったと思います

私は総合型選抜で大学受験をしました。総合型選抜では、部活動の実績が合格へのカギとなります。部活動は書道部に所属していました。大学進学を目指すには、1年生の時から努力の積み重ねが大事になってきます。それは部活だけでなく勉強もです。私は部活動で作品づくりを書道パフォーマンスの両方に取り組んでいたため、部室での練習はパフォーマンス中心で、自宅に帰ってから夜遅くまで作品づくりでは篆刻に取り組み、3年間で300個のハンコを彫りました。作業もすごく繊細で時間もかかるものなので、集中力と根性がないとやりきるのが難しかったと思います。私は2年生、3年生の間で3回文部科学大臣賞を受賞させていただくことができました。全国大会となるとハイレベルな戦いになるので1人で勝ち進んでいくのはすごく大変です。ですが作品づくりは個人でも、同じ部活のライバルと刺激し合い、高みを目指したことでこの結果に繋がったと思います。そして個人での作品づくりとは反対に、書道パフォーマンスでは音に合わせてみんなで1つの作品を作り上げます。団体戦となると自分が成長しないと周りに置いていかれるし、迷惑をかけてしまうので、人一倍練習をしました。1年生の時は右も左もわからないような状態だったけれど必死に先輩の背中を追いかけてきました。1年生で初めて挑んだ書道パフォーマンスグランプリ決勝大会では初優勝を果たし、2年生・3年生でも優勝し、3連覇をさせていただきました。部活動を通して自分を変えることができたと思うし、たくさん得られるものがありました。大学での面接の際には部活動でどんな取り組みをしたのか、どんなことを学んだのか、たくさん質問されます。それに答えられるように日々の部活動、学校生活を後輩の皆さんも有意義な時間にしてもらえたらいいと思います。

令和6年3月 英進進学コース卒
住吉中出身

好きなこと、得意なことを 長く続けることが自信につながります

■小学生の頃の活動で企画する楽しさ、 成功したときの達成感を知りました

私が、東北芸術工科大学を目指すようになったのは中学生の時です。私は、小学5年生から、地域活性化のためにクラブ活動を行っていました。そこで、町おこしのための企画をしていくにつれ、企画する事の楽しさ、チームの意見にまとまりが出て成功したときの達成感などが好きな事に気付きました。そこから企画を勉強できる大学を調べていく中で、企画構想学科のある東北芸術工科大学を目指すことにしました。私が志望大学を決めてからは、積極的にたくさんの活動に挑むようにしてきました。その中でも、特に二つの事を紹介したいと思います。一つは、クラブ活動の広報をできるように政策アンケートなどを受けていました。名を知られていればいるほど活動範囲が広がり活動を広くできると考えたからです。

■内閣ユース政策モニターに 宮城代表として挑みました

二つ目は、子ども家庭庁設立にあたって内閣ユース政策モニターをしたことです。子ども家庭庁とは、子どもが真ん中の社会を実現するために子どもの視点に立って意見を聴き子どもにとって一番の利益を考え、子どもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、子どもの権利を守るための取り組みに対して考える庁です。そこで私は宮城代表として挑みました。同年代と小倉将信大臣とオンライン会議などの話し合いをし、テーマごとに真摯に向かい合いました。これらの経験を通し私はたくさんの事を学べました。一人で決断ができるようになったり、チャレンジする事への抵抗がなくなりました。様々な出会いで成長することが感じられた6年間でした。このような活動を通して、子ども家庭庁の看板文字を作成できたことも、目標に向かって進んでくれたからだと思います。これから進学について考えることが増えていくと思います。私は、勉強が苦手な勉強以外で伸ばそうとしていました。自分が好きだと思ふこと、得意だと思ふことを続けることをしてみてください。長く続けられた事が自信につながります。がんばってください。

令和6年3月 情報科学コース卒
宮城野中出身

高校生活はあっという間なので 何事も早めに行動していきましょう

■大学受験のサポートをしてくださった 先生には本当に感謝しています

私は仙台育英に入学してから、自分が行きたい大学を見つけて合格することを目標として学校生活を送ってきました。

志望大学を決めるきっかけとなったのは、2年生の頃に学年で行った大学研修でした。大学研修の時に大学の学部や学科などを調べたり、実際にオープンキャンパスに行き、志望大学を決めました。大学への進学を目指すにあたって、指定校推薦の枠を狙って成績の維持や校内模試を頑張ったのですが、努力が実を結ばず指定校枠をいただくことができなかったのも、必死に別の手段を調べて、急いで総合型選抜の準備を始めました。総合型選抜の入学試験は筆記試験と面接でした。筆記試験の内容としては、実際に講義を受け、レポートにまとめるというものでした。どのように対策をしたかという、筆記試験は要点をまとめる練習を授業でしたり、レポートをまとめる際のポイントを調べたりしていました。面接はオープンキャンパスや大学のホームページなどから情報を集めて受け答えができるように、大学についての知識を身につけてから、様々な先生方に面接の練習をお願いしました。試験当日ではあまり緊張することなく試験が終わり、無事大学に合格することができました。こうして大学に合格できたのは、試験の対策をしてくれた先生方のサポートのおかげだと思っています。本当に感謝しかありません。

■早めのスタートは 心のゆとりも手に入ります

これから受験生になる後輩に受験を終えた一人としてアドバイスをするとしたら、何事にも早めの行動をした方がいいです。なぜかという、早めに行動した方が後回しにするよりも心の持ちようが軽くなったり、やらなければいけないことも減らすことができるからです。特に3年生になると書く書類が多くて後回しにすると大変な目に遭います。大学を決める時もあらかじめ決めておくことで、オープンキャンパスの日程を調べたり、大学について細かく調べたりするなど、誰よりも早く次のステップに進むことができます。ですので、早めに行動することが大事です。

最後に高校3年生の1年間はあっという間です。今を楽しんで勉強面、生活面でも充実した高校生活を送れることを願っています。

令和 6 年 3 月 情報科学コース卒
富沢中出身

資格取得など面接での強みを コツコツと積み重ねました

■試験前に対策プリントに 何度も取り組みました

私は大学合格のために 4 つのことを行いました。

一つ目は、普段の定期考査で赤点を取らないことです。成績表の評定が下がることは、大学入試の面接などでもあまり良い印象を持たれないと思います。私は赤点を取らないために、試験前に配られる対策プリントを何度も取り組むことと、前日の勉強に加え、試験当日の朝にその日の教科の勉強をすることを行いました。行う教科を絞ることで、負担がかからずに勉強することができました。

二つ目は、情報処理検定などの資格取得に取り組んだことです。少しでも多く資格を取ることで自分の強みになり、面接の場でもアピールをすることができます。また、自分の進路に関係のある資格を取ることで、大学の授業や大学卒業後の就職試験などでも有利になると思います。

■自分が今できることを 最大限に行いましょう

三つ目は、1・2 年生の間にある程度自分の進路を決め、余裕を持って大学受験に臨んだことです。3 年生になってからでは、願書の提出や大学共通テストの申し込みでどうしても焦ってしまいます。早いうちに決めておくことで、その大学について調べたり、オープンキャンパスなどに参加したりする機会が増えると思います。また、大学を決める際に 1 つだけでなく、複数の大学を比較するとそれぞれの違いや特徴がわかって良いと思います。

四つ目は、最後まで気を抜かなかったことです。「今日はここまででいいや」や「また明日やろう」ではなく、自分が今できることを最大限行ってください。勉強などが長く続かない人は隙間時間に少しずつ行うなど、自分なりに工夫をしてみてください。皆さんの大学合格を応援しています。

失敗もしましたが 練習の成果が合格に導いてくれました

■英語の面接練習は

少しずつコツをつかみました

私が大学進学を志望した理由は、将来の夢への実現と自分自身の知識の幅を広げていきたいと思ったからです。私の志望した大学は東北学院大学で、総合型選抜の入試方法で受験しました。総合型選抜は、自分自身のこれまでの経験や学びをアピールするもので、今までの定期考査の点数を維持したり、実用英語技能検定の資格取得に挑戦してきました。

面接練習はいろいろな先生にお願いし、たくさん練習を重ねました。面接練習では、担任の先生に多くしてもらい、初めは思ったことが言えなかったり、予想外の質問がくると黙ってしまうなどたくさん失敗があったけれど、毎日毎日面接練習をするうちに、質問に対して自然に答えることが出来ました。私が志望した学科は、面接の一つとして英語の音読と質疑応答がありました。この英語の練習は、授業を持つ英語の先生にお願いしました。英語の面接練習はとても苦戦しました。英語の先生を通して何回も練習し、単語の読みや文法の前後の構成の理解を深めました。また、二次試験の小論文も大変でした。小論文は課題型小論文で、初めに100字要約をするところから難しかったです。小論文は書き方の構成をつかむところからでした。担任の先生に構成を教えてもらい、少しずつ書き方の構成のコツをつかむことができるようになってきました。毎日の練習のおかげで、自分の志望した東北学院大学に合格することができました。

高校3年間はすごくあっという間でした、私は進路が決まるまで長い時間がかかりました、担任の先生と二者面談を重ね自分のやりたいことを見つけることが出来ました。進路決めのときは焦らず、自分と向き合いながら頑張ってください。

海外留学やボランティアなど 英語への意欲をアピールしました

■留学先の卒業証と英検が 自信を持って面接に臨める資格でした

私が大学進学をめざしたきっかけは、英語をもっと学びたいと思ったからです。資格を持っていたのでそれを生かしたいと思ったため、総合型選抜入試を選択しました。特に留学先の卒業証と英検が、強く自信を持って面接でも発言できる資格だと思います。他にもボランティアしていたり面接官にも賞状がたくさんあるねと褒められました。

定期考査では常に70点以上は取るように心がけていました。評定の3をなくすとだいぶ強くなります。私は英文学科を目指していたので、英検は準2級を取っておくと安心だと思います。留学も英語に対して意欲があることを示せると思います。私は英語関係のボランティアをしていました。面接は弱気で行く人は落とされるので、たとえ圧迫面接であっても自信を持って話すことが大切です。小論文は苦手でしたが過去問をとりあえず2回ぐらい解き、先生に添削していただきました。とりあえず全部埋めることが一番大事です。学校生活は楽しく過ごせばそれで良いと思います。個人的に東北学院大はやる気のある人を見ていると思うので頑張ってください。

三者面談でのアドバイスで 人生が変わりました

■総合型選抜に向けた先生方の 手厚いサポートで合格できました

私は 2 年生から AJ クラスに入りました。AJ クラスに入った後も、私はあまり勉強をしてこなかったため、成績も下から数えたほうが早かったです。私には高校 1 年生から東北学院大学文学部英文学科に入る、という目標がありました。毎日ターゲット 1900 を行うだけでも 3 年生になった時に役立つと思います。2 年生が終わりそうになってもだらだら生活し、のんきに生活していました。3 年生になってから、将来があいまいな中、一番勝負の夏休みに入りました。

私の人生を変えたのはこの三者面談でした。入試方法など一つも分からず一般入試で受験しようとしていました。先生から総合型選抜で受けてみたら、と言われ、書類などを準備しました。入試一週間前に新型コロナウイルスに感染してしまい「人生終わったな」と思っていました。しかし、先生方の力を多くお借りして見事評価「B」を勝ち取ることができました。本当にこれは私の実力ではなく助けてくれた 3 人の先生のおかげだと思います。こんな私でも合格することができたので、皆さんも諦めず頑張ってください。

もし面接を受ける方がいたら、誰しも緊張はすると思いますが、笑顔で元気に話をすれば何事も大丈夫だと思います。分からない時も素直に分かりません、など言うことが大切です。皆さん自分を信じて頑張ってください！

令和6年3月 英進進学コース卒
八軒中出身

良い先生と出会い、自信を持って 受験に臨めることを願っています

■生徒会で積み重ねてきたキャリアは 面接の際十分に活かせたと思います

私が大学進学を目指した理由は、将来地元宮城県の行政や政治に関わる仕事に就き、歴史的な考え方や知識を用いて、社会問題を解決し、宮城県の発展に貢献したいと考えたからです。その実現に向けて東北学院大学に進学することを決めました。また、高校3年間で生徒会活動など学習面以外にも力を入れて取り組んできた活動を、自ら伝えることで評価していただけたと考え、総合型選抜で受けようと思いました。

私は前述のように生徒会活動に積極的に参加してきました。特に副会長として、様々な貴重な体験をすることができたのが記憶に残っています。オープンキャンパスや育英祭のまとめ役をし、場合によっては大勢の人の前やメディアの前で話してきました。私はこの活動を通して、人前でも落ち着いて堂々と話すことができるようになりました。私はこの生徒会で積み重ねてきたキャリアは、面接の際十分に活かせたと思っています。もし、今後推薦など受験しようと考えている人は、高校3年間で積極的に様々なことにチャレンジしたり、大勢の人前で話す機会を作ってみるのも私は良いと思います。

■先生方に出会えたことで自信を持って 面接に臨むことができました

私は、東北学院大学の総合型選抜に決めた夏休み前から本格的に準備を始めました。東北学院大学の総合型は、一次選考と二次選考に分かれていて、一次は第一次選抜審査申請書を二次では志望理由書を事前に提出しなければならず夏休み中に下書きを始めました。初めは訂正箇所があちこちにあり、完成度はとても低く見せられるものではありませんでした。たくさんの先生方に何度も添削をしていただき、最終的には締め切りギリギリになってしまいました。もっと早くから取り組み、心残りが無い状態で提出できれば良かったと後悔しているので、進路がある程度決まり次第各大学の必要な提出書類の確認と準備を始めたほうが良いと思います。特に受験する大学の情報をパンフレットやインターネットだけでなく、卒業した先輩方からも聞いて収集すると後々楽になると思います。面接練習は複数の先生にお願いするべきだと思います。さらに、同じ先生に複数回お願いするのも良いと思います。同じ先生にお願いすることで改善点がしっかり直っているか、新たな課題が出てきていないか確認することができます。私は幸運にも3人の先生方に出会えたことで、自信を持って面接に臨むことができました。受験生の皆さんも良い先生と出会い、自信を持って受験に臨めることを私も願っています。

三年間は長いようで短いです。日頃から受験を意識して頑張ってください。応援しています！

「受験」という人生の分かれ道を 後悔のないよう邁進しました

■対策として自己探究をしましょう

中学生の頃から東北学院大学に入学したいと考え、第二希望・第三希望を考えず、一本に絞って総合型選抜で受験しました。第一次選抜は40分程度の面接のみで、結果はC判定でした。東北学院大学の総合型選抜の第一次選抜はA・B・C・Dの4段階評価があり、後ほど通知が届きます。評価結果のCは、「合格する可能性は低い」が第二次選抜の結果によっては合格もあり得る」を意味します。昨年度の総合型選抜のC判定の合格者は19人中4人と非常に少ないです。一次選抜の対策は、40分の面接という長い時間で、どんなことでも答えられるように自己探究を行い、必死に頑張ってきたつもりでした。私は自分に失望しました。しかし、C判定でも、合格する可能性はわずかにあると二次選抜の対策に励みました。

第二次選抜は5分程度の面接と小論文。面接では更なる自己探究を、小論文では的を射た理由を短時間で考え、書き出せるように対策しました。時間があれば家族や友人、周りの先生方にも協力していただきました。正直に言えば、私はC判定を受けてから、合格する可能性はないと割り切り、大学以外の選択肢を考え始めていました。しかし、第二次選抜をないがしろにしていたわけではありません。私は「受験」という人生の分かれ道を、後悔のないよう邁進し、周りの方々の協力もあって無事合格することができました。

私は第一次選抜の評価結果が届いてから、「どうして第二、第三志望の大学受験を考えなかったのか」「あの時こう答えていればB判定が貰えたのかもしれない」と後悔してばかりでした。後輩の皆さんには、後悔のないよう将来を見据えた考え方や行動をしていただければと思います。

■一年生のうちから大学の準備を！

私が受験を通して感じたことは、「自己探究を行なって良かった」です。面接については、第一次・第二次選抜のどちらでも、全て志望理由書を通して質問されます。「こうなりたい」と書いたらなら「なぜそうなりたいのか」だけでなく、「それについて知っていること」、「そうなるためのこれからの計画」などを深く聞かれます。これから自分が答えることと志望理由書の内容に、絶対に矛盾があってはなりません。また、自分のことを聞かれているのに答えられないのは論外です。私は、面接官からどういうことを聞かれるかを想定し、その質問の答えからさらに質問を生み出したマインドマップのようなものを作り対策を行いました。また、想定外の質問でもしっかり答えられるように、周りの人にも協力していただき面接練習を行いました。小論文については、量をこなせばこなすほど上達します。

私は自分が苦手なテーマを分析し、書けるようになるまで何度も解きました。実は私は、本番で何度か失敗をしてしまいました。しかし、大学側が見ているのはどんな失敗をしたかではなく、あなたがどんな人であるかです。また、ボランティア活動や資格取得は、大学への非常に大きなアピールとなります。私は3年生になってから資格取得やボランティア活動を始めましたが、一年生のうちから行うべきだと思います。志望理由書や面接などで積極的に自己アピールを行い、あなたを大学に欲しい人材だと思わせることが大切だと思います！

過去問を全て解き終わった後 先生が例題を出してくださいました

■緊張感を保ちながら

多くの先生と練習しよう

入試に向けて努力したことは、まず面接については自分が大学を志望する理由など、志望理由書に書いてあることを言語化できるまで練習をするようにしました。1回目の面接練習では、質問されたことに対して頭の中ではこのように答えようと思っけていても、実際に喋り出そうとすると、うまく言語化ができず焦ってしまいました。しかし、回数を重ねていくと、自分が伝えたいことをうまく話せるようになっていました。ここで注意しなければいけないことは、同じ先生と練習を繰り返し行うのではなく、いろいろな先生方と毎日面接練習を行う、ということです。同じ先生とだけ練習を行っていると、パターン化してきたり緊張感がなくなっていき、良い練習をしたとはいえないと思います。一方、いろいろな先生と練習を行うことで、毎回緊張感を持つことができます。そして先生方一人一人、違った視点で私たちを見てくれているので、先生によって新たな自分の問題点を発見することができます。

■面接も小論文もじっくりと

時間をかけて対策しましょう

次に小論文についてです。小論文の対策は、とにかく多くの題を書くことだと思います。試験日までの手順としては、初めに手に入る分の過去問を全て書くことが大切です。大学の過去問からその大学の傾向を掴むことができるようになります。過去問全てを書き終えたら私の場合は、担任の先生に題を用意していただきました。

面接と小論文どちらにも共通して言えることは、とにかく何回も練習を積み重ねることです。初めは絶対にうまくいきません。私も最初は小論文を制限時間内に書き終えることができませんでした。しかし、練習を積み重ねていったことにより小論文を書くことが上達していったように実感していました。他にも大切なことは、できるだけ早くに受験対策をすることです。私は試験間近になってから面接・小論文の対策を始めました。試験間近になってから対策を始めたので余裕を持って試験に備えることができませんでした。それに私が試験間近に準備を始めたので担任の先生への負担も大きくなってしまいました。ですから、自分のためにも担任の先生の負担も考慮して早めの準備をしましょう。

ほかには資格を取ることも大切です。特に英検準2級は取るべきだと思います。他にも、私の場合は英検だけではなく世界遺産検定も取得しました。趣味の一環として取得した検定でしたが、こちらも一つの評価としてプラスになったので、できるだけ多くの検定に挑戦することが大切です。本を読むことや、その学部の学習内容に関係するニュースや記事を確認することもお勧めします。

自分を信じて進んだ先には、 何にも変え難い幸せが待っています

■小学校教員という明確な目標があり 面接でもスムーズに答えられました

私は将来、小学校の教員として働きたいという目標があるため、大学を選ぶ際には、小学校の教員免許取得が可能なかどうかということを重視しました。しかし、教員免許を取得することは、一般的な教育系の学部であればどの大学でも可能です。そこで各大学を比較するカギとなるのが、全体を通した学びの特色です。私が受験を決意した大学の教育学科では、小学校教員を育成するカリキュラムの中で、中学校や高校の学習を見据えた英語教育に力を入れていることが特色です。この学びの特色は、これから更に必要性が高まっていく英語教育に関心があった私にとって興味深いポイントでした。そして、私が受験した総合型選抜では一次試験で面接があるため、大学を選んだ決め手を聞かれたときに、スムーズに答えることができました。

面接試験では他にも様々な質問がされますが、練習の段階で完璧な受け答えをすることは不可能です。頭の中に情報や意見があっても、咄嗟に聞かれると言葉に詰まってしまうたり、遠回しな話し方になってしまうこともあります。しかし、私はそこで諦めてはいけないと思います。なぜならば、人は誰でも間違えることがあり、その中から少しでも良いところを見つけられるチャンスが練習だからです。例えば、結論を最初に述べてから詳しい意見を続ける感覚や、相手の目を見て話すコツは、練習をする度に少しずつ形作られていくはずです。

■たくさんの文章を書いてみると、 使えるキーワードが見つかります

そして練習の大切さは、小論文試験などでも表れます。本番で出題される内容はその時まで分かりませんが、過去問を用いてたくさんの文章を書いてみると、自分の意見の傾向や、どんな文章でも使えるキーワードが発見できます。実際に、私が受けた二次試験の小論文選考では、前年度の過去問と本番の問題に「人との繋がり方に関する価値観」というテーマが共通しているように感じたので、所々で、前年度の過去問で使った言葉を応用することができました。

その結果、念願だった東北学院大学への入学という目標を成し遂げられました。この結果に至るまでには、全ての経験が味方してくれたのだと捉え、支えてくれた全ての人に感謝の気持ちがたくさんあります。その上で、最も頑張った自分の中にも達成感が得られます。このように、自分を信じて進んだ先には、何にも変えられない幸せが待っていると思います。そのため、これから進学や就職をする皆さんは、自分の素直な気持ちを信じて進路を決め、目標に向かって諦めずに頑張ってください。

自分の強みと足りないものが 夢を追いかける中で分かってきました

■勉強が分からない時は

周りに聞いてみることも大事

将来の夢がいつ決まるかによって、それに向けて勉強できる時間に差ができてしまいます。夢があって仙台育英に来る人、夢が決まっておらず、なんとなく仙台育英に来た人それぞれいるでしょう。私は後者でした。しかし、幸いなことに、私の将来の夢「英語教師」は高校1年生の夏に決まりました。こうして夢は決まったものの、それに向けてどんな勉強すれば良いのか分かりませんでした。英語教師だから英語をたくさん勉強すれば良いのか、文系科目をたくさん勉強すれば良いのか、どうすればいいかわからないまま、気づけば高校2年生の夏になってしまいました。しかし、受験を終えた今思うのはそんなことをしなくて良かったということです。特別なことをしてしまうと、それに割く時間が増え、学校の勉強がおろそかになってしまいます。学校の勉強がおろそかになると、自身に足りないものは何かを見つけるチャンスが少なくなってしまいます。自分が特別なことをしてないと焦るのではなく、学校の勉強をしていると見つかる、自分自身に足りないもの。それを補うための勉強を追加することが大切です。しかも、それは高校生活全体を通しての受験、勉強にもなります。学校の定期考査でいい点を獲得でき、受験勉強にもなる。一石二鳥です。勉強がわからないのであれば、先生、先輩、同級生に聞いてみることも大切です。質問すれば快く教えてくれる人がいるはずです。学習を楽しく効率よく進めましょう。

■仙台育英の環境で

多くの資格を取得しましょう

続いては資格の取得です。仙台育英では資格の取得の支援が充実しています。英語検定、情報処理検定、MOSなど様々な資格を取得できます。取得できるものは取得することをおすすめします。受験の際、取得している資格として書けるだけでなく、就職の際にも書けるからです。資格取得を目指し頑張りましょう。さて、ここで困るのは自己アピールでしょう。しかし、今まで書いたことをしていれば、これら全てが自己アピールにできるからです。自身の勉強スタイル、勉強で頑張ったところ、工夫した部分資格取得に向け取り組んだこと、これら全てが自己アピールになります。またその過程で自分だけの強みも見つかると思います。それをどんどんアピールしていきましょう。

令和6年3月 フレックスコース卒
利府西中出身

仙台育英での頑張りが評価される 入試方法を選びました

■学校生活には手を抜かず 全力で取り組みました

私が、大学進学を目指したきっかけは、私自身の夢が社会福祉士になる事だったからです。社会福祉士を目指すようになったきっかけは、近年増えてきている子供の虐待やDVなどの家庭内暴力を受けている人々の相談にのり、少しでも家庭内暴力を減らし、未来を担う子どもたちや、DVを受けている人々が安心して暮らしていけるような生活を提供していきたいと考えたからです。

志望大学として、大学で社会福祉士国家試験が取れる東北福祉大学社会福祉士学科を選び、総合型選抜で受験し、先生方や友人のおかげで合格することができました。なぜ私が総合型選抜を選んだのかというと、総合型選抜は学力だけではなく、高校生活を通して頑張ってきた事を評価してもらえるためです。私の高校生活は、学業だけではなく部活動を両立し、全てにおいて手を抜かず全力で取り組んできました。学業では毎授業確実に理解する事を努力し、定期テストで全教科80点以上を目指していて評定平均を高く維持し、高校生活の評定平均値が4.6を取る事ができました。総合型選抜では、評定平均値を10倍にした数字が点数となって直接試験に関わってくるので、総合型選抜を受験する人にとって評定平均値はとても重要だと思います。部活動では、小学校から続けているサッカーを続けようと思いサッカー部に入部をしました。高校に入学してからは新型コロナウイルスの影響によりも思う存分サッカーが出来ない状況が続いていましたが、自分ができる事や自主練などを自分の能力を高める事が出来ました。

■部活動を通して 大学のサッカー練習会に参加しました

総合型選抜スポーツ文化型では、8月に行われる大学の練習会に参加する事が受験をする上で必要です。大学の練習会に行き練習会参加証明書を貰う事が必要です。私はサッカー部の練習会に参加した際は、私の所属しているサッカー部の監督から大学の部活動の監督へ連絡する事で練習会に参加できたと思います。練習会に参加した際には思う存分自分ができる事をしたらいいと思います。

面接の質問事項などは、難しい質問は聞かれず、定番な質問が多く、志望理由などを深掘りされる事がありました。私は総合型選抜スポーツ文化型で受験し、集団面接で時間は一時間程度でした。私は面接練習を10回程行い数をこなして自信をつけて本番に挑んだので、これから受験する人も何回も面接練習や小論文練習をし受験に挑んでいき、合格を掴みとってもらいたいです。

令和6年3月 特別進学コース卒
高砂中出身

本当に行きたい大学であれば 気持ちを素直に伝えればよいだけです

■生徒会での活動は人間力を 成長させられる良い機会でした

私には中学生のときから、「心理学を学んでみたい」という目標があり、県内にも数多くある心理学を学ぶことができる大学の中でも、福祉についても学べる東北福祉大学を受験しました。少子高齢化社会が進行しているため、福祉についても勉強していれば将来に生かすことができると考えたからです。

私は総合型選抜で受験しましたが、対策を始めたのが遅かったため、十分とは言えませんでした。また、特に目を惹くような資格もなく、そのような点ではかなりアピール力が弱かったと思います。それでも合格することができたのは、生徒会活動や習い事で培った経験を面接でアピールすることができたからだと思います。生徒会執行部での様々な活動では、来校者の方から想定外な質問をされたり、臨機応変な対応を求められたりと、人間力を成長させられる良い機会となりました。面接でも、予想していなかった質問に答えることができたのはこのような経験があったからだと思っています。

■うまくいかないからこそ心配を恐れず さまざまなことに挑戦しようと思えました

私は、高校3年間で多くのことを経験することができました。もちろん全てが楽しい経験ではありません。英検は二次で落ちました。それでもそのおかげで失敗を恐れずに様々なことに挑戦しようと思えるようになりました。どんな経験も必ず将来どこかで役に立つと思いますし。無駄にはならないと信じています。絶対に自分を信じることはやめないで、高校3年間でしか取り組めないことにたくさん挑戦してください。

どこの大学に言っても、自分が4年間どのように過ごすのかによって、ゴールは違ってくると思うので、変に大学の名前にこだわらずに、自分が本当に学びたいことを学べる大学を選ぶことが大切だと思います。本当に行きたいところであれば、志望理由書や面接練習は自分の気持ちを素直に伝えればよいだけになります。

色々ありますが、とにかく最後は自分の意志で決定するので、自分の可能性を信じて頑張ってください。応援しています。

令和6年3月 英進進学コース卒
向洋中出身

スクールカウンセラーの先生に 憧れて同じ道を目指そうと決意

■日本の伝統楽器に触れられる 獅子太鼓部は貴重な経験でした

私は3年間仙台育英獅子太鼓部に所属し、部長として文武両道を目指し日々努力してきました。部活動では主体的に行動し、自ら積極的にコミュニケーションをとることで部員のみんなと良い関係性を築いてきました。私が部活動で過ごした時間はどれもかけがえのない思い出で、日本の伝統である太鼓や獅子舞、篠笛などに触れることができるとても貴重な経験でした。

そんな私が東北福祉大学を目指したきっかけは、部長という立場になって悩みを抱えた際にスクールカウンセラーの先生にお世話になったことでした。部長というプレッシャーを感じていた私は、相談することに躊躇を感じていました。しかしスクールカウンセラーの先生の優しさあふれる笑顔と声色に安心し、素直に話すことができました。私はそんな先生に憧れてスクールカウンセラーになりたいと考え、東北福祉大学の福祉心理学科を目指しました。

■入試本番では部活で身に付けた表現力で 人を引き込む発表をしました

受験時の面接、プレゼンテーションでは部活動で身に付けたコミュニケーション力を活かし、その場にいる人々を引き込む発表をしました。例えばテーマパークのキャストさんのようなイメージで、笑顔輝く表情に明るい声色、手振りを取り入れました。また他に筆記試験とレポート提出、書類審査などがありました。筆記試験対策では過去問を解くこと、レポート提出と書類審査では担任の先生や顧問の先生に協力してもらい細かいところまで指導していただきました。自分の力だけではなく、たくさんの方々の協力があったの合格だったと思います。

最後になりますが、高校3年間は思っているよりも本当にあっという間に過ぎていきます。私たちの代とは異なり、現在は新型コロナウイルスも落ち着いてきて、様々な学校行事が開催できるようになったと思います。勉強ももちろん大切ですが、その行事ひとつひとつ心から全力で楽しみ、思い出をたくさん作ってください、卒業するときに後悔することが少しでも減るように、今を全力で！

興味のあることに挑戦してきた経験と 周りの応援が心強かったです

■学校で多くの人を相手に

ディスカッション練習ができました

小学生の頃から将来は発展途上国での支援活動を行いたいと考えていました。所属していたインターアクト部でボランティアの大会に参加した際に国境なき医師団の看護師の姿に憧れたことをきっかけに発展途上国の母子の健康を支える看護師・助産師になりたいと思うようになりました。

国際看護学の授業で海外で働く看護師からの講義を受けられることに加え、海外研修を通して国際的な医療の現状を学びたいと思い、東北福祉大学への進学を決めました。

学科試験の対策としては、IBのカリキュラムでは履修できていなかった範囲を教科担当の先生に授業をしていただき、そのほかの時間は学校で配布されたワークを解き、アウトプットを中心に行いました。ディスカッション試験対策では、他コースの同様の試験を受ける学生と共に練習しました。生徒数の多い高校だからこそ、一人では練習できないことも、多くの人と練習できました。その練習のおかげで、本番も緊張しすぎずに挑むことができました。

■やりたいことを明確にするために

どんどん挑戦してください

先生や友達などたくさんの人の協力や応援のもと、受験勉強に取り組むことができたので心強かったですし、受験までの過程が自信につながり、受験当日も練習の成果を発揮できたと思います。みなさんも周りの応援のもと、自信を持って受験に臨んで欲しいと思います。

私の高校生活はコロナ禍の中で、思うように行かないことも多くありましたが、インターアクト部でのボランティア活動やIBDPなど自分の興味を持ったことに挑戦できた三年間だったと思います。

私は、高校三年生まで将来やりたいことがとても曖昧でしたが、大学のオープンキャンパスに行き、実際の授業の様子や内容を知ったことで自分が学んでいきたいことがより明確になったと感じました。進路に迷っている方は、いろんなことに挑戦してみて自分のやりたいことを見つけて受験に挑んでほしいです。応援しています。

仙台育英には夢のために支えてくれる 友達や先生方がたくさんいます

■学校での大学の説明会は 情報収集に大いに役立ちました

私が志望大学を決めたのは高校2年生になってからでした。大学進学を目指すにあたって大切なことは、大学の情報の収集や部活動と勉強の両立だと私は考えます。そのため、私は高校3年間で、定期考査で良い成績を修められるように、通学中にも問題を解いたり、様々な大学のパンフレットを見て、自分が将来なりたいたい姿に合った大学を探すことをしました。仙台育英学園では、大学の説明を受けることのできる機会が2回あるので、その機会を最大限に使って、自分の気になる大学の情報を集めることに大いに役立ちました。また、近年オンラインでの大学説明会が多く開催されていますが、私は直接行くべきだと思います。私も何度か、大学のオンラインオープンキャンパスに参加しましたが、質問時間が決められていたり、実際の雰囲気がよく分からないことが多くありました。このことから、実際にその場に行くことを強くお勧めします。

■東北福祉大学を目指すなら早めに ボランティア活動をするの良いです

東北福祉大学では志望理由書、活動報告書、小論文、面接がありました。私が特に大切だと思ったことは、活動報告書です。東北福祉大学ではボランティア活動が活発に行われており、オープンキャンパスに参加した際も、いろいろな先輩方が高校生の時からボランティア活動をしていたとおっしゃっていました。私はコロナ禍の影響もあり、ボランティア活動の募集が少なく、あまり活動ができませんでした。大学のアドミッションポリシーにも、福祉の分野で広く評価を得ている人とあるため、もっと自分ができるボランティア活動を探して参加しておけばよかったなと思います。高校に入学したら、早い段階で興味のある活動をするをお勧めします。

大学受験は、自分の今後の人生がかかっているのでとても不安だと思います。しかし、自分の夢のために支えてくれる友達や先生方が仙台育英にはたくさんいます。自分のなりたいたい姿になれるよう、頑張ってください。

ハワイへの海外研修の経験が 英語力を上げるきっかけに

■3年生ではボランティアにも 積極的に参加しました

この大学では、看護以外の福祉などの学問を学んでいる学生や、他の学部の学生と部活動などを通して友達を作り医療に関する幅広い知識を身につけ、チーム医療現場に入った時など他の分野の医療の理解を深められるので、入学したいと思いました。

特に、高校生活において英語に対して積極的に取り組みました。2年生の時に参加したハワイ研修旅行では英語を使い積極的に外国の人とコミュニケーションを取りました。英語のリスニング力が上がり、ハワイに行く前よりも英語が聞き取りやすくなったと感じました。自分の意見が伝わって楽しく会話できたことはとても嬉しく感じたのを覚えています。この経験から英語をさらに勉強して英語により多く触れたいと思うようになりました。3年生ではホストファミリーボランティアに参加し、ホストシスターとは英語で毎日会話し、楽しく英語で生活することができました。部活動で地域ボランティア活動に参加したり、赤十字社が実施している講習を受け認定証をもらったりしました。

■まずは何でも挑戦するのが 高校生活で大事なことです

また、テストが行われる前に必ず予定表を作成しています。作成することによってテストの結果に対してどの教科にどれくらいの時間を費やし、どれくらいの点数が取れたのかを調べ、次回のテストに生かせることを探す。ということを実践してきました。その作業を繰り返すことによって、テスト以外のことでも前もって計画を立てて考え、計画的に行動できるようになりました。また、放課後に友達と教室に残って分からないところを教え合い、自分が分かったつもりでも、実際は人に説明出来ず本当はあまり分かっていなかったことを発見し合い、切磋琢磨し励んできました。高校生活ではまずやってみる、行動に起こすことが充実した高校生活を送る上で一番大切だと思います。

令和6年3月 英進進学コース卒
利府中出身

部活動で勉学が疎かにならないよう 計画的に取り組み、文武両道を達成

■様々な価値観を持つ人と交流して、
コミュニケーション能力も身につけたい

私が大学進学を目指したきっかけは2つあります。1つ目は、私の将来の夢である救急救命士の資格を取りたいと考えたからです。専門学校などでも資格を取ることはできますが、長い時間をかけて学びたいと考え、大学を選びました。2つ目は、4年間という長い期間をサークル活動などを通してたくさんの人と交流し、自分の視野を広げたいと考えたからです。いろいろな価値観を持つ人と交流することで、コミュニケーション能力も身につけることができると思います。勉学だけでなく、これらのことも学んでいきたいと考えました。

■部活動を引退した後は
ボランティア活動にも参加しました

合格のために、特に評定を意識して学習に取り組みました。私が受験した東北福祉大学は、評定をそのまま点数として換算します。評定が合否にかなり関わるため、定期考査に力を入れました。対策としては、勉強の計画をしっかりと立て、短期間で集中して行いました。平常点も大切なので、点数だけでなく提出物も必ず期限内に出すように努力してきました。また、推薦入試では部活やボランティア活動に参加することも大切であると思います。私は、部活動で勉学が疎かにならないように計画的に勉学に取り組み、文武両道を達成できたと感じています。部活動を引退した後はボランティア活動にも参加し、他者のために役立つ活動を行いました。

受験方法は、面接と小論文でした。面接の対策として、何度も先生と面接練習を行いました。同じ先生にお願いするのではなく、いろいろな先生と面接練習をすることで、様々な質問にも対応できるようになると思います。小論文は何度も先生に添削をしてもらい、書き方に慣れることができました。すぐには慣れることができないので、2ヶ月前から練習することをおすすめします。

高校3年間はあっという間なので、学校生活を楽しんで、進路達成できるように頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
東仙台中出身

部活動やボランティア活動は 高校での貴重な体験でした

■大学生活の中で自分の 経験値をさらに高めたい

私は、保育士になりたいという夢を幼いころから持っていました。東北福祉大学では、保育の基礎的な知識から特別支援教育という、子供たちの身体だけに限らず、心の発達についても学べる点や実践的な教育が多くあるため、大学生活のうちから経験値を高められると思い、この大学へ進学を目指しました。私は高大連携という入試方法を選択しました。この入試方法では夏休み期間を利用し、東北福祉大学が行うプロジェクトに参加し修了資格を得る必要がありました。大学によって入試方法が異なるため、早いうちから志望大学を調べるのが大切です。

入試の際には、小論文と個人面接を行いました。小論文の対策としては過去問の傾向を読み取り、似たようなテーマの小論文を書きました。初めは全く書くことができなかったため、指定の文字数を減らし最後まで書くということを意識していました。書いた小論文は必ず添削してもらい、何度も読み返すことが大切だと思います。面接対策では、長々と話そうとはせずに、簡潔に話すことを意識しました。事前に志望理由書を大学の方に送っているため、書いた内容を覚えながらその文章に肉付けするような形で答えると良いと思います。ホームページやパンフレットをよく読んで、大学のことを事前に知っておくことも大切です。

■保育士になりたいという気持ちが ボランティア活動で強まりました

高校生活で大切だなと感じたことは、部活動やボランティア活動です。私はインターアクト部に所属していました。運営補助ボランティアや、部会等での積極的な働きかけを心がけました。また、部活動以外でも夏休みに保育園でのボランティア活動に参加しました。この活動は、私が保育士になりたいという気持ちをさらに深めるきっかけともなり、実際の教育現場を肌で感じるができる貴重な経験にもなりました。様々なボランティア活動に参加することは、新しい興味を発見でき、人とのコミュニケーション能力を高めることができるため社会に出たとき自身の強みになることにもつながります。

大学でしっかり学んで 一級建築士を目指します

■面接官の目を見て話したことが 合格につながった

私が大学進学を目指した理由は、将来の自身の選択肢を増やし、なりたい自分へ近づくためです。推薦については、私は大学独自の推薦を使用しました。東北文化学園大学独自の推薦に関しては面接やプレゼンテーションなどもあり、人柄もかなり見られるので終始緊張していました。私は、この推薦では面接プレゼンテーションに力を入れました。自身が調べたことをわかりやすくまとめ、それを伝わりやすいようにゆっくり、堂々と発表するということを意識しました。私自身が受験に成功できた要因は、第一印象をしっかりと面接官の目を見てハキハキ話したことにあると思っています。

私にとって大学とは、自分の夢を叶える場所だと思っています。私の夢は、一級建築士になり、自身の家を自分で好きなように設計したり、依頼者がこの人に任せて良かったと思ってもらえるような家を作ることです。私はこの夢を叶えるために東北文化学園大学を選び、学びたいと思いました。

■高校生活で過ごした楽しい時間は 今後つらいときの助けになります

私にとって高校生活とは宝であり、何ものにも替え難い時間です。特に友人と過ごす時間だったり、さまざまな高校生活での経験は、今後あなたがつらいときに助けとなると思います。

私が志望大学を絞り込むにあたってどのように検討したかという点、まず自分の学びたいことがある大学をピックアップし、そこから自分が求める条件を当てはめてどんどん絞り込み、その中で残った大学の資料を見て、オープンキャンパスなどに行き慎重に決めました。私から後輩の皆さんへ伝えたいのは、ネットなどで大学を見て、すぐに決めるのではなく、オープンキャンパスなどに足を運び、大学の先生や学生の話聞いて自分の目で見て肌で大学の校風などを感じて自分に合う大学を見つけて、将来の自分を意識しながら大学を決めて楽しく過ごしてほしいと思います。

令和6年3月 英進進学コース卒
中野中出身

生徒会とボランティア活動は 入試での強みになりました

■勉強で分からない部分は
早いうちに解決しよう

高校入学時より、大学へ進学することを前提として勉強に取り組んでいました。明確な将来の夢を持っていたので、努力する方向は分かりやすく見えていたように思います。推薦での受験を考えていたため、提出物や定期考査でいい点を取れるように頑張りました。評定が高いほど大学の進学先の幅も広がるので、平常点や定期考査の点をしっかり取っておくことは大切だと思います。また、一般で受けることも視野に入れて先取り学習を進めていました。そのおかげもあり、テストで高得点をとり高い評定を維持することができました。分からないことをその時に解決することで理解が深まり、スムーズに学習を進めることができたと思います。

■急な受験方法の変更にも
対応していただき感謝しています

また、生徒会執行部やインターアクト部では、入試補助や減塩の啓発運動などのボランティア活動に力を入れ、入試にとっても役立ちました。1年生の時は勉強ばかりになってしまい、ボランティアなどの活動が疎かになってしまったことを後になって後悔したので、時間に余裕がある時、検定など含めた様々な活動に取り組んでおくことをおすすめしたいです。

私は3年生の夏休みが終わって志望大学を決定し、急遽推薦に変更したため志望理由書や願書などの作成を時間に追われながら行いました。先生方が添削や書類作成に迅速に対応して下さりとても感謝しています。面接練習では、過去問をもとに様々な質問に答えられるよう対策を立て、先生方にも相談に乗っていただきました。しかし、本番ではほとんどの質問が過去問と異なっていたので、過去問だけに頼るのではなく様々な質問に対応できるよう準備すべきです。私は数学の口頭試問も入試内容に含まれており、先生に問題を出していただき対策しました。本番では緊張してしまい、普段通りに頭が回らなかったのですが練習のおかげで落ち着いて答えを導くことができました。

面接と小論文対策は 多くの先生に見ていただきましょう

■英語検定をはじめとした 資格取得を頑張ろう

この度、私は幸いにも第一志望である東北文化学園大学工学部臨床工学科に合格することができました。私は、総合型選抜で受験しました。その準備として、三年生から小論文や面接などの練習を始め、自分なりに努力してきた結果が現れて嬉しいです。

これから私の合格体験を以下の観点から書いてみたいと思います。

最初に大学進学へ向けて頑張ったことです。私が一番頑張ってきたことは、資格取得です。その中でも英検に力を入れてきました。資格を持っておけば、面接の際にアピールポイントとして言うことができるし、英検などを利用して大学入試を有利に進めることができるため資格取得を頑張りました。

■将来の夢につながる大学を 選ぶことが一番重要です

次に面接や小論文の対策です。私の場合、面接・小論文の対策は、入試の日程から三ヶ月ほど前から開始しました。面接では、先輩たちの過去問をみて答えられるようにしたり、自分で聞かれそうな質問を予想して答えることができました。練習では、私は先生方に少ない回数でしかお願いしませんでした。もっと多くの先生方に頼んだほうがいいと思います。口頭試問がある場合には、その教科の担当の先生に頼んだほうがいいです。小論文では、ネットで題を選んだり本を買ったりして対策しました。

最後に大学に合格した 1 番の要因です。私が大学に合格した 1 番の要因は、自分が将来なりたい職業を選んだからだだと思います。自分のなりたい職業を決め、その職業を詳しく調べ、なるために必要なものが揃っている大学を調べていくと、その職業や大学について詳しくなり、面接での受け答えがしっかりできたので合格することができたと思います。

以上が私の合格体験記です。皆さんも頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
岩沼北中出身

プレゼンは先生のご指導のもと 実践も含めた練習をして挑みました

■担任の先生のアドバイスのおかげで 必着期限に間に合いました

私は、自分が将来本当に何になりたいのか、3年生の夏頃まで悩んでいました。周りと比べて大学を決めるのはとても遅かったと思いますが、そこから大学のことやオープンキャンパスにも参加し、宮城学院女子大学を総合型で受験することを決めました。

入学試験は面接とプレゼンテーションの2つです。面接の内容は簡単に言えば、志望の動機、この夢を目指したきっかけ、部活動での取り組みでした。この内容をもとにA3の紙に書きプレゼンをします。このプレゼンを作る際に、担任の先生にアドバイスをたくさんしていただきました。そのおかげで、大学が出した必着期限に間に合わせる事ができました。

■自分のペースでいいので 高校生活を大切に過ごしましょう

試験当日にプレゼンをするといっても、パワーポイントを使ったりする訳ではなく、自分でA3用紙に書いた内容についての補足をしました。書ききれない自分の考えや解釈をより深く理解してもらうために、何度も原稿を担任の先生と実践も含めた練習をし、書き直して挑みました。

また、志望大は早めのうちに決めることをおすすめします。1、2年生のうちから多くの大学のオープンキャンパスに行き、各大学の強みや特色などを比較することが大切だと思います。3年生になってから大学を決めると、私のようになってしまいます。後回しにしているとすぐに受験はやってきます。だからこそ自分のペースでいいので、ゆっくりとこの高校生活を大切に、第一志望合格に向けて頑張ってください。

令和6年3月 英進進学コース卒
玉川中出身

目標である養護教諭の先生に 面接練習を見ていただきました

■将来の夢が決まってからは 準備にも気合いが入りました

私が将来の夢を決めたのは、高校3年生の夏休み頃でした。もともと、私は人と関わる仕事がしたいと考えていました。祖母が看護師ということもあり、看護師になりたいということもありました。ですが、養護教諭の先生に助けてもらった経験から、養護教諭になりたいと将来の夢を決めることができました。将来の夢が決まってからは、私は養護教諭になるんだという強い意志で、様々なことに身が入るようになりました。まず最初にやったことは、養護教諭の教員免許を取ることができる大学を探すことです。その大学のパンフレットを見たり、オープンキャンパスに行きました。養護教諭の教員免許が取れる大学は少ないので、志望大学を決めるのに時間はかかりませんでした。次はどのように受験するかを決めました。指定校推薦は取ることができなかったなので、総合型選抜で受験することになりました。

■様々な人からの視点と指摘が 学びになります

総合型選抜の受験内容は書類選考と面接、プレゼンテーションでした。書類審査は志望理由書、活動報告書、学習計画書、自己推薦書の4つの書類を大学に送りました。書類は自分で考えて、先生に最終確認をしてもらいました。家族などに見てもらうのも、自分では気づかなかった視点に気づけるのでとても良いです。また、面接では、過去の卒業生達が残してくれた質問内容がとても役に立ちました。総合型選抜だけでなく指定校推薦などの質問に対する返答もしっかりと考えました。面接とプレゼンテーションは沢山やるのが大切です。最初はもちろん恥ずかしくて大きい声でハキハキと話せなかったり、先生と目を合わせることができないなど、何度も失敗を繰り返すことで慣れていき、自信がついていきます。そうすることで、自然に大きい声で目を見て話せるようになります。また様々な先生と練習することで、色々な視点から見てもらうことができます。私は養護教諭になりたかったので、実際に養護教諭の先生に練習を見てもらいました。このように私がやったことは至って普通のことですが、普通なことをコツコツとやっていくことで合格へ近づくと 생각합니다。

平日は部活が終わった後に 勉強ができるように心掛けました

■大学入学後も困らないように 生物や化学を復習しています

私が宮城学院女子大学生活科学部食品栄養学科を目指したのは、栄養士の資格を取り、将来栄養士として働きたいと思ったことと、授業では細かい部分まで勉強できるのと栄養士の方が直接きて、対面で学べることができるからです。合格するために頑張ったことは勉強はもちろんですが、面接を一番に頑張りました。理由は、少しでも印象を良く見せるようにしたり、面接官の人の目を見ることで自分がこの大学に入りたいとアピールすることができるからです。面接は練習通りにできないのは当たり前だと思っています。その分、評定を良くすることやたくさん意思表示することが大切だと思います。また、私は総合型で受験しましたが、一般受験の方も多くいると思います。その方たちは、毎日必死に勉強をして大学に合格したと思います。大学生活が始まってから少しでも差をなくせるように、高校生で学習した生物や化学を復習して、入学してから勉強に困らないようにしていきたいです。

■得意科目と同時に 苦手科目も対策をしよう

部活動で頑張ったことは、練習に毎日参加することと、ご飯をしっかり食べてよく寝ることです。ほぼ毎日、部活が終わってからも夜練に参加していました。毎日こんなかんじだと、体力もつかないし疲れがとれないので、帰ったらたくさんご飯を食べて、早く寝ることを心がけていました。大会では、あまり良い結果は残せなかったのですが、高校生活の部活を楽しめたと思います。

定期考査では、上位を目指して勉強を頑張ってきました。わからないところがあったら友達や先生に聞いたりしていました。平日は、学校から帰ってきてからなるべくたくさん勉強するように心がけていました。一番苦手だった教科は数学で、得意だった教科は英語と化学です。得意な教科だけをたくさん勉強して良い点をとっても、苦手な教科の点数が低かったら、その分順位も低くなってしまいますので、得意の教科よりも、苦手な教科を中心に勉強していくと、わからない部分に時間がかかっても余裕を持って勉強できると思います。

令和6年3月 英進進学コース卒
中野中出身

3年間部活動が続けた結果としての 文武両道は大事なポイント

■提出物の期限をしっかりと守る

基本的なことが大切です

小さい頃から保育士になることが夢で、高校を選ぶ時から大学進学を目指していました。そのため、高校1年生の頃から推薦入試を視野に入れつつ、どのような方法でも大学に行けるように、私は3つのことを心がけていました。

1つ目は、学校に休まず行くことです。推薦入試の場合、出席日数が関係してくるので大きく体調を崩した時以外はあるべく登校するようにしていました。

2つ目は、定期テストの勉強をしっかりとっていて点数を取ることです。大学によって評定評平均が変わってくるので、テストで点数をとり提出物などもしっかりと期限を守り、提出して評定を出来る限り高く取れるように努力しました。

■大学を詳しく知る上でも

オープンキャンパスに参加しよう

3つ目は、3年間部活動をやり続けることです。万が一に備えて部活動の推薦を考えて、成績を上手く残すことができなくとも、3年間続けるということはかなり大切なことになってくると思うので、なるべく休まず、文武両道しつつ頑張りました。

また、保育士の場合、何校か学科があるので、自分に合いそうだなと感じるためにも、夏休みや冬休みなどの長期休みを利用して、オープンキャンパスに何回か行くことはかなり大切だと思います。私が進学する大学の場合、学群・学類制と他大学とは少し異なる仕組みもあるため、進路を決める上で選択肢の1つになっていました。迷ったときには、オープンキャンパスで学校の雰囲気や模擬授業などを確認して自分に合う大学を見つけることができるのではないかと思います。

看護系の大学を志望するなら 保健の先生との面接練習がお勧めです

■訪問看護や訪問診療など 地域医療の場で貢献したい

私は、春から仙台青葉学院大学の看護学部に入學します。私には、看護師になり、訪問看護や訪問診療など地域医療の場で貢献したい、という夢がありました。この大学では、私が学びたい地域医療について幅広く学ぶことができます。実際の看護現場が想定された高機能シュミレーターが設置されており、より臨地での学びに近い環境で演習を行えることが必ず即戦力になると思い、この大学を選びました。

受験方法は総合型選抜を選択しました。合格するために特に力を入れていたのは、定期考査と面接練習です。私は、3年間チアリーディング部に所属していましたが、部活のせいで勉強を怠ることのないよう、定期考査の1ヶ月前からテスト勉強を始めるようにしていました。学校のiPadを上手く利用することで、効率良く勉強できるようになり、高得点を取れることが多くなっていきました。また、提出物は期限内に出すことで平常点で成績を落とさないようにし、評定は4か5を保ち続けることができました。

■面接練習でいただいたアドバイスは ノートに書き込んで持ち歩きました

面接練習は1、2週間前から始めました。周りに比べて始めるのが遅かったため、焦りを感じていました。そこで、出来るだけいろいろな先生と練習することで自分に自信をつけました。私が、一番練習して良かったと思った先生は保健室の先生です。毎年、大学の看護学部を受験する生徒の面接練習をされているため、看護ならではの質問やアドバイスがわかりやすく、とても為になりました。やって良かったことは、保健の先生がアドバイスしてくださった面接ノートを作ったことです。面接をする度に先生のアドバイスをノートに書き込み、毎日持ち歩いていました。ノートですので、面接前のギリギリまで確認できたことがかなり自信に繋がり、本番は予想外の質問にも上手く受け答えができました。私は保健の先生と2回練習して、1回目は文章の添削、2回目は入試前日に最終確認をしていただきました。看護系の大学を受験する後輩の皆さんは、1回でも必ず保健の先生と面接練習することをお勧めしたいです！

令和6年3月 英進進学コース卒
矢本第一中出身

受験対策はなるべく早めに 始めることがとても大事です

■看護師という夢のために

条件に合った大学を選びました

小さい頃から看護師になりたいという夢がありました。学習の仕方や校内の様子、さらに来年度から4年制になることから私の条件にあったのが仙台青葉学院大学だったので受験しました。

私自身、合格するために力を入れていたのは定期考査と小論文、面接練習です。定期考査では点数を取ることはもちろん、評定を取ることが大事だと考えていました。苦手な教科ほど提出物を忘れず提出したり、前回評定が低かった教科に力を入れていました。1年生の頃から4以下を取らないように努力をしました。3年間それを続けた結果、3年生では確実に4と5しかありませんでした。

■練習での先生からのアドバイスを

面接ノートに記入しました

受験前の対策では、早めに始めた方がとても大事だと思いました。私自身、本格的に始めたのが1ヶ月前だったため、とてもあせっていました。小論文では、小論文対策の本を買い、解いていました。添削をお願いする際は複数の先生ではなく、なるべく同じ先生がおすすめです。

面接練習はとにかくいろいろな先生にお願いしましょう。本番に何を聞かれるか分からないので、最低でも5人の先生に協力していただきました。

私は面接ノートを作り、練習する度に先生からもらったアドバイスなどを書いていました。ノートにまとめる時は長々とした文で書くのではなく短い文にして頭に入れていました。

高校生活を3年間楽しみつつ、勉強に部活動、頑張ってください。

部活では継続の大切さと 周りを見て行動する力を学びました

■受験の準備は3年生のはじめから 夏休みが勝負です

私が大学に進学しようと思ったのは、看護師を目指していく中で、専門学校や短期大学で3年間詰めて勉強するよりも、4年間通して幅広く学びたいと思ったからです。総合型選抜は、他の推薦受験よりも早く始まるので、対策や自己アピールにいち早く取り組む必要があります。そのため3年生の初めから夏休みの間が勝負になります。学力はもちろん、学校内、学校外の活動も見られるため、普段の生活も心がけました。私は部活をしていたため、3年間しっかりと打ち込むことで、継続する大切さなど部活を経て学ぶことがたくさんありました。部活内での自分のポジションを見つけると、自分がしなければならないことや自分だけでなく周りを見て行動することができます。

■看護のことを学ぶため ボランティアや活動に参加

部活を引退してからは、ボランティアや資格など学校外の活動をたくさんしました。看護の勉強を大学からするのではなく、高校生から少しだけでも触れようと思い、仙台赤十字社でやっている講習を4つほど受けました。そこで講習や演習で学び、最終日には実際に病院で実習を行えるので、学んだことを活かして患者の方と接することができました。興味あることを実際に試みることで、将来の想像や大変さが身に染みて感じることができます。ボランティアでは、子ども食堂の活動をしました。ボランティアの人たちと一緒にご飯を作って、コロナ対策のためお弁当を渡しています。季節ごとにイベントがあるので、とても楽しく、今でも活動を続けています。ボランティアや資格、部活動をしておくと、自己アピールや面接などで生かせると思うのでおすすめします。

大学の入試では小論文を使うため、授業内での勉強では足りないので、自分で医療、看護の小論文の参考書を買って解きました。小論文は何回も解いて添削を受けましょう。自分自身の意見を持つことが大切でその伝え方が重要です。大変だと思いますが頑張ってください。

部活動の頑張りや経験が 大学合格まで導いてくれました

■コートで培ったスキルを

面接でも活かすことができました

私は大学受験において、バレーボールのリベロとして培った経験が、合格への道で大いに役立ったことを誇りに思います。厳しい受験期間中でも、部活動との両立を図り、バレーボールのコートで培ったスキルが、面接練習や緊張の克服に繋がりました。

面接練習では、相手の質問にしっかりと理解することを心がけました。これはバレーボールのコートでのチームプレーに通じるものであり、相手の動きや意図を正確に読み取る経験が、面接においても大いに活かされたと感じます。また、私は緊張する際に相手の胸元を見るようにしていました。これはバレーボールでの相手の動きを予測する習慣から来ています。緊張すると視線が不安定になりがちですが、相手の胸元を見ることで安定感を保ち、緊張を和らげることができました。実際の面接でもこの方法が功を奏し、自信を持って対応することができました。

■挑戦と成長の積み重ねが

成功への鍵に

バレーボールのリベロとしてのポジションでは、常に冷静な判断力と瞬時の動きが求められます。これが私の面接においても役立ち、質問に対して的確かつ冷静に答えることができました。部活動を通して得たチームワークの経験も、大学合格において大いに役立ちました。困難な状況でもメンバーと連携し、協力して目標に向かって進む姿勢は、面接官にも好印象を与えたのではないかと考えています。

後輩たちに伝えたいのは、受験勉強と部活動の両立は難しいかもしれませんが、その経験が大いに将来に繋がることです。失敗や困難にぶつかることもあるかもしれませんが、それらを乗り越える強さを身につけることが大切です。大学合格は挑戦と成長の積み重ねであり、部活動を通して培った経験が成功への鍵を握っていることを信じてほしいと思います。

受験対策を始める時期に早すぎる、 ということはありません

■医療に関わる仕事で迷っていたとき

母が勧めてくれたのが歯科衛生士でした

私が仙台青葉学院短期大学への進学を目指した理由は、大学の雰囲気が私自身に一番合っていると思ったからです。歯科衛生士になりたいと考え始めたのは、3年生の春ごろでした。元々医療に関わる仕事に就きたいと考えていたものの決めきれず、迷っていたときに母が勧めてくれたのが歯科衛生士でした。そこから、県内の専門学校、短期大学のオープンキャンパスに参加し、仙台青葉学院短期大学への受験を決心しました。

総合型選抜の一次試験は、エントリーシートに各学科ごとに異なる課題に対する答えを記入して提出、二次試験は個別面接、口頭試問でした。エントリーシートに記入する課題は担任の先生に見ていただいたり、おかしい点はないかなど自分でもよく確認して、自分の言葉で自分の意見が伝わるようにしました。二次試験の個別面接、口頭試問は、過去に受験した先輩の面接レポートを参考にしながら、面接でやすい長所短所であったり、自己アピールなど何を聞かれても焦らず答えられるよう、全て文章として暗記するのではなく、伝えたい大事な点を書き出すようにしました。そのおかげで本番も焦らずに取り組むことができました。

志望大学を決める時期も試験対策を始める時期も早すぎる、なんてことはないし、むしろ早め早めに行動するに越したことはないと思います。また、将来やりたいことが分からないという人もまずは自分の興味を持てるものからでもいいので一度挑戦してみると良いのではないかと思います。

先生方にご指導いただいたことが 一番の安心材料になりました

■介護福祉に関することなど

幅広い分野を学べることが魅力

私が仙台青葉学院短期大学を志望した理由は、東北に二校しかない短期大学にある歯科衛生学科で、専門的な知識はもちろん、短期大学ならではの、一般教養科目や高齢者、障害者に対しての介助方法や一般臨床医療も学ぶことができ、歯科衛生士に関すること以外の勉強や介護福祉に関することなど、幅広い分野について3年間学ぶことができると思ったからです。その中で、総合型選抜という受験方法を選んだ理由は、志望する学校へ自分がどれだけ入学したいか、入学することへの意欲を重視して選抜してもらえる受験方法だったからです。もちろん、高校3年間の単位をしっかりと取り、基礎学力をつけておくことは大事かもしれませんが、私自身勉強があまり得意ではなかったので、学校に対する意欲で入学したいと考えました。

■先生に指摘されたところは

確認しておくとは必ず役立つはず

総合型選抜に合格するために、面接と口頭試問対策としていろいろな先生方に面接練習をお願いし、一週間ほど練習しました。面接練習ではまず、先輩方の合格体験記や過去に面接で聞かれた質問を紙に書き、自分なりに答えてみました。そして練習時に先生方から指摘をいただいて改善点などを探しました。先生によって、聞いてくることも一人一人全く違うので、面接本番に向けてできるだけ多くの先生に面接練習をお願いすることが、合格の第一歩にもなるし、何よりも自分の一番の安心材料になるのだと思いました。面接を担当する学校の先生によっても難しさなどは変わってくると思いますが、志望動機や入学してから学びたいこと、大学で学んだことを将来どのように生かしたいかなどはどの学校でも聞かれる可能性が高いと思いますので、詳しく聞かれてもその場で対応できるようにしっかりと考えをまとめて何度も繰り返すことが大事です。

口頭試問は入室する部屋によってそれぞれ聞かれる内容も科目も全く違うようです。簡単な計算や一問一答を聞かれることが多いようですが、私は、面接練習の時に一人の先生から、「ニュースや最近話題になっていることが聞かれることがあるから対策しておくといい」と言われたのでインターネットで調べて行きました。私の口頭試問は、先生のおっしゃったとおりニュースに取り上げられていることについて聞かれたので、無駄だと思わず、対策したほうが良いと思います。指摘されたところは必ず確認しておくとは役立つはず。面接練習に対してのやる気があれば先生方は必ず私たちの力になってくださいます。志望大学合格に向けて努力し、安心して受験準備に打ち込んでほしいと思います。